買えんのか！

やれんのか！大晦日！2007

© やれんのか！大晦日！2007

『やれんのか！大晦日！2007』

DVD売り場に集結セヨ

NOW ON DVD

初回生産限定版［2枚組］ ¥8,190（税込）｜TBD5031

本編ディスク内容：2007.12.31「やれんのか！大晦日！2007」さいたまスーパーアリーナでの全8試合完全収録

封入特典 いまや入手困難となったアイテムが【初回生産限定版】DVD限定の豪華オリジナル特典として登場！

★"着れんのか！"Tシャツ（DVD限定バージョン）
★"付けれんのか！"ミニグローブ型キーホルダー（やれんのか！バージョンは今回のDVD特典のみ、最初で最後の限定生産！）
★"読めんのか！"特製リーフレット（24ページ。出場選手の紹介など。）※通常版封入のものと同内容となります。

特典ディスク ★「ドキュメンタリー やれんのか！完結編」DVDバージョン（150分）

衝撃のPRIDE休止から、ファンの熱望を受けて一夜限りのイベントとして再生する過程を追った「ドキュメンタリー やれんのか！完結編」。当時PPVのみでの放映であった映像内容に加え、現在DREAMなどへ活躍の場を移したトップ・ファイターたちが、今「やれんのか！」とは何だったのか？を語るインタビューなど、新たな撮りおろし映像も盛り込み、「ドキュメンタリー やれんのか！完結編」を再編集バージョンで収録！

通常版［2枚組］ ¥6,090（税込）｜TBD5032

本編ディスク＆特典ディスク収録内容は「初回生産限定版」と同じです。

封入特典
★読めんのか！特製リーフレット
※初回生産限定版封入リーフレットと同内容になります。

2008｜日本｜カラー｜本編120分｜特典150分｜ディスク2枚組｜本編 片面1層、特典 片面2層｜本編16:9ビスタサイズ｜特典4:3スタンダードサイズ｜日本語2.0ch ドルビーデジタルステレオ

あのヒョードルのサイン入りグッズ（激レア）も当たるキャンペーンあり!!｜下記DVDソフト取扱店舗にて、本商品をご購入頂いた方の中から、ヒョードルの魂がこもった直筆サイン入りグッズが当たるキャンペーンを実施！

■石丸電気（本店·SOFT1·SOFT2） ■ヨドバシカメラ DVDソフト取扱店舗 ■タワーレコード渋谷店 ■タワーレコード梅田NU茶屋町店 ■タワーレコード難波店 ■HMV 新宿SOUTH店 ※応募形式が各店舗によって異なりますので、詳細は各店DVDソフトコーナーへ直接お問い合わせ頂けます様お願い致します。

※お近くのDVD取扱店にてお求めください。

発売·販売元：TFC 東北新社 www.tfc-dvd.net

商品に関するお問い合わせ：東北新社DVDお客様センター 受付：月〜金曜日の10時〜17時（13時〜14時を除く） TEL:03-5217-0161
※商品の仕様は予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

CONTENTS

年末年始興行戦争徹底総特集!!

明けまして おめでとうございます!

MMA

004 この男の明日はどっちだ!?
五味隆典はこれからだ!!

006 五味戦ド直後に"キモ強"男を直撃!
北岡 悟

012 ワオ木さんやりました! "世界第2位"君臨!!
青木真也

016 初のK-1ルールで武田幸三に男勝ち!
川尻達也

020 Uのニュージェネレーション、ついにブレイク!!
中村大介

024 『Dynamite!!』&『UFC.92』徹底技術分析!
094
髙阪 剛

026 UWF&K-1はもう最終回!?
『Dynamite!!』総括座談会

032 『Dynamite!!』ついに民放1位から転落!!
08年大晦日視聴率戦争

033 "去就"不明の魔王はどこへ行くのか
秋山成勲2008
08年の魔王劇／在韓日本人に聞く秋山人気の理由

082 "暴言柔道王"のMMAメジャーリーグ視察に密着!
石井 慧

084 ひさしぶりにジャイアン節が炸裂!
ダナ・ホワイト UFC代表

088 "UFCの鉄人"が語る石井慧の可能性!
ランディ・クートゥアー

092 ランペイジ戦敗戦後に独占キャッチ
ヴァンダレイ・シウバ

kamipro Special

042 レスナーから『戦極』ポーズまで一気に振り返り!
PLAY BACK 2008!
『kamipro』反省座談会／ニュースで振り返る2008年

065 石井慧騒動から考える柔道の"本質"とは!?
特集・柔道とは何か?
柳沢健／堀辺正史／マッスル坂井が語る『柔道部物語』

PRO-WRESTLING

098 kamipro.com企画『mimipro』緊急出張版!
『ハッスル・マニア2008』無責任対談!!

102 ダウンタウンが『ハッスル』を挑発!?
『スガッスル』とは何か?

103 坂田亘があのセレブ小川を超えた!
ナットーマンよ、どこへ行く!

104 1.3『マッスル』で何が起きたのか!?
マッスルに"最終回騒動"勃発!?

106 ドームにお客が戻ってきた!
1.4新日本プロレス詳報!

Presents

111 kamipro Special PRESENTS

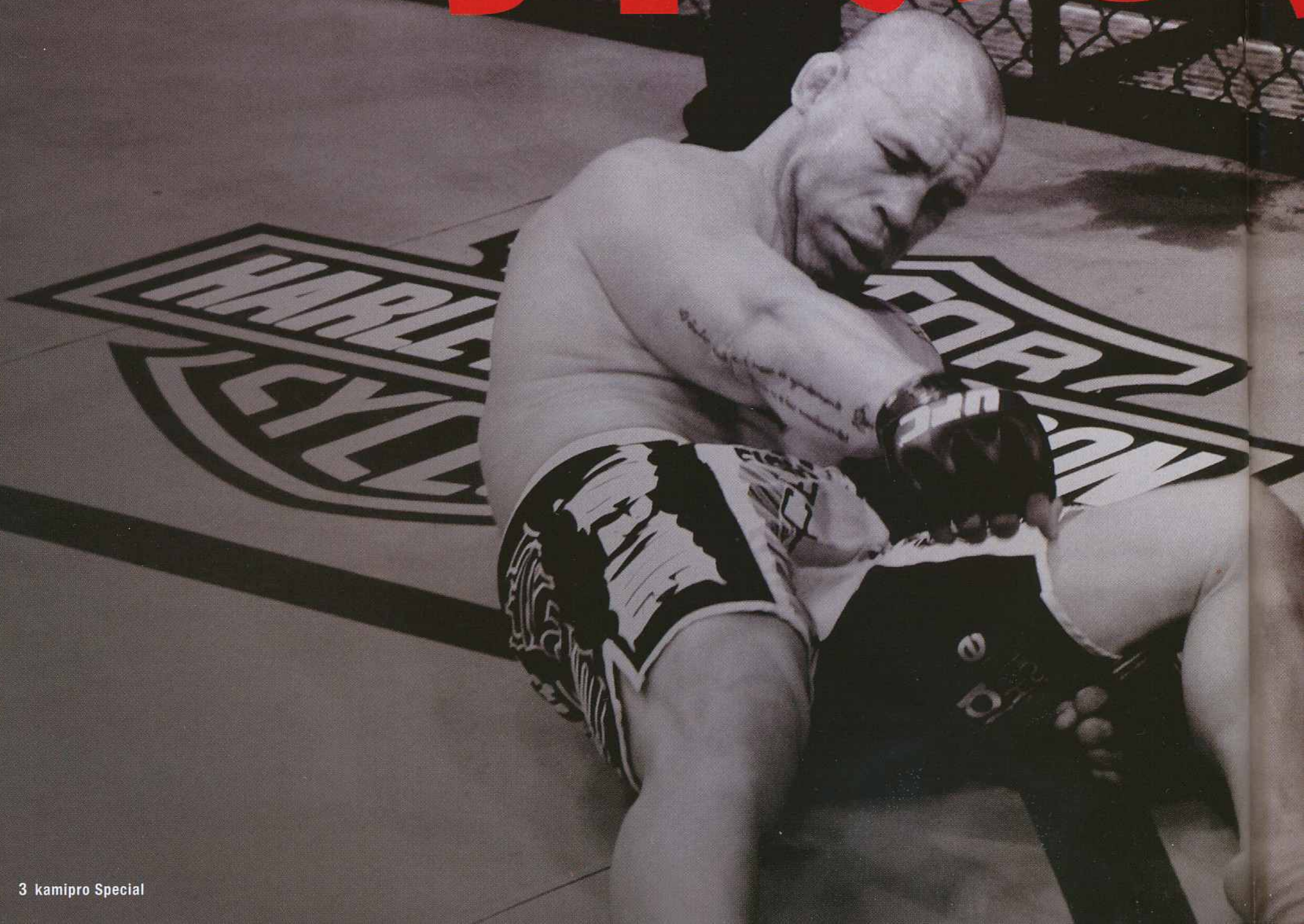
表紙写真／菊池茂夫

2009 FEBRUARY

©2009 ENTERBRAIN ,INC. ©2009 DOUBLECROSS 本誌記事、写真等の無断転載、複写、埼京線でのスゴみを禁じます。

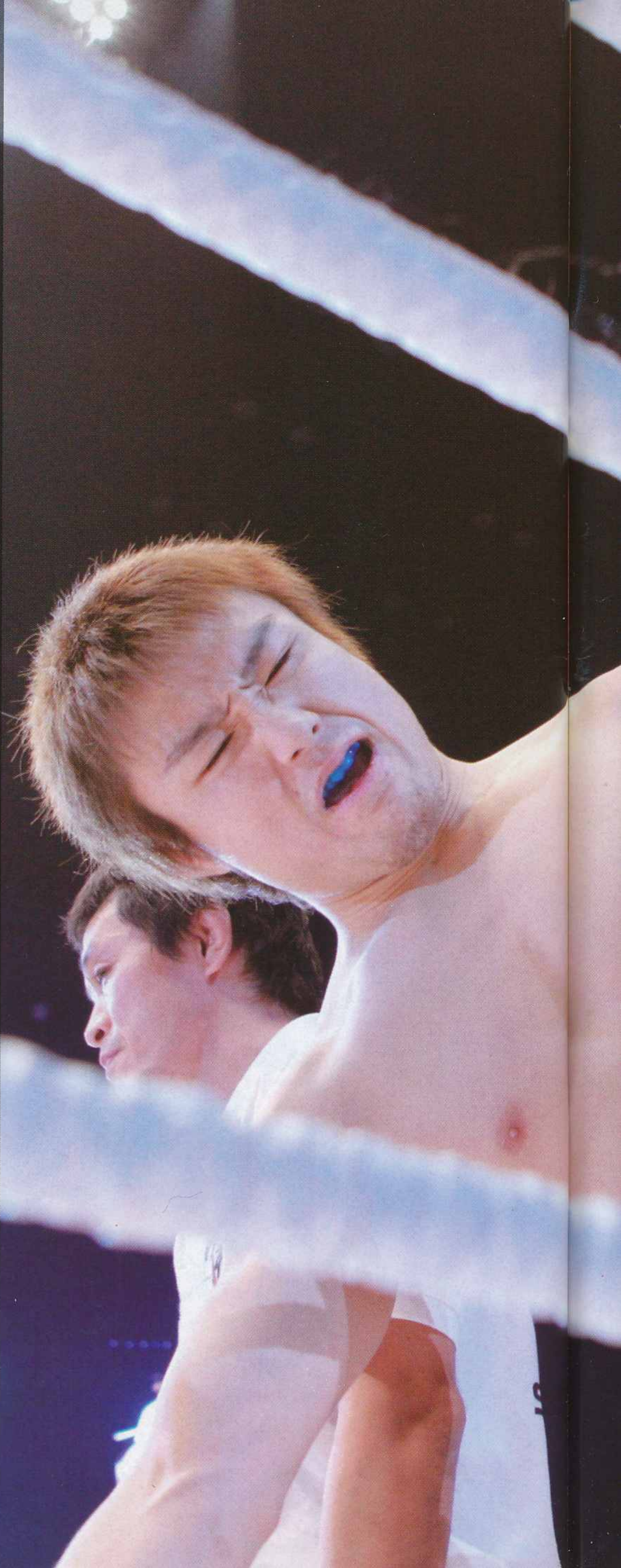
変わる

ヴァンダレイが負けた。
ノゲイラも負けた！
五味隆典も負けてしまった!!
ここ数年のMMAは、
恐ろしいほどのスピードで進化している。
こうしているあいだにも、
時代は急速に流れていく。
その流れにしがみつく者、
無残に振り落とされる者、
タイミングよく見事に乗る者——。
そして一つの幻想が消える代わりに、
新しい幻想が生まれていく。
所英男と中村大介は、
いつかの桜庭和志と田村潔司だった。
太陽が照りつける真夏の時期をすごす人がいれば、
まったく陽が差し込まない真冬を迎えて、
震え苦しんでいる人もいる。
絶好調の盛夏が訪れた者にも、
いつかはつらく厳しい冬がやってくる。
我々は闘う男たちの春夏秋冬を、
ただただ見守るだけなのだ。

時代は

ライト級タイトルマッチで北岡悟に完敗——。

五味隆典に突きつけられた“リアル”な現実

文／阿條羅チョロ　撮影／丸山剛史

〝火の玉ボーイ〟は這い上がれんのか？

五味隆典、北岡悟に完敗！

1・4『戦極の乱2009』で実現したライト級チャンピオンシップ、五味vs北岡の一戦は、戦前から「いまの五味選手は自分には勝てない」と自信満々に豪語していた北岡が、宣言どおりに得意の足関節で一本勝ち！『戦極』の初代ライト級王者に輝くとともに、五味隆典にMMAルールで初めて黒星をつけた日本人という称号までゲットした。

試合後、王者になったばかりの北岡は、初防衛戦の相手に五味を指名。「もちろん勝ちますけどね」と"キモ強"な笑顔の裏には、すぐに再戦しても同じ結果になるという確固たる自信があるのだろう。

はたして、五味はすでに燃え尽きてしまったのだろうか？ いや、燃え尽きるには、まだまだ早い。奇しくも、同じ日、菊田早苗に敗れた吉田秀彦は引退を示唆する発言を残したが、すでに40代に手が届こうとしている吉田とは違い、五味は30歳になったばかり。人一倍、モチベーションが試合内容を左右する五味だが、まだまだ老け込む年齢ではないはずだ。

この日、五味と同様にタイトルマッチに出陣した三崎和雄はバリバリの世界トップファイター、ジョルジ・サンチアゴに真っ向勝負を挑み、結果的には五味と同じく一本負けを喫した。タイトル奪取はならなかったものの、サンチアゴ相手に互角の攻防を繰り広げた三崎に対し、五味は得意の打撃を出させてもらえず完敗を喫したのはまぎれもない事実。

かつて五味と同じくPRIDEのリングで一時代を築いたヴァンダレイやノゲイラらは、日々進化するMMAに対応すべく、もがき苦しみながらハードなトレーニングと試合を続けている。

PRIDEライト級王者として、一度頂点に登りつめた五味は、PRIDE消滅後はかつてのギラギラした部分は目立たなくなり、主戦場として選んだ『戦極』の同階級の選手はもちろん、ライバル団体の"大黒柱"を自称し、ファンも近い将来の対戦を夢見ていた青木真也の存在も避けているようなところも見受けられた。実際に会見等でDREAMライト級GPに関して聞かれると「かつて自分も通ってきた道ですから」と語るなど、どこかリアルタイムのMMA界から目を背けているようなところもあった。ハッキリ言ってしまえば、現在のMMA界ではPRIDE王者という肩書きが通用しなくなっているのがリアルな現実なのだ。

このことは今回の北岡戦を前に何年ぶりかにグラバカに出稽古に行った際、菊田や三崎らにスパーリングでボロボロにされたという五味が自身のブログで「一年間格闘技に興味薄かったんだな〜と感じました」と素直に表現しているとおり、本人も自覚しているフシもある。

自身のジムを立ち上げ、PRIDEが消滅してからの五味は、何度か自身も明かしているが、モチベーションがなかなか上がらなかったという。『戦極』でもライト級GPへは参加せず、高みの見物を決めているようなところもあったが、今回の敗戦で、『戦極』のライト級の主役の座は完全に北岡のものになったといえる。北岡のベルトへ挑戦し、リベンジをはたしたところで、あの頃の五味隆典が復活したとは言えないだろう。

過去の栄光を引きずったまま、現在のMMAの第一線から脱落してしまうのか？ それとも、誰もがシビれた川尻達也戦や石田光洋戦のようなあのトンガった"火の玉ボーイ"は戻ってくるのか？

いまの五味に期待されるのは、格闘技界のリアルな現実から目を逸らすことなく、死にもの狂いにもがき苦しみ、現状から這い上がろうとする必死な姿だろう。

"絶対王者"としてPRIDEライト級を牽引していた頃の五味は、いまはもういない。この思いはファンはともかく、北岡や青木、さらにかつて五味と対戦経験もあるBJペンといった現在のライト級トップコンテンダーたちに顕著で、彼らは、「いまのMMAのトップファイターではない」と断言している。

「もう五味は終わった」と、今回の北岡戦での敗北を見て感じた人もいるだろう。しかし、五味隆典は、こんなところで終わるようなファイターではない。……とはいえ、ここからフェードアウトするのも這い上がろうとするのも本人次第。時代の流れは逆境かもしれないが、こんな状況のときほど、五味はいつだって期待以上のものを返してきたはずだ。

時代に追い込まれた09年、本当の五味隆典の姿が見られるかもしれない。

「家に帰ったらリラックマにベルトを巻いてあげようと思います」

どうかと思う

祝・キモ強王者誕生

北岡悟

1.4『戦極の乱』五味隆典戦、完勝後に直撃

『戦極ライト級グランプリ』からブレイクが始まった北岡悟が、ついに『PRIDE武士道』で一時代を築いた五味隆典を撃破した! 試合の1ヵ月前からことあるごとに「俺のほうが強い」と豪語して、試合前日には「生理的に嫌い」とまで言いきった北岡。言い訳のできない背水の陣で、いつも以上に激しく自己陶酔していた北岡が完璧な勝利を手にした。試合直後には五味への再戦を要求したのだが、はたしてその真意は!? 試合直後にバックステージで話を聞いてみた。

聞き手/坂井ノブ　撮影/菊池茂夫　試合写真/丸山剛史

——いかがですか、ベルトの感触は?

北岡　いいですね、オモチャみたいでかっこいいです(笑)。

——オモチャみたいで?(笑)。11月の大会後はグランプリ優勝のメダルを下げて埼京線に乗ってましたけど、今日もベルトを巻いて電車で帰るんですか?

北岡　巻いて帰りますけど、今日は車なんですよ。今回はレンタカーを借りたんで。家に帰ったらリラックマに巻いてあげようと思います(笑)。

——ただあんまり喜びが爆発してる感じではないような印象を受けるんですが、どうなんですか?

北岡　嬉しいのは半分、不思議な感じが半分です。

——ほぼノーダメージですよね。この短時間での決着については?

北岡　こんなふうに勝つとは思ってなかったです。ちょっと青木vsアルバレスの展開に似てますよね?

——ああ、確かに! 同じような試合時間だし、同じように足関節技で決着してるし。ちなみに、青木さんからは祝福のメッセージとか届いてます?

北岡　さっきメールが来てましたね。「納得」って書いてありました。

——なるほど(笑)。今回の試合前はどんな気持ちでした?

北岡　ここ二年間のいろんなことを振り返ってセンチメンタルな気持ちになってましたね。二年間の"歩み"を感じましたよ。五味選手との試合が、さいたまスーパーアリーナのビッグマッチのメインで組まれるって特別なことじゃないですか?

——そうですね。

北岡　こないだの『Dynamite!!』のポスターに「踏み出す、傷つく。だけど踏み出す」ってキャッチコピーが載ってましたよね?「俺なんか踏み出しまくって、傷つきまくってるよ!」って言ったら、青木は爆笑してたけど(笑)。

——確かに踏み出して、傷つきまくってますね。この二年間、格闘技界における五味隆典の存在は確実に突出してました。それをひっくり返したというのは痛快ですよねぇ。あと、もう一人ここ二年間で踏み出してたなぁと思うのが青木選手ですけど。

北岡　でも、僕は青木とは見てるところが違うと思います。

——青木選手はアルバレスに勝って「世界第二位だ!」とか「BJペンとやりたい!」と言ってました。

北岡　僕は自分が世界トップ10にも入ってないと思います。

——そう言いますけど、腹の中ではベスト10に入ってると思ってませんか?(笑)。

北岡　誰にでも勝てる可能性はあるんじゃないかと思ってますよ!

——いまの時点で「世界に出たい!」「UFCに出たい」という意識は?

北岡　正直言って、いまの時点ではあんまりないですね。いまパッと思うのは、初防衛戦が7月にあるんで、そのときにお客さんが入って、会場が盛り上がるカードでやりたいな、と。

——それは誰とやるのが一番いいかを考えたときに真っ先に出てきたのが、五味さんとの再戦だったと?

北岡　そうです!

——もう、立派に『戦極』を背負ってるじゃないですか(笑)。

北岡　あんまり持ち上げないでください(笑)。試合前から漠然と思ってたんですよ。いい勝ち方をしたら、もう一回やって

試合が近づくにつれて自分は五味選手に似てるんじゃないかと思うようになりました

もいいなって。お客さんは「五味はこんなもんじゃない！」って感じると思うんです。いま『戦極』に上がってる70キロの選手で初防衛戦をするときに、最高の相手は誰かって考えたら再戦しかないかなって。

——かつて「S4」として一括りにされたほかの選手たちではないわけですね？

北岡　それは違うと思います。『戦極G！』で自分と五味選手の煽りVTRを観たときに「これ、俺が勝ったらもう一丁でしょう」って思ってましたから。

——煽りVTRで自分が煽られた（笑）。あいかわらずというか、さすがというか。

北岡　まあ、勝てるかどうかわからなかったですけど。

——あ、そんなに自信なかったんですか？

北岡　「どうなんだろう？」って思ったりもしますよ。

——入場のときの表情を見てても、北岡さんってどんどん変化してるじゃないですか。北岡さんの心の中もわりとコロコロ変わってく感じなんですかね？

北岡　はい。

——今回の入場も凄い顔をしてたんですけど、五味選手の入場テーマ曲で昔の『SCARY』がかかったときの表情が最高に壊れてましたね。

北岡　じつはマネージャーと「あの曲で入ってくるんじゃないかな」って話してたんです。予想的中でした。

——昔の曲で、あの頃の自分を取り戻そうとしてたのかもしれないですね。

北岡　それで強くなるかもしれないし、取り戻そうとしてる時点でダメなのかもしれないし。どっちだろうと関係なく、「俺は俺だ！」って暗示をかけようと思ってたんで。

——五味選手は北岡さんが相手だからこそ、グラウンドの練習を集中的にやったり、GRABAKAに出稽古してたわけじゃないですか。生まれ変わろうという意志はかなり強かったんじゃないですかね。

北岡　『戦極』のタイトルマッチだからこそかもしれないですけど、僕を相手にあそこまでやってくれたのは嬉しいですよ。GRABAKAへの出稽古にしても、僕と闘うために、あの五味隆典がそこまでやるんだ⁉という気持ちはありましたから。

——しかもコンバットレスリングの大会で優勝してますよね。そういう意味では、五味さんなりに万全の体勢で挑んできたと思うんですが……。

北岡　ただ、試合が決まってから二ヵ月しかなかったですから。11月の試合でダウンもしてたし。

——むしろ本来の五味隆典じゃなくて、北岡さんに飲まれてたんですかね？

北岡　わからないです。「飲む」という表現は、ちょっと失礼かなと思いますね。

——北岡さん、試合前に自分でもっと失礼なこと言ってたじゃないですか。「生理的に嫌い」とか（笑）。

北岡　まあ、試合前ですから。普通のこと言ってもおもしろくないじゃないですか。でも、いろいろ考えたら大変なことをやってきた人なんだろうなとは思いますよ。

北岡悟

——でも、この勝ちによって、五味選手が立たされていた位置と非常に近いところにきちゃいましたよね。エースとか、大黒柱というポジションが期待されてしまうと思うんですが。

北岡　ちょっと休んでから考えます（笑）。

——じつは試合前にネットカジノのオッズが出てて、五味選手が1・39倍、北岡さんが3・05倍だったらしいんですよ。

北岡　へえ、五味選手が勝つと思ってた人のほうが多かったんですか？

——そうですね。試合前の歓声も五味選手が多かったですよ。

北岡　それは入場式のときにも感じました。「あ、人気あるんだ」って。まあ、『SCARY』がかかったら沸くとは思ってたんで、それは想定の範囲内だったんですけど。

——さっきも言ってましたよね。

北岡　そう。だから、僕はパンクラスのテーマ曲で入場しようかなとかも考えてたんですよ。でも、マネージャーが「『戦極』で北岡さんのことを応援してるファンには、いつものテーマ曲（Gacktの『哀戦士』）のほうがいいんじゃないか」って言ってくれたんですよね。確かにそのとおりだし、パンクラスを背負うという意識が強すぎて動きが重くなっちゃうのもよくないから、やめたんです。

——なるほどね。

北岡　あそこまで相手に大歓声がある試合って初めてだったように思いますね。不思議な感覚でした。そういう状況で結果を出せたのも不思議だし。

——こういう状況で声援が少なかった五味選手が負けて、声援が多かった北岡選手が勝った。これって時代が動く試合なんだと思いますよ。

PLAYBACK! 戦極ライト級チャンピオンシップ 北岡悟vs五味隆典

入場でも過去最高の凄い表情をしていた北岡だが、今回も勝利のポーズはきわめてキモい感じだった。ホントどうかと思う。

身体を回転して五味の足を取ると北岡は得意のアキレス腱固め。ご覧の表情で最初は余裕をアピールしていた五味だったが……。

タックルを切った五味がバックに回って自らテイクダウン。「まさか自分からグラウンドにくるとは……」と北岡も驚く展開に！

軽快なステップを踏んで間合いを詰めていった北岡。「自分から組みつこうと思っていた」と試合後に振り返っていたとおりタックルに入る。

[09.1.4 戦極の乱]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○北岡悟 vs 五味隆典×
(1R 1分41秒 アキレス腱固め)
わずか101秒の秒殺決着に場内も騒然！　北岡のタックルにあわせて出したパンチが当たったのみで、五味が得意とするスタンドの展開にはならず。足がこの角度で曲がり、さすがの五味もタップ！

北岡　そうですね。つまり、それだけファンの人も僕のことを強いと思ってくれて、五味選手のピンチだと思ったからこその大声援だったのかもしれませんね。そう考えるとありがたいとは思います。そこまで強いと思ってくれてるのであれば。

――じゃあ、次は北岡さんの強さを完全に認知してもらって、声援をもらう側にいかないといけませんよね。

北岡　そのためにも、五味選手ともう一丁やったらおもしろいと思うんですよ。次に闘うときには声援がどれくらいになってるのかな、みたいな（笑）。

――大晦日の『Dynamite!!』や今日の『戦極』に出た誰よりも高いテンションで、高いクオリティの試合をしたいという目標を前日会見でも言ってましたが、それは達成できたと思いますか？

北岡　わかんないです。それは観た人が決めることだと思います。

――テンションの高さは間違いなくナンバー1だったと思います（笑）。『戦極』に出て約1年になりますけど、その間の認知度アップは実感としていかがですか？

北岡　確かに認知度は上がったと思いますけど、その反面でいろんなことに真摯に対応をしなきゃいけないわけじゃないですか。それが面倒くさいと言ったら乱暴な言葉になっちゃいますけど……。

――まあ、乱暴ですね（笑）。

北岡　そんなにできた人間じゃないので。

――勝って上のポジションになれば、そういうことを求められますよね？

北岡　はい。だから、五味選手も同じような感覚だったんじゃないかと思うんですよ。

――五味選手は頂点に立ったことでモチベーションの維持が苦しんでましたよね。

北岡　そうですね。似たものは感じます。

――青木選手は、自分で「世界第二位」って言って、さらに上を目指してますけど。

北岡　だから、あいつは本当に強いんですよ。それは大晦日の控室で本人にも言いました。「おまえは本当に強いんだよ」って。本当に「もっともっと」っていう姿勢で格闘技をやれてるから。

――北岡さんもそっち側なのかと思ってたんですけど、違いますか？。

北岡　いや、この試合が近づくにつれて、僕は五味選手に似てるんじゃないかと思うようになりました。秋山選手やKID選手みたいな存在がいて、僕や五味選手がいる。青木のような存在がいて、五味選手とはわりと近いんじゃないかなって思いましたね。

――ひとまずじっくり休んで、モチベーションをガッチリ維持してください（笑）。

【09年1月4日／埼玉・さいたまスーパーアリーナにて収録】

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。ブラジリアン柔術をベースに、パンクラスで活躍。07年には幻の『PRIDEライト級GP』出場を決めるが、トーナメントが行なわれず。08年からは主戦場を『戦極』に移して大暴れ。11月にはライト級GPを制した。168センチ、70キロ。

やめんのか!?『戦極』の象徴、吉田秀彦が引退を示唆!!

菊田早苗戦で判定負けを喫した吉田秀彦。試合後には「これで引退かもしれないし、目標もクソもないですよ」と意味深なコメントを残したが、いったいどうなる!?

最終ラウンドの菊田の"反撃"が効き、結果は判定2-1で菊田が辛くも勝利。柔道時代からの先輩である吉田を破ったかたちとなった。

1ラウンド、2ラウンドと、吉田の打撃をかいくぐり足関節を狙っていた菊田だが、3ラウンドになるとマウントを奪い、パンチラッシュで展開を盛り返す。

柔道世界一vs寝技世界一の対決と煽られたこの一戦。終始、打撃で攻め立てた吉田は、菊田をコーナーに追いつめラッシュをかける場面も。

三崎を下し、ミドル級初代王者はジョルジ・サンチアゴ!!

三崎和雄が初代ミドル級王座のベルトを懸けて闘ったのは、立ってよし寝てよしのジョルジュ・サンチアゴ。フルラウンドの熱戦を繰り広げたが、最後の最後でサンチアゴが渾身のチョークスリーパー！　三崎は『戦極』参戦以降、初の敗戦となった。

“王様”モー&モークイーンがパワーアップ!!

お正月を意識したのか、いつにも増してハデハデな入場を披露したキング・モー。内藤征弥から1ラウンドTKO勝ちを収めると、お決まりの「キング」&「モー」コールを会場に巻き起こし、最後はモークイーンとバッチリ撮影。

～この乱世を生きぬけるか?～
1.4『戦極の乱』ダイジェスト

五味隆典の敗戦から吉田秀彦の引退示唆、そして朝青龍の来場まで、見逃せない展開が続出した1.4『戦極の乱』。その詳細をダイジェスト形式でドドドッとご紹介。“乱世を生きぬいた”男たちの魂を感じろ!

構成／阿修羅チョロ　撮影／丸山剛史

ムベ様が総合無敗戦士に勝利!

13戦13勝という戦績をもって参戦したデイブ・ハーマンに対し、2ラウンド中盤ムベ様がフラフラになりながらもパンチラッシュでTKO勝ち。試合後には「あなたが好きだから！」という謎のコメントが飛び出したが……勝ったからいいのだ！

リアル・ゴリラーマンが進化!

前日会見では「ゴリラ退治をする！」と、とんでもない挑発をしていた中尾さん。しかし試合ではアントニオ・シウバに押され、なおかつヒザを負傷してしまうというアクシデントも発生。リアル・ゴリラーマン、貫禄の勝利となった。

光岡、結婚問題に新展開!?

S4のメンバーである光岡映二が、五味隆典を下し一躍注目を浴びたセルゲイ・ゴリアエフに腕十字を極め一本勝利。試合後のマイクでは“結婚問題”についても言及したが、新展開はナシということでした……。頑張ってください！

代々木第二体育館に初進出!

戦極 第七陣 決定!

3月20日（金・祝）
国立代々木競技場 第二体育館

08年、ライト級&ミドル級トーナメントを行なった『戦極』が、今年は3月20日から16名参加のフェザー級グランプリを開幕！　開幕戦は代々木第二体育館からスタート。いったいどんなファイターが出場する予定なのか!?

話題の男たちが続々と来場!

2月1日『戦極育成選手トライアウト』の開催にあたって、参加予定ジムGRABAKA、パンクラス、吉田道場、和術慧舟會の代表者4名があいさつ。GRABAKA代表として登場した“S4”横田一則のマイクはあいかわらず素敵だ。

1.4『戦極』の会場には豪華ゲストが勢揃い！　休憩明けにリング上であいさつした石井慧をはじめ、なんとリングサイドには横綱・朝青龍やアテネ&北京五輪平泳ぎ金メダリストの北島康介の姿も。いったいどんな人脈なんだ!?

 ★1.4『戦極』さいたまスーパーアリーナの詳細は『kamipro Move』と『kamipro.com』へ!

よっ、世界第2位!!

強すぎてわけがわからん！『Dynamite!!』の裏メインと呼ばれたエディ・アルバレスとの〝世界2位決定戦〟!!
世界中が注目する一戦は、ワオキさんがヒールホールドで激勝してしまった。
PRIDEの崩壊によって失なわれた〝世界最高峰〟のブランドを日本に取り戻すのは、この男しかいない！

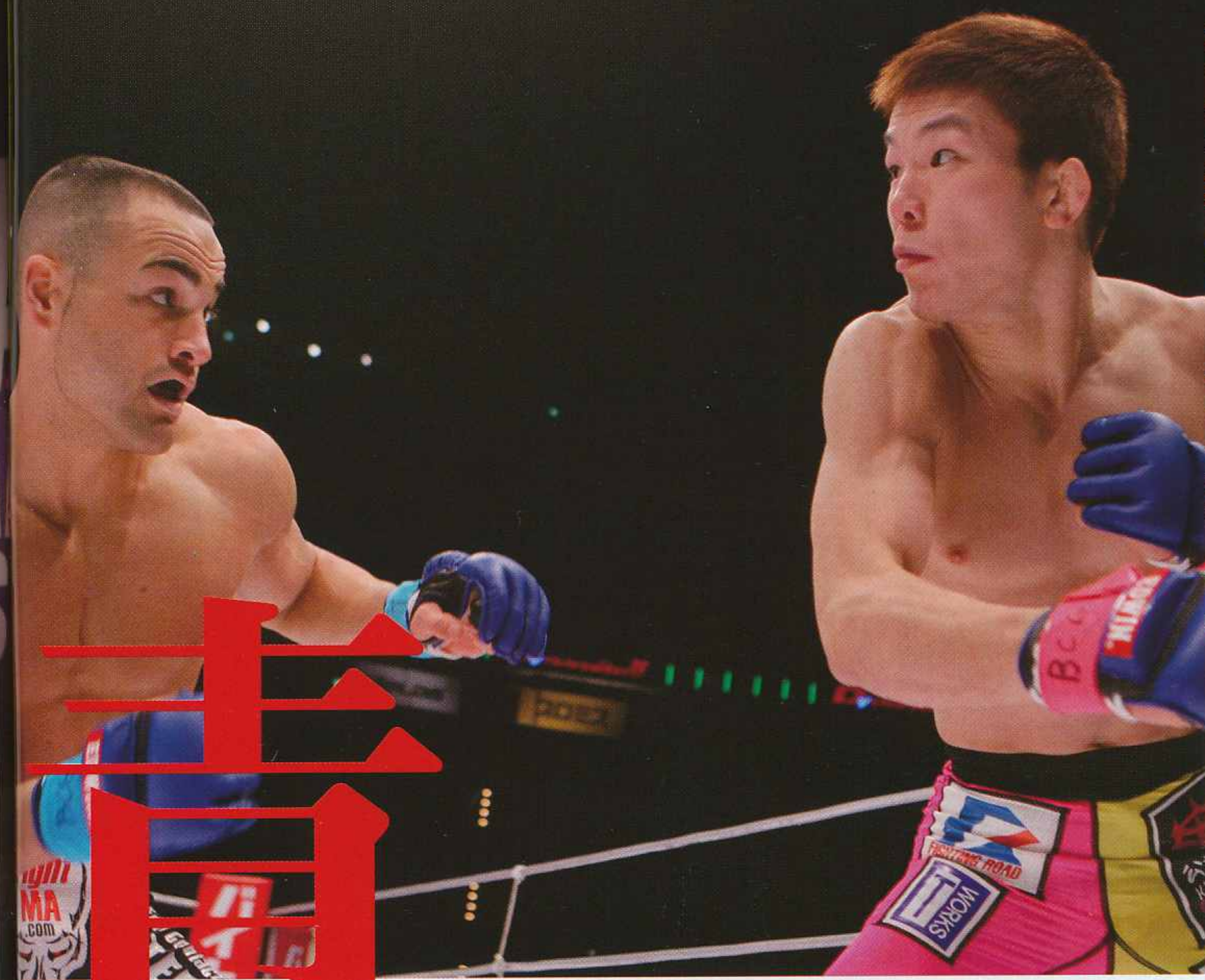
聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

青木真也

あのアルバレスに超完勝!!
アメリカから世界最高峰を取り戻せ!

——青木さん、明けましておめでとうございます！
青木　おめでとうございま〜す！
——今年もよろしくお願いします。それにしても昨日の試合は凄かったですね。
青木　ねぇ。ホントに凄かった‼
——新年早々自画自賛（笑）。
青木　いやいや、ホントに！　最後も渾身の力で極めましたから。
——あのヒールホールドでアルバレスの靭帯は壊れたっぽいですよ。どうやら、しばらくは試合に出れないみたいで。
青木　でしょうね。アルバレス、アメリカの新しい団体と契約したばっかなんですよね？
——そうですよ。アメリカでは売れっ子だから、青木さんとの試合がおそらく日本ラストマッチの可能性が高くて。
青木　でも、その団体、潰れるかもしれないですね（笑）。だってアルバレスが主役なんでしょ。
——そうなんですよ。アメリカをブチ壊す男、青木真也（笑）。
青木　しかし、アルバレスはボクのことをナメてたんじゃないですかね。1月にも試合が決まってたでしょ。
——ああ、小谷直之選手との試合が決まってましたね。
青木　だから「ナメんな！」っていう気持ちはありましたよ。ボクはこの試合に懸けてましたから。コッチが殴られて失神するか、極めてぶっ壊すかっていう。
——その緊張感が伝わってくる、ホントにいい試合でした。あっさり決まったっていう感想が多いですけど、青木さんにとっては紙一重なところはありました？
青木　打撃の圧力がヤバイ！　ホントに殺されるかと思った！
——へぇ〜。ＪＺカルバンと比べてどうでした？
青木　カルバンのほうが寝技ができるだけイヤだった。けど、正直、カルバンのときより殺されるかと思った！
——そんなに！
青木　だから足を取ったときは必死でしたもん。これで極まらなかったら「殴って殺してくれ！」って思ってましたもん。
——やるか、やられるか⁉　だったんですねぇ。でも、あんまりあっさり極めた印象があるから、青木さんの強さがちょっとわからなかったですよ。
青木　やってるほうは大変なの！（笑）。アルバレスも「アオキ、殺してやるよ〜ん！」みたいな感じでしたし。でも、ホントによかった。勝て……（しみじみと）。
——川尻さんらＤＲＥＡＭ勢が凄い勝ち方をしてたから、けっこうプレッシャーだったんじゃないですか？
青木　凄いプレッシャーですよ！　川尻さんが勝って、アリスターも勝って、ムサシも勝って。
——青木さんも絶対にやらなきゃならない流れですよね。やれんのか！
青木　ボクは川尻さんと同じ控室だったんですけど……、もう勝ったからって、凄くはしゃいでるんですよ！
【同じ部屋で取材を受けていた川尻が口を挟む】
川尻　いいじゃん！　久しぶりに勝ったんだから。
青木　いやあ、そういうレベルじゃないですよ。あんなにはしゃいだ人は見たことない！
——そんなにはしゃいでたんだ（笑）。
青木　「ヒザ蹴り、見たぁ？」ってヒザ叩きながら喜んで。ボクはボクで試合が近くなってきたのでアップしてたら、その隣でヒザ蹴りの再現をしてるんです。ジャマでしょうがなかったんですよっ‼
——ダハハハハハハハハハ！　何をやっとるんですか、川尻さん！
川尻　いやあ、あまりにも勝ったのが嬉しかったから……（照）。でも、いいじゃん！　ちょっとくらい調子に乗ったって！
——いやあ、どんどん調子に乗るべきだと思います（笑）。
青木　ボクも試合後、はしゃぎたかったんですよ。でも、石田（光洋）さんから「ボクも二人に負けないように頑張ります」って、凄く怖い目をして挨拶されたので自重しました（笑）。
——まあ、これでＢＪペンに次ぐ世界2位ですね。
青木　うんうん。自分で言うのもなんですけど、この試合って世界が注目してましたからね。
——また今回も海外の反響は凄いんじゃないですかね。
青木　間違いないと思います！　最後のマイクも世界に向けて言いましたから。「ＵＦＣ、この野郎‼」って。
——あれは海外にはもっと過激に伝わると思いますよ（笑）。あのときの青木さんはちょっとテンションが上がりすぎてでしたね。コマネチポーズもやってたでしょ？
青木　うん。マッハさんがたけしのモノマネをしてから。
——意味がわかりません！（笑）。
青木　べつにダナ・ホワイトがムカつくわけじゃなくて、ＵＦＣがＭＭＡのトップを独占してるみたいな感じがあるじゃないですか。日本のマスコミもこぞってＵＦＣをヨイショしてる感があるから。そこで「バカヤロウ、日本にもトップがいるんだぞ！」ってことを言いたかったんです。
——日本のライト級には青木真也がいるぞ！　と。
青木　そうです！
——でもファンからすれば、アルバレス相手にあんな勝ち方をする青木さんをＵＦＣでも観たいと思いますよ。
青木　けど、ボクは、自分を育ててくれたリングと、お世話になった方々を裏切るわけにはいかないから。だから「青木真也と闘いたいならＤＲＥＡＭに来いや！」ってことなんです。
——なるほど、なるほど。
青木　アメリカには、ＢＪペンを頂点としたＵＦＣという山がありますけど、昨日のアルバレス戦で、ＤＲＥＡＭという山を作

凄いプレッシャーでしたよ！　川尻さんもムサシもアリスターも勝ったから

一昨年の大晦日『やれんのか！』のときはDEEPジムで新年を迎えたワオキさん（メインイベンターだったのに！）。今年はちゃんとホテルを用意されて一安心!!　偉くなったぞ〜！

[08.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○青木真也 vs エディ・アルバレス×
（1R 1分32秒 踵固め）

詳しい技術解説はTKに任せて、地上波でカットされた青木のマイクをご紹介。「今日はご来場、まことにありがとうございますっ!! 格闘技のトップ、アメリカ！ おい、UFCよく聞け!! PRIDE買ったダナ・ホワイト、よく聞けよ!! 日本がトップだ、コノヤローーーーッ!! 大晦日、ここに集まってきてくれたお客さん、最高です!! そして、来年も“DREAMの大黒柱”青木真也、精一杯頑張っていきます!! ありがとうございましたッ!!」

青木

ボクが一つの山になることで、最高峰を日本に取り戻すんです！

れたと思うんです。だから、ガイジンどもが登りに来ますよ。ボクがそうやって山になることで、DREAMのリングを、日本の総合格闘技を盛り上げることができればなって。もう一度、最高峰を日本に取り戻すんです！　誤解しないでほしいのは、決してUFCを認めてないってわけじゃないんです。UFCは確かに凄いけど、DREAMの山のほうがホントは高いんだぞってところを証明したいんですね。

――きたる『戦極の乱』の内容次第では、もう一つの山もできるわけですね。

青木　北岡聡の〝どうかと思う山〟ができると思います！（笑）。試合前、北岡さんが「オマエ、絶対に取れるから、何発殴られても絶対取れるから、組め！　やってこい！」って励ましてくれて。ボクも勝った瞬間にパッと振り向いて「次はオマエだぞ！」って言ったら、あの〝どうかと思う〟顔で「わかってるよ」って。

――〝どうかと思う〟顔で（笑）。

青木　それがメチャクチャ嬉しくて。控室で北岡さんに「オレ、信用してますから、頼みますよ」って言ったら、「1月4日で五味隆典っていう名前がマスコミに出ないようにしてやる！」って言ってました。

――なんでそこまで敵意を剥き出しにするんですか（笑）。

青木　昨日、思ったのは、「ああ、青木真也、強くなったな」と思いました。みんなに支えられて強くしてもらったな、と。とりあえず「大黒柱」って言い出してみるのはいいなって（笑）。

――とりあえず言ってましたか（笑）。

青木　いわゆる有言実行ですよ。口に出してみれば、なんでもできるんだなって。そこで読者のみなさん！

――な、なんですか。突然。

青木　これからみんな、なりたい自分の姿を毎日、言ってみましょう！

――「俺ってストロングだぜ〜！」っていう『柔道部物語』の論理。

青木　そうそう。だからボクも今日から、「俺ってヤリチ〜ンだぜ〜！」って念じます。そうすれば、モテモテになるかもしれない。ククククク。

――何を言ってるんだ（笑）。

青木　まあ、とりあえず。世界的に評価されたってことが凄く嬉しいですねぇ。

――でも、スポーツ新聞の扱いは小さいんですよね。

青木　そんなの放っときゃいいんですよ。ボクはボクでいきます。ホンモノを追求し続けます。そうすれば、強いヤツがボクの前に立つはだかると思うんですね。

――狙われますねえ、これから。

青木　狙われる！

――研究されますね。

青木　研究される!!　でも、いままでも研究されてきたから大丈夫！

――アルバレスも研究してきましたよね。

青木　研究してきた。それでもボクは極めちゃう!!

――アルバレスはパウンドアウトの機会を避けましたよね。寝技はやらないぞ、と。

青木　だから、アルバレスもボクとやると

真也

ただのストライカーになっちゃうんです。グラウンドはいっさいやらない。普通のキックボクサーになっちゃうんです。そうするとボク的にはやりやすいですよね。

——お互いに付き合わないと、つまんない展開になっちゃいますけど、青木さんの試合って全然そういうふうになんないですよね。いつもおもしろい。

青木 だって、ボクは命を削って攻めますからね。寝技に持ち込みますから！ そのぶん殺される可能性もあります。死亡確認、王大人！（笑）。

——やるか、やられるかの魁！男塾。

青木 そう、魁！男塾の世界。そういえば、ジョー・シウバもボクの存在に相当ピリピリきてるみたい。

——UFCのマッチメイカーも。ヒョードルもそうですけど、他団体に強いヤツがいるのが許せないですもんね、UFCって。そのうちUFCから誘いがくるんじゃないですか。来年の秋ぐらいに日本にくるみたいな話もありますけど。

青木 マジ？

——そのときは〝DREAM代表〟として乗り込んで、BJペンとやってほしいですよねぇ。

青木 闘ってみたいですよねぇ、BJペン。ホント強いし、超カッコイイよね。またポチャッとした身体がロマンあるよね。やっぱり、ボク、UFCに対して憧れがあるんですよね。日本人がスタバを飲んでてもカッコよくないじゃないですか。けど、アメリカ人がスタバを飲んでると、「カッコイイな、この野郎！」と思うじゃないですか。それと一緒なんですよ。なんかどっかに憧れがあるんですよ。BJとやってみたい！ いったいどんだけ強いのか。

——でも、いまはお互いの都合で実現は難しいですよね。

青木 プラス、まだまだ彼はボクの試合を受けてくれないと思います。日本人でBJと闘える資格があるのはボクだけですけど、もっと頑張らないといけない。

——え〜、もう充分ですよ！

青木 いや、もっともっと頑張らないと彼には勝てないと思う。

まだそんなに開きがあると自分では思ってるわけですか。

青木 まだまだ足りない。もっと強くならないと絶対に勝てない。アイツはそんな弱くないですよ。もっと頂点は高い。世界2位なんて言ってるけど、BJとの差はタイムでいったら30分ぐらいありますよ。

——そんなに前を走ってますか（笑）。

青木 はい。まだまだまだ頑張んないと。BJに追いつくために、今年はとにかく真剣に格闘技をやる。ボクはニセモノはやらない。誤魔化しはやらない。ホンモノをやり続ける。〝日本のBJペン〟になる。それはボクにしかできないっす！

——でも、こうなっちゃうと対戦相手が難しいですね。

青木 どうでもいいっす。そこは任した！

——闘いたい選手はいますか？

青木 ……北岡悟！

——ダッハッハッハッ！ それはいいですねぇ

青木 でも、試合中に笑っちゃうかもしれない。あんな〝どうかと思う〟入場されたら。ククク。

——とりあえず五味戦の結果を待ちましょう！

【09年1月1日／都内ホテルにて収録】

というわけで、ワオキさんの期待に応えて北岡さんは五味隆典に快勝!! 北岡もストロングだぜ〜！ 09年、青木vsBJ、そして北岡戦は実現するのか!?

あおき・しんや■1983年05月09日、静岡県出身。柔道、柔術をバックボーンに持つ天才グラップラー。主戦場は70キロ以下級。DEEP、修斗、PRIDEを経てDREAMに参戦。08年は6試合に出場し、"DREAMの大黒柱"を自称する。今成正和、北岡悟らとともにNTT（ニホン・トップ・チーム）なる変態寝技集団を結成している。入場曲はウルフルズの『バカサバイバー』。180センチ、70キロ。

ウエブサイト『kamipro.com』でブログを好評連載中!!

『週刊ワオ木真也』でもアルバレス戦を振り返ってます!!

あけましておめでとうございます。

皆様のおかげで大晦日はなんとか勝つことができました。でも、勝ったという実感よりも生きている実感のほうが強いんです。そんだけ厳しい試合だったということだ。年明け第一弾ブログは試合を振り返ってみようかなと思います。

今回のエディ選手との試合は俺の中ですべてを懸けて臨んだ試合でした。2008年、お互い必死に闘ってきたけれどここでの勝敗で互いのすべてを取り合う試合。そして世界的に見てBJペンの次を決めるといわれるカード。勝てば世界に届くけど、負けたら……。なによりもDREAMを背負っていくと言う以上、負けらんねえ試合なわけだ。

すげえ背負った。いや、ありがたいことに背負わせてもらった。試合前の控室ではいつも以上に試合への恐怖が俺を襲った。自分を出せない恐怖。殺される恐怖。それこそすべてが怖い。恐怖を消すために中井先生に「俺やりますよ！」と気持ち悪いくらいに確認した。それこそ控室に居るみんなに確認した。試合直前の控室に世話になってるスタッフがきた。手を握って見つめ合って「信じてる」と言ってくれる。もちろんそんなことでは恐怖は消えない。

スタッフに「怖い」と伝えた。「この不安に勝て!! 信じてんぞ！」と言われたら涙が出てきて勝手にスイッチＯＮ！

タイミングよく北岡さんが「殴られても死ぬまで組める。簡単におまえが極めて勝つ」と言ってくれたのだ。それで怖いもんがなくなって入場ゲートまで行った。まだまだ怖いんだけど開き直ってた。入場直前にＮＴＴメンバーみんなと会って十段（今成正和）に「どんなもんか楽しみだわ」と言ったのを覚えている。この時点で完全にイケイケだ。

みんなに感謝の気持ちを述べて入場。なんだかこの日の入場はいつもとは違った。会場が、世界が、俺に力を与えてて台風のような風というか何かがうごめいているのを感じた。いつも通りの入場がいつもと違う不思議な感覚。

そして試合のゴングが鳴る。

予想以上の圧力。「ああ、殺されるな」とすぐ感じた。でも、殺してくれと開き直った。殺されていいと思うと人間おもいきりがよくなる。足を取った瞬間に極まらなかったら「殴り殺せ」と思った。全力。必死。相手の足がもの凄い音が鳴っても全力でひねった。相手の悲鳴が聞こえたら試合が終わった。

ぶっちゃけ試合が終わったことを理解できなかった。ものすげえ興奮状態のまま控室に帰って落ち着いたら涙が出てきた。勝ったというよりも生きてたって感じで生きてることにみんなに感謝した。ああ生きてるって……。

本当にありがとう！

試合が終わって反響は大きい。世界２位決定戦ということで世界２位と言ってもらえることもある。でも１月２日の朝の時点でもうそんなの嬉しくない。一番じゃなきゃやっぱりやだ！ ＢＪペンの首を絞めたらどんな気分なんだろうな。一番強くなりたいからまた練習して世界で一番になる。

まだまだ強くなるし強くなれる。これで満足するんだったら格闘技選手ではなくファッション格闘技選手だ。とにかく一番じゃなきゃ納得できないし、もっともっと強くなれる自分が居るのを知ってるのにそれをやらないなんて俺にはない。よっしゃ、今年はもっともっと強くなるぞ。そんな自分が楽しみでならないです。

今年もよろしくお願いします。

「DREAMのために勝ちました」

川尻達也

初のK―1ルールで挑んだ『Dynamite!!』武田幸三戦で劇的な勝利を挙げた川尻達也。賛否両論あったこのカードだが、最後は多くの歓声に包まれて2008年を締めくくった。その熱を生み出した川尻自身は今回の武田戦にどう向き合っていたのか。試合翌日、あらためてその心境を聞いてみた。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

初のK-1ルールで『Dynamite!!』武田幸三戦、男勝ち!
09年、いよいよ地上波ブレイクへ!!

最初は魔裟斗選手って言われたんで
僕はまあ生け贄なのかなって

——川尻さん、今日は2月のK-1MAX日本代表トーナメントへの意気込みをおうかがいしようと思います。

川尻 いやいや、出ないですよ！(笑)。勝ち逃げします！ K-1ルールでは二度と闘いません!!

——え、出るんじゃないんですか？ 川尻さんのK-1を観たいというファンが続出してるって聞きましたけど。

川尻 いないですよ！ だって、今回はK-1ルールの試合が決まったってなったら、みんな「なんで総合やんないの？」って言ってたじゃないですか。

——でも、昨日の結果を受けてそのイメージが変わったんじゃないかなって。

川尻 フフフ、マグレです。たぶん自分が一番ビックリしてますね。あんなに高くジャンプしたのは、小学校の跳び箱のとき以来かなって。

——そんな驚き方ですか(笑)。あの飛びヒザ蹴りは狙ってたんですか？

川尻 練習はしてました。でも、本当に当たるとは思わなかったですけどね。まあ、飛び込んで着地してその距離で武田選手と打ち合えればいいかなと思ってたぐらいで。だから本当は距離を縮めるための飛びヒザ蹴りだったんですけどね。

——それにしても劇的な勝ち方でした。川尻さんはK-1ルールは今回が初めてだったわけじゃないですか。なので、試合に至るまでいままでにはない経験をしたと思うんですよ。

川尻 はい。いろいろ想像しましたねぇ(しみじみと)。たとえば、何もできずにローだけでやられるパターンとか。打撃の交差もせずにただローだけでやられて、そのプレッシャーで下がって蹴られ続けるっていう感じで。だから相当厳しいんじゃないかなって思ってました。

——やっぱり、総合格闘技の試合に臨む前と違った恐怖感もありました？

川尻 とにかく緊張しましたね。グローブ着けた瞬間から緊張しましたね。だって、何もできなくなるじゃないですか。自分でズボンも下ろせない状態なんですよ。

——あ、そういう問題(笑)。

川尻 だって、ズボンも下ろせないってことは、トイレにも行けないってことだし。でしょ？ いろんなことがいつもと違ってて、それで緊張しましたね。「あ、やっぱ違う。総合じゃないんだ」って。

——試合後にマイクを持つのも一苦労でしたもんね。

川尻 そう！ だから、僕こうやって（両手の掌を合わせて）「你好（ニーハオ）」みたいな持ち方になっちゃいました。

——グローブって試合のどのくらい前からはめておくもんなんですか？

川尻 2試合ぐらい前からはめてたんで、たぶん20～30分は着けてたんじゃないですかね。僕、試合前ってけっこうトイレに行くタイプなんですよ。でも、今回は思うようにトイレに行けなかったんで、トイレに行きたい状態で闘ってました。

——それはイヤな闘い方ですねぇ。

一夜明け会見で「09年は僕と青木くんでDREAMのライト級を盛り上げていきたい」とコメントした川尻。"逆境"の『Dynamite!!』を成功に導いたこの二人の09年はもはや一番の注目ポイントとも言える。

川尻 でも、本当にそうだったんです！ ただ、山田（武士・トレーナー）さんとかに聞いたら、キック系の選手って、それがあたりまえだって言ってました。

——じゃあ、今回初めてK-1ルールで闘ったことによって、いままで知らなかったこと含めて、もしかしたら総合のためになるような体験をしたり、技術を吸収したということもあったんですか？

川尻 基本的には総合格闘技のためになる練習をして、それでいて武田選手に勝てる練習をしてたんですよね。

——なるほど。オープニングとか入場のときって川尻さんへの歓声って凄かったじゃないですか。

川尻 ああ、はい。凄かったですねぇ。入場のときは聞こえてきました。

——ほかの選手と比べても一段と大きかったと思うんですけど、その川尻選手への期待感ってなんだったと思います？

川尻 ……う～ん、なんすかね。逆になんすか？

——やっぱり何かを背負ってくれてることで期待感が高まったんじゃないかと思うんですけど。

川尻 そういう期待は嬉しいですよね。ボクはDREAMのために闘おうって思うし、DREAMのためにというのは裏を返せば僕のためでもあるし。だから、DREAMのため、格闘技のためっていうのも、結局すべては自分のためであって、そのためにはやっぱり僕はいい試合をして盛り上げるしかないっていうのは思ってます。自分がこの世界で生きていくためにはそれしかないなって。

——最初にこのK-1ルールの話をもらったときに、川尻さんには「それ以外の選択肢がなかった」と言われてましたけど、正直言って主催者のそういったプランに対してどう思いました？

川尻 「この人たちは何を考えてるんだろうな」って感じですよ(苦笑)。ぶっちゃけ、最初相手は魔裟斗選手だって言われたんで、まあ生け贄なのかなって。

——そんな被害妄想を(笑)。

川尻 K-1MAXのダメージがまだ残る魔裟斗選手にノーダメージで勝たせるための生け贄だなって。でももう一方で、いいところを見せられれば僕の名前も売れてDREAMのためにもなるかなっていうのは思いました。

——きっと、それが主催者の狙いですよ。

川尻 そういうのが主催者の考えだったんじゃないかなと思うんですけど。それしかないですよね？ じゃなかったら困る(笑)。

——結局、武田戦になりましたけど、いずれにしても川尻さんはその主催者の狙いに乗ってやろうという気持ちだったんですよね。

川尻 乗ってやろうというか、へんな言い方ですけど、僕個人は有名になりたいとか、そういうことを目的にしてないんですよね。

——ホントですかぁ？ そんなことないでしょう！

[08.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○川尻達也 vs 武田幸三×
(1R 2分47秒 KO)

初のK-1ルールで武田幸三と拳を交えた川尻。いきなり左右フックで武田からダウンを奪うと、立ち上がった武田に対し、今度は渾身の飛びヒザ蹴り！ さらに武田の右フックにカウンターの左を合わせて3度目のダウンを奪取、見事勝利を獲得した。この壮絶なKO劇に大歓声を受けた川尻。試合後は「09年、DREAMライト級のベルトを目指します！」とリング上で堂々宣言した。

川尻

負けてたら僕はもう格闘家として終わってたんじゃないですかね

川尻　ええっと……、ちょっとぐらいは人気者になりたいですけど(笑)。でも、矛盾してるんですけど、やっぱり格闘技を盛り上げるためにはたくさんの人に観てもらうのも必要だし、それを僕が担いたいというのもあって。そういう意味では今回の試合は絶対自分にもプラスになるし、勝てば得るものも大きいってことはわかってたんで。だからそれを乗り越えて生き残ってやろうって思ってました。

——ハードルは相当高かったですよね。

川尻　高かったです。いや、本当にビビってましたもん。何よりも僕、ローのカットができなかったですし。エディ(・アルバレス)のローは全部食らってましたから。

——そういう状況の中であっさり負けてたらイベントも下がるし、川尻さんも下がるし、DREAMも下がりますよね。

川尻　だから負けてたら僕はもう終わってたんじゃないですかね、格闘家として。終わってたというのは大げさかもしれないですけど、世間の評価はだいぶ変わってたでしょうね。

——そう考えると、いまさらながら壮絶なギャンブルでしたね。

川尻　いや、そこはギャンブルじゃないですよ。僕はイチかバチかで勝負したくはなかったですから。しっかり勝てる方法を探して、覚悟を決めて向かっていく気持ちで臨んでましたから。「ラッキーで勝っちゃったらいいよね」みたいな勝負はしたくなかったんですよ。それって格闘技じゃないじゃないですか。勝負論があるから格闘技なわけだし。

——でも、一方でやっぱり難しいだろうなっていう気持ちもあって。

川尻　たぶん100回に1回勝てるかどうかの勝負だったんじゃないですか？ その1回が今回の大晦日で「来ちゃった！」っていう。……「来ちゃったよ!!」みたいな！

——なんで2回言うんですか(笑)。

川尻　いやいや。だって今年って『DREAM・1』ブラックマンバ戦で僕ってガッと下がったでしょ。つまらない試合で。そして『DREAM・3』ルイス・ブスカペ戦でまたドンと下がったでしょ。で、『DREAM・5』エディ・アルバレス戦で負けてドドーンと下がったじゃないですか。

——いや、アルバレス戦では川尻さんの評価は上がったと思いますよ。あれだけの試合をしたんですから。

川尻　うーん、ファンの評価では上がったかもしれないですけど……。

——谷川さんの評価も上がりました。

川尻　そこは重要なんですか？

——んあ～！ いちおう主催者ですし(笑)。谷川さんとは以前よりは話すようになったんですよね？

川尻　いやー……、ちょっとずつ仲良くさせてもらおうかなって。最近はちょっと話したりしてるんで。今回も「川尻くん、よかったねえ！」って感じだったし。……でも、MVPは青木くんだって言われましたけど。

——ワハハハハハ！ イヤな言い方です

宇野選手との因縁？　それはもう
賞味期限切れでいいんじゃないですか？

達也

ねえ。じゃあ、川尻さんは『DREAM・5』で自己評価は下がったと言われましたけど、今回の試合前はけっこうどん底の精神状態で臨んだんですね。

川尻　ヤバかったですよ。とにかく自分の中で2連敗というのは格闘家としてもの凄くヤバイことだと思ったんです。やっぱり戦績的にもヤバいし、連続で負けちゃうと負けぐせがつくというか、自分を信じられなくなるんじゃないかなって。

——確かに2連敗したら精神的に沈んでしまう選手はけっこう多いと聞きますね。

川尻　だから、僕の中で2連敗は絶対にできないっていう危機感があったんです。なので、とにかく大晦日だけは絶対に負けられないと思って、進化した自分をイメージしてバンバン総合の練習してたんですよ。そしたら「K—1ルールでお願いします」ってオファーが来たんで、「マジで!?　ええ!?」みたいな。負けちゃったら2連敗じゃん、シャレになんねえよ、って。

——でも今回の試合でチャラどころか、先ほどの会見で「終わりよければすべてよし！」っておっしゃってましたけど、まったくそのとおりになりましたよね。

川尻　本当に最高の1年でした!!（笑）。

——そうですか（笑）。

川尻　いままでの苦労は全部この日のためにあったんだなって。だから、貴重な経験だったって言いましたけど、今年はこの経験を活かして総合の試合を見せたいですよね。エディに負けたあと、自分の進化したスタイルをもう一回イメージして練習してたのに、いきなりK—1ルールって言われて、「なんだよ、総合ルールでやりたかったのに」みたいな思いが凄くあるんで、やっぱり総合で表現したいなって。

——また一段と進化した川尻達也を見せたい、と。じゃあ、今年のDREAMでは誰と闘いたいですか？

川尻　ベルト持ってる人です！（即答で）。でも、それはまだ無理なので、そこに最短距離で行ける人と試合させてもらいたいですね。とにかく最短距離でベルトにたどり着きたい。

——なるほど。DREAMでのテーマというと、川尻さんは宇野薫選手との因縁が一つあるのかなと思うんですけど。

川尻　……うーん、そう……すか？

——歯切れが悪い（笑）。川尻さんがやりたいって言ったんじゃないですか！

川尻　いやー、もう賞味期限切れでいいんじゃないですかね？

——もしかして、宇野選手がUFC参戦の意向を示していることも関係してます？

川尻　宇野選手がアメリカに行くんだったらそれは凄いなあと思いますけど。DREAMのライト級は宇野選手だけじゃないし、カルバンもいるし、ヨアキムもいるし、青木くんもいますしね。

——川尻さんの中で青木選手に対してはどういった感情があるんですか？　記者会見のときから「DREAMを背負ってるのは青木くんだけじゃない」というようなことを発言されてましたけど。

川尻　よく言えばライバルなんじゃないですか？

——悪く言えば？

［同室で他誌の取材を受けていた青木真也が遠くから］

青木　悪く言う必要はないでしょ！

川尻　（無視して）年下にあんなにいじられるのは初めてですよね。

——ちょっと生意気ですよね？

川尻　そうですね。生意気っていうか……。

青木　おい！　聞こえてますよ!!（怒）。

川尻　（無視して）勝ったりすると、ちょっとムカつくみたいな感じですかねえ。なんか、どうしてもそういう気持ちってあるじゃないですか。やっぱり日本人が勝たなきゃいけないんで勝ってほしいとは思ってるんですけど、あそこまでいい勝ち方されるとちょっとムカつくなって。

——川尻さんが武田選手に勝ったときに、これは青木選手は最後の最後で川尻さんに大逆転されたのかなって思ってたんですけど、青木選手は青木選手で凄い勝ち方しましたもんね。

川尻　そうなんですよね。でも、それはやっぱり彼の凄いところじゃないですか。ま、ムカつきますけどね!!

青木　……ちょっと言いすぎでしょ、アンタら！（怒）。

——（無視して）でも、生意気とはいえ、そういう意味でやっぱりライバルって必要ですよね。

川尻　そうですよね。彼は生意気ですけど、やっぱりやることやってるんですよ。練習の姿勢にしてもなんにしても。今回はK—1ルールの試合だったんで、最近は（青木が主に練習をしている）DEEPジムには行ってなかったんですけど、出稽古行かせてもらうときでも凄いと思いますし。刺激になるんですよね。青木くんだけじゃなく、石田くんも同じですけど。

——石田選手といえば、今回の『Dynamite!!』には出場されませんでした。

川尻　相当悔しい思いをしてると思います。だから、今年はやっぱり石田くんが爆発するんじゃないかなと思ってます。そういう目をしてました。でも、僕は僕でまた進化して強くなりたいと思ってますからね。やっぱりね、青木くんには負けられないですよ。あんな失礼で生意気な年下は初めてですから。

青木　だから聞こえてるって！（怒）。

——今年もよろしくお願いします！（笑）。

【09年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEには05年から参戦。DREAMライト級GPでは、ブラックマンバ、ルイス・ブスカペを破り、準決勝のアルバレス戦へ。壮絶な殴り合いで会場を爆発させるが、ここで無念の敗退。『Dynamite!!』では初のK-1ルールで武田幸三戦を闘い、劇的な飛びヒザ蹴りを披露！　3回のダウンを奪い、見事KO勝利を勝ち取った。171cm、69.9kg。

最先端の〝時代遅れ〟

中村大介

“回転体”ここに極まれり!
所英男とUの進化系を披露!!

「闘ってみたいのは青木選手とスーパーベイダーです」

以前から相思相愛だった所英男相手にノンストップ・グラウンドバトルを展開し、フィニッシュの腕十字までの163秒間、場内をどよめかせ続けた中村大介。戦前、自ら〝UWFファン最強決定戦〟と位置付けていた所戦を制し、08年のMMA戦績は負けなしの7連勝。観客に強烈なインパクトを残したこの男は何者なのか? 誰よりもUを愛し、寅さんに憧れる〝最先端の時代遅れ〟の素顔を直撃!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/菊池茂夫

所さんと闘えば自分が理想とするものが見せられると思ってました

――あけましておめでとうございます。

中村　おめでとうございます。

――どうですか、大ブレイクして迎える新年は（笑）。

中村　いや、ブレイクはしてないとは思うんですけど……（苦笑）。まだまだです。

――煽り映像では、毎日自転車でジムからジムへ往復60キロ近い移動をしてるところが流れてましたけど、まさか今日は自転車じゃないですよね？

中村　今日はちょっと車で来たんですよ。

――おっ、早くもスター街道ですか（笑）。

中村　いや、ただ実家から来ただけなんですけど（苦笑）。ちょっと帰れてなくて（自転車は）ジムに置いてあります。

――昨日はいい試合が多かったですけど、中村vs所戦をベストバウトとして挙げる人もたくさんいたんですよ。ご自身的にはどうですか？

中村　昨日は自分でもけっこういい試合ができたなって思ったんですよ。

――そりゃそうですよ。けっこうどころじゃない。

中村　でも、『DREAM・3』のチョン・ブギョン戦のときもそうだったんですけど、自分のあとも凄い試合ばかりで、あれを観たら自分の試合のことを忘れちゃうくらいだったんで、まだまだだなって思いますね。ただ、昨日はとくに試合中、お客さんの「おぉ～っ！」って声が聞こえたんで、いい試合はできたかなって。ああいう盛り上がる試合を所さんとやれたっていうことがホントに嬉しいです。

――やはり所選手は特別な相手ですか？

中村　そうですね。とくに昨日はパウンドとか一切なしで……自分は打撃もやりたいんですけど、それもなしで動きがある試合ができたっていうのは、やっぱり所さんが相手だからかなって。ああいう試合がやっぱり自分がやりたいことで、U－ZealやU－STYLEとまったく同じ気持ちでやったんですけど、それを大勢の前でできたことが嬉しいですね。

中村が理想としている1996年の田村vs桜庭の3連戦を進化させたかのような"超回転体"を披露した中村と所。試合後はUWFでおなじみの頭をつけて互いに礼をしガッチリ握手。DREAMでの階級は違うが、平成の名勝負数え歌、中村vs所戦は何度でも観たいよぉ！

――『Dynamite!!』という大舞台で、所戦というと中村選手にとってデビュー以来最大のチャンスじゃないですか。これに賭けてる部分ってありました？

中村　賭けてる部分っていうか、ちょっと自信がありましたね。噛み合わないわけないっていう感じで思ってたんで。

――ああ、所選手とだったら『Dynamite!!』という大舞台でも、観客を驚かせるような試合が見せられる、と。

中村　やっぱり所さんは自分と同じ方向を見てると思うんで。その二人で闘えば、自分が理想とするようなものが見せられるかなって。所さんは常に一本取る気満々というか、最近はちょっとわからないんですけど、昔のZSTの頃とかもの凄いあって、それが自分の刺激にもなってたんで。

――目標だった部分もあります？

中村　あります。それが完全に先を行ってましたんで。いまでも追い付いたとかはあんまり思わないですけど、二人で（上に）いけたらいいなとは思いますね。ホントは何回でもやりたいんですけど、いまは階級が違うんでそれぞれの階級で、自分のスタイルで上を獲っていきたいというか、目指していきたいと僕は勝手に思ってるんですけど（笑）。あんまりそういう話は所さんとはしたことがないんで。

――いつもはどんな話を？

中村　だいたい昭和の野球選手の話とかになっちゃいますね（笑）。まあでも、所さんも同じように思ってると思います。

――総合格闘技の中で、こういう試合が一番おもしろいんだっていう理想像が中村選手の中にあるわけですか。

中村　ありますね。たとえば、上を取っても極めにいかないとか、まあそれも人それぞれだとは思いますけど、「極めりゃいいのにな」とか思っちゃいますね。

――昨日の所戦なんかはイメージ的にはUWFの頃の田村vs桜庭戦みたいなイメージがあったんですけど。

中村　そういってもらえるとホントに嬉しいですね。じつは今回の試合前にもあの試合をまた観てみたんですよ。

――96年の田村vs桜庭戦を観てみましたか（笑）。

中村　あの試合はいま観ても「おおっ！」てなっちゃいますね。やっぱり自分はUインターが好きなんですよね（ニッコリ）。

――昨日の試合なんか観ると、それこそ「おおっ！」って言ってた人はたくさんいたと思うんですよ。

中村　いや～、まだまだです。

――いまUWFとかUインターとか、Uのスタイルは観たことがない若い人が多いと思うんですけど、中村選手と所選手の試合を観たら、「こういう試合がその流派なんだろうな」と感じたと思うんですよ。

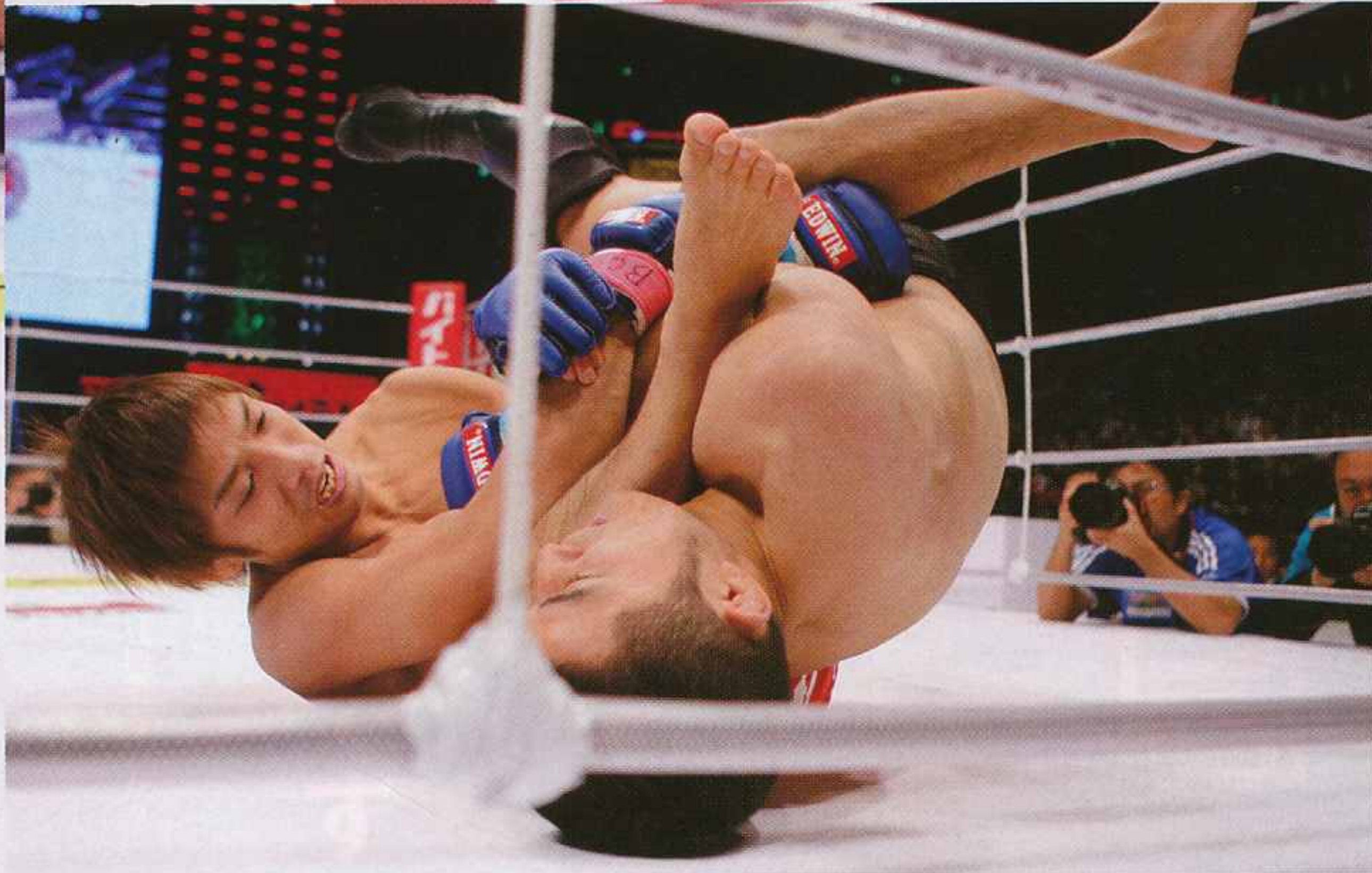
中村　やっぱり自分がレガース着けてやってれば、自分が憧れたものへの恩返しっていったらへんですけど、いまの総合格闘技の最新技術の中で、自分の憧れたものの凄さが見せられればなって思ってます。その流れを汲むものを見せていきたいっていうのはありますね。

――田村さんから受け継いだものを、自分が残していくというか。

中村　う～ん……そこまではちょっと言えないですけど（微笑）。

――それぐらいの決意があったほうがいいんじゃないですか。

中村　そうですね。そのためには、所さんともっと長く試合がしたかったですね。だから、今回の試合でエスケープがあったらもっとおもしろかったと思うんですよ。最後もちょうどロープ際だったし。

――UWFルールだったら、もっといろんな攻防が見せられた、と。

本能に任せてますけど、青木選手と闘っても寝技で逃げたくはないです

中村　もっと凄いのができたかなと思いますね。でも、最後にヒザ固めにきたのが嬉しかったですね。「あ、来た!」って(笑)。それを十字で切り返すのが礼儀というか。それでさらに極められたのが。

――まさに小さなヴォルク・ハンでしたよね。最後の決まり手を観て髙阪さんは「あの最後のかたち、ワシがハンによくやられた」って言ってましたよ(笑)。

中村　あ～、すげえ!(嬉しそうに)。

――試合は初めてだったわけですけど、実際に闘ってみた所選手はいかがでした?

中村　バックを取ったとき、ジャーマンにきたんですけど、それがちょっと潰れたり、階級がやっぱり違うのかなっていうのは感じましたね。受けてくれた所さんのおかげでできた試合だったと思います。

――リスクを背負って、そういういい試合をやるために受けてくれたというか。

中村　はい。そんな相手をケガさせてしまったのが……まあ、しょうがないとは思うんですけど、ちょっと昨日はヘコみましたね。自分もタップしないでケガした過去があるんですけど、だから気持ちは凄いわかるし……難しいですね。

――最後の十字でやっちゃったんですかね?

中村　だと思います。止めるタイミングも難しいと思うんですけど、バキバキ鳴ってたんで。そのへんは課題というか、まだまだ未熟だなっていう。

――2009年の中村選手に期待されるのがDREAMのライト級トップ戦線に食い込んでいくことだと思うんですけど。

中村　そうですね。やっぱり日本のライト級は凄いんで。まだ自分は食い込み始めた感じなんで、気を引き締めてライト級の上を目指していきたいと思います。

――ちなみに、青木選手とエディ・アルバレスの試合はどうでした?

中村　田村さんの試合の前だったんで、ちゃんと観れなかったんですよ。でもやっぱり青木選手は凄いですよねぇ。

――昨日の試合を観て、青木vs中村大介戦が観たいと思った人も多いと思いますよ。

中村　やりたいですねぇ。やれたらいいですけど。まあ、トップの選手なんで、一個ずつですけどクリアしていかないと。

――いま青木選手と闘う選手って、最後は極められちゃってますけど、寝技にいかないような試合をする人がほとんどじゃないですか。中村選手は寝技にいきます?

中村　どうですかねぇ。本能に任せると思いますけど、逃げたくはないですね。寝技でやっちゃうんじゃないかと思います。

――その寝技の攻防もどんなものになるか想像もつかないですけど。

中村　そうなんですよね。自分でも想像つかないです(微笑)。そういう意味で、ライト級の上を目指すのももちろんなんですけど、それとはべつで、スーパーヘビー級の選手ともやってみたいんですよ。

――スーパーヘビー級!?

中村　自分は田村さんの試合でスーパーベイダー戦が一番好きなんですよ。だから、そういう試合もやってみたいなってい

なかむら・だいすけ■1980年6月10日、東京都足立区出身。Uインターをこよなく愛し、憧れの田村潔司主宰のU-FILE CAMPに入門。02年の『THE BEST』でのMMAデビュー以来、DEEP、M-1チャレンジ、DREAMなど、さまざまなリングで活躍中。愛車（自転車）の名前は剛力号。176cm。72kg。
中村大介日記アドレス
→http://blog.livedoor.jp/daisuke_nakamura/

[08.12.31『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○中村大介vs所英男×
（1R 2分43秒 腕ひしぎ逆十字固め）

戦前からベストバウト候補として期待が大きかった中村vs所戦。所のタックルをアームロックで切り返した中村が腕十字を極めかければ、これを脱出した所はジャーマンを仕掛けるなど序盤からノンストップの高速バトルを繰り広げる二人に会場からは大歓声。期待以上の好勝負を締め括ったのは中村必殺の腕十字！ 中村はUWFファン最強の座もゲット!!

大介

うのもありますね。スーパーベイダー本人とやってみたいくらいで（微笑）。

――中村大介vsスーパーベイダーが希望ですか（笑）。

中村 ああいう大きな選手ともやってみたいですね。契約体重とか、そういうのは好きじゃないんですよね。今回は減量があって、所さんより落としてやろうかなって思って頑張ったんですけど、実際はそこまでは落ちなかったです。

――やるなら、相手より厳しい状況に自分を置きたいってことですか。

中村 そうですね。でもそういうのはあんまり好きじゃないです。なんかアスリート的というか。減量中の口癖は「アスリートじゃあるまいし」だったんですよ。

――そうなんですか（笑）。ちなみにメインイベントの田村さんと桜庭さんの試合は間近で観ていかがでした？

中村 一番緊張しました。自分の試合よりも全然緊張しましたね。

――自分の試合より（笑）。

中村 試合を見て、「やっぱり田村さんは凄い選手なんだな」って、あらためてそう思いました。ああいう試合が自分もやりたいですね。ただの競技としての試合ではなく、どこかプロレス的というか。

――田村vs桜庭戦は、いわゆる動きのある試合ではなかったですけど。

中村 でも、詳しくない人っていうか、わかんない人にはわかんないと思うんですけど、わかる人が観ると凄い深い試合で。すべての動きを見逃さないように観てたと思うし。そういう試合が自分でもしたいし、できるようになりたいですね。

――たんに勝った負けただけじゃなく？

中村 そうですね。所さんとの試合もそういう勝った負けただけじゃなく、試合内容だったり、お互いの意地のぶつかり合いとかを見せたりできたと思うんで。そういう試合をしていきたいです。

――では、あらためて最後に今年の目標を聞かせてください！

中村 まずはライト級のトップに食い込みたいというのと、あとはデカい相手とやっていきたいっていう感じです。

――物欲とかはとくにないですか？ 今年はこれを手に入れたい、とか。

中村 物欲？ ………（しばし熟考）。

――いま乗っている豆腐屋さん自転車から、所さんみたいに車を手に入れて乗り回したい、とか（笑）。

中村 そういうのはないですね（微笑）。あ、でも大きなトランクがほしいです。あと、自分は寅さんが好きなんで、寅さんみたいなカッコいいスーツを作りたいです。

――足元も寅さんのようにいつも雪駄ですからね。

中村 はい。寅さんの着てるスーツって女性用の着物の生地で作ってるらしいんですけど、同じようなスーツがほしいです。自分は粋な男になりたいんで。

――粋な男の2009年の活躍を期待してます！

【09年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

この日も中村はチャリンコで登場!?
U-FILE大会情報
東京・西調布格闘技アリーナ
2月11日（水・祝）
開場11:30 開始12:00

主要対戦カード
★スタイルS（打撃）トーナメント
★U-FILE vs CORE対抗戦
★プロレス1試合
★ジム生ワンマッチ

チケット料金
一般2000円 U-FILE会員1000円（会員証提示のみ）

お問い合わせ
U-FILE CAMP TEL.044-932-0282
http://www.u-filecamp.com/

“世界のTK”髙阪剛のプロフェッショナル解説

12.31 Dynamite!!

好勝負が連発した大晦日の『Dynamite!!』。その中で、“進化したU”とも言うべき、超高速回転体を披露した中村vs所、鮮やかなヒールホールドで決まった青木vsエディ、そして禅問答のような桜庭vs田村を“プロフェッショナル解説者”TKに分析してもらった。

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也

所英男vs中村大介

UFCではありえない後世に残したい攻防

——先ほど『Dynamite!!』が終わったばかりですけど、早速、TK解説をよろしくお願いします！

髙阪　日が変わって、新年を迎えないうちにやっちゃいましょう（笑）。

——まず、所英男vs中村大介戦から。これは非常にいい試合でしたね。

髙阪　いい試合ですよ。中村大介はこの1年で自信がついた感じがしますよね。あのアームロックから腕十字っていうのは、ありきたりな動きではあるんですけど、それを何回も何回もくり返しやって、成功してきたっていう自信があるので、あいだの動きをスキップできるようになっている。ああいう先手を取って、動きの中で極めるっていうのは、所も得意なんですけど、それを中村にやられちゃったんです。自分が得意としていることを自分よりちょい上のレベルでやられるって、自分も経験あるけど、じつは一番嫌な展開だし、一番悔しい。

——得意分野で負けたことになるわけですからね。

髙阪　ただ、中村に先手を取られた展開の中で、所が最後に足固めを仕掛けようとした、あの発想はよかったよかったと思うんですよ。要は腕の取り合いから、違う動きをすることで、流れを変えるということで。だけど、中村大介はまったく動じずに腕十字を取りにいって、所は足を固めてるぶん、逆に逃げられなくなりましたよね。

——最後なんかヴォルク・ハンの関節技みたいでしたよね。

髙阪　そうですね。あのレッグロックを腕十字で切り返すっていうのは、自分がヴォルク・ハンによくやられたやつですから。

——ああ、そうでしたね！

髙阪　「わしもああやって極められたな～」って、思い出しましたね（笑）。寝技が好きな人間にとっては、非常に見応えがある試合でした。正直、UFCではありえない試合。

——いまのUFCはタックルにいく人すら少ないですからね（笑）。

髙阪　だから、ああいう試合は、もしかしたら、日本人同士にしかできない試合なのかもしれない。ああいう寝技の攻防っていうのは後世に伝えていってほしいなっていうような、そこまで考えさせる試合でしたね。

——無形文化財というか（笑）。

髙阪　ああいう攻防は国宝としてちゃんと残さないと（笑）。

——中村大介は09年のDREAMライト級の注目選手になりますかね。

髙阪　なりますね、あれは。だからホントに青木真也との試合っていうのがあれば観てみたいですよ。

青木真也vsエディ・アルバレス

いまの青木ならBJすら恐れない

——その青木真也は、ほかのライト級選手がみんないい試合をする中、さらにほかを引き離すような凄い大仕事をやってのけましたね！

髙阪　うまかったですね、あれは。

――アルバレスが払い腰で投げて、マウントを奪おうとしたところをヒールホールドで極めたわけですけど、何が起こっていたのか、技術的に説明してもらえますか？

髙阪　あれはまず、青木が胴タックルにいったんですよ。あそこから相手の重心をズラして倒すという青木の技があるんですけど、これはエディが一番嫌な倒され方だと思うんですよね。それをさせじと払い腰で投げたっていうところは、エディの凄さなんですけど、そこから先がもう青木タイムでしたね。

――最悪のテイクダウンは避けられても、寝技になった時点でもう青木の時間というか。

髙阪　投げた直後はケサ固めの状態だったんですけど、そこからエディがマウントに移行しようとしたところ、青木はその動きを見逃さずにヒザをエディの足の間に入れてヒールを極めた。あそこが勝負の分かれ目でしたね。

――あそこはマウントにいかなければよかったわけですか？

髙阪　そうとも言いきれないですけどね。もしエディがあのままケサ固めで押さえ込んでも、ケサ固めってうしろに回られやすいので、そこからスリーパーを極められてたかもしれないし。

――青木選手にしてみたら、投げられながらも「あ、次こうきたらこういくぞ」っていうパターンがいくつか頭の中に出てきてるんですかね。

髙阪　そうですね。たとえ上のポジションであろうとも、寝てるだけで青木の時間が始まるので、そこに巻き込まれたくないっていう。だからエディにとったら、どないせいっちゅうねんって話で（笑）。

――どんな攻め方をしても結局、極められちゃう（笑）。

髙阪　だから、もし自分がエディのセコンドだったら、投げたあと「すぐに立て！」って言ってたかもしれないですね。だってねぇ、あのヒールホールドは痛いよ。あれ、やられたエディがかわいそうだよ（笑）。

――エディがかわいそうになるぐらい、あっとうまに極めてしまうって、これはとんでもないですよね。

髙阪　一発でおしまいですからね。だから青木真也も今年一年でいろんな経験をして、それを乗り越えたからこそ、09年につながる、いい試合ができたと思いますね。いまは正直、誰がきても怖くないんじゃないですか？　BJペンがきても、いまの青木なら「やってやるぜ」って極めにいくでしょう。

桜庭和志vs田村潔司

若い選手がどう観たか
そこに一番興味がある

――そして桜庭vs田村戦です。

髙阪　これはね……まあ、総合の技術解説者として語れば、ハッキリ言って凡戦なんですよ。次にどんどん展開していく場面も、トライする部分も少なかったっていう意味では。だけど、そこじゃないんですよね。

――観るべきところは、そういういわゆる試合展開じゃない、と。

髙阪　その「そこじゃない」っていうところを、どう説明するかっていうことなんですけど、これはいままでの歴史を見てきた、感じてきた人間しかわからないところだと自分は思ってたんですよ。

――二人の歴史を知らなきゃわからない試合。

髙阪　だけど、わからないはずなのに、伝わってたんですよね。今回、あの試合がメインだったわけですけど、それまで青木真也をはじめとして、ほとんどが1ラウンド決着で、いわゆる凄い試合ばかりだったじゃないですか。それぐらい凄い試合をそこまで観てきたお客さんが、田村さんと桜庭さんの動きが少ない試合を観て誰もブーイングしなかった。

――見入ってましたよね。

髙阪　完全に見入ってましたよね。あともう一つは、田村さんを応援するお客さん、桜庭さんを応援するお客さん、かなりの人数がいたと思うんですよ。でも、そこから檄のひとつも飛ばなかった。

――「ガンガン、いけ！」とか、そういう応援すら少なかったですよね。

髙阪　それが一つもなかったっていうのは、みんながいろんな思いを持って観てたからっていうことにつきると思うんですよね。自分もハッキリ言ってそのいろんな思いを持って観てた人間だったんで。正直、総合格闘技の技術を語る人間としては、あの試合の解説ぶりっていうのは失格です。〝技〟的なところ、なんにも語ってないもん。

――「ここはこう切り返せますよ」みたいなことも言えず。

髙阪　そこは言えなかったなあ。これはホントに空想の世界になってしまうんですけれど、田村さんはUWFからUインター、リングスって流れて。桜庭さんはUインターからキングダム、PRIDEっていう道を歩まれて。それぞれ人に言えないような悩みとか、秘密であったりとか、もの凄くいっぱいあったと思うんですよね。そういうことを胸に秘めながらそれぞれの道を歩んできて。そのいろんなことを自分の中で消化したりとか、消化できなかったりとかしてきた人たちなんですよ。その二人のいまの思いがぶつかった試合だったんで。たとえば田村さんがパウンド落とす。「なんでパスしないんだ」って思った人もいると思う。

――展開させるチャンスですよね。

髙阪　桜庭さんはパウンドが効いてるんですよ。でも、田村さんはそれがわかっていてパスしない。で、同じ場所でやり通そうとする。桜庭さんは桜庭さんでガードから左腕を十字で取ろうとしてましたよね。なんで切り替えて反対の腕を取りにいったりとか、ダメなら蹴り上げで距離をとって立ち上がったりしないんだとか、いろんなことを考える余地はあったんですけども、その場所でいま起こってることをやり通すっていうところに意味があるっていうふうに自分には見えたんですよね。

――自分の考えをやりとおす。

髙阪　スタンドの状態になっても田村さんがローキックで完全に効かしていましたよね、桜庭さんの足に。

――あれはもう一発いったら……。

髙阪　倒れてたかもしれない。もしくはそこでストレートを打っても倒せたかもしれないのに、あそこでタックルは普通ありえないです。そして、また同じグラウンドの状態になりましたよね。それはあの二人だからそういう試合になるんですよ。それに対してお客さんも何も言わないし、誰も何も言えない。あれはもうあの二人の勝ちですよ！　あらゆるものに対して我を通しきったんだから。

――もう競技じゃないですよね。

髙阪　じゃないですよ、そういうのを超えたものがありましたよね。だから自分は試合が終わった瞬間、正直涙が出そうになっちゃったんですよね。何も言葉が出てこなくて。勝負なんだけれども、勝ち負けじゃなくて、それは観てる人がどう感じたかっていうことでいいんじゃないかっていう試合でしたね。自分が一つ興味があるのは、青木だったり川尻だったり、これから時代を作っていかなきゃいけない選手たちが、あの試合を観て何を感じたかってところですね。そこで何を感じたかが凄くこれから大事になると思いますね。

――プロのリングに上がる人間として大事になる、と。

髙阪　そうですね。何も参考にならなかったっていうんであれば、それはその人間の考え方であって、本人が信じた道をいけばいいと思うんですよ。でも、逆に何かを感じたんであれば、これからの自分がどうしたらいいのか考えなきゃいけないだろうし。いろんなことを考えさせる試合でしたよね。凄い試合が続いた『Dynamite!!』だからこそ、最後にあの試合をやった意味があったと思いますね。

【08年12月31日／さいたまスーパーアリーナにて収録】

田村vs桜庭&K−1勢大惨敗を語り尽くす!

UWF K-1(?) 最終回座談会

魔裟斗や山本KIDや秋山成勲が不出場だったにもかかわらず、
熱戦につぐ熱戦でおおいに盛り上がった『Dynamite!!』。
ついに実現した因縁の田村潔司vs桜庭和志の“読み方”を中心に、
格闘技の祭典を元旦早々から振り返ります! う〜、ダイナマイッ!!

構成／スズキィ

座談会出席者

橋本宗洋
日本最重量級ライターであったが、最近は劇的ビフォーアフターばりに減量。佐伯DEEP代表からは「早くコッチに戻って来てよぉ!」と増量を勧められている。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主催者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。“雀鬼”桜井章一の内弟子を経て『kami-pro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

——あけましておめでとうございます! 今年もプロレス格闘技マスコミの宿命として、正月休み返上で昨年大晦日の『Dynamite!!』を振り返りたいと思います。

橋本 例によって元旦から仕事ですよ。

ガンツ さらに4日には『戦極』もあるしね(笑)。

——というわけで、昨日はUWFの最終回ばかりか、K—1の最終回まで実現しちゃったわけですが。

橋本 最終回……。たしかにK—1ファイターがK—1ルールでMMAファイターにあそこまで負けると、そんな気もしちゃうよなぁ。

ガンツ フジテレビの『K—1 WORLD GP』という番組自体もこのままだと最終回をホントに迎えかねないというか(笑)。

——そこで今回はUWF専門家の堀江さんと、K—1専門家の橋本さんに反省の弁……いや、お話を聞きたいなあ、と。

橋本 こんなときだけK—1専門家扱いするな!

K―1勢には「負けるわけがない」という心の余裕があったと思う

ガンツ　僕の場合は専門家ではなく、研究家です。

――（無視して）昨日の『Dynamite!!』は非常におもしろかったですよね。

橋本　一年の最後に年間ベスト興行が出てきたね。1ラウンド決着が多くてパッと見のおもしろさもあったし、一方で語りがいのある試合もあって。

――この前日に開催された『ハッスル・マニア』を観て思ったのは、おもしろかったんですけど、思ったより余韻がないなってことだったんですよ。高田と武藤の千両役者ぶりはホントに最高だったんですけどね。

橋本　俺、ちゃんと観てないからわかんないけど、それは『ハッスル』が瞬間最大風速を重視したってことでしょ。

ガンツ　『ハッスル』というか『ハッスル・マニア』がそうだったんだよね。たぶんお祭り的なことを望むあまり、余韻がない方向になっちゃったのかも。

――『Dynamite!!』も言ってしまえばお祭り的なマッチメイクが並んだので、田村vs桜庭以外は余韻がないのかなって思ったんですが、蓋を開けてみれば……って感じでしたね。

橋本　とくにさっき言ったK―1ファイターvsMMAファイターの3試合ね。

ガンツ　結果的にK―1側が3人とも完敗して、見事なジョバーぶりを発揮したというか（笑）。

橋本　アイツら仕事できるな〜みたいな（笑）。

――こらこら、感心してないで、K―1派の橋本さんはまずは反省でしょ。

橋本　だからK―1派じゃないっつうの！　これまでに申し訳ないという気持ちを何万回も伝えてきたんだから（笑）。

――まるでバダ・ハリだ。反省の色なし！

橋本　そもそも俺は『kamipro』のケータイサイトのコラムに「武田vs川尻は絶対におもしろくなる」って書いてたから「な？」って言いたい気持ちがあるね。でも、武田がKOされるのを目の当たりにしてショックな部分もあって。ホント複雑だよ。で、主催者側はこうなる可能性を見越してマッチメイクしてるんだよね。武田は打たれ弱くなってるし、バダ・ハリだってたくさん試合してるから、データがあって弱点が見えやすいでしょ。もっと言えば3週間前に3試合してるわけだから。負ける要素はあったんだよ。だから一番、意外だったのは武蔵。もう「何やってんだ？」としか言いようがない。

ガンツ　昨日の大会を観て、K―1だけじゃなくていろんな試合に言えるんだけど、単純にやっぱり"本気"の人は強いなって思ったね。

橋本　だから後になって考えると「勇気のチカラ」っていうサブタイトルはよくつけたなって感じだよね。全体に言えることとして、受けて立つほうが負けてるんだよ。本気になって踏み込んだほうが勝ってるっていう。

ガンツ　K―1ルールに臨んだMMAの選手は相手の土俵に立つってことで、もう本気も本気でやらないといけない状況だったわけだよね。とくに川尻なんかは勝つために相当に自分を追い込んで。かたやK―1ファイターは、ハッキリ言って公式戦でもなんでもない試合、ある部分でエキシビション気分で臨んでたんじゃないかなって。

一歩踏み出す"勇気のチカラ"でK-1ルールに挑んだ川尻は、キック界の大物・武田に激勝！　ちなみに川尻は、試合翌日はケンタッキーにマクドナルド、ピザーラと身体に悪いモノを食して、心の栄養補給をしたとか。

橋本　まぁ、K―1ファイターには「普段どおりの力を出せば絶対に負けるわけがない」って気持ちがあったんじゃないかな。負けたら恥さらしっていうのはわかってても、心のどこかに余裕があって。だから技術的にはK―1ファイターが上でも、MMAファイターが気力で勝ちを引き寄せたっていうか。

――武蔵なんかは試合後のコメントだけは非常に見苦し……、いや、たいへんおもしろかったんですけど（笑）。

橋本　武蔵は閉会式で選手がみんなリングに集合してるのに、一人だけコメントブースでコメントを出してたからね（笑）。もう会場の雰囲気の中にいたくなかったんだろうな。

――入場したらブーイング、クリンチしたらブーイング、しかも押し倒されて頭を打ってるのに拍手が起きて。

ガンツ　レフェリーの角（田信朗）ちゃんも紹介されただけでブーイングだし（笑）。

――このアウェー感を「まずい空気」って表現した気持ちもわかりますねぇ。

橋本　だからK―1というでき上がった世界でしか闘ってきてない功罪だよね。今回の『Dynamite!!』は関東で初めてやったわけだけど、いままで開催していた大阪とは比べものにならないくらいのDREAMファン、もっと言えばPRIDEファンが来てただろうし、K―1とのイレギュラーが起こるのは当然な部分もあるんだけど。

――あのK―1勢へのブーイングって、ファンの潜在意識の中にK―1への嫌悪感が相当あったということですよね。

橋本　それはモロに出てたよねぇ。武蔵が試合前にグローブを叩いて煽っても観客席はシーンとしてたんだよね。ああいうのもK―1の会場でやったら「今日の武蔵、気合いが入ってるな〜」って見てもらえるのに。

ガンツ　失笑が起こってたもんね。俺もあれ観て「チンパンジーみたいだな」って思ったり（笑）。

――なんか、べつにMMAファンばかりだったから……という問題でもないと思うんですよ。だって知らないわけじゃないじゃないですか、武蔵にしてもバダ・ハリにしても。個人の物語がK―1への嫌悪感を上回れなかったってことなんですかね？

橋本　K―1の歴史って選手主体に物語を作っていく以上に、トーナメント自体がアングルとして機能してきた15年だからね。トーナメントっていう『レッスルマニア』があるからこそ、そこがあらゆるストーリーの最終回で今年は誰が優勝するのかに収斂されちゃうから。

――何か主張したいんだったらトーナメントで勝ちなさいってことですね。青木みたいにリング内で結果を残しつつ、リング外での物語を持って成り上がっていく方法は難しい。

橋本　逆に言えば、だからこそキャラが浸透してないエロジマンだって一定の評価を得られるわけで。

UWF K-1(?) 最終回座談会

『Dynamite!!』の代名詞はサップvs万太郎みたいなお祭り感

ガンツ　それだからK—1は徐々に求心力がなくなってきてるって部分はあるよね。毎年チャンピオンを決める、メンバーもなかなか変わり映えがない。いくらレベルが高いって言っても『キン肉マン』だって毎回同じメンバーで「超人オリンピック」やってたら飽きるでしょ。

橋本　今年はまだよかったけど、去年までは「またシュルトか」っていう感じだったもんね。

ガンツ　そもそも負けるって本当は凄い大変なことなんだけど、K—1は毎年トーナメントをやる時点で、一人をのぞいてみんな負けるんだよね。だから負けてもそのときかぎりで、またリカバリーできるシステムになってるのが問題なんじゃないの？

橋本　トーナメントでベスト8まで残ると、推薦枠で翌年のトーナメントの開幕戦に出場できるし。だから、どこかしらでスキはできるのかも。競技のシステムとしてはそのほうがいいのかもしれないけど、逆にPRIDEやDREAMみたいに主催者の主観で組み合わせが決まったり、1回戦やったあとでもう一度組み合わせを考える方法は、選手にしてみれば気が抜けないというか。

——あと、武蔵が「ホームでリベンジ」とか言うところにも、勝負に対する意識のズレを感じますよね。で、大会をとおして見ると、K—1の試合とMMAの試合の食い合わせが予想以上に悪くて。

ガンツ　あの大会前半の空気は凄いものがあったよ。あのK—1甲子園の応援団だけ局地的に盛り上がって、あとの2万人はまったく無関心というあの空気、あのシュールさっていったらないよ（笑）。

——勘違いないように言っておくと、K—1甲子園がダメだって言ってるわけじゃないんですけどね。あの試みはいいと思うんですよね。この時代にそんなに経費もかからないし、スポンサーの受けもいいし、世間へのアプローチもしやすいし。

ガンツ　でも、興味がない人に向けてやっても、逆に選手がかわいそうっていう部分もあるんだよね。甲子園児は武蔵よりかわいそう。武蔵はまだブーイングって反響があったけど、甲子園はまったくの無関心なんだもん。

橋本　だから欲を言えば、谷川さんの最初の構想だった有明コロシアムとさいたまスーパーアリーナの二元中継が、K—1とMMAのおたがいにとって幸福だった気もするけど。

ガンツ　桜庭vs田村、青木vsアルバレスなんかを『やれんのか！』って大会名でやってたら、事前の盛り上がりは5割増しだった気がするよ。

——でも、それはそれで良くも悪くも閉じたイベントになりかねないんですよね。たとえばスポーツ新聞の扱いにしても……。ちなみに今回のMVPって誰ですか？

橋本　俺は青木、川尻、中村かな。

ガンツ　その中で一人選ぶなら青木でしょ。

——ボクも青木、川尻、中村の試合は本当に素晴らしかったと思うんですよ。で、自分が生で観て興奮した試合って、新聞や雑誌がどういうふうに報じるか楽しみじゃないですか？

橋本　バリバリの活字プロレス世代としてはね（笑）。

——ところが某スポーツ新聞では青木、川尻、中村が一言も記事になってないっていう。いや、こうなるんじゃないかっていう予想はしてたんですけど。

橋本　ホントだ！　サップ復活が一番大きくて、青木、川尻はベタ記事にもなってない（笑）。

ガンツ　これはどうしてこうなるかというと、これこそが『Dynamite!!』なんだよね（笑）。いわゆる、『Dynamite!!』っていうのはサップvs万太郎だったり、ミルコvsホンマンみたいなお祭り感のあるカードが代名詞というか。

——青木はアルバレスとの〝世界第2位決定戦〟を制して、世界がどれだけ自分を注目してるか知りたいって言ってたんですけど。

ガンツ　世界は反応しても世間は反応してないっていう（笑）。世間というか、スポーツ新聞がだけど。

——ほかの団体もそうですけど、それを〝世間〟だと思わないでほしいですよねぇ。今回のキン肉万太郎にしても、「連載が打ち切りになってもいい！」という作者のゆでたまご先生の覚悟は凄かったんですけど、この企画が世間と闘ってるとは到底思えな

Dynamite!! BOUT & TOPICS

○アルトゥール・キシェンコvs佐藤嘉洋×
（3R終了 判定2-0）
08年のK-1MAXでともに魔裟斗を追い込んだ両者による一戦は、凄まじい意地の張り合いに！　乱打戦を判定で制したのはキシェンコ、試合後にはたがいの健闘を讃えあって紙パックのお茶で乾杯するほほえましいシーンも。

○HIROYAvs嶋田翔太×
（3R 判定3-0）
K-1甲子園優勝候補の“魔裟斗2世”HIROYAは、タイ仕込みの素早いフットワークと攻撃の精度で終始試合を支配。後半、疲れが見え始めた嶋田に対し、動きの落ちなかったHIROYAが順当どおりに判定勝ち！

○卜部功也vs日下部竜也×
（3R2分29秒 TKO）
K-1甲子園準決勝第1試合、場内は局地的に凄まじい応援合戦が巻き起こる。前評判が高かった“名古屋の天才空手少年”日下部だったが、体格差に勝る卜部がリーチを活かし、自分の距離で闘い抜いてTKO勝ち！

○ミノワマンvsエロール・ジマーマン×
（1R1分1秒 足首固め）
ミノワマンは開始早々にエロジマンをテイクダウンすると得意の足関へ。パウンドで抵抗するエロジマンだったが、ミノワマンはさらに足首を捻って秒殺！　最後は回数がマチマチな“SRF8回”を決めてオープニングを飾った。

○桜井“マッハ”速人vs柴田勝頼×
（1R7分01秒レフェリーストップ）
減量による体調不良もささやかれた柴田だが、ゴングと同時にダッシュ&ジャンプでフルスロットル！　しかし経験に勝るマッハは、グラウンドで優位なポジションをキープすると鉄槌&ヒザを落とし続けて貫禄の勝利。

○セーム・シュルトvsマイティ・モー×
（1R5分31秒 三角絞め）
K-1で人気を得られない“哀しみの巨神兵”シュルト。日本ではひさびさのMMAとなったが、モーに三角締めを極めて完勝。試合後、「（報道で）俺をおもしろおかしく扱わないでほしい」と訴えていたのが哀しみを誘った。

○ボブ・サップ vsキン肉万太郎×
（1R5分22秒 レフェリーストップ）
ミート君とともに入場した万太郎。序盤はグラウンドで優勢となるも、サップが怪力で反撃開始。最後はマスクを直しているところをサップがパンチでめった打ち！　火事場のクソ力発揮とはいかず、ホロ苦デビューに……。

○HIROYAvs卜部功也×
（延長R終了 判定3-0）
K-1甲子園優勝決定戦は、卜部の細やかな技術とHIROYAのパワフルな攻めが交錯。延長までもつれ込んだ熱戦は、昨年は準優勝で悔し涙を飲んだHIROYAが勝利。試合後は魔裟斗と前田憲作とともに記念撮影！

○坂口征夫vsアンディ・オロゴン×
（1R3分52秒 KO）
ビッグ・サカJrとボビー・オロゴンの弟による有名人の血縁者対決！　征夫のセコンドには弟で俳優の憲二の姿も。試合はスタンドで勝るアンディがアッパーでダウンを奪うと、さらに容赦ないパウンドを落としてKO!

い。いや、企画自体は『Dynamite!!』らしくて安心するんですけど。

橋本　年末だなあって感じだよね。だから、世間と闘ってるつもりでも、おもねってるように見えたりすることもあるわけでしょ。そのさじ加減は難しいよ。

——世間を振り向かせてないですもんね。そういったものが積み重なって、今回のK—1勢への嫌悪感につながったりするじゃないですか。だから、今回のK—1勢の敗戦は、そのウミを出す絶好の機会だったと思うんですよ。この結果や反響を受けて、K—1がどう変わっていくのかは興味深いですよ。

橋本　うん。今回の件についてK—1ファイター一人一人にコメント聞きたいけどね。K—1ファイターがこんなアウェーの世界に放り込まれるような経験はないだろうし、経験したほうがしないよりはよかったと思うし。

——武蔵は秋山成勲の気持ちがわかったんじゃないかなって思いましたね（笑）。

橋本　だろうね。アウェイってこういうことなのかっていう（笑）。

——そういえば、佐藤大輔は煽りVで秋山をイジメてるみたいな言い方をする人もしますけど、それってもの凄く間違ってますよね。というよりも、佐藤さんはみんなをイジめてるし。

佐藤大輔の煽りVはじつは観客のことを一番に考えている

ガンツ　そうすることによってガスを抜いてるというか。あの煽りVは一番観客のことをじつは考えてるんだけどね。

橋本　かゆいところを掻いてあげてるっていうね。

ガンツ　観客のことを一番に考えてるからこそ、あれだけ選手にドライな人はいないよ。選手に煽りVを事前に見せない、そこだけは守るっていう。それで佐藤大輔お断りの選手も何人かいるんだけど（笑）。

——まあ、主催者である谷川さんのことをあそこまでコケにするんですから（笑）。

ガンツ　だから、今回の『Dynamite!!』を救うためには谷川さんに罪を被せるしかないってことなんだよね。それをちゃんと全身で受け身を取る谷川さんも凄いけど。

橋本　最後の挨拶でブーイングを拍手に変えたあの貫禄はさすがだよ。

——最近のプロレスラーや格闘家って、ヘタなセルフプロデュースに走って、みんなワガママを言うじゃないですか。もう、谷川さんとグレート・ムタとエスペランサーの爪のアカを煎じて飲めって言いたいですね。要求を満たすってことは何かっていう。

橋本　ファンが観たいものというか、ファンの溜まってるうっぷんを晴らすためにも、私は黒魔術の使い手としてブーイングを浴びましょうっていうことだからね。で、佐藤さんもそれをわかったうえで谷川さんを悪役にして。あの場のノリとしてそれでいいわけだから。

——要求を満たすってことでいうと、非常に難解だったのが、「え、これで〝完〟なの？　〝続く〟じゃないの？」っていう田村vs桜庭なんですけど。

橋本　あれこそザ・UWFだよね。『週プロ』で増刊号出したほうがいいよ（笑）。ホント、あの一戦はファンの頃に『週プロ』の増刊号を急いで買いに行って、必死に読み解こうとした試合みたいなもんだよね。

——きっと観る側もモヤモヤを抱え

森昭生（もり・あきお・本名）に改名？
武蔵のムサシ戦後のコメント

（敗因は？）堅くなっちゃったのと、油断ですね。大会に嫌な空気が漂っていて、気負ってしまって。他愛もないパンチを食らっているようじゃ全然ダメです、何年やってんだって話ですから。こんなミスを犯しているようじゃ……。（総合格闘家と闘ったK-1ファイターは全滅だが？）谷川さんに控え室で「K-1が負けてるから頼むよ」って言われて（笑）。でも、それで堅くなっているようじゃ、経験を活かせてないですよね。情けないです。ゲガール選手と今度はK-1のリングでやりたいですね。ちょっと今回はアウェイな空気があったんで、次はホームで。（改名マッチについては？）この名前で長年やっているので、改名するつもりはないです。次やったらこんな試合にならないと思っています。『Dynamite!!』では初めて負けましたけど、来年はゲガール選手との再戦を希望します。

○田村潔司vs桜庭和志×
（2R 判定3-0）

因縁の対決は勝負に徹した田村が勝利！　桜庭は「どうせ負けるならKOや一本取られたかった」と、判定決着には納得いかないようだったが、その表情は晴れ晴れとしたもの。壮大な格闘大河ドラマはこうして幕を閉じた。

○メルヴィン・マヌーフvsマーク・ハント×
（1R0分18秒 KO）

バンナの代役としてセコンドで来日していたマヌーフの出場が前日に緊急決定！　マヌーフは約40キロの体重差があるハントにロープ際まで押し込まれるも、左右の強烈なフックを炸裂させてハントを撃沈！

○ゲガール・ムサシvs武蔵×
（1R2分32秒 KO）

ここまでK-1ファイターの敗戦が続き、負けが許されないほど追いこまれた日本のエース武蔵。しかし、会場のアウェー感にやられたのか、動きの堅さが目立ち、ムサシのパンチをおもしろいように被弾してKO負け！

○ミルコ・クロコップvsチェ・ホンマン×
（1R6分32秒 KO）

サダハルンバのK-1クビ宣告を受けて（？）、昨年のヒョードル戦に続いて大物とのMMAマッチに挑んだホンマン。試合はミルコが巨人相手の鉄則とばかりにローでホンマンを翻弄、危なげなく勝利を収めた。

○アリスター・オーフレイムvsバダ・ハリ×
（1R2分02秒 KO）

K-1GP決勝での前代未聞の反則失格からわずか3週間で悪童が緊急参戦！　しかし、自分の土俵であるK-1ルールにもかかわらず、アリスターに打ち合いで劣勢となり、まさかのKO負け！　反則失格の罰が当たった？

閉会式で挨拶したTBS中継メインキャスターの佐藤隆太と井上和香。佐藤は開会式では、同局系ドラマ『ROOKIES』で演じた熱血教師・川藤ばりに、「夢にときめけ！　明日にきらめけ！」と、絶叫するガチボーイぶりを発揮して開会宣言！　このほかにも芸能人では香里奈や田丸麻紀が解説席に座り、大会を華やかに彩った。

実況席には“元球界の番長”清原和博氏が貫禄タップリに鎮座！　セコンドを務めたこともある“盟友”秋山成勲のFEG離脱で、今年は登場するか疑問視された番長だが、ちゃんとリングサイドでオーラを解き放っていた。ちなみにその解説は観たままのことを本能のままにそのまま言う、サダハルンバに勝るとも劣らないものであった。

サップvs万太郎の前に、スペシャルプロデューサーのDJ OZMAが登場。『Dynamite!!』での芸能界引退を表明したOZMAは、これでもかとばかりにド派手なダンサーたちを引き連れて人生最後の『アゲ♂アゲ♂EVERY☆騎士』　を披露！　OZMA自身も因縁の深い『紅白』を敵に回して、お祭りらしくおおいに会場をアゲ♂アゲ♂にした。

K-1甲子園決勝を前に“未来の美空ひばり”ことさくらまやが日本国歌を独唱。ちなみにまやちゃんの公式HPのプロフによると、将来の夢は「『紅白』に出場してひいおばあちゃん、見てますか～と手を振ること」だとか。そんなこと言わず、ぜひとも毎年『Dynamite!!』に参加して、マット界とともにスクスク成長してほしいものである。

開会式前、ヨアキム・ハンセンが大会直前に倒れ、ドクターストップにより急遽欠場することが発表された。対戦相手だったカルバンは「ハンセンが大事にいたらなければと思う。去年自分も同じ目に遭った」と、我が身を振り返りながら挨拶。これによりワオ木さんの試合がメインに繰り上がることが決定、こちらも去年と同じ目に！

田村が小太刀を持参したのはパトスミ戦のほかには、リングス時代の山本宜久戦にフランク・シャムロック戦、PRIDEでのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ戦にヴァンダレイ・シウバ戦、そして今回の桜庭戦。戦績は3勝2敗1分で勝率は5割……守り神も田村同様に頑固者？

田村が小太刀を桜庭戦で持ってきたのも意味合いが深い

てる人が多いと思うんですよね。ここはUのオーソリティである堀江さんに解説してもらいましょう！

ガンツ　解説っていうかさ、あの試合は投げっぱなしなわけですよ。二人が勝手なことをやって、あとは観る人が勝手にどうにでも感じ取ってくださいっていう。もう、もはや芸術作品（笑）。

橋本　まさに前衛作品だ（笑）。

ガンツ　勝手に自分なりの答えを探す作業と言うか。昔、I編集長が「（答えが）合ってるかどうかじゃないんだ。自分の中の真実を見つけろ、それがプロレスを観るってことだ」って仰ってましたけど。

橋本　アントンばりに「てめえで見つけろ」と。

ガンツ　だから、この一戦は二人が何をやってるんだっていうのを観る試合です（キッパリ）。だからね「これは何も観るべきものがないな、あぁ時間を損した」っていうのは、そう思った人にとって正解だし、煽りVの田村が「髙田さんて凄い飲むんですよ」っていうシーンに涙するのもよしだし。全部観る側に委ねられてるんだよ。格闘技って白黒決着をつけて、答えを出すものなのに、この試合はあらゆる答えを一切提示しないで、観る側に答えを出させてるんだから。

——ちなみにいままでそういった試合って何かありますか？

ガンツ　髙田vs田村じゃない？　で、俺はあの試合を観て、たまらなくしびれたのよ。

橋本　では、UWF研究家が出した答えをうかがいましょうか（笑）。

ガンツ　今回の田村は本当に真剣勝負をやったわけですよ。とくに試合前半はひたすら勝つことだけを考えて。

橋本　だから戦前と、いざ試合が始まってからの二人の立場が逆転してるのがおもしろいよね。殴る田村と殴らない桜庭というか。むしろ桜庭のほうが回転体をやりたがってたんじゃないの。

ガンツ　事前に田村は噛み合う試合をやろうと思ってたんだよね。でも、桜庭の「素手で時間無制限」発言を聞いてそうはならないってわかって、じゃあどうすればいいんだって考え抜いたと思う。だからガチガチの真剣勝負で臨んで。で、一方の桜庭はあんなに戦前は素手で殴りたいって言ってたのに、試合ではとにかく極めにいくっていうただその一点のみ。それ以外は考えてないっていう姿勢だったと思うんだよ。

橋本　きっちり小太刀を持ってレガースつけて入場してくる田村と、それを見透かしたかのように、煽りVでレガースを履かされる改造手術とか、入場で「違う違う！」って入ってくる桜庭。あれは茶化してるわけじゃないよね。

——桜庭なりの愛情表現ですよね。

橋本　だって本当に気にしてなかったらそんな演出なしで、ふつうに大晦日バージョンの派手な衣装で出てきたりするだろうし。紅白の裏でやってるのに、焦点がレガースって凄いよ（笑）。

ガンツ　小太刀をこの試合で持ってきたっていうのもまた意味合いが深いよね。

——いまの読者は田村の小太刀の意味がわからないと思います（笑）。

ガンツ　田村が小太刀を最初に持ってきたのってパトリック・スミス戦なんだよね（1995年12月9日）。そのあとも重要な試合のときには必ず携えてきたんだけど、あれって京都の鞍馬寺に伝わる源義経公、つまり牛若丸が持っていたとされる「降魔必勝の小太刀」のお守りなんですよ。要は神頼みなわけで。

橋本　孤高の天才が神にすがる、と。

ガンツ　自分の力だけじゃどうにもならない、と。小太刀に守護してもらい、力を授けてもらいたい、と。だから勝てると思った試合には持ってこないんですよ。

橋本　たしかヘンゾ・グレイシー戦（2000年2月26日）は持ってきてないよね。

ガンツ　ヘンゾ戦って田村の歴史の中でも一番重要な試合の一つでしょ。でも、持ってきてないというのは「ヘンゾには勝てる」と思ってたんだよね。

橋本　UWFのテーマで入場したという点ではエポックメーキングな試合だったけど、実力云々という意味では小太刀はいらなかったんだ。おもしろいねえ。

ガンツ　だから今回、もうボロボロの状態の桜庭でも田村は小太刀が必要だったってことで。田村が桜庭の実力を最大限に評価してる証拠なんですよ。

——それは美しい話ですねぇ。

橋本　それと試合中に桜庭が「やっぱ強いなぁ」とかなんか言いながら笑ってるのもいいよね。試合前にも自分から田村に頭下げて握手にいったりさ。

——だから桜庭の試合前の挑発ってホントに愛情表現なんですよね。ひさしぶりに会う先輩に対してなんて言ったらいいかわからないから、とりあえず文句を言いながら近づくしかないっていう。

橋本　あとは単純に観る側に懐かしがられて、UWFファンの涙を誘うのが照れくさかったってのもあるだろうし。

ガンツ　桜庭の本音が見えるんだよね、いつものニコニコの桜庭以外の部分というか。あと、桜庭は負けることも考えてたんじゃないかな。

——腕をケガしてリハビリも充分じゃない状態で、いきなり大舞台で復帰戦ですからね。

ガンツ　でも俺、やっぱり桜庭は強いなって思ったよ。試合開始早々、桜庭があっという間にテイクダウンしたでしょ？　あのとき、きっと田村はパンチで桜庭がダウンしたと思ったんだろうけど、次の瞬間には足を取られてて。タックルの後に逆足を取ったのは、あれは96年当時の試合とまったくもって同じ流れだよ（笑）。

——ダハハハハ！　でも、あの試合だけひさびさにプロレス会場に来たなって雰囲気になりましたよ。

橋本　なったなった。

——「田村〜！」「桜庭〜！」って歓声がありつつ、みんなジーッと見入るところもあって、あれは90年代のプロレス会場だなって思いましたね。

ガンツ　「もっと攻めろ！」とかそういう野次すらないんだよね。

橋本　もうみんなわかってるんだよね、この試合だけはほかの試合と違うんだなっていうのが。

UWF K-1(?) 最終回 座談会

「禁断の真剣勝負」が最後はプロレスに昇華していった

――あの試合の前にエンドロールが流れたじゃないですか、『Dynamite!!』はここで終わりですよっていう。

ガンツ　ほかのMMAと桜庭vs田村戦はまったく違うってことですよ。

橋本　そういう意味では青木は2年連続でメインを取ってるんだ（笑）。

――その青木が最先端のMMAの試合を見せて、エンドロールで特別試合。

ガンツ　あの2試合が同じ大会で行なわれたとは思えないよね（笑）。

橋本　田村vs桜庭は、二人の一挙手一投足に観る側が意味を見出しちゃう感じがあったよね。ここまで頭をフル回転させて観る試合ってなかなかないよ。

ガンツ　で、試合的には2ラウンドがさらにしびれたね。2ラウンドが始まった桜庭はボロボロじゃない？　田村のローがメチャクチャ効いてたし、パンチも効かされて。あれ、あと一発でダウンですよ。

橋本　あのままKOされても全然おかしくなかったね。

ガンツ　でもそこで田村はタックルにいったっていう（笑）。

橋本　この試合をこのまま終わらせたくないとばかりに（笑）。

ガンツ　あそこから、もはや競技でもなんでもないんだよ。

橋本　それは取りようによっては無気力試合だよね。でも田村は桜庭のことをKOしたくないんだよ。そういうところに観てる側は意味を見出したくなっちゃうんだよ。

ガンツ　だから「禁断の真剣勝負」が、最後はプロレスに昇華していったんだよ。

――真剣勝負を追い求めたUWFという運動体の最終試合が、結局プロレスに回帰した、と。

ガンツ　というか、真剣勝負を突き詰めるとプロレスになると言ったほうがいいかもしれない。

橋本　試合ってファイターが「俺はこうしたい」っていうことがあって成り立つわけじゃない？　本当に勝ちたいのであれば、それこそ全盛期の武蔵みたいな闘い方もあるわけで。でも、そうじゃないことをやるということは、行き着く先はプロレスなのかも。真剣勝負であっても田村には「俺は桜庭のことをローで仕留めたくない」っていう気持ちが見えたんだよ。

ガンツ　だから最終的には田村が勝ちって便宜上はなってるけど、あんなの別に勝ちでもなんでもないって言うか（笑）。桜庭vs田村戦って96年の3試合と今回、4試合すべて田村の勝利だけど、二人が直接対決しなかった12年間は、もしかしたら何度やっても桜庭が勝ってたかもしれない。今回の田村判定勝ちは「両者が39歳の時点では田村が勝ちました」っていうだけですよ。だからTKが「この試合に関してはワシは格闘技解説者失格だ」って言ってたね。本当は「田村選手はあそこでパスいけます」とか、「桜庭選手はここは蹴りあげないといけない」とか解説しないといけないのに、そういうことができない試合だと。で、この試合を見終わったあと、自分は涙が出てくるに決まってるって（笑）。

スタンド技術で勝る桜庭に対し、桜庭はグラウンドの展開に引きずり込もうと見事なタックルでテイクダウン！　現在のMMAシーンとは別の次元で、二人はおたがいの技術と気持ちを確かめるようにぶつけあった。

――格闘技的に見ても意味がないわけですし。

ガンツ　やっぱりTKもリングスを経て、真剣勝負の総合格闘技を切り開いた人間だからね。サクも田村もTKも、いまの総合格闘技シーンというものを作り上げた人で、その中の二人が最終的にああいう試合に着地するっていう。

――髙田延彦が切り開いたUからMMAへの流れが、プロレスに戻るっていうのはドラマがありますね。

ガンツ　桜庭は百歳まで試合をやりたいって言ってたけど、もう思うような試合ができなくなってるわけじゃない？　でも桜庭の本心として、百歳までできないことがわかってるんじゃないかとかいろいろ考えちゃうよね。試合後にも「もうちょっと試合ができればいいかな」ってコメントも出してたし。それと、この桜庭vs田村と同じ日に所vs中村があったっていうのは意義深いよね。

――スポーツ新聞には一行たりとも載ってませんけど（笑）。

ガンツ　もういまの二人にはそれができないけど、その代わりに若い二人がやってくれて。

橋本　俺がパンフの見どころで「今大会のベストバウト候補」って書いたら、所は「そこらへんは中村さんがうまくリードしてくれると思うんで」って言ってた（笑）。

ガンツ　あんまりうまくないコピーをつけると、あの試合はUスタイルじゃなくUスパークするUWF！（笑）。

橋本　スパークするUWFだよね。

ガンツ　進化じゃないんだよね、スパークっていう（笑）。

橋本　ああいう試合をやれる選手がいるっていうのはいいことですよ。

ガンツ　中村が「最後に所さんが足を取りにきてくれたのが嬉しい、さすがだ」って言ってた（笑）。相手が足にくるなら、こっちは徹底して腕十字で返さないといけないと。どっちが取れるかっていう。

橋本　試合前に中村がUWFファン最強決定戦みたいなこと言ってたけど、「UWFファンである部分は、実際の試合のどういうところで出るんですか？」って聞いたら、「たとえばバックを取ったらスリーパーじゃなくて、後ろに投げるのがUWF」って答えて（笑）。で、それを今回の試合で所がやったんだよね。だから二人とも通じ合ってるなっていうのは凄くあったね。

ガンツ　あの試合の最後の足の流れって……。

橋本　あれはTKがハンス・ナイマンに極めたやつ！

ガンツ　そうそう！　捨て身小内からのレッグロックですよ！　あれを切り替えしたのがヴォルク・ハンなんだよね。

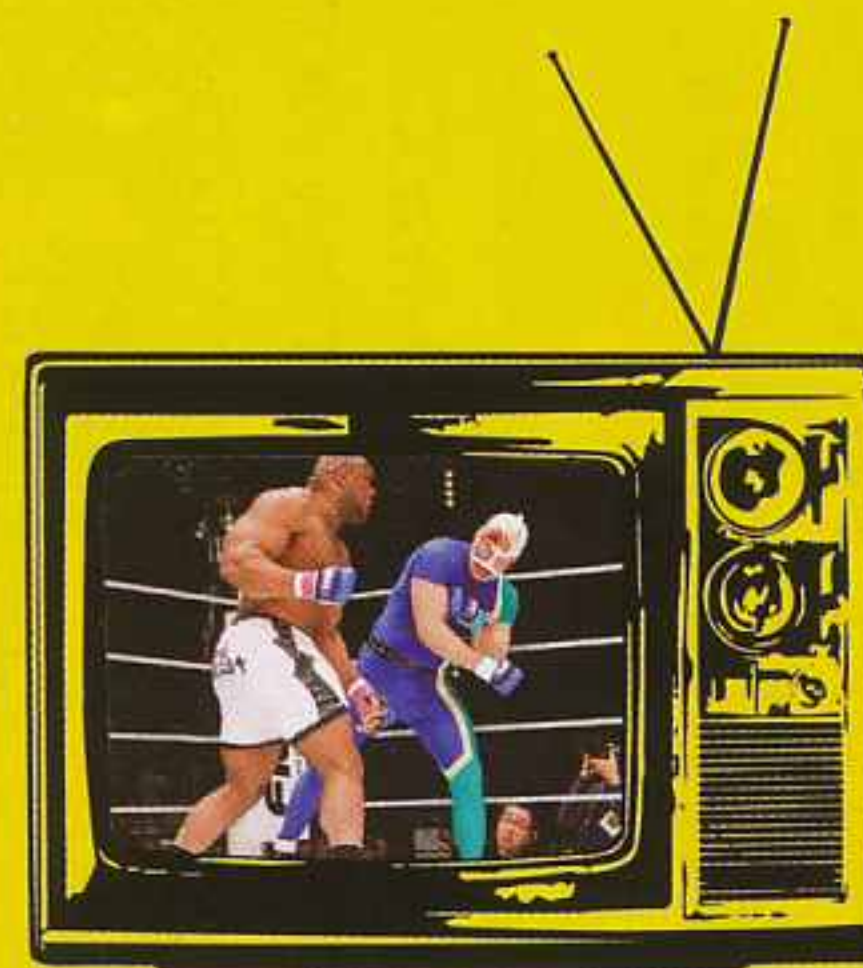
橋本　はいはいはい！

ガンツ　TKも「あれ、ワシがハンにやられたヤツだ」って言ってたよ（笑）。

橋本　前転しての足首固めをハンに十字で切り替えされてね（笑）。いいねいいね！

――正月早々、何で盛り上がっているんだ（笑）。

【09年1月1日／都内・『kami-pro』編集部にて収録】

民放首位陥落!
されど『Dynamite!!』平均視聴率12.9パーセントと健闘!!
09年大晦日視聴率戦争の勝負はすでに始まっている!

『Dynamite!!』の興奮も冷めやらぬ新年1月2日、各局の12月31日の視聴率が発表された。NHK『紅白歌合戦』や日本テレビ系の『ガキの使いやあらへんで!!』など強豪がひしめく中、TBS系『Dynamite!!』は民放首位陥落したものの、健闘。はたして、この数字から見る09年とは!?

大爆発の『Dynamite!!』、視聴率も健闘!

すでに報道されているとおり、『Dynamite!!』の平均視聴率はミノワマン、桜井〝マッハ〟速人、中村大介らの試合が放送された第1部が11・8パーセント、キン肉万太郎、川尻達也、青木真也、そして田村潔司vs桜庭和志が放送された第2部が12・9パーセントという数字を記録し、本番前日、公開記者会見の場で谷川FEG代表が宣言した「15パーセント」という目標には到達しなかったものの、Perfumeから森進一まで揃えた『第59回NHK紅白歌合戦』の布陣や、日本テレビ系『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』が離婚したはずのココリコ遠藤章造と千秋を遭遇させるなど（詳細は102ページ参照）強力な爆弾を投下する中で、かなりの踏んばりを見せた。

そもそも08年『Dynamite!!』は当初から逆風が吹き荒れていた。大会の〝顔〟ともいえる魔裟斗や山本〝KID〟徳郁らの出場が絶望的であることは早い段階から噂されており、それに加えて〝DREAMの視聴率王〟（一部では否定されている）である秋山成勲の欠場が決まり、話題を呼んだミルコや青木との対戦がなくなってしまうなど、常に逆境にさらされていたのだ。

そんな中、「今年は選手の名前に頼らず、テーマ性を重視する！」という主催者がおもいきった針の振り方をしたのが功を奏したのか、テーマ性が強いカードほど会場の熱を生み、それが視聴率獲得につながったと言えそうだ。

NHKがニュースに切り替わる（＝瞬間最高視聴率が狙える）21時30分あたりのカードはボブ・サップvsキン肉万太郎、ミルコvsチェ・ホンマンとなっているが、本誌締切の都合で瞬間最高視聴率はどの場面だったのか現時点では未確認。しかし、川尻や青木、中村大介らの活躍が多くの人の目に触れた08年『Dynamite!!』をきっかけに、09年DREAM、K—1の視聴率がどう変動していくのかは見逃せないところだ。

その活躍によっては09年『Dynamite!!』でリベンジを誓ったサダハルンバの宣言どおり、地上波ブレイクしているはずの川尻、青木、中村らに加え、魔裟斗、KIDらすでにネームバリューのある選手も揃って参戦するという、とんでもないイベントが実現しているかも！ 今年の大晦日に向けて、早くも各イベント、各選手のドラマが重要性を求められているのだ。

Dynamite!!歴代視聴率

年	視聴率・時間帯
2003	19.5% 21時～23時24分 ※瞬間最高視聴率=43.0%（ボブ・サップvs曙）
2004	20.1% 21時～23時24分 ※瞬間最高視聴率=31.6%（魔裟斗vs山本"KID"徳郁終了後）
2005	14.8% 21時～23時45分 ※瞬間最高視聴率=25.8%（ボビー・オロゴンvs曙）
2006	16.3% 18時～20時30分 19.9% 20時30分～23時05分 10.1% 23時05分～23時34分 ※瞬間最高視聴率=25.0%（山本"KID"徳郁vsイストバン・マヨロシュ、秋山成勲vs桜庭和志）
2007	11.1% 18時～20時30分 14.7% 20時30分～23時 11.1% 23時～23時34分 ※瞬間最高視聴率=20.9%（山本"KID"徳郁vsハニ・ヤヒーラ）

TBSで放送された試合順と時間帯

時間	試合
19時10分頃	ミノワマンvsエロール・ジマーマン
19時20分頃	アンディ・オロゴンvs坂口征夫
19時35分頃	日下部竜也vsト部功也、HIROYAvs嶋田翔太
20時20分頃	佐藤嘉洋vsアルトゥール・キシェンコ
20時40分頃	桜井"マッハ"速人vs柴田勝頼
20時50分頃	中村大介vs所英男
21時05分頃	アリスター・オーフレイムvsバダ・ハリ
21時10分頃	川尻達也vs武田幸三
21時20分頃	ボブ・サップvsキン肉万太郎
21時45分頃	ミルコ・クロコップvsチェ・ホンマン
21時55分頃	HIROYAvsト部功也
22時15分頃	ゲガール・ムサシvs武蔵
22時25分頃	青木真也vsエディ・アルバレス
22時35分頃	田村潔司vs桜庭和志
23時10分頃	メルヴィン・マヌーフvsマーク・ハント
23時15分頃	セーム・シュルトvsマイティ・モー

08年12月31日の各局の視聴率

局	視聴率	時間帯	番組
NHK	35.7%	19時20分～21時25分	『第59回NHK紅白歌合戦』第1部
	42.1%	21時30分～23時45分	『第59回NHK紅白歌合戦』第2部
日本テレビ系	12.3%	18時30分～19時	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第1部
	10.0%	19時～20時20分	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第2部
	15.4%	20時20分～24時20分	『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日年越しSP!!』第3部
TBS系	9.0%	18時～19時	『プロボクシングWBA世界フライ級タイトルマッチ』
	11.8%	19時～21時	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第1部
	12.9%	21時30分～23時	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第2部
	8.4%	23時～23時24分	『Dynamite!!～勇気のチカラ2008～』第3部
CX系	4.4%	19時～23時45分	『FNS 2008年クイズ!!』
テレビ朝日系	8.7%	18時～20時24分	『大みそかドラえもんSP』
	7.5%	20時30分～23時30分	『Qさま!! 大みそかだよ! プレッシャーSTUDY』
テレビ東京系	3.4%	21時30～23時30	『大晦日ハッスル・マニア2008』

2008年の 秋山成勲

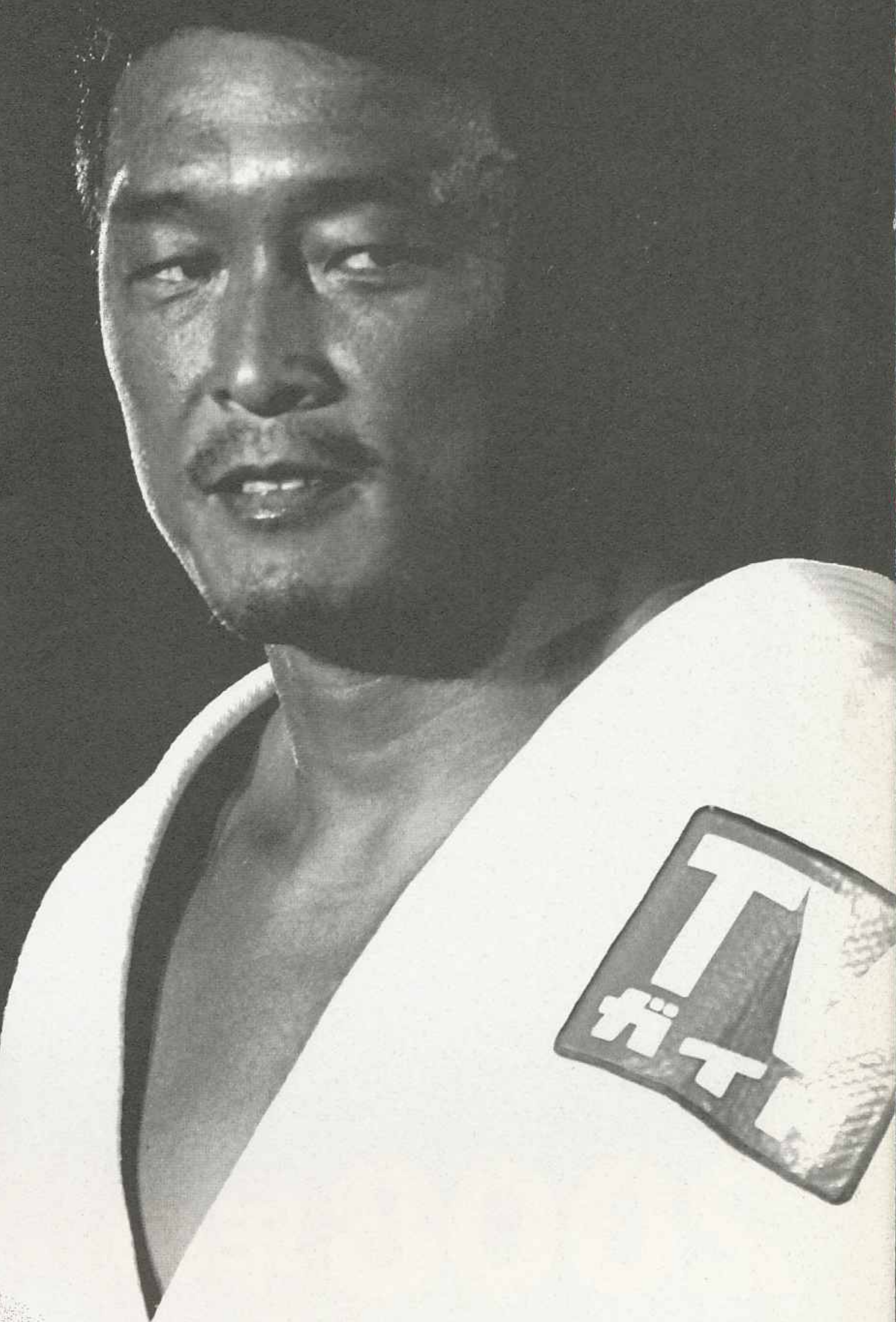
08年、秋山成勲は韓国でタレントとして大ブレイク。
歌手やモデルとしてデビューしただけでなく、韓国大手のCMにも次々に登場し、巨額の富を手にした。
一方で格闘家としての秋山成勲は、二試合連続でDREAMの地上波放送の
瞬間最高視聴率を獲得したものの、自分の実力に不釣り合いな相手としか試合をしなかった。
さらには出場が期待されていた『Dynamite!!』を欠場して驚かせるなど、
"08年の裏MVP"ともいえるほど話題を集めた。
いったい秋山成勲は何がしたかったのか？　日本と韓国から08年の秋山に迫る!

構成／大川義之　試合写真／乾晋也　撮影／平工幸雄、菊池茂夫

魔王劇

マット界の"裏MVP男" 08年秋山成勲の

韓国での人気爆発が生んだ迷走

秋山成勲――。本来の実力からすれば、不況の吹き荒れる日本の格闘技界を牽引し、中心選手としての活躍が期待される格闘家である。だが、08年の秋山はDREAMミドル級GPや『Dynamite!!』といった大一番には出場せず、柴田勝頼、外岡真徳らと顔見せ的な試合をしただけに終わった。だがその一方で、韓国では大ブレイクをはたすなど、さまざまな行動で格闘技界に話題と波紋を呼び起こしたのも事実である。格闘技界とファンを心からヤキモキさせた今年の"裏のMVP"、いや"今年一番のお騒がせ者"としての秋山成勲の08年をここであらためて振り返ってみたい。

秋山成勲にとっての08年は初っ端から波乱含みだった。まだ07年の大晦日での名勝負、三崎和雄との激戦の興奮も醒めやらない1月9日、秋山は三崎戦でのフィニッシュとなったキックが、4点ポジションの状態で受けたものだとして主催者側に抗議文を提出。秋山は「提訴すれば『一年前におまえも反則をやったのに』と非難されると思ったが、自分が問題提起をすることでファンや選手の役に立てると思い、抗議文を出した」とコメントしている。再審議の結果、1月22日に三崎のキックは反則と判断され、試合はノーコンテストに変更された。これで秋山は〝大晦日二年連続ノーコンテスト男〟というありがたくない称号を戴くこととなった。

裁定が覆ったあと、秋山は三崎和雄に再戦を要求したが、三崎は『戦極』と契約。このことでFEGの谷川貞治代表が「この試合は二試合契約だった。三崎選手が『やれんのか！』に連絡せずに『戦極』への出場を決めたことは非常識で遺憾」とコメントし、GRABAKAの代表・菊田早苗らと舌戦を展開するなど、早くも新団体『戦極』と軋轢を生んだ当事者の一人となっていた。

三崎戦で鼻を骨折した秋山は、年が明けてからは安静にしていたが、二月末からは韓国でのメディア進出を開始。初めて出演した韓国の芸能番組で、秋山はしゃべりのうまさと抜群の歌唱力を披露し、その新たな魅力を視聴者に大きくアピール。この番組がきっかけで秋山は一気に韓国で大ブレイク。その後の秋山はファッションモデルに起用されたかと思うと、今度は歌手としてCDデビューをはたし、4万人の観客が見守る「ドリームコンサート」で歌を披露。さらには大手CMに続々と登場して人気を博すなど、韓国でタレントとしての商品価値を日に日に高めていった。

7月5日に赤坂サカスにて行なわれたDREAMのTBS特番『花よりDREAM』の公開収録で、秋山は“DREAMのF4”と称され、“エアあやや”のはるな愛にその魅力をプレゼンされるなど、このときは主力ファイターとして紹介されていた。もちろん、大晦日でも秋山には同じ活躍が期待されていたはずだが…。

一方、格闘家としての秋山は、新生格闘技団体DREAMが開催するミドル級GP（4・29開幕）に、桜庭和志、田村潔司らとともに参戦することになっていた。ところがなかなか対戦相手が発表されないまま、秋山は4月21日の記者会見で、三崎戦で折った鼻を再度骨折したことを理由にGP欠場を表明。当然、ケガをしている選手に試合への出場を強いることはできないが、参戦が熱望されていた選手がケガで欠場した場合、ファンをがっかりさせた引け目から対外活動を自粛しそうなものだが、秋山にそんな気配はまるでなし。ここぞとばかりに、秋山は韓国でのタレント活動に力を入れていくのだった。

韓国で商品価値が上がっていくにつれて、秋山は自ら韓国での人気を「マイケル・ジャクソン」並みと称するなど、これまで以上の自信を帯びていく。ようやく参戦した7月のDREAMでも、秋山は視聴率に関して「獲るんじゃないですか？」と迷いなく言い放った。秋山の選んだ相手が柴田勝頼、外岡真徳という総合格闘技界で実績の少ないルーキーであったにもかかわらず、7・21『DREAM・5』柴田戦では13・7パーセント、9・23『DREAM・6』外岡戦でも13・4パーセントを記録。どちらも地上波放送の瞬間最高視聴率を獲得し、秋山は〝DREAMの視聴率男〟となったのだった。

さらに秋山はリング外でもさまざまな話題を振りまいた。『DREAM・5』では、試合後に専門誌上で秋山戦に興味を示していた田村潔司との対戦を表明、また『DREAM・6』の大会の直前会見では対戦相手の決まらないセルゲイ・ハリトーノフに、一日でダブルヘッダーを申し出た。かと思えば『DREAM・6』の試合後には「吉田秀彦先輩と闘いたい」と発言して注目を浴びた。

また秋山は大晦日の『Dynamite‼』出場交渉でも、『DREAM・6』の煽りVや大会後の会見などで、秋山より二階級下の青木真也が秋山に牙を剥き、挑戦状を叩きつけたこともあって、注目の人となった。だが、秋山はこの青木の対戦について「リスペクトされるのは選手冥利につきますが、自分はいまは吉田先輩しか見えていないです」と素っ気なく、結局、青木の挑戦を受けることはなかった。

逆に吉田秀彦との対戦については「自分の夢であり、越えなきゃいけない壁だと思っています。そのためにはいろんな方の力が必要」としたうえで、DREAMで実現できないのなら「他団体であっても実現させたい」とまで発言したが、こちらも1・4『戦極の乱2009』で吉田秀彦vs菊田早苗が実現したことにより、実現にはいたらなかった。

また、秋山は年末の『Dynamite‼』への出場を希望していたが、11月末にFEGとの契約が切れる間際になって、11・15『UFC91』を現地で観戦してUFC行きの可能性を浮上させた。そんな中でも『Dynamite‼』の出場交渉は続けられていたが、最終的には秋山本人が「今年の大晦日はやめときます」と表明したことで今年の大晦日の欠場が決定し、08年の〝秋山劇場〟に終止符が打たれたのだった。

プロの格闘家ならば、ゾクゾクするような対戦相手と闘い、試合内容でファンを喜ばせることが使命であるはずだが、08年の秋山は、結局ファンの期待に応える相手とは闘わなかった。だが、リング上では柴田、外岡としか試合をしていないにもかかわらず、08年にここまで格闘技界を大騒ぎさせた格闘家も、秋山を置いてほかにいない。デニス・カーン、三崎和雄戦での名勝負の貯金を使いはたしてしまった秋山成勲は、これからプロの格闘家としてファンにどのような興奮と感動を与えていくのか――。

在韓日本人が明かす
秋山人気の正体

日本人には理解不能!?

08年の秋山は、韓国で人気トークショー番組の出演をきっかけに爆発的な人気を博した。現地では"アンチファン"がいないピュアなイメージで10代から50代の男女にいたるまで、幅広い人気があるという秋山。日本人にとって理解しがたい秋山人気の謎を解明すべく、韓国に住むマスコミを中心に現地駐在員が韓国・ソウルの秋山座談会に集結！韓国の内側から秋山人気の正体についておおいに語った。

司会・構成／大川義之　試合写真／乾晋也　撮影／ユン・ヨギル

座談会出席者

A 在韓11年、元韓国系新聞者勤務、現大学講師
B 在韓9年、現韓国某新聞社勤務中
C 在韓4ヵ月、中国在住歴14年。現在韓ビジネ情報誌勤務
D 在韓4年、日本アパレルメーカー。韓国支部駐在員
E 在韓3年、自動車部品メーカー駐在員
F 在韓9年、現韓国某新聞コラムニスト

——今日は韓国における秋山成勲人気の"正体"を知るべく、韓国在住日本人に皆さんにいろいろとお話をうかがいたいと思いますが、皆さん、秋山選手のことはどれぐらいご存知ですか？

A　僕はざっとした経歴を知ってるぐらいですね。

C　私はほとんど知りません。

E　私は韓国のテレビで桜庭 vs 秋山を観てましたよ。桜庭がボッコボコにされながらも、一生懸命「滑るよ！滑るよ！」というシーンは、さすがに観ていてビックリしましたね。あの桜庭がコテンパンにされたんですから。ただ、そのあと反則が判明して日本のメディアはずっと騒いでいましたよね。

——結局、秋山選手はローションを塗っていて、失格処分とファイトマネー全額没収、無期限出場停止の処分が下り、日本では大悪役になっています。ところが現在、彼が韓国では大人気なので、日本人的にはワケがわからないんですよ。

B　秋山選手の人気は格闘技はもちろんなんですけど、いろんな要素が

エティ番組で自分の生い立ちを話してたんですよ。韓国語はあんまり上手じゃなかったけど、韓国で柔道をしていた話や、オリンピックの代表になれなかった話を話してました。で、最後には突然、歌まで歌い出して（笑）。

──それがうまいんですよね？

B　そうそう！　相当うまいんですよ。でも、あれで韓国人は「おっ、秋山ってイケてるじゃん」という人がグッと増えましたね。歌がうまいことは韓国ではステータスですから。ただ個人的には、日本に帰化してるくせに「韓国最高」とか言ってるし、どっちつかずでコウモリみたいな人だと思いますね。

──コウモリですか（笑）。

E　私も秋山選手がなぜ韓国で人気があるのか気になったので、この座談会の前に、あらかじめウチの韓国人の社員に聞いてきたんですよ。

──事前調査ですね。反応はどうでしたか？

E　まずは「日本でブーイングの大嵐を受けているのを観て、かわいそうに見えた」と言ってましたね。やっぱり「擁護しなきゃ」という心理が働いたんでしょう。それから「たどたどしい韓国語が逆にかわいらしい」「トークがうまい」「センスがいい」などの意見がありました。

──秋山のトークはなかなか機転が利いているらしいですね。

E　そうそう。頭がいいという意見もありましたね。あとは「人生がドラマチック」「日本人に対する韓国人の憎悪が根底にあって、秋山に同情心が働いた」とも言ってました。

──でも、どうして帰化した秋山を韓国人は応援するんですか？

B　それはナショナリズムですよ。ゴルフのミシェル・ウィー（米国ハワイ出身の女子プロゴルファーで両親は元韓国人）とかも完全にアメリカ国籍だけど、韓国系の選手が活躍すると、韓国の市民権を持ってないのに報道はミシェル・ウィーではなくて、韓国名のウィ・ソンミで報道されるんですよね。ソフトバンクの孫正義も日本に帰化してるけど、ソン・ジョンウィという韓国名で報道するし、秋山もチュ・ソンフンと報道する。

日本に帰化してるのに「韓国最高」とか言って どっちつかずでコウモリみたいな人ですよね

──「成功した人はいまでも韓国人」ということにしておきたいんですかね？　秋山もデニス・カーンも韓国での格闘技中継では、名前の横には韓国の太極旗が付いてますね。

B　それは本来、非常におかしなことですよ。秋山が活躍してなかったら、「国を捨てた裏切り者」という扱いを受けるのに、活躍すると手のひらを返すんですからね。そんなに秋山が強いんなら、なんで柔道家時代に代表にしてやらなかったんだという話ですよ。

D　韓国に住んでいて思うのは、韓国人はある部分でもの凄く都合のいい国民だということです。さっきのミシェル・ウィーの話もそうですが、世界の舞台で活躍している人に少しでも韓国人だと思い込めるものがあれば、それでいいんです。そういう人をすべて〝我々のヒーロー〟と考えるんですよ。

──普通の人がヒーローになると韓国人になっちゃうみたいな（笑）。そういえば、以前イチローが韓国系の焼き肉を食べに行くというだけで、韓国人認定されて韓国での人気が高まりましたよね。

E　確かにずっと「韓国系じゃないのか」って話はありましたね。要は、誇らしげにできるものがないというヒガミです。

──ヒガミ（笑）。でも、そこは植民地にされていたという歴史が大きいのかもしれませんね。

E　そうですね。ただこの国にも素晴らしいものはたくさんありますよ。でも、韓国は大国に囲まれているので、どうしても肩を並べたい、背伸びをしたいんです。経済的には世界13位なので国としては豊かな部類ですが、スポーツではまだまだ先進国とは言えないですね。

──韓国は約5000万人しかいませんから、人口的に不利な面はありますね。

E　それにどうしても比較対象は日本になってしまいますから、細い糸を探して韓国を拡大解釈して応援するんでしょうね。

D　ただ、いま、秋山を持ち上げてる人は、韓国の10代後半から20代、30代だと思うんですけど、私はそういう人たちを相手に仕事をしているので感じるんですが、その年代の韓国人は極めてミーハーなんです。テレビ局も歌番組やバラエティを作るにしても、すべてその年代をターゲットにしていますよね。秋山には韓国の血が流れているわけですから、〝韓国人〟として取り上げる大義名分もあるし、過去に日本で反則をしたとしても、ミーハーな層を相手にした商売ができるんですよ。

E　韓国人は画一的な情報に凄く左右される傾向がありますよね。どこかで人気が出ると、みんなそれに飛びつきますし、それが本当にいいものかどうか疑いませんね。

F　それは竹島の領土問題とつながるところがあるかもしれませんね。韓国人で竹島が日本の領土だと考えている人は多くはありませんよね。そういう意味で日本人と考え方に違いはありますよね。

B　要はテレビが「この人は素敵な人物」と取り上げれば、すぐに飛びつくんですよ。

──なるほど。多くの人が秋山選手に注目してるから、みんな「これには乗っておかなきゃ」と考えるんですかね？

B　べつに無関心でもいいんだろうけど、話題が出たら「ああ、秋山はいいね」と話を合わせなきゃいけない雰囲気はあるでしょう。

E　昔、韓国が在日韓国人の秋山を差別したというネガティブな情報は縮小されて、逆に「日本でバッシングされている」という情報しか報道されなくなってるんでしょうね。

──秋山は柔道家時代に韓国に失望して日本に帰化したはずなのに、プロになって韓国で人気が出ると、突然「韓国最高」と言ってる、という人もいます。

C　でも韓国人も昔の秋山がどうこうじゃなく、いまの彼しか見てないと思います。

B　韓国では格闘技をしてる秋山より、CMや芸能活動で多く露出してるのでタレント的な人気になんでしょうね。

──韓国のためじゃなくて、柔道でオリンピック代表になるために、日本に国籍を変えた秋山に感情移入できるのも不思議なんですけど、そのあたりはどうですか？

A　まあ、人間って見たくないものは見えないじゃないですか（笑）。

D　もし彼が日本代表になって、オリンピックで韓国人を倒していたら、いまみたいにはなってないでしょうね。昔、秋山が釜山のアジア大会で韓国人に勝って優勝しただけで韓国メディアから強くバッシングされましたからね。

──〝日本代表〟として韓国人に勝っていない、ということも大きいわけですね。日本では桜庭戦でのクリーム事件について、いまだにわだかまりを持っているファンもいると思いますが、韓国でそのことが問題視されないのはどういうことでしょうか？

D　たぶん韓国人は格闘技についてそんなに興味はないんじゃないです

か？
——ええ⁉ 興味はないんですか？
D 格闘技のマニアは当然興味があるでしょうけど、多くの韓国人は秋山が韓国人の血を引いているってことに興味があるんですよ。
F あとは反則うんぬんはともかく"桜庭を倒した"っていうことが大きいですね。頑張ったことが認められる日本と違って、韓国は結果が強く求められる国なんです。たとえばサッカーの日韓対抗戦でも頑張っても負けたら意味はないんですよ。昔は、日本に負けて帰ってきたら空港で選手はファンに生卵をぶつけられて「国賊」と罵倒されたんです。だったら、頑張ったという内容じゃなく、何をしてでも勝とうとしますよね。02年のワールドカップでも韓国は日韓共同開催ということもあって、勝つために韓国チームはかなり反則しましたし、世界の国からずいぶん批判されました。でも、韓国内ではそういう意見は重要ではない。ともかく4位になった事実のほうが大きいし、意味があるんですよ。
——ということは、秋山も桜庭戦で反則してあとで失格になったとはいえ、見た目に"強い韓国"を印象づけたことが評価されているんですね。
D でしょうね。日本人を倒す"強い韓国人"という図式が韓国人にカタルシスを与えているんでしょうね。
——日本では、日本人が反則して韓国人に勝ったりしたら「日本の恥！」みたいに言われますけど、国民性が逆なんですね。
C スポーツを観るときは、みんな深く考えてないですよ。いまは韓国に勝利をもたらすのが秋山だから応援しているんであって、次に強い選手が出てくれば、そっちを応援すると思いますよ。
——秋山がこれからも韓国でスターであり続けるとは限らない、と。韓国ではスポーツとナショナリズムが強く結び付いているイメージがありますしね。
B 韓国では何かにつけて、すべて"国威発揚"につなげますよね。選手本人がどう考えているかはわかりませんが、国際的な舞台で韓国系の選手が出てくると、「やった！韓国人の選手が出てきた」と盛り上がる。韓国は世界の中での比較対象を求めたがってますよね。だから「アメリカを倒した」「日本を倒した」「この分野で韓国は世界一だぜ！」というのが大事なんでしょう。
C でも、日本でも"判官びいき"という言葉があって弱い立場にある者が強い者を倒すとスカッとする精神性はありますよね。
——確かに日本でもイチローがメジャーで活躍するのを誇らしく思う人は多いですね。それは「秋山が桜庭を倒した」と熱狂している韓国人と、構図としては同じという考えですか？
C 自分とあんまり関係のないスポーツを観るときって、自分との距離感で応援するじゃないですか。私は沖縄出身ですけど、高校野球を見るときは、まず沖縄から応援しますよ。で、沖縄代表が負けたら、次は九州の高校を応援して最後まで大会を楽しもうとします。日本と韓国が桜庭と秋山と、どちらかに近くて、思い入れを深く持つか、というのは、地域性の差だけかもしれませんよ。
B でも、日本人の中ではイチローの活躍に対して冷めてる層も確実にいるじゃないですか。「だから何？」みたいな。日本にはイチローが活躍したことがどうとかに限らず、日本人が活躍したことよりも、競技を楽しむ人たちも多いですよね。
E 韓国にそういう人は少ないですね。日本人も韓国人も選手やタレントを好きになったら、その人の過去とかいきさつ、背景とかを凄く知りたがるはずですが、韓国では「いいところだけ知っておきたい」という傾向が強い気がします。
——秋山選手の過去のことは見なかったことにしたいと？
E 韓国人がケンカするとき、よく言うのは「おまえの話は聞きたくない」っていう言葉なんですよ。その人の意見が正しかろうが、正しくなかろうが、そこで相手の意見を聞こうとすることを放棄してるんですよ。イヤなことは、それ以上聞き入れられないわけです。
——ある意味、何を言っても無駄というか（笑）。では、秋山って韓国の中では何かの"象徴"だと思うんですが、皆さんはどういう象徴だと感じますか？
E 韓国での秋山は"商材"ですよね。どういう層かはわからないんですが、誰かがそういうふうに盛り上げていると思います。テレビは売れないものしか放送しませんからね。
B "象徴"という言葉でいうと、韓国人にとって秋山は"虐げられてきた人"なんですよ。日本でも韓国でも差別されたりバッシングされました。韓国では桜庭と秋山の試合では反則のことよりも、日本で秋山がバッシングされていることが注目されてたんですよ。韓国人は「在日だからここまで叩くんだろう」と感じたと思います。秋山は日本へのナショナリズムを高揚させる象徴になってますよね。
——日本と韓国の国家間のイザコザの象徴として秋山が取り上げられているということですね。では、そういう存在として消費しつくされればブームは去るんでしょうか？
D もちろん去るでしょう。
E 彼がほかの分野に行かない限り、僕も絶対ブームは去ると思いますね。
F チェ・ホンマンも芸能界で活躍して歌手として活動したり、芸能人と付き合ってましたけど、結果が残せなくなって韓国でバッシングされるようになりましたね。秋山も負ければそうなる可能性はありますよ。だから相手を選んでるんじゃないですか？
A あと、勝ち負けに関係なく、秋山が韓国批判とか、日本を褒めるような親日的な発言をすれば、速攻で人気は落ちるでしょうね。
——前に韓国の新聞記者も「秋山は『HERO'S』の煽り映像で『武士道精神で頑張ります』とか、けっこう危ないことを言ってる。そういう発言で足元をすくわれる可能性もある」と言ってましたね。
B いまはみんな秋山に乗っている状態なので、本人がよほど大きな失言をしない限りは、それほど気にしないかもしれませんけどね。
C ただ「大韓民国最高！」っていうのは、場所が韓国なら誰でも言うんじゃないですか？ ロックのコンサートでも「トーキョー、おまえら最高だぜ！」って言いますし。
D 朝青龍も大阪で優勝したときに「大阪がホンマに好きやで。毎度、おおきに！」って言ったことがありますよね。そういうのは地元の人は喜びますし、韓国人って、またそういう言葉に非常に弱いんですよ（笑）。
A 秋山は「こういうことを言えば韓国人は喜ぶだろう」っていうのを充分わかってますね。韓国人の聞きたがってる言葉を意図的に選んで言ってると思います。
E 韓国人は「熱しやすくて冷めやすい民族」と言いますし、一時の気

秋山が韓国でブレイクするきっかけとなった番組がこの『ヒザ打ち道士』というトークショー。秋山は桜庭戦の反則行為、三崎への怒り、柔道事態に受けた差別問題などをたっぷり語り、最後は絶品の歌唱力まで披露するサービスぶりを見せた。番組の反響はすさまじく、若い世代だけでなく格闘技での活躍を知らないおばさんたちまでもが秋山の虜になった。

持ちに左右されて信じ込みすぎるので、逆に裏切られやすいんですよ。聞いた情報を鵜呑みにして疑いませんから。いまの韓国人は秋山の表面的なところしか見てませんから、いずれ"裏切られた"と思う人も出てくるかもしれませんよ。

F　最近はあまり強い相手とやっていないので、「強い相手とやれ」っていう意見も多くなってきてますよね。秋山も韓国での人気を考えたら、リスキーで負ける可能性のある相手とはやりたくないんでしょう。

――確かに柴田や外岡と対戦する一方で、実現の可能性の低い試合については意欲的ですよね。他団体の吉田秀彦や負傷中の田村潔司とか。ああいうのも韓国での立場を守りたいためなのかもしれませんね。

A　ある在日の作家が「在日とは韓国人でも日本人でもなく、国籍が在日だ。故郷はない。自分のいるところが故郷だ」ということを言ってるんです。秋山は日本でも韓国でもその国を意識したコメントをいいますよね。韓国にいれば韓国寄りの発言をするし、日本にいれば日本寄りの発言もする。そういう意味では秋山はやはり在日韓国人なんでしょうね。

――秋山はこれまで日本と韓国に翻弄されてきましたが、逆に日韓両国で柔道の代表選手になるという離れ業も成し遂げています。現在も日本国籍でありながら日本でも韓国でも大きな収入を得ている。在日韓国人という秋山は、社会に翻弄されながらも、やりようによっては社会を手のひらで転がし、翻弄する立場に回れる特異な立ち位置にいるのかもしれませんよね。

B　でも、秋山はいまの韓国での現状を「このぬるま湯具合がたまんないぜ」と思ってるわけでしょ?　彼が望めば法的に韓国籍を取り戻すことは全然可能なんだし、「大韓民国最高!」とか言うんだったら

韓国を訪れれば、必ず韓国愛を口にする秋山。ファンイベントでは、「韓国での人気の秘訣は愛国心」と答えるなど、その姿勢は徹底している。だが、『Dynamite!!』欠場宣言後は、韓国でも「失望した」というファンの声や秋山の行動を批判する報道も見られるようになっており、徐々に雰囲気は変わってきている。はたして秋山は韓国での人気を維持できるのか?

いまの韓国人は秋山の表面しか見ていない
いずれ「裏切られた」と言う人が出てくる

「もう一度韓国籍を取り戻してから言えよ!」と言いたいですね。

C　でも秋山は、どちらの国にも思い入れがないから言えちゃうのかもしれませんね。たとえば香港に7年住んでたら永住権が取れるんですよ。香港に対する愛着がなくても「だったら便利だからとっちゃえ」という人もいる。秋山もそれと同じで自分にとってどこにいれば便利かっていうのを考えているから、「いま自分にはこっちが便利」って考えながら行動してるのかもしれませんね。

――国籍まで駆け引きに使ってるわけですか。凄いなあ、魔王は(笑)。

B　でも、国籍を選べる人は稀なケースですよ。

C　そうですけど、秋山のような立場にない私たちが彼らのことを言うのもどうかなっていう気もしますね。いろいろ言っても私たちには本当に秋山の気持ちを理解できない部分がありますから。

――実際、秋山選手は普通の人じゃなかなか経験できない人生を送ってますね。

E　あと、韓国での秋山人気を考えるうえで、やっぱり日本に侵略されたという歴史は大きいですよ。だから歴史上、苦しめられてきた日本に対して、たとえ生粋の韓国人じゃなくても叩きのめしてくれたり、強い韓国人を体現してくれる人がいると乗れるんですよ。その代弁者の一人が秋山だということです。題材はモノでも人間でもいいんですが、そういうものが出てきたときに、韓国人は自分たちの虐げられてきた者としてのアイデンティティを確認できるんですよ。誰かが日本や世界を相手に活躍してくれると魂が鼓舞されるんでしょうね。

A　韓国人は日本人と違って、ウリ(私たち)という言葉を多用する民族で、彼らは自分たちの意見と同時に韓国人としての意見というものを持ってるんですよ。それが時としてはダブルスタンダードになるところがあります。たとえば「戦争が起こったらどうしますか」って聞いたら、韓国人のほぼ全員が「武器を持って闘う」と答えるのに、一方で「あなたは韓国を出て移民したいですか?」と聞くと、80パーセントぐらいの人が「はい」と答えてしまう。韓国人としては日本人を好きになっちゃいけないんだけど、個人としては「日本のものはいいよね。カメラはやっぱりキャノンだよね」とか言ったりするんですよ。

――韓国の状況は北朝鮮と休戦中だし、経済的にも閉塞した状況で、男は2年も軍隊に行かなければならない。だから移民で韓国を出たいと思っている人が多い。そんな中で秋山は帰化してますから軍隊にもいかなくていいし、日本で日本的な生活を楽しんでいて、韓国でもお金を稼いでいる。そういう"いいとこどり"できる生活は、韓国人の潜在意識の中で理想的なのかもしれませんね。

F　だから秋山がモデルの誰々と付き合ってるってことも韓国では大きなニュースになるんですよ。韓国人は絶対口にはできないでしょうけど、そういう自由な秋山の立ち位置をうらやましがってるんじゃないですか。

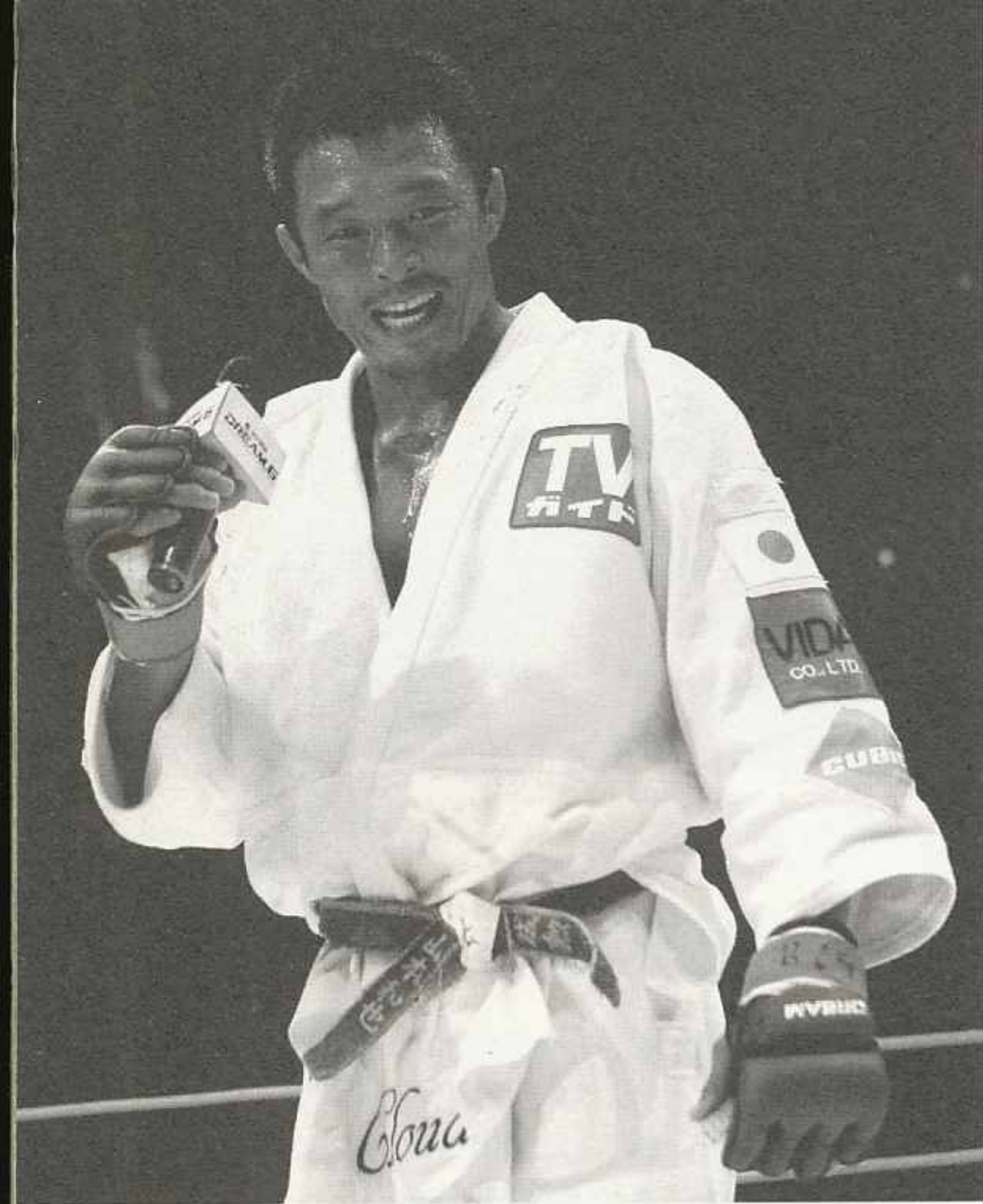
E　お金を稼ぐ力は、韓国人は非常に尊ばれますからね。

F　秋山は経済的に成功していて、強いし、歌もうまい。しかも韓国人として日本人に虐げられた存在として自分たちと同一視できる経験もしているんですよね。苦しい状況でも頑張れば、自分たちも秋山のように成功できるかもしれないという目で見ているのかもしれません。

――ただ、選手としては、昨年の大晦日の三崎戦の貯金はもうなくなってるんですよね?

B　そういうことも含めて、いまは韓国では調子がいいですけど、また今後、秋山は自分の商品価値をコントロールしていかなきゃいけないでしょうね。

――それがどういう選択なのか、見ものではありますね。いやあ、今日は秋山人気の秘密がだいぶわかった気がします。ありがとうございました!

【08年10月1日/韓国・ソウル市の居酒屋にて収録】

激動のマット界の"現在"を活字、写真、動画でキャッチ!!

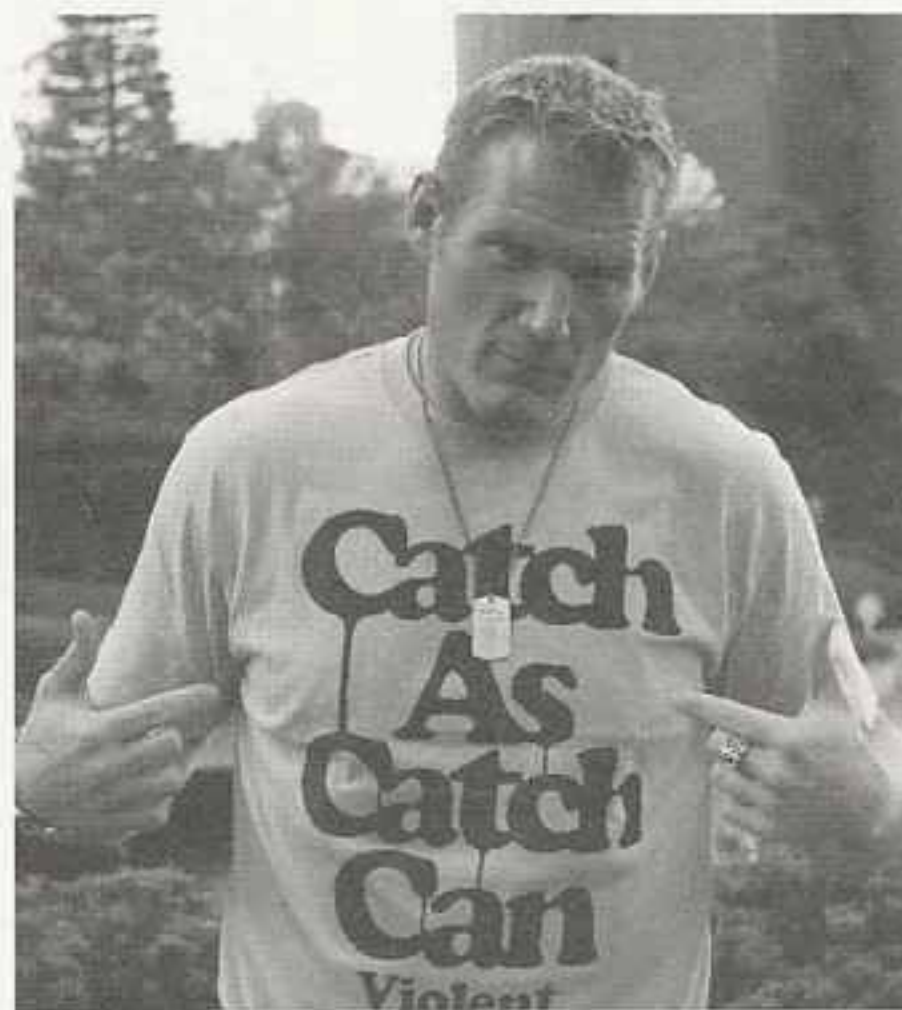
kamiproMove
カミプロムーブ

サービス利用料 月額315円(税込)

※なお、「kamipro Hand」とは別のサービスとなりますので、ご利用いただくためには月額で右記サービス利用料がかかります。

★掟ポルシェの萌え萌え女々苑Move

本誌で大好評連載中の『掟ポルシェの萌え萌え女々苑』が動画で近日スタート予定!! 現在『kamipro』唯一の女子プロレス企画を本誌の取材に連動してお届けしていきます。女子プロレスラーの意外な一面に掟ポルシェが男気全開で迫る新企画!

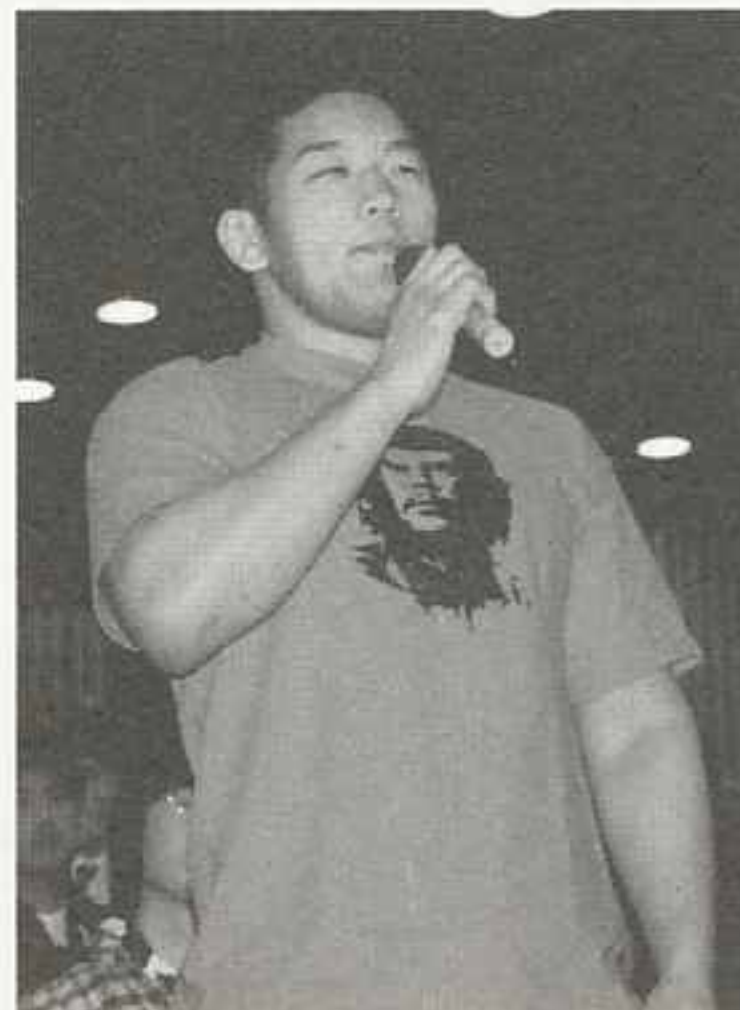
★週刊kamipro動画コラム

オリジナルな動画コンテンツを毎週配信!! プロレス&格闘技の情報をいち早くお届けしていきます。すでにMIKUやジョシュ・バーネットの独占コメント、ハッスルの事件などを配信中! ここでしか観られない貴重な映像を見逃すな!

★毎日ブログ　注目選手が毎日更新しています!!

川尻達也
『筋肉日記』

MIKU
『格闘ブロガール』

※編集部員が毎日綴る『kamiブログ』も絶賛配信中!!

★ニュース　最新情報はここで読もう!!

激動のプロレス&格闘技界のニュースを毎日配信! 注目の大会情報やカード決定をいち早く、また記者会見などでの注目発言をより深く、お届けしていきます。またその日のニュースはメールマガジン(要登録)でも配信しています。流れの速いプロレス&格闘技界の流れをおさえるためにも毎日チェック!

★最新号情報　本誌&単行本情報を先出し!!

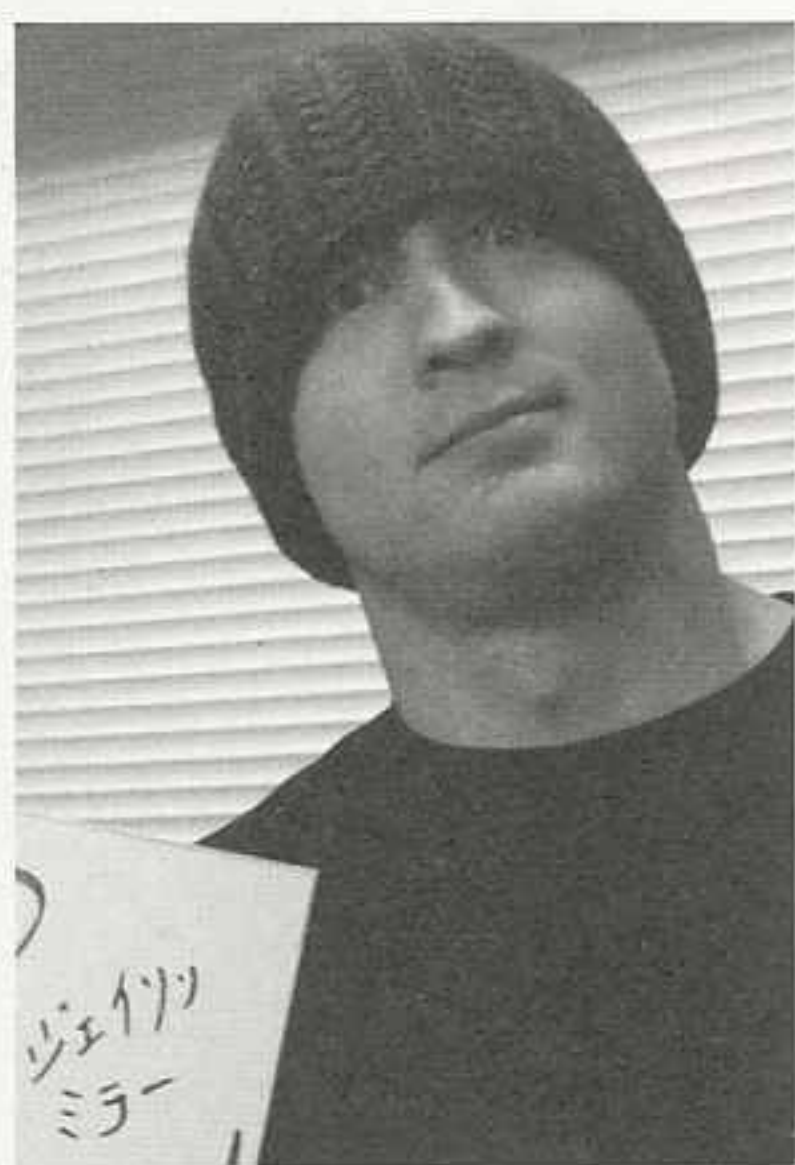
毎月発売の『kamipro』本誌、増刊号『kamipro Special』、単行本シリーズの『kamipro Books』、次々とリリースされる『kamipro』関連の雑誌と書籍の発売前情報をここでチェックしよう!!

★大会速報　気になる大会をいち早くチェック

年末年始はビッグマッチが非常に多かったですが、自分が観戦した大会で選手がどんなコメントをしていたか気になったことはありませんか? 観に行きたかったけど都合がつかなかった大会の結果が気になったことはありませんか? というわけで、プロレス&格闘技の注目大会の速報はこちらでチェック!

★日替わりコラム　プロレスから格闘技まで、バラエティから裏ネタまで幅広くお届けします!!

曜日	コラム	内容
月	郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』	UFCで活躍中の郷野聡寛が本音トークで語る！ 試合やパフォーマンス同様に文章でもマルチな才能を発揮しています!
火	ニュース特選『kamiの一週間』	ここ一週間の出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない!
水	橋本宗洋の『格闘裏グルメ』	最近は激痩せした元・重量級ライター（現在は中量級？）橋本宗洋が格闘技界の見どころをズバリ解説!
木	世界のMMA最新情報『USA cool 宅急便モバイル』	日本のMMA界と密接に連動している海外MMA事情を週一回総まくりします。ホットな情報をクールにお届けします。
金	ペールワンズ井上崇宏の『プロ格お悩み相談室』	子どもだけじゃなく大人だって悩んでる！ というわけで、プロ格に関する悩みにライター井上崇宏がお答えします!
土	マット界の事件を徹底追求『kamipro事件簿』	マット界には日々、さまざまな事件が起こる。そんな迷宮入りの事件をピックアップして真相を解明する大反響連載!
日	マッスル坂井の『ゴー・フォー・ブログ! 週刊マッスル坂井』	鬼才・マッスル坂井がその華麗なる日常を大公開！ いかにしてマッスルが生み出されるのかをここでチェック!

★着ボイス　意外な選手の生声を聞け!!

ジェイソン・メイヘム・ミラーの着ボイスをここだけで公開中! 激ウマのヒューマン・ビート・ボックスとゴキゲンな着ボイス堪能しよう! 今後もさまざまな選手の着ボイスを配信します!!

★待受画像　オリジナル待画をGET!!

おなじみ中川画伯による注目選手や話題のカードのオリジナルイラストとカレンダーがついたスペシャルな待受画像をダウンロード!

対応機種　主要3キャリア全端末対応（※端末により一部非対応コンテンツあり）

アクセス方法

iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1［お問い合わせ］TEL.0570-060-555（代表）

本誌編集部が1年を足早に総ざらい!

今年もむちゃくちゃ
ワオワオしますよーっ!

08年表紙登場回数No.1(8回)
ワオ木真也さん

座談会で振り返るマット界2008

DREAMと『戦極』の2大イベントのスタートをはじめ、
石井慧の総合転向報道にノア地上波撤退の噂と、08年も話題が盛りだくさんだったマット界。
本誌も独自の切り口でさまざまな誌面をお届けしました!
ここでは『kamipro』編集部が本誌の企画を通して1年間をプレイバック! 反省コミコミで語り合います!

構成/スズキィ

08年の本誌ではこれまでになくGRABAKA勢が活躍したね

――今回はマット界の激動の1年を、本誌の企画を通して反省を交えながら振り返っていきたいと思うんですが……えー、進行役の編集長が所用で急遽欠席することになってしまいました!

真下　編集部の振り返り企画なのに、編集長が不在!

――はい、早くも今企画の担当としてちょっと追い込まれ気味です(笑)。

ガンツ　こりゃ散々しゃべってもボツになる可能性があるな(笑)。

――でも、ページ数もたっぷりあることですし、とっておきの話を披露してもらえればと思いますのでよろしくお願いします!

ガンツ　まぁ、やっぱりまず年明け一発目に話題をさらったのは、なんと言っても『大みそかハッスル祭り』でミルコ(・クロコップ)のハイキックを食らった金村(キンタロー)の失神を「セルである」って書いたライター(?)がいた問題だね(笑)。

真下　ありましたね～、そんな騒動。

ガンツ　あれから1年、その「セルである」って書いてたジャーナリストの大先生はいなくなっちゃったけど(笑)。

チョロ　某☆マークの大先生ですね(笑)。たまに『戦極』やパンクラスの会場で見かけるけど。でも、その当事者である金ちゃんにとって08年は本当に激動の1年で……。

ガンツ　あのセクハラ騒動こそ、アングルであってほしかったというか(笑)。たしかウチは『kamipro Hand』の金村インタビューで「あの失神はセルかどうか?」っていう検証企画まで始めてたのに、途中で連載が終わっちゃったんだよね。

真下　そうなんですよ! あの失神事件の真相って、凄くいい話だったんですけどねぇ。

――あの事件の真相はどうなんでしたっけ?

真下　もちろんあの失神はセルでもなんでもなくて、リング上でいびきをかきはじめる危険な状態だったんだけど。控室で意識を取り戻した金ちゃんは、『ハッスル祭り』の直後に連続で参戦予定だった『プロレスサミット』と『プロレスターミナル』という二つの年越し興行に「絶対に出る」って言いはってたんですよ。それを関係者全員で欠場するように説得したという、その凄まじい舞台裏をたっぷりと金ちゃん本人から聞いてたんですけどね……。連載が佳境に入るタイミングで例のセクハラ事件が起こっちゃって……。

「やれんのか!」での秋山戦後に突如として幕を開けた三崎劇場! その類いまれなキャラで三崎は、08年に幾度となく『kamipro』に登場。09年もクソおもしろい三崎ワールドを我々の心に届けてほしい!

チョロ　おかげで、まだ失神事件の肝心な話は表に出てないという。

ガンツ　『ハッスル機密ファイル』なんていう単行本でも作って検証したほうがいいんじゃないの?(笑)。

真下　あのときの最もいい話としては、金村の容態を心配したミルコが、あとからサイン入りのTシャツを「金村に渡してくれ」ってプレゼントしたんですよね。

ガンツ　まさに「恐縮です」って感じで(笑)。でも、金村とミルコの友情って凄いよね。

――意外な友情タッグというか(笑)。

真下　でも、こういう肝心な話が連載には一切載らなくて(笑)。

――あと、年頭で目立ったことといえば三崎和雄のブレイクでしょうか。

真下　今年一発目の増刊号の表紙に使った三崎の両手グルグル写真も、どうしたらカッコよく撮れるかって悩みましたよね。

ガンツ　あれは一歩間違えたら小馬鹿にしてるようなギリギリの表紙だからね(笑)。

チョロ　三崎はこのときが『kamipro』初登場だったんで、どこまでやってくれるのか距離感がつかめなくて、手探り感があるよね(笑)。

真下　いまでは考えられないけど、『kamipro』ってほとんど三崎は押してなかったし、秋山戦が決まったときもそこまでの期待感はなかったんですよね。

ガンツ　その試合が決まったときの座談会で、俺は「これは歴史上初めて三崎に乗れるかもしれない」とか失礼なこと言ってたのよ(笑)。

――現・三崎番とは思えないヒドい言葉で(笑)。

ガンツ　でも試合内容もさることながら、まさかKYマイクでブレイクするとはホントに思わなかった(笑)。

チョロ　08年の『kamipro』では、これまでになくGRABAKA勢が活躍したよね。郷野(聡寛)にも大会レビューや対談でたびたび登場してもらって。

松下　ケータイサイトの連載でもお世話になってますし。

ガンツ　正直、去年までは『kamipro』とGRABAKAってある意味、相容れない部分があったからね。

チョロ　ボスの菊田(早苗)はガンツのことをアンチGRABAKAと思ってたみたいで、このあいだ取材でガンツに会って「もっと強面のルックスだと思ってましたよ」って言ってたし(笑)。

――三崎には郷野や髙田延彦と対談をやってもらいましたけど、異色の顔合わせとしては寺門ジモンっていうのがありましたよね。

ガンツ　あれは素晴らしかったね。あのぶっ飛んだネイチャージモンが、三崎のことを「想像以上のネイチャーだ」って驚いてたからね。どんだけ三崎はぶっ飛んでるんだっていう。

――取材中にジモンが三崎のことを

座談会出席者

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的なプロレスファンであり、ダメな30代から共感を集める変態座談会の主宰者。08年で印象に残った企画は「更級四郎インタビュー」(129号収録)。

阿修羅チョロ
本誌編集部。煽りポーズ研究家(?)。08年は『戦極』ポーズを考案し、各方面から賛否両論を浴びまくった、業界10年選手。08年で印象に残った企画は「ほしのあきインタビュー」(本誌126号収録)。

真下義之
本誌編集部。某世界的アーティストの内弟子を経て『kamipro』入り。『mimipro』では"笑い屋"として活躍。08年で印象に残った企画は「外山恒一インタビュー」(本誌127号収録)。

松下ミワ
本誌編集部。元・読者ページ担当。一部ではいまも"読者ペイジ"ジャクソンを影で操っているともっぱらの噂。08年で印象に残った企画は「梨本勝インタビュー」(本誌127号収録)。

[司会]スズキ
本誌編集部。その出自が恥ずかしながらターザン門下生ということはかたくなに否定。08年で印象に残った企画は「特集・アチャー!ターザン山本!は生きていた」(本誌126号収録)。

何回も「ナイス・ネイチャー!」って連発して(笑)。
ガンツ　三崎はいまだに夜の海岸を仲間たちとフルチンで走ってマーキングしたりしてるらしいから(笑)。ホント、逸材はどこに眠ってるかわからないね。
真下　ちなみにあのあと、あの企画を見て刺激を受けたミヤマ☆仮面からも反応があったんですよ。ネイチャージモンのことは気になっていたみたいで「自然といえば昆虫、私の出番じゃないか」と(笑)。
——一緒にクワンバラせてくれないか、と。あと、上半期ではK—1 WORLD YOUTHをけっこう取り上げてますね。とくに藤門嘩裟を過剰なほど押してましたけど。
真下　門嘩裟くんの当時15歳とは思えない異常なほどストイックなムードと加藤会長の大山道場魂あふれるハンパないスポ根っぷり、その師弟関係が抜群すぎたので、ガンガンプッシュしたんです。『kamipro』でここまでK—1を軸にした企画は初めてかもしれないってほど、のめり込んでたんですけどね。
ガンツ　それまでK—1といえば、毎度おなじみ〝角ちゃん劇場〟ぐらいしか取りあげてなかったからね(笑)。
松下　4月のK—1 MAX広島大会でのHIROYA戦前の会見では二人とも殺気があって自信満々で、ホントどっちが勝つかわからなかったですよね。それを見つめる谷川さんもうっとりしてましたし(笑)。
真下　あのシュートすぎる舌戦でさらに幻想が沸いてメチャクチャ興奮したよね。ただ、その広島大会のHIROYA戦をドラマの頂点として、そのあとはほとんど取り上げていないんだけど……。
——門嘩裟くんはその時期にブログも休止してましたけど、何かあったんですか?
真下　結果的に、門嘩裟くんは藤ジムを離れちゃったんですね。まだ未来のある選手だから、あんまり細かいゴタゴタの部分は出せないけど。言える範囲で言うと、門嘩裟くんの家族側とジム側の格闘技に対するスタンスが完全にズレちゃったということで。
松下　谷川さんが一時期「ボクはいままでいろんな関係者や選手とハードな交渉をしてきたけど、親御さんたちは未知の領域だからなあ」って言ってましたけど、そのへんも関係あったんですかね。
真下　ズバリそのことですね。そのあと、9月のK—1甲子園の予選は別のジム所属に移籍したあたりで出たんだけど、1回戦でいいところなく負けちゃって。あのとき勝ってればもう一度プッシュできたのかなと思うんですけど。
松下　あのときも谷川さんが「藤門嘩裟、何やってるんだよお!」って鼻をヒクヒクさせてましたね。
真下　そのとき会場で会った加藤会長が、門嘩裟くんの試合を観て「スタイルが全然変わっちゃった!」「もうムチャクチャだよぉ!」って、凄く寂しそうに話してたのが印象的でしたね……。編集長も言ってたけど、15歳であそこまでストイックに格闘技に打ち込んでる少年が、どういうかたちで崩れていくのか? その危ういバランスに注目してたんですけど、あまりにも意外であっけなく崩れてしまった。こういう崩れ方は見たくなかったけど、まだ15歳だからこれからの挽回に期待したいです。
チョロ　加藤会長的には今年の『Dynamite!!』で藤門嘩裟vsマイク・ザンビディスをやる予定で、もちろん門嘩裟くんがハイキックで勝つって言ってたんだけどなぁ(笑)。
——なぜ、ザンビディス(笑)。
ガンツ　あと15歳のほかには6歳も取り上げてるんだよね。
——名古屋の『へなちょこプロレス』というローカルインディー団体の6歳の選手ですね(笑)。
真下　ありましたね、もうちょっと反響あるかなって思ったんだけど。
チョロ　なぜか若林太郎さんからは「『YouTube』で観たけど、あの子は素晴らしい」って反響があったんだけど(笑)。ちなみその後のミスター6号は6歳の若さで団体離脱を経験しているという。
ガンツ　ミスター6号は『ハッスル』とかに上がったらいいのにね。もう『ハッスル』は芸能人がリングに上がってもインパクト皆無でしょ? それより6歳児のほうがずっとインパクトあると思うけど。
チョロ　そのへんのレスラーよりは全然プロレスもうまいし。
ガンツ　まあ、カンフーくんはパッとしなかったけどね(笑)。
——『ハッスル』企画だと川田利明×ガッツ石松の栃木県出身対談なんてものもありましたね。
チョロ　ガッツはこのあと実際に『ハッスル』に登場したんだよね。ハッスルGPの決勝をやった栃木大会の伏線にも少しなったというか。
ガンツ　ちなみにこの対談で驚いたのが同行したガッツの息子さんがイケメンだったってことかな(笑)。
松下　どんな感想ですか(笑)。
——そして、なんと言っても今年の大きな出来事としてはDREAMと

"現在のファンタジー"とも形容できる藤門嘩裟&加藤会長の師弟コンビ。加藤会長は単独インタビューでも登場、伝説の大山道場について赤裸々に激白! その折りに会長はコーヒーゼリーパフェが大好きという可愛らしい一面も発覚!

08年のマット界の"顔役"はいったい誰だ?

インタビュー登場回数ランキング

※コラム連載陣はのぞく

1位(15回) 青木真也
2位(14回) 谷川貞治
3位(9回) 郷野聡寛
髙阪剛
菊地成孔
4位(8回) 三崎和雄
5位(7回) 笹原圭一
6位(6回) 所英男、長南亮、マッスル坂井
7位(5回) 桜庭和志、宮戸優光

サダハルンバを振り切ってワオ木さんが1位を獲得! 今年はDREAMライト級GP涙の準優勝、そして魔王への対戦要求など、つねに話題の中心だったワオ木さん。本誌では単独インタビュー以外にもホンマンや須藤元気、メイヘムとの対談でワオワオとハリキってくれました!

『戦極』という2大イベントが3月から始まりました。

ガンツ ウチではDREAMが始まる直前に佐藤大輔さんのインタビューをやったんだけど、これが必要以上に各方面に波紋を呼んでしまって（笑）。

真下 でも、このインタビューは凄くやる意義があったと思うんですよ。要するに「DREAMの地上波の煽りVは完全な佐藤大輔さん印じゃなくなる」ってことを最初に伝えたんですから。「覚悟しよう！」って感じで。

ガンツ PRIDEと『HERO'S』にはどうしても相容れないものがあって、それはリング上だけじゃなくて、周辺のものも全部そうだったっていう話だよね。フジテレビの鬼才ディレクターだった人が、TBSでやってきた人たちと一緒にやるのがいかに難しいかとか。地上波では立木（文彦）のナレーションが流れないとか、そういった部分を先に出してしまうというインタビューだったんだよね。

松下 『DREAM・1』はPPVもなかったですもんね。

ガンツ いろんな面で大変な大会だったんだよね。ミルコの相手は決まらないし。

真下 僕はライト級GP開幕直前に全選手紹介の企画をやってるんですけど、そこにはなぜか1回戦に出場してないギルバート・メレンデスやビトー・〝シャオリン〟・ヒベイロまで入ってますから。「決まる、決まる」と言われて締切ド直前まで待ったんですけど、結局決まらなかった（笑）。もちろん宇野（薫）さんも1回戦に出てないのに載ってます。

ガンツ そこは「もちろん」って言わないように（笑）。

松下 選手の出る出ないでいうと、122号では秋山成勲を表紙にしたのにミドル級GPはケガで出場を回避するかたちになって。

チョロ この表紙は魔王本人のブログにも載ったんだよね。

――「取材も受けてないのに表紙になってた」って書いてありましたね。

ガンツ どうやら秋山は『kamipro』と佐藤大輔のインタビューは受けないらしいから（笑）。

――そうなんですか⁉

ガンツ そうらしいよ。まあ、秋山ってどのインタビュー読んでも、とても本心とは思えない上っ面なインタビューしかやってないから、ウチでやってもどこまでおもしろいものができるかわからないけど。「いま伝えたいこと」みたいなインタビューは死んでもやりたくないからね。

真下 秋山に聞きたいことはあるけど、秋山の主張を鵜呑みにして伝えたいとは思いませんもんね。

ガンツ ところが、これが煽りVだと、魔王が「柔道で礼節を……」とか上っ面なことを言ってるところに桜庭戦の「すべるよ！」映像を重ねて、本性を視覚的にあぶり出すという、素晴らしい編集を大輔さんがやってくれちゃうんだけど（笑）。

チョロ そこまでされると普通の神経だったらしんどいだろうだけど、そこで普通に試合ができるのが秋山の魔王たる所以というか。まあ、さすがにそれも耐えられなくなったってことなのかなぁ。

ガンツ ヒール人気を本物の人気に変えられるぐらいの素材だと思ってたんだけどね。

――あと、DREAMで『kamipro』的に欠かせない選手といえば青木真也じゃないかと。

チョロ 青木は試合内容はもちろんだけど、喋りやケータイサイトとかウェブでのコラムも最初の頃に比べると内容も凄く濃くなって、この1年間でいろんな意味で成長を感じさせた人だなぁって思った。

真下 今年の青木はホントに勝負してましたよね。

チョロ 『kamipro』＝青木真也ってイメージでとらえて、おもしろくないと思ってる人もいるかもしれないけど。何人か顔も浮かぶし。

――そう言えば『ハッスル』の某選手が「俺が見た表紙がたまたまなのかも知れないけど、青木の表紙が多いのはなんで?」って言ってましたね。

ガンツ なんでって、いま一番乗れるからってことだけだよね。そもそも『kamipro』は昔から〝バランスを取る〟っていう編集方針ではないからね。乗れるものには思いきって乗る。だからずっとミルコの表紙が続いたときもあったし、ずっと小川直也だったりってこともあったし。でもそれは表紙にするだけの要素があるってことだから。ミルコvsヒョ

青木はこの1年間で試合をはじめ いろんな意味で成長を感じさせた

08年を彩った名珍企画 『kamipro』傑作選

新春のニッポンを行く

皇帝エメリヤーエンコ・ヒョードルのお正月（本誌119号収録）

「やれんのか!」でチェ・ホンマンを下したヒョードルは、そのまま滞在して日本のお正月を満喫。本誌は"60億分の1の男"の貴重なプライベートに密着、富士急ハイランドへの遠足を独占取材した。笑顔で絶叫マシンに興じるヒョードル、じつに無邪気である。当初、今企画は伝説の上杉編集部員（退社）が担当だったが、なぜか嫌がったために遊園地大好きな松下ミワにバトンタッチ。「先輩のおこぼれをいただきました!」と笑顔の松下、じつに無邪気(?)である。

ネイチャー頂上対談

三崎和雄×寺門ジモン（『kamipro Special 2008 JUNE』収録）

寺門ジモンといえば年間5回以上も山ごもりを敢行する"ネイチャージモン"として有名。一方の三崎も自然の中で五感を研ぎ澄ますトレーニングを欠かさないファイター。そんな二人が大自然の尊さをおおいに語り合った。ちなみに取材当日、ジモンは待ち合わせ時間の20分以上前に現地入りする周到さ。そして見るからに青びょうたんなスズキィを一瞥すると、開口一番「きみは山だったら確実に死ぬね!」と宣告したと言うからさすが。ネイチャーは常在戦場なんである。

炎のガチンコ対談

宮戸優光×周富徳（本誌124号収録）

今企画は特集「料理とは"闘い"である!!」の一環として実現。プロレス界一、料理にこだわる男として宮戸味徳（みや・とみとく）の異名を持つ宮戸と、その宮戸が尊敬して止まない周富徳が、「いまはプロレスも料理の世界も厳しさと伝統が足りない!」と、互いの情熱を傾けあった。取材中にUインター道場でも振る舞ったことがあるというレモン鶏を作ってくれた周さん。その味は巨匠マチャアキならずとも「星、三つ!」と叫びたくなる出来だったのは言うまでもない。

一匹狼の流儀

江夏豊（本誌127号収録）

リニューアル2号目のテーマはヒール。そこでご登場願ったのが、球界を代表する大投手ながら、その反骨精神旺盛な生き様でどこかダーティなイメージがつきまとう"孤高の一匹狼"江夏豊。ちなみに取材オファー時には「格闘技のことは全然わからんよ」と言っていたものの、当日は「たしかマイティ井上が母校（大阪学院高）の一年後輩なんだよ」と意外なエピソードを披露。その凄まじいオーラと裏腹に、口癖は「オッケーオッケー!」という、非常に気さくな方でもあった。

年の差ヒールカップル対談

ターザン山本!×夢香（本誌127号収録）

08年は生前追悼本に8P特集と、読者のニーズ無視でターザンを取り上げた本誌。きわめつけは夢香姫の登場だろう。対談本文のそこかしこから感じ取れる、ターザンワールドのヒロインの自己愛は破壊力抜群! そんな夢香姫はターちゃんとの共著で女流作家(?)デビュー。「彼女がどうブレイクするか楽しみ。映画でいうと『マイフェアレディ』ですよおぉ!」と炎上するターザンに、「私はオードリーってことね」と、こともなげに答える夢香姫。これってお手上げなのだ（ターザン調）。

ードル戦の直前だって、2号連続でミルコ表紙なんだから。
真下　『月刊ゴング』のミル・マスカラス状態でしたから（笑）。
ガンツ　あとは、あれだけオーちゃんを表紙にしてたら吉田秀彦が取材を受けてくれないんじゃないかとか、そういうリスクはつねに伴なうわけだから。だって、表紙を青木にして、それをめくったら五味とかそういうのはつまんないでしょ？
――表紙が2枚あったり（笑）。
ガンツ　リスクを背負いながら乗っかったほうが、熱は生まれるんだから。試合を観るのだって、どっちか片方を応援しながら観たほうがおもしろいでしょ？　それはさておき、やっぱり一番反省しなきゃいけないのは『戦極』ポーズでしょ！（笑）。
松下　『戦極』ポーズTシャツまで発売しましたもんね。
ガンツ　そもそもジョシュはなんでリング上で『戦極』ポーズをやっちゃったんでしたっけ？
真下　これは確か大会前にチョロさんが仕込んだんですよね？
チョロ　いやいや仕込んでないですよ。大会前日に会ったジョシュから『戦極』ポーズ、これで大丈夫？」って確認してきて、「はい、大丈夫です」って言ったぐらいで。実際、『戦極』さんとの関係性もよくわからなかった時期なので、こっちで仕込んだりしたら、なんて言われるか（笑）。
――でも、結果的にはなぜか大会で一番の盛り上がりでしたからね（笑）。
真下　一部関係者からは「よかったよ」って声がありつつも、あの直後のプレスルームの空気は異常に冷え込んでましたから。ホント、つらかったです（笑）。
チョロ　ブッカーKからも怒られましたから。
ガンツ　でも、なぜか國保さんには喜んでいただいて（笑）。
チョロ　「選手に教えてくださいよ」って言われた時期もあったんだけどなぁ……（しみじみと）。
――過去形なんですね（笑）。
真下　ちなみに、会場で必ず「『戦極』ポーズ！」って声をかける観客がいるんですけど、あれはウチの回し者じゃないですよ！
ガンツ　その声でキモ強でブレイクする前の北岡も『戦極』ポーズを無理矢理やらされてたよね（笑）。
松下　『戦極』で言えば、ミドル級GPの決勝トーナメントの予想をTKに取材したんですけど、松澤さんが間違った組み合わせを教えて、そのまま誌面に掲載しちゃったっていうのがありましたね（笑）。あれは松澤さんに直接TKに謝ってもらいましたけど。
チョロ　いやいや、間違った組み合わせなんじゃなくて、最初は違うカードになるっていう情報があったの。
真下　いろいろ巻き起こしてますね（笑）。
ガンツ　あ、あとチョロさんが担当した「ジョシカク危機一髪！」は反省すべき企画じゃないの？
チョロ　いやいや、あれはまぁその……（口ごもる）。
真下　いまや伝説と化している、編集長から携帯電話を投げつけられたのはこのときですか？
――あれはターザン特集のときじゃないですかね。
松下　あぁ～、ターザン特集ってありましたね！
真下　よりによってそんな企画で投げられましたか（笑）。
――あのときはたしか進行が遅れたからですよね？
チョロ　（無視して）まぁ、ジョシカクもその後、二つに分裂して、謹慎した人もいるかと思えば、篠（泰樹・スマックガール元代表）さんみたいにブログで若干復活した人もいたしなぁ。

ウチが一番反省しなきゃいけないのはやっぱり『戦極』ポーズでしょ！

いろんな意味で業界大微震だった『戦極』ポーズ。5月大会でジョシュが初披露した際は盛り上がったが、11月大会でジョシュが敢行した際には、唐突だったこともあってか観客は微妙な反応……。ちなみに阿修羅チョロはジョシュから敬意を込めて（?）「マスター」と呼ばれている。

ガンツ　いきなり全然関係ない話をしださないでください（笑）。
真下　たしかジョシカク企画のときは、編集長に「取材で聞いてほしい」って言われたことを完全無視して進行したことが原因だったんでしょうね？
チョロ　無視っていうか……、まぁまぁ、結果的にそうなったんだけど。
ガンツ　結果的にってなんですか！もうチョロさんも謹慎したほうがいいですよ（笑）。
真下　チョロさんは思い入れが深すぎるとよく暴走しちゃうんですよね。1年2年の新人ならしょうがないですけど……、何年選手だ、コラ！
――さて、126号からは誌面をリニューアルしたのも一つのポイントでしたね。
真下　マット界の時事ネタだけを追うのが誌面作りのうえで難しくなってきた部分もあって、いわゆる特集主義になったんですよね。ここから誌面がガラリと変わって。
――一発目の表紙が所英男選手と所ジョージさんですけど、所ジョージさんはよく出てくれましたね。
ガンツ　この企画は、所さんのマネージャーさん宛に電話したら、たまたま隣にご本人がいて「所くんだったらべつにいいよ」って、電光石火で快諾してもらえたんだよね。
松下　所ジョージさんは凄く気前がよかったですよね、取材陣にまでお土産をくださって。
ガンツ　我々も所ジョージ特製のハエ叩きとかもらったから（笑）。事務所でも「はい、野菜ジュース飲んで！」とか何かとおもてなししてもらって。リニューアル一発目としていい企画ができたなと思うね。
真下　特集主義になってから、いままで出ないような人たちも登場するようになりましたよね。映画評論家の町山智浩さんやコラムニストの勝谷誠彦さん、とか。
――128号のヒール特集のときもバラエティに富んだ方々に出てもらいましたね。
松下　あの亀田興毅も登場して。
真下　このときはちょうど露出が少ない時期だったんですね。この取材のすぐあとに亀田ジムのジム開きがあってメディアへの登場が多くなるんですけど、その寸前にタイミングよく出てもらえて。取材中に興毅さんはずっと木刀を持ってたんでハラハラしたんですけど（笑）。メチャクチャいい人でしたね。
松下　話の内容自体も庶民的でしたもんね、「俺は〝普通の人〟が一番いい」って言ってたり。

真下 ただ、ようやくバッシングが落ち着いた時期だったのに「ヒール特集」の表紙になったので、亀田ジムの会長さんはボクシング協会や関係者の方々に「どういうことなんだ?」とか電話がきて、対処が大変だったみたいで(笑)。

──『kamipro』はボクシング関係者の視界にも入ってますか。

ガンツ あんだけ叩かれたことで亀田は逆におもしろくなったね。あとは御大・長州力もこの号で『kamipro』初登場。

──これはよく取材できましたよね、もちろん聞き手はGKで(笑)。

ガンツ そのときの第一声が「金澤、今日はG1の話か?」って(笑)。

一同 ダハハハ!

ガンツ 『kamipro』初登場でテーマが「G1の総括」だったら、それは逆に驚きだけど(笑)。あらためて「今回はヒールのことを……」って説明したら「あぁ、俺にはわからない」っていきなりそこで終わりそうになっちゃって。

──緊張感のある取材ですね~。

ガンツ そういえば長州がウチの刺青カメラマンの菊池さんに興味津々になっちゃって、「それ、どこで入れたの?」って言い出したんだよ。「海外でやったのか? 俺も入れようと思ってるんだ」とか(笑)。だからもし今後、長州が刺青を入れたらそのときの取材がきっかけかも。

チョロ まずはサソリからで(笑)。

ガンツ この号だとミスター高橋の取材も緊張感あった。いかに高橋さんにとって『流血の魔術 最強の演技』がトラウマになってるかが伝わってきて。あれで業界に戻れなくなったとか、そういうことを聞くのは完全にタブーだったんだけど「いろいろ叩かれて後悔しませんでしたか?」って普通に質問したんだよね。そうしたらガラリと顔色が変わって「バカじゃないの、アンタ!」って言われて(笑)。

い~けいけいけ逆境ファイター♪ テレビ番組『所蔓遊記』での共演をきっかけに親交が深まった所ジョージと所英男。ちなみに所英男は本誌125号では日村勇紀(バナナマン)とも対談。"世界の所さん"の名に恥じない幅広い交友関係を披露してくれた。

──その一言は編集部での流行語大賞ですよね(笑)。

チョロ で、そこの部分を活かした原稿を高橋さんにチェックしてもらったら、「私、あのときは本気で怒ってたんだよ、これじゃあ伝わってこないねぇ」って言われて。

真下 より強調してくれってことですね。

ガンツ 最初は遠慮して「バカじゃないの、あなた?」って多少やわらかくしてチェックに出したんだけど、高橋さんの指摘もあって「アンタ!」ってニュアンスを強めて修正したんだよね。

──プロですねぇ~。

ガンツ ……と言うかこの号はメチャクチャなラインナップだね(笑)。

──デーモン小暮もいれば夢香もいますからね(笑)。

チョロ ターザンはここ数年はウチに出てなかったもんね。

松下 『kamipro Hand』での連載が最後ですよね。

ガンツ それ以降は完全に使わなくなってたんだけど、年度末に何か一冊本を出そうって話があって雑談してたときに、I編集長追悼本が好評だったから、ターザンは生きてるけど死んだも同然だから追悼本出しちゃおうって話になったんだよね。

──それで本当に作ったっていう(笑)。

真下 あれは純粋に悪ノリだけでしたけど意外と好評で。あれで一時的にターザンも生き返りましたし(笑)。

ガンツ 残念ながら生き返ったのは一瞬で、いまや完全に死に体みたいだけど(笑)。

松下 年の差ヒールカップル対談のときは、ちゃんとカメラマンさんに撮ってもらってるんですよね。

ガンツ カメラマンさんにオファーするときに「プロに撮っていただくような素材じゃないんですが……」って断り入れてね。でも、やっぱりプロはさすがだよ。あの女性の本性がにじみ出るような強烈な写真を撮ってくれたからね(笑)。

真下 この追悼本の流れでターザンは『遺言』と『62歳のボクに28歳年下の彼女ができたのだ!』っていう2冊の本を出してますけど……。

ガンツ 出版界にいると本の実売数っていうのは調べたら大体のことはわかっちゃうんだよね。で、ターザンの本がどのくらい売れてるのかなと思って、ちょっと聞いてみたら信じられないような数字で。たまたまターザンと電話で話す機会があったとき、本の話題になっちゃったから「山本さん、本の売れ行きどうですか?」って恐る恐る聞いてみたら、「本? 売~れて~るよぉ(おかしな節をつけた言い回しで)」って強がられて(笑)。

──このイントネーションが誌面では伝わらないのが残念ですね(笑)。

ガンツ ホント悲しいウソなんだよ。

真下 昔だったら「売れてませんよぉぉぉ!」って自虐ネタにするくらいのエネルギーがあったのにな~。

ガンツ それを「売~れて~るよぉ」って言われたら「……そうですか」って言うしかないよね。

真下 それも「バカじゃないの、アンタ!」に続く名言でしたね(笑)。

ガンツ まあ、ターザンのウソなんて、その彼女とされる人物の数々の虚言疑惑に比べたらかわいいもんだけどね。どうでもいいけど(笑)。

──ターザン本とは反対にPRIDEを特集した128号はかなり売れたみたいですね。

真下 同時期に出た単行本の『PRIDE機密ファイル』も絶好調で増刷が決定して。

ガンツ やっぱりウチとPRIDEの相性のよさっていうのもあるんだろうけどね。

──さて、特集主義にリニューアルした当初は、作ってる側も手探り感が若干あったと思うんですけど現状はどうでしょう?

真下 バランスよくなったんじゃないですかね。特集のテーマが「テレビ」とか格闘技と離れたときでも、折衷していい具合に混ざってきたかなって気がする。いろいろなジャンルの人が出てることもあってか、コアな『kamipro』読者からはこういう展開は嬉しいって話も聞きますし。

松下 いままでじゃ考えられない無茶な人が登場してますもんね。江夏豊にまで出てもらって(笑)。

ガンツ もう誰が出てきてもおかしくないよ。

チョロ ターザンの文章講座に通ってるだけの谷ケンと湊くんまで出たからね(笑)。

ガンツ そういう間違いもたまにおかしながら(笑)。

──江夏から谷ケンまで、これからも『kamipro』ならではの切り口でマット界を盛り上げていくということで、09年も頑張っていきましょう!

【08年12月15日/『kamipro』編集部にて収録】

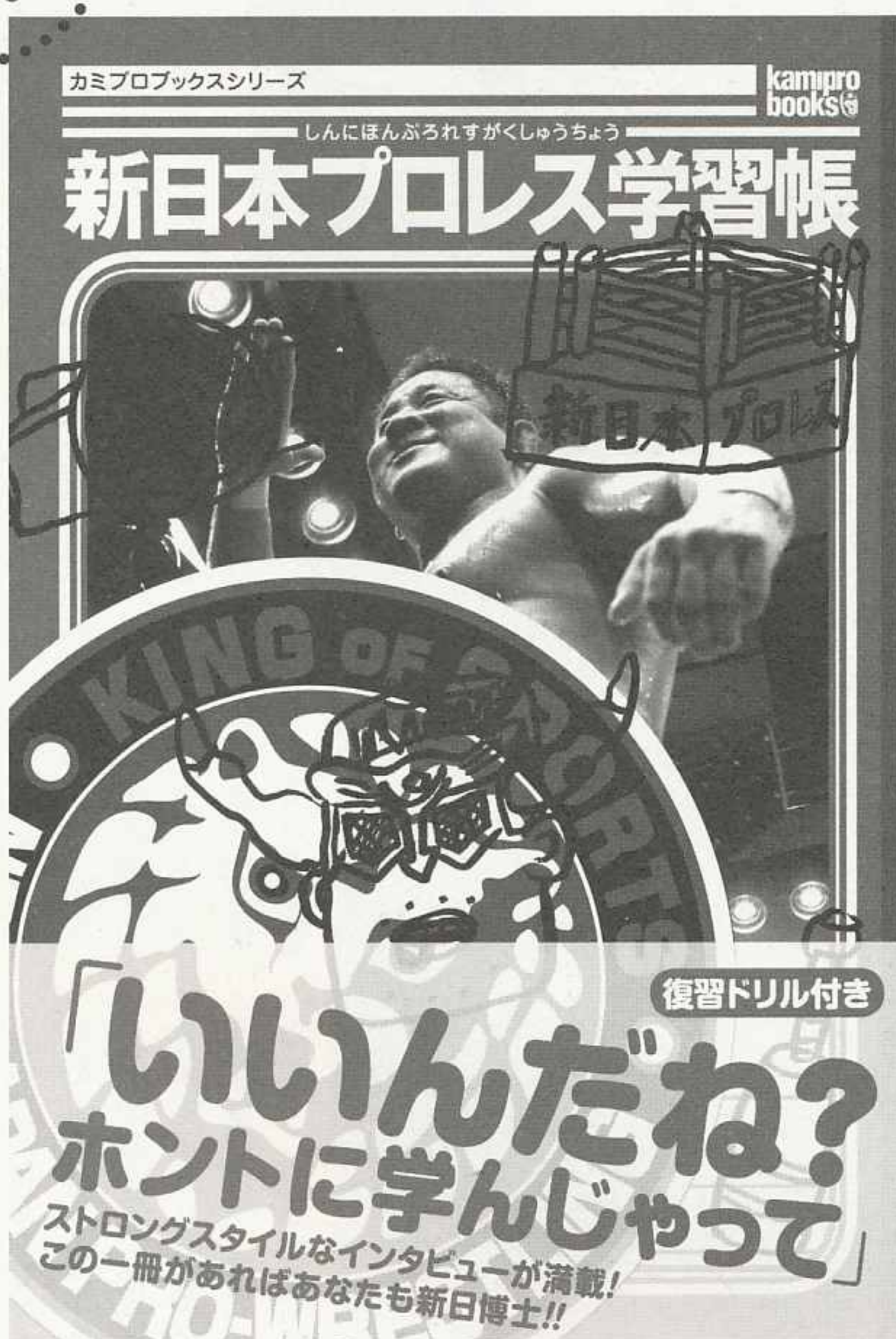
カミプロブックスシリーズ

kamipro books

しんにほんぷろれすがくしゅうちょう

新日本プロレス学習帳

“業界の盟主”新日本プロレスの魅力を
凝縮したインタビュー12連発

全国書店にて
絶賛
発売中!

kamipro編集部 編　定価=本体 1,600円+税　B6変型判 320ページ

みんな、学んで
ハッピーになっても
ええんちゃう?

時間割

☆一時間目／不道徳
講師＝鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー

☆二時間目／医学
講師＝小林邦昭

☆三時間目／覆面
講師＝平田淳嗣

☆四時間目／女性
講師＝金本浩二

☆五時間目／道場
講師＝山本小鉄

☆六時間目／移籍
講師＝新倉史祐

☆七時間目／マイク
講師＝田中秀和

☆八時間目／食欲
講師＝中西学

☆九時間目／学校
講師＝天山広吉&金原弘光

☆十時間目／米国
講師＝マサ斎藤

☆十一時間目／格闘技
講師＝永田裕志

☆十二時間目／プロレス
講師＝中邑真輔

『kamipro』誌上に掲載された新日本プロレス育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! ファンを熱狂させてやまない、ライオンマークのおもしろさの秘密を講義形式で徹底解明! これを読めば由緒正しき老舗プロレス団体の過去・現在・未来がまるわかり!

※新日本プロレスを楽しく学べる「復習ドリル&成績診断表」付き

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1 TEL.0570-060-555 (代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

ブロック・レスナーから
戦国ポーズまで

NEWSで振り返る マット界2008

文・構成／高崎計三、編集部　写真／Josh Hedges（UFC）

1>2月を振り返る！

有終の美はつかの間？『やれんのか！』爆発も大晦日のゴタゴタは08年に持ち越しに！

秋山成勲がジャッジに不服申し立て 二年連続ノーコンテスト裁定へ！

大晦日の格闘技興行が恒例化した段階で、新しい年がその影響を色濃く受けるのは、もはや当然かもしれない。だが、まさか2年連続で秋山成勲が大騒ぎの中心となろうとは、誰も想像しなかったに違いない。

07年末、格闘技界はFEGと旧PRIDE派の〝大連立〟により、さいたまの『やれんのか！』と大阪の『Dynamite!!』の二元中継が実現しておおいに盛り上がった。そしてさいたまではPRIDEウェルター級GP王者の三崎和雄が秋山成勲を劇的KOで下し、前年大晦日から1年間尾を引き続けた〝オイルショック問題〟はようやく幕引きを迎えようとしていた。

これで話が終わっていれば、「終わりよければすべてよし。さあ新しい年を、新しい気分で始めよう！」というムードにもなっただろうが、年明けすぐに持ち上がったのは「三崎の蹴りがルールで禁止されている四点ポジションでのサッカーボールキックに当たるのでは？」という問題だった。リング上では負けを宣告された秋山サイドが〝不服申し立て〟をしたのだ。

三崎のサッカーボールキックが反則になるのか否か、そもそも〝四点ポジション〟というものをどう定義するのか……1年前の〝オイルショック〟のときと同じように、メディアもファンも関係者もひっくるめたすべてが「ルール問題」で大激論を交わすこととなった。

ルールの解釈が論じられる一方で、反則について訴え出たのが秋山だったことが取り沙汰された。1年前、反則の疑いをかけられる側だった秋山が、今度は相手の反則を言い募るのはおかしいのでは？　というわけだ。

結局、すったもんだの末に1月22日になって出された結論は、「無効試合」。三崎のサッカーボールキックに関しては、「反則とも言えるし、そうでないとも言える」という曖昧な結論に終わった。

当然、両者の再戦を望む声も上がったが、これも「もともと2試合の約束だった」という谷川貞治EPの発言が発端となって、三崎サイドが「そうは聞いてない」と反発。この「2試合約束」を巡ってもあと味の悪さが残った。

「大晦日の秋山は、ただじゃ済まない」——2年連続ノーコンテストという結果が、秋山の〝魔王性〟をさらに強調する結果となった。一時は「夏頃にソウルで再戦」という話も出たが、秋山はDREAMに、三崎は『戦極』に闘う場が分かれたため、二人の再戦はいまだ実現してはいない。

この問題は、3月に旗揚げされた新イベントDREAMでグラウンドでの蹴りが一切禁止になるという副産物を生んだ。じつは同じ大晦日のさいたまでは、昼間の『ハッスル祭り』で金村キンタローがミルコ・クロコップのハイキックを受けて危険な状態に陥るという予想外のアクシデントも起こっている。08年のマット界は、いろんな意味で波乱の年明けとなったのだった。

「秋山あ！」という三崎和雄の説教マイク含め、大爆発で幕を閉じたかに見えた『やれんのか！』。しかし、その後の微妙な展開が、まさに水を刺した感は否めなかった。

話題賞 永田裕志

我らのエースに緊急事態発生! めまいと痺れで病院に搬送

敬礼と白目とグッドコンディションがウリの永田さんに緊急事態が発生した2.17両国大会。この日、後藤洋央紀と対戦予定だった永田さんは試合前のアップ中にめまいと左半身の痺れを訴え病院に搬送され試合は中止に。当初は脳梗塞の疑いもあったが、検査の結果「高血圧から来る出血か、海綿状血管腫ではないか」とのことで永田さんは自らがオーナーを務めるリフレッシュ&リラクゼーションサロン『エニシング』を中心にリハビリに専念。約3ヵ月後の5.2後楽園大会で復帰。それ以降、以前にも増して元気ハツラツ&白目もパワーアップした永田さんは田中将斗を破り世界ヘビー級王者に!

今期の主役 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

UFCヘビー級暫定王者に君臨 09年はレスナー戦が実現か!?

ノゲイラが史上初のUFC、PRIDE両団体での王座獲得! 当時、その契約内容を巡りランディ・クートゥアーと裁判沙汰になっていたUFCは、ノゲイラvsシルビアの暫定ヘビー級王者決定戦を敢行。序盤、劣勢となった柔術マジシャンだったが、最後はそのマジカルな強さを金網でも発揮して一本勝ち。同じシルビアに秒殺勝利を収めたヒョードルも凄いが、ノゲイラの相変わらずの名勝負製造機ぶりもさすがの一言。12.27『UFC.92』でのフランク・ミア戦に勝利すれば、来年はレスナーと真の王者決定戦が待っているノゲイラ。その先に見据えるのは“60億分の1の男”との金網での再会か?

天山広吉で振り返る2008

天山の“悲運劇場”が開幕!! GBHの創設者がアッサリ追放!?

すっかり“いい人”キャラが定着した天山も、1〜2年前までGBHを率いるヒールだったことを忘れてはならない。そんな天山、2月の両国大会で負傷欠場から4ヵ月ぶりに復帰! だが試合後にGBHに袋叩きにあってアッサリ追放! そもそも天山が「ヒールを徹底して極める」と立ち上げたユニットだったが、一番下っぱの石井智宏にまで「あんなヤツいらねぇんだよ!」と罵倒され、かつての師匠・蝶野には「進路をよく考えたほうがいい」と同情される始末。ズバリ言ってヒール軍団のリーダー失格なのは誰の目にも明らかなのだった。

青木真也で振り返る2008

勝利後に喜び勇んで向かった『富士そば』がまさかの正月休み!

大晦日は突如、対戦相手がJ.Z.カルバンからチョン・ブギョンに変わったり、テレビ中継の都合で試合順が変更になりいきなりメインを任されたりと、波乱続きだったワオ木さん。それでもチョン・ブギョンに勝利して激動の07年を締めくくった。その後『富士そば』で打ち上げをするプランを立てていたワオ木さんだが、喜び勇んで向かったはいいものの、『富士そば』は元旦から1月4日まで、まさかの正月休み! これが、まさに08年の青木真也を象徴するような出来事だったとは……。しかし、そんなことは本人もまだ知るよしもなかったのだった。

今期のトピックス3連発

①3 「死」をテーマにした『マッスル』に賛否両論!!

年頭から『マッスル』へ賛否両論が大爆発!! ストーリー上に『マッスル』のメンバー・726の愛妻の死というヘビーな現実を盛り込んで奮起をうながすというガチンコすぎる展開が、ネットなどで大論争、本誌でも緊急座談会を開く騒動に。08年は『めちゃ×2イケ』準レギュラー出演に、親知らずからバイ菌が入って緊急手術、映画監督に初挑戦し、『八百長★野郎』(小社刊)出版など、マッスル坂井の怒濤の1年を象徴するような幕開けであった。

①5 ベイダーが日本で緊急入院!! ドラゴンはコンニャク外交!!

ガンバッテー! あのビッグバン・ベイダーの来日20周年興行が新木場1stリングで実現! だが肝心のベイダーは前日のサイン会中の体調不良で緊急入院!! このサイン会、寒風吹く1月に水道橋プロレスショップ前の路上で開催していたというから驚くが、もっと凄いのは当日、ベイダーに花束を渡すために来場した我らがドラゴン。ベイダーが来場しないとわかると、さっさと帰宅したというから、そのコンニャクぶりは健在なのだった。

②16 アントン65歳の誕生祝いはやっぱりハプニング続出!!

元気があれば誕生日も祝える!! アントンの65歳のバースデー劇場が爆発したこの日のIGF。中国の毒入り餃子問題が加熱する最中、「これはよく見ると餃子です」と餃子型ケーキでお祝いするアントンギャグ! さらにお祝いに駆けつけた将軍〝KY〟若松を「リングに上がるタマじゃねぇんだ!」と一喝! 海賊男の扮装で祝福したボブ・オートン・ジュニアと木村健悟も「オメェらも呼んでねぇぞ!」と一刀両断する狂気っぷりに脱帽だ。

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

07年一発目のカミスペでは、秋山成勲に勝った三崎和雄が初登場初表紙。腕をぐるんぐるん回すという画の表紙で、当初は怒られるかなと思ったんですが、ビッグハートの三崎は編集の意図を理解してくれて、そのままGOとなりました。最近は何かと制約がある選手が多いですが、三崎選手は心が広いなあと実感した一冊。本誌は2号連続でミルコが表紙。しかもロゴの「o」の文字にかかった金村キンタローも2号連続。しかし、120号の表紙を入稿した直後に不祥事が発覚し、差し換えられるんだったら差し換えたかった表紙でした。

Special
08年SPRING
この表紙をきっかけに、ネイチャー・ジモンとの対談など、三崎和雄を通したライトな企画ができるようになりました。

No.119
08年1月号
ミルコが『ハッスル』に電撃参戦したことと、08年のマット界に期待する意味で表紙のコピーとかけてみました。

No.120
08年2月号
青木とチェ・ホンマンが表紙を飾るプランもありましたが、ミルコが日本のリングに戻ってくるということで連続表紙に。

マット界はみだし事件簿

▼1月6日 出産&子宮筋腫で長期欠場中の井上京子が電撃復活
▼1月27日 〝PRIDEの怪人〟百瀬博教氏が死去。浴槽内で意識を失なっている姿が発見された
▼1月31日 カシン早大大学院合格
▼2月29日 ミノワマン、キン肉マン生誕29周年イベントに出席

3月を振り返る！

DREAM、『戦極』が揃って旗揚げ！前田日明の『ジ・アウトサイダー』も誕生

マット界に二大イベント発足も〝嵐の船出〟で試練の旗揚げ戦に！

07年はPRIDEの動向が不明のまま1年の大半が過ぎ、結局は消滅してしまったことから格闘技界全体に沈滞ムードが漂っていた。その反動が大晦日に〝大連立〟を生むエネルギーになったわけだが、08年はその活力を元に、格闘技界復活をかけて大きなうねりが起きる年となった。とりわけ3月は、その象徴となる大イベントが相次いでスタートする、記念すべき月だった。

まずは前年中に発足会見を行なっていた『戦極』が、3月5日に国立代々木競技場第一体育館で旗揚げ。吉田秀彦vsジョシュ・バーネットの一戦をメインに、五味隆典、三崎和雄、藤田和之といった有名日本人選手が顔を揃えた。

藤田の秒殺、三崎のマイク、五味の復活劇的KOに沸いた中で迎えたメインは、ジョシュが吉田をバックドロップで投げるというド派手な展開となった。また、『機動戦士ガンダム』のシャア大佐役の声優・池田秀一氏がナレーターとして登場し、「まだ夢を見ているのか?」というDREAMを意識した煽りV（のちに國保広報はその意図を否定）など演出面も、ある意味話題を呼んだのだった。

10日後の15日にはさいたまスーパーアリーナでDREAMが第1回大会を開催。こちらは前年にPRIDEで行なわれるはずだったライト級GPを中心としたラインナップ。大連立効果でPRIDE勢と『HERO'S』勢の激突に注目が集まったが、メインの青木真也vsJZ・カルバン戦で、カルバンの偶発的なヒジ打ちにより青木が戦闘不能に陥りノーコンテストになるというまさかの結末を迎えることとなった。青木vsカルバンは07年『やれんのか！』で流れたカードだっただけに、ファンの落胆も激しかった。また、（総合では）ひさびさに日本マットを踏んだミルコ・クロコップの対戦相手が決まらず公募されるなど、カード編成が後手に回った感もあり、嵐の船出を余儀なくされた。

旗揚げ戦の試練を味わった両イベントだったが、それぞれニュースターも誕生。『戦極』では大舞台初登場の川村亮が奮闘し、DREAMではエディ・アルバレスという新星が誕生したことだ。とくにアルバレスはアンドレ・ジダを相手に壮絶な打撃戦を演じ、見事これを制したことで一躍注目の的になった。PRIDE〝消滅〟となった状況で、どちらのイベントにとっても「新しい価値観の創設」は急務であり、こうした新戦力の台頭は希望の光であった。

結果的にPRIDEファイターたちはDREAM、『戦極』、そしてUFCなどの米MMA団体と大きく3つの道に分散したが、何はともあれスケールの大きなメジャーイベントが国内に二つ発足したことで、日本格闘技界はまた勢いを取り戻そうとしていた。

DREAM、『戦極』が同時期に旗揚げに至った3月、PRIDEに参戦した選手をはじめ、どの選手がどっちのリングに上がるのかという選択に俄然注目が集まっていた。

話題賞 前田日明

ワルいヤツらが熱を生む ジ・アウトサイダー旗揚げ!

DREAM、『戦極』がそれぞれ旗揚げ戦を行なった3月、『HERO'S』スーパーバイザーを務めていた前田日明が新格闘技イベント『ジ・アウトサイダー』を旗揚げ。「来れ、未知なる強豪、そして磨かれよ我が戦いの場で。壮大な実験は再び始動する」と自身のホームページ上で高らかに宣言した前田日明の新プロジェクトは新生リングスでもスーパーUWFでもなく、全国の不良を集めたアマチュア大会だった(セミプロも何人か参戦)。前田は大会を通じて更生の道を用意し、その中で活躍した選手を将来的にはDREAMやUFCなどのメジャー団体へ送り込むと宣言していたが……、首を長くしてその日を待とう

今期の主役 エディ・アルバレス

スタンディングオベーションを呼ぶ 新時代のニュースター出現!

新しい舞台にはフレッシュな選手がよく似合う! これまで伝説のイベントMARSにシレッと参戦したのみだったアルバレスが、満を持してDREAMライト級GPという大舞台に登場。初戦で『HERO'S』ライト級GP準優勝者のジダを粉砕し、一躍トーナメントの台風の目に。その後もアルバレスはハンセン戦に川尻戦と、観るものの網膜に焼きつける死闘を展開! そして大晦日には青木との"ライト級2位決定戦"も実現。今年の最優秀外国人賞を授与したいくらいの活躍を見せた。来年には海外プロモーションとの契約も噂されているが、まだまだ日本で見たいファイターなのである。

天山広吉で振り返る2008

飯塚さん、ヘルプして!! 美しき友情タッグ結成!!

天山劇場、一気に急展開! GBH追放後、毎試合後にGBHにボコボコにされる日々。ここに救いの手を差し伸べたのが、当時はまだ"いい人"だった飯塚さん! 毎日のように身体を張った救出に入るも、天山は「なんでおまえに助けられなアカンねん!」「ウザい!」と口汚く罵倒三昧!! しかし、4度目の救出で心を動かされた天山が「一緒にやろうやないかい」「ヘルプして」と名言連発でついに友情タッグ結成! 天山の誕生日には「ハッピー・バースデー・トゥー・ユ～♪」と飯塚さん自ら歌声を響かせる美しき友情っぷり! だが、これは巨大な悲劇の幕開けだった……。

青木真也で振り返る2008

地上波デビューがまさかの没収試合 ワオ木さんの"居残り学習"スタート

DREAM発足会見の日、一番にJ.Z.カルバン戦が発表された青木真也。記念すべきDREAM旗揚げ戦でメインを張り、ついに念願の地上波デビューもはたして、ここで勝てば一躍上昇気流に! という場面だったが、一発目からまさかの没収試合。これによって、DREAMの奇数大会で開催されるライト級GPを、ワオ木さんだけ"居残り学習"的に一つ遅れで参戦することに。リング上で涙に暮れた青木だったが、不本意なかたちで試合が終わってしまい、これが08年"自称・DREAMの大黒柱"青木真也ストーリーの劇的な幕開けとなったのだった。

今期のトピックス3連発

3/22 サップにまさかの熱愛報道!? お相手はあの元アイドル!!

あの『東京スポーツ』がボブ・サップの熱愛騒動を報道!! 相手は元アイドルで女優のいとうまい子さんで六本木の喫茶店『アマンド』で、バナナジュースを飲みつつデートしていたというもの。大阪のテレビ番組で知り合った二人は電話番号を交換。英語も達者でサップのことを「ボブ」と呼ぶ年上のまい子さんにサップは夢中になって、熱烈なアプローチを展開したというが、『ハッスル』とも契約切れ、来日も途切れた野獣とは自然消滅?

3/29 最強のデブはDEEPが決める! メガトンGP開幕

最強のデブを決めたらええんや! とDEEPが史上初の重量級トーナメントを開催!! 開催会見では「カレーは飲み物」と大盛りカレーライスを爆食。二回戦前は特大ステーキをほおばりつつの異色会見! サンジャポファミリーの有山いいとも!!の参戦、実行委員会に日本最重量級ライター・橋本宗洋氏も参加という遊び心満載の大会となった。ちなみに大会終了後、その橋本氏は「お役御免」とばかり、岡田斗司夫ばりに急激なダイエットに成功!!

3/30 『ハッスル』vs『マッスル』 禁断の初対決の行方は?

『ハッスル』と『マッスル』が禁断の初対決!! 新宿フェイスで『吉本芸人プロレスGOKKO』が開催され、メインではHGとマッスル坂井というエース同士のシングルが実現! だが、試合は3カウント、ギブアップ、さらに「大喜利での3ポイント先取」という異色のミックスルール。なんとお笑いのセンスではレスラーのマッスル坂井が、プロレスセンスでは芸人のHGがリードすると、お互いの本職を凌駕する"ねじれ現象"が発生。

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

五味隆典が表紙の『戦極』速報号では、以前社会現象になった千石イエスをもじって「戦極、YES!」というコピーにしました。いろんな意味で怒られる心構えをしてたのですが、『戦極』関係者の方々もいいように解釈してくれてるようで、心が広いなあと思いました。121号は微妙な表情の青木真也。没収試合になったJ.Z.カルバン戦の再戦を後楽園ホールでワンマッチ興行としてやるという噂もあったため、それに乗ろうと思って青木を表紙に。結局『DREAM.2』での再戦となりましたが、ワンマッチ興行は観たかったなあ。

Special

08年LATESPRING

『戦極』旗揚げ戦で対戦相手を血まみれTKOにした五味。07年沈黙を保っていた五味だけにひさびさの勝利に爆発。

No.121

08年3月号

ホントは青木のインタビューが撮れるという前提で表紙の話を進めていたのですが、いろんなドタバタが重なり"破談"に!

マット界はみだし事件簿

- ▼3月1日 『UFC.82』でPRIDE王者ダン・ヘンダーソンとUFC王者アンデウソン・シウバが統一戦で激突
- ▼3月4日 『戦極』で対戦する藤田和之とピーター・グラハムが前日会見で一触即発
- ▼3月5日 『戦極』旗揚げ。五味隆典、ジョシュ・バーネット、藤田和之が揃って勝利
- ▼3月15日 『DREAM.1』開催。ライト級GP二回戦進出者6名が決定するも、青木真也vsJZ・カルバン戦が没収試合となり、再戦に。
- ▼3月19日 ゲーリー・ハート氏が死去
- ▼3月29日 DEEPが昼夜興行開催。メガトンGP開幕
- ▼3月30日 ジ・アウトサイダー旗揚げ

4月を振り返る!

格闘技界に10代の〝殺し〟が炸裂! 青木真也vsJZ・カルバン戦は終止符

HIROYA vs 藤門嘩裟に陶酔 K-1が開いた新たな門戸とは!?

K-1WGP、MAXに続くK-1の新たな柱として07年から始まりクローズアップされた新機軸、K-1 WORLD YOUTH。その一環として07年大晦日の『Dynamite!!』で企画されたのがK-1甲子園ワンデートーナメントだった。中でも目玉カードであり、結果的に〝幻〟と化していたHIROYA vs 藤門嘩裟の一戦が、4月のK-1MAX広島大会で実現した。

この一戦が発表された当時、両者のあいだには激しく火花が散っていた。仕掛けたのは藤のほうで、07年11月にキック王者となった藤はリング上でHIROYAに「絶対負けません!」と宣戦布告。「魔裟斗2世」として脚光を浴びていたHIROYAにライバル出現! として、各メディアも煽り立てた。

さらに藤が所属する藤ジムは魔裟斗が最初に入門して育った場所であり、師匠の加藤重夫会長は「素質では魔裟斗以上」と藤には自信満々で太鼓判を押していた。「魔裟斗2世」の座を巡っても、両者の因縁は深かったわけである。

試合が中止となった際には谷川EPが「2月のMAXででも、ワンマッチを組みたいなあ~」と発言したが、これにはHIROYAが「その時期はテスト期間なので、やれるかどうか……」と曖昧な返事。こうした経緯もあって、4月9日のK-1MAX広島大会で再び両者の激突が決まると、試合への期待感はさらに増すことになった。

両者のキャラクターが好対照な点も、この組み合わせが盛り上がった理由の一つだ。HIROYAがいわば「ユースらしい」さわやかキャラなのに対し、藤は何か思い詰めたようなストイック感を存分に発散する。そこに加藤会長の強烈なキャラも加わって、両者はお茶の間にも伝わりやすいコントラストを放っていた。

あとは二人がいい試合をするだけ……という状況だったが、ここでまた期待以上の大激戦を繰り広げてしまうのが彼らの恐ろしいところ。藤が代名詞とも言える前蹴りにこだわれば、HIROYAは鼻血を出しながらもそのスキを突いてパンチで崩しにかかる。試合は判定に終わったが、この日の観客に強烈なインパクトを残した熱闘だった。

さらに試合後も意地の張り合いを見せるなど、どこまでも緊張感漂う二人。ユースの時点でこれだけのものを見せてしまうのだから、今後に期待するのは当然。またこの一戦が、8月にスケールアップして、全国の高校生ファイターから出場者を選抜して開幕したK-1甲子園をさらにあと押ししたことは間違いない。いろいろと激動の日本格闘技界の中で、K-1甲子園はこうしたユース層に向けて新たな門戸を開くことになった。

「HIROYA選手の印象は?」などと質問された藤門嘩裟は何を聞かれても「ありません!」というコメントを連発! この殺気立った会見を繰り広げた二人を多くのファイターは見習うべきである!

話題賞 インリン・オブ・ジョイトイ

マット界関係者と結婚を発表 インリン様vsボノ戦で涙の引退

エイプリルフールに一部スポーツ紙でインリン様ことインリン・オブ・ジョイトイが元『ハッスル』社員の藤原勇人さんと結婚することが報道された。すぐさま高田総統などから祝福のメッセージが届くも、インリンは自身のブログで交際は認めたものの、結婚報道には激怒。舞台裏では何やらあったのか、この報道から数日後に行なわれた会見で引退を発表したインリン様は5.24『ハッスルエイド』でのモンスター・ボノ戦で『ハッスル』を卒業。同時にプロレス活動も休止し、以降はタレント活動に専念。その後、二人は9月29日に入籍。それぞれのブログで新婚生活が垣間見えます!!

今期の主役 ホナウド・ジャカレイ

『戦極』ポーズ、ついに撃沈か!? 「ワニ、ワニ」ブーム堂々到来!

DREAMミドル級GPにマニア待望の初来日をはたしたジャカレイ。一回戦では対戦相手がトリッグからマーフィーに直前で変更となるも、まったく寄せつけずに圧勝。GPは惜しくも準優勝となったが、下馬評どおりの実力にくわえて"褐色のサダハルンバ"とでも呼びたくなる風貌と愛敬のあるワニポーズで一気にブレイク! なおこのジャカレイ、大会前の減量に苦しんでいたムサシにサウナスーツを貸すなど非常にナイスガイ。いつか本誌でソクジュの「キリンは強いのか?」に続く「ワニは強いのか?」を企画して、ジャカレイの魅力に多面的に迫りたいものだ。3、2、1、ワニ、ワニ!

天山広吉で振り返る2008

「ハッピー」なのもつかの間、友情タッグは早くも空中分解!!

「みんなハッピーになってもええんちゃう?」。一見、絶好調の飯塚さんとの友情タッグで天山は、こんな名言も発するノリノリ状態。友情タッグTシャツもイベントで150枚以上を売り上げる大人気に! だが、そんな幸せもつかの間、4月27日大阪大会のIWGPタッグ戦で"それ"は起きた。試合中、飯塚さんがまさかの裏切り! わずか1ヵ月の蜜月でボコボコにされるという非道三昧。いまいち浸透しなかったGBHの新リーダー・真壁の「オイ、見たか? これが現実なんだよ!」も重々しく響きまくった。「よくも裏切ったな! 友情ちゃうんか?」と悲劇の天山劇場が開幕。

青木真也で振り返る2008

カルバン戦という長編ドラマ完結! 「闘う泣き虫王子」は回避?

07年末の『やれんのか!』での試合中止から続く長編ドラマになってしまったカルバンとの因縁に、ついに幕が下りた! 『HERO'S』ミドル級GPをぶっちぎりで二連覇をはたしたカルバン相手にグラウンドの波状攻撃を展開し続け、執念の判定勝利。3月に続いてまた試合後に泣くことになった青木だが、この涙は前回とはまったく意味合いの異なる純粋な嬉し泣きだ。だが、その後に本誌で実現した須藤元気との対談では、元気に「闘う泣き虫王子」というキャッチフレーズを提案されたが、さすがにこれは定着しなくて一安心です。

今期のトピックス3連発

4/6 ウワサの"第2後楽園ホール" JCBホールがお目見え!!

これが"第2後楽園ホール"だ! 後楽園内の新施設・JCBホールにZERO1・MAXが一番乗りでプロレスこけら落とし!! その目玉は新日本との全面対抗戦、そして謎の銀河系バンド"宇宙戦隊NOーZ"も登場。プロレスファンには違和感バリバリのコラボレーションとなった。ちなみにこの最新施設、使用料がネックなのかプロレスの頻度はそれほど高くはないのが現状。後楽園ホールの"聖地"の座はまだ揺らぎそうにない。

4/8 若林アナがプロレス参戦!? あの大仁田劇場が一時復活!!

元『全日本プロレス中継』キャスター・若林健治アナが日テレを退社してプロレス界に復帰! ここに絡んだのが同じくプロレス復帰を目論む大仁田。この日は、「プロレス体験してみろよ!」とプロレスデビューを薦めるも若林アナは「それは違う!」と否定。だが、「大仁田さんも身体を鍛えてください! だったら一緒にやる!」と大仁田次第でデビューを承諾。狂気の大仁田劇場が大復活! と思いきや、いつの間にやら立ち消えに……。

4/27 本屋で『本屋プロレス』旗揚げ! 路上でのジャーマンまで炸裂

前代未聞!! 本屋でのプロレスが実現! これは高木三四郎の自伝『俺たち文化系プロレスDDT』(太田出版)の出版記念と出版業界の活性化を兼ねて開催されたもの。会場の『伊野尾書店』には200人以上のファンが集結する大盛況! 高木は相手の飯伏幸太と、店内で激しいチョップ&エルボー合戦、高木はレジの上からフットスタンプ! 路上へと移動し、最後は飯伏が道路のド真ん中でジャーマンを爆発! 破天荒な展開が続出した。

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

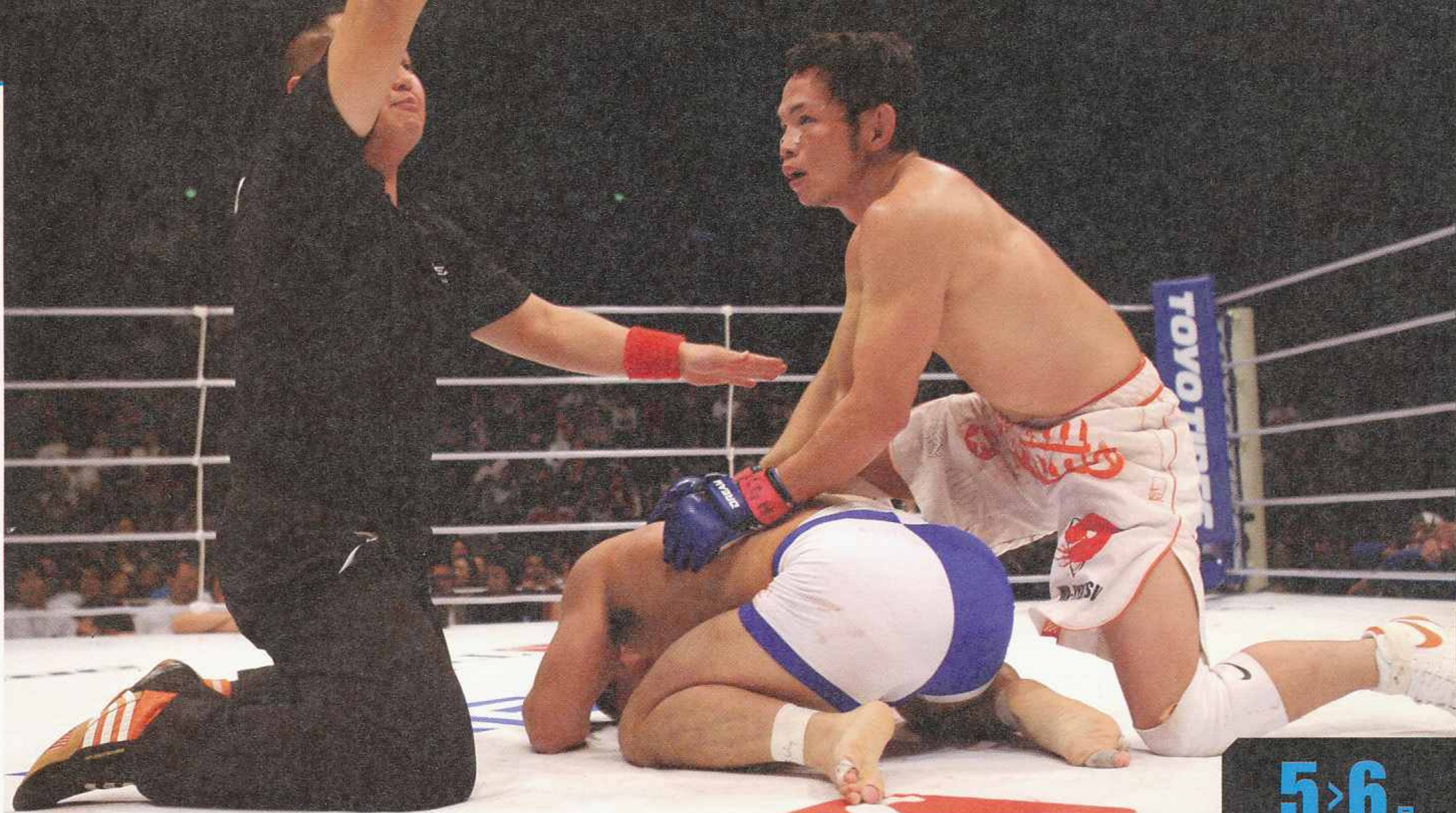
DREAMミドル級直前号の122号では、秋山成勲が当然トーナメントに出るだろうという前提で、そして笹原EPも「絶対に出ます!」と言ってたので表紙にしたんですが……。当初は一回戦でミノワマン、その後、イワン・マーフィーと対戦するという噂を聞いたので、「なんじゃそりゃ!」思っていたのですが、結果的にもっと「なんじゃそりゃ!」な事態が起こってしまいました。ちなみに、この表紙は秋山成勲のブログでも「自分が表紙になってました」と写メ付きで載ってました。訴えてこない秋山さんは心が広いなって思います。

No.122

08年4月号

表紙に使った秋山成勲のイラストですが、なぜか欠場した『DREAM・2』オープニングの煽りVにも使われています。

マット界はみだし事件簿

- ▼4月1日 インリン・オブ・ジョイトイ結婚発表
- ▼4月1日 桜庭和志がジム『Laughter7』をオープン
- ▼4月4日 宇野薫が主催者推薦枠でDREAMライト級GP二回戦からの出場が決定。石田光洋との対戦が発表されるも、石田は会見場にも来ていない宇野に対して怒り爆発。
- ▼4月12日 IGF大阪大会開催。小川直也vsトムコ、ジョシュ・バーネットvsザ・プレデターほか
- ▼4月19日 『UFC・83』マット・セラvsジョルジュ・サンピエール戦が行なわれ、サンピエールが衝撃のTKO勝ちを収め、UFCウェルター級暫定王者に君臨
- ▼4月21日 『DREAM・2』ミドル級GP一回戦に出場予定だった秋山成勲がケガのため欠場することが発表に
- ▼4月25日 トーナメントが予定されていたスマックガールが延期に
- ▼4月29日 『DREAM・2』開催

5>6月を振り返る！

DREAM、ようやくエンジンフル稼働！宇野薫vs石田光洋ほか名勝負続出！

ライト級ファイナリスト決定！PRIDE vs『HERO'S』白熱

3月の旗揚げ戦、4月の第2回大会とある意味〝助走〟状態だったDREAMに、ようやく勢いがつき始めた。矢継ぎ早な開催スケジュール（4・29『DREAM・2』と5・11『DREAM・3』なんて、中2週間足らず！）と、ライト級GPとミドル級GPを交互に行なうという急速な展開だったが、そうした過酷な状況を経ながらもイベントがプラスへと向かっていったのだから、勢いというものは恐ろしい。

まず、5月に開催された『DREAM・3』が炎上した中心にいたのは宇野薫だった。『HERO'S』ミドル級（体重区分はDREAMライト級と同じ70キロ）の中心選手だった宇野薫はGP一回戦をケガのため欠場し、主催者推薦というかたちで二回戦からシード参戦。

これに激しい怒りを表わしたのが、対戦相手の石田光洋と、盟友・川尻達也の二人だった。この図式はそのままPRIDE vs『HERO'S』の対立でもあり、シード問題については言及しなかった宇野も「『HERO'S』の代表として闘いたい」旨の発言をしたことから俄然そのアングルに注目が集まった。

当日は宇野が石田に貫禄の勝利。さらに川尻が宇野にケンカを売る場面もあり、この因縁は決勝トーナメントにつながった。そしてこの日のハイライトは、アルバレスとハンセンの一戦。観客が思わずスタンディングオベーションしてしまうほどの激闘を繰り広げた。

これらの闘いにより、DREAMは「夢の続き」ではなく、「新たな夢を提供する場」へと進化していった。続く『DREAM・4』ではミドル級二回戦で、ホナウド・ジャカレイとジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーがエクストリームな試合を展開。さらにメインではメルヴィン・マヌーフが桜庭和志を秒殺KOするという衝撃的な場面も見られた。こちらはライト級と対照的に、決勝トーナメント4人がすべて外国人となり、それも新時代の到来を感じさせた。

この過密な大会スケジュールの中、青木真也は初戦ノーコンテストの影響で「ほとんど別枠」と言っていい一大会遅れでの進行を余儀なくされながらも立て続けに強豪を破ってライト級GPを駆け上がり、それが結果的には08年のDREAM全体を貫く大きなテーマの一つとなっていった。とくにカルバンを撃破したあとに迎えた永田克彦戦で得意技のフットチョークを極めて見事な一本勝ちを収めたときには誰もがその強さに度肝を抜かれた。

一時はトーナメントそのものが混乱しかねない状況だったが、逆境をはねのけた青木自身の奮闘をはじめ、一連の流れが逆に話題を提供し続けることとなり、プラスの要因として転がっていったことがDREAMというイベントをより上に押し上げようとしていた。

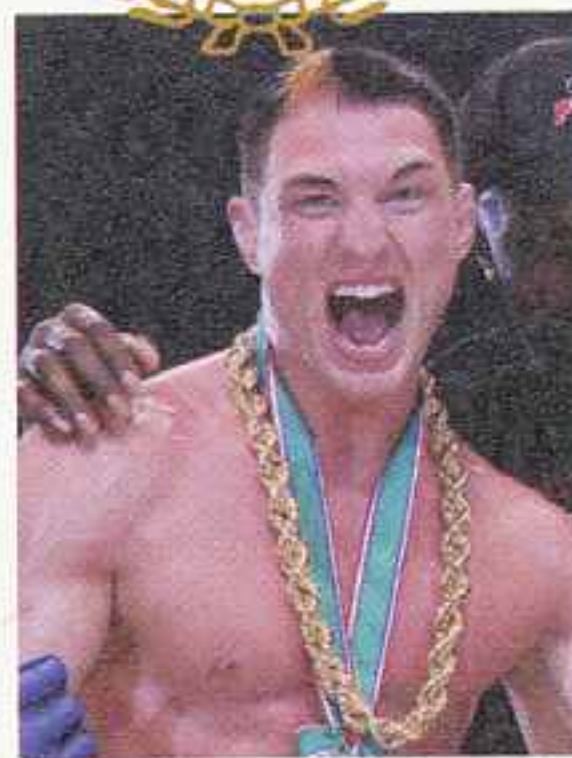
ミドル級GPファイナリストとなったのは外国人ファイター4人。マヌーフ戦での桜庭の敗戦は、さいたまスーパーアリーナのファンにいろんな意味で衝撃を与えた。

話題賞 キンボ・スライス

ネットの中のモンスター登場 アメリカでのMMA地上波放送!

UFCでもいまだ実現していないアメリカの4大ネットワークの一つCBSのゴールデンタイムで生中継されたのが"『YouTube』から飛び出した怪物"キンボ・スライス率いる『エリートXC』。現地時間の5月31日に行なわれたこの大会のメインに登場したキンボは日本でもおなじみのジェームス・トンプソンと対戦。キンボはガス欠気味になりながらもパンチの連打で逆転勝利。視聴率もまずまずの結果を残したが、その後、キンボは10月大会でセス・ペトルゼリに敗れた上に八百長疑惑まで持ち上がり、『エリートXC』自体も経営難で活動停止に。次にこのモンスターを狙うはサダハルンバか!?

今期の主役 ジェイソン・"メイヘム"・ミラー

チーム・クエストの底力!? 破天荒なバカ強キャラ飛来!

そのおバカキャラがすっかりファンに浸透した感のあるメイヘム。柴田戦での試合中のVサインなど、なんとも人を食ったパフォーマンスを見せつつも、どこかしら憎めないキャラが持ち味だ。ジャカレイとの寝業師対決では敗れはしたものの、ミドル級GP屈指の名勝負を展開。しかし、試合後には「とにかくオレがバカだった。こうやって償う!」と、マイクで自分の頭をゴンゴン叩きだすサイコっぷりを披露……どこまで本気なんだかよくわからないが、とにかくそのサービス精神旺盛なところはプロの一言。その存在自体が飛び道具なサイコスター、来年は何をやらかしてくれるのか?

天山広吉で振り返る2008

完全に四面楚歌の猛牛が、サスケと"だまされ王"対談!!

飯塚さんが丸坊主で極悪ヅラの大ヒール化! かたや"ダメ牛"状態の天山は新日本本隊やレジェンドにも罵倒される日々。長州が「アイツ(天山)ダメだよ! どうにかしろ!」と吐き捨てれば、蝶野も「どうしようもねぇ、オラ!」とダメ出し。ライガーも「あの不甲斐なさはなんだ?」と"怒りの獣神"化! そんな中、本誌では新日本プロレス学校の同窓生・サスケとの対談が実現! 二大"だまされ王"が「もうだまされないぞ!」と怪気炎を上げるも、サスケに外国為替取引を勧められ、またもだまされそうだったのだから、さすが天山である。

青木真也で振り返る2008

フットチョークで会場騒然! 世界でワオ木さん幻想が巨大化

『DREAM.3』のリング上では、次回大会で対戦する永田克彦とともにあいさつ。思えばこれが、今年唯一青木が出場しなかった大会だ。そして永田戦。硬いスタイルの永田さんに苦戦するのでは? という予想をものともせず、あっさり勝利! 青木の得意技という噂のフットチョークだが、この試合のフィニッシュによってあらためて認識され、UFCなど海外MMA界でも青木幻想は異様なまでに高まることになった。世界的に見ても特異な強さを誇る青木のスタイルに、俄然世界の注目が集まったという意味では、やはり価値ある連勝に。やったねワオ木さん!

今期のトピックス3連発

5/18 『戦極』ポーズがブレイクか!? ジョシュが率先して披露!

ホジャー・グレイシー初参戦という目玉以外は見どころが乏しかった『戦極～第二陣～』。そんな大会を締めたのが、メインで盟友ジェフ・モンソンを下したジョシュ・バーネットの戦極ポーズだった。本誌編集部・阿修羅チョロがインタビューに乗じて大会前にレクチャーしたのをそのままリング上で披露したのだ。中尾"KISS"芳広、北岡悟も巻き込んで最後には会場全体で「一、十、百、戦極! 戦極!」。チョロは恥ずかしさと申し訳なさで会場の片隅で隠れていたらしい。

6/5 チェ・ホンマン突如除隊! しかしサダハルンバは……

チェ・ホンマンは兵役のため4月20日に入隊するが、わずか3日で除隊され、5月28日には兵役免除の処分が下された。早くも6月10日には除隊の原因になった脳腫瘍の手術を受け、なんと9月27日のK—1 WORLD GPに出場。兵役免除で韓国内にはバッシングが渦巻いたが手術3ヵ月後にバダ・ハリからダウンを奪うなんて並みの人間には不可能! なのに12月には谷川EPからは「K—1クビ」という宣告(とMMA転向の指示)も……。

6/23 IGFにまさかの救世主! ネクロ・ブッチャー登場!

アメリカのインディー団体で活躍していたハゲでデブだが熱狂的なファンを持つ"ハードコア・ジーザス"ネクロ・ブッチャーが、サイモン猪木のブッキングでIGFに驚きの初参戦! 関係者からは"カタい"と評判のプレデターとのシングルマッチが6月23日IGF月寒大会で実現、壮絶な場外大乱闘で一部マニアは大絶賛の内容となったのだった。さらに、6月25日の函館大会では小川直也とタッグで対戦、フォール負けを喫するという結果に終わった。

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

カミスペ7月号の表紙はUFC移籍後初の劇的KO勝利を飾ったヴァンダレイ。これはいい表紙! コピーは桜庭和志に向けたメッセージになってますが、ヴァンダレイはプロレスラーですね。ちゃんとこちらが言ってほしいことをあうんの呼吸で理解してくれるファイターの一人だと思います。ヴァンダレイはショーグンがグリフィンに負けたとき、翌日に本誌の取材で「オレがグリフィンとやってやる!」と言ってくれたことも含めて。もちろん実力もなければ発言に重みがありませんが、そういう意味でもヴァンダレイはここ10年でも最もすぐれたプロレスラーの一人ですね。

Special 08年JUNE
正直、青木さんはJ.Z.カルバンに負けると思ってたんですけど、メチャクチャ強くてビックリ! 青木さんスミマセンでした。

No.123 08年5月号
じつはあるビッグ対談が実現しかけていたんですが、それが飛んだおかげで青木×元気という異色の対談表紙が実現!

Special 08年JULY
UFCのキース・ジャーディン戦で見事に完全復活を飾ったヴァンダレイ。マヌーフ戦を迎える桜庭に熱いエールを送った表紙に。

No.124 08年6月号
廃墟で撮影した一枚。オモプラッタをかけられているのは今成。今成のカッコイイ写真もいつか使いたいです。

マット界はみだし事件簿

▼5月15日 DEEP&ZST大連立宣言
▼6月28日 マサ斉藤、『ダン・ゲーブル&ルー・テーズ・レスリング・ミュージアム&インスティチュート』で行なわれたレスリングの殿堂入り式典で殿堂入り

7>8月を振り返る!

"60億分の1"ヒョードル幻想ゾッコー!DREAMライト級GPは壮絶な決勝大会に

元UFC王者シルビアを秒殺葬!あまりの強さにダナも感服!?

PRIDEファイターがこぞってUFCに参戦する中、そのトップに君臨していたヒョードルは沈黙を守った末に07年末、『やれんのか!』に参戦した。その後も(UFCとの交渉が決裂したこともあるが)ヒョードルは、日本のリングに上がる可能性を示唆し続けた。

『やれんのか!』の際にはヒョードルの方向性を決めるワジム・フィンケルシュタイン氏とアメリカのモンテ・コックス氏が手を取り合い、『M-1グローバル』として世界的な興行活動を開始する計画があきらかにされていたが、やがてワジム氏を中心とするロシアサイドとモンテ氏らアメリカサイドが決裂。モンテ氏らは「アドレナリン」という別ブランドのイベントを立ち上げることになり、一方で同じアメリカでは格闘技業界にも深いつながりを持っていたTシャツメーカー・アフリクションが格闘技イベントを計画。このため、同社はUFCでの選手へのスポンサー活動から締め出されることになった。

ここでつながったのが、UFCと契約条件で決裂して主戦場を探していたヒョードルサイド。『アフリクション』の潤沢な資金、"最強の男"ヒョードルという看板、そして「反UFC」という共通の目的。これらが一致したことで、ヒョードルは『アフリクション』を新たな戦場として選ぶことになった。

7月19日、カリフォルニア州アナハイムで行なわれた『アフリクション』旗揚げ大会にはアメリカでも有数の大富豪ドナルド・トランプ氏も協力。これだけのパワーが集結するのは、数年来のアメリカ国内でのMMAバブルが継続中であることが背景にある。UFCのダナ・ホワイトはたびに「Tシャツ屋に何ができる!」と、端から見たら異常と思えるほどの"口撃"を行なっていた。あのダナが意識するほど、『アフリクション』はUFCにとって脅威になりかねない存在だったわけだ。

当日、参戦が噂されたランディ・クートゥアー、ティト・オーティズらがリングサイドに陣取る中、メインに登場したヒョードルは圧倒的な強さで元UFC王者のティム・シルビアを秒殺!あらためて他を寄せつけないその実力を世界中に示してみせた。この結果により、あのダナもヒョードルの強さをちゃんと認めるようになり、また日本のファンはやっぱりヒョードルが最強であるという証明に強い安心感を抱いたのだった。

アンダーカードにもジョシュ・バーネット、ホジェリオ・ノゲイラらが並んだこの大会だが、イベント全体としては否定的な評価があるのも事実で、これで一気に「UFCを脅かす存在になった」というところまではいっていない。ダナは開催前から楽観視していたというが、10月に予定されていた第二回大会がさっそく09年1月に延期され、内紛の噂も絶えない。『DREAM・6』のリング上で日本のファンに挨拶したヒョードル、今後はどの道を進むのか?

ヒョードルの参戦をはじめ、何かとバブリーだったアフリクションの旗揚げ戦。イベントではメガデスの生歌が披露されるなど、"Tシャツ屋"の発想とブッキング力に脱帽!?

大森隆男

突然の「無期限欠場」に騒然 さまよう「一身上の都合」の"真実"

プロレス界屈指の"いい人"として知られる大森隆男が突如ZERO1・MAXを退団！ 8月26日に都内ファースト・オン・ステージ事務所にて行なわれた会見でフロントの中村祥之氏、大谷晋二郎社長とともに登場した大森は8月いっぱいでZERO1を退団することを発表し、理由に関しては「一身上の都合としか言いようがない」と語るのみ。本人いわく引退ではなく無期限の欠場ということだが、当然のようにファン・関係者のあいだでは「一身上の都合って何?」と話題持ちきりに。詳細は『kamipro.Move』で連載した『kamipro事件簿～大森隆男はなぜ姿を消したのか?～』をチェック!!

今期の主役

北岡悟

08年『戦極』で最も輝いた男！ "キモ強"キャラでついにブレイク

哀、震える～、哀～♪　今年、『戦極』のリングで大躍進をはたした選手といえば北岡でキマリ！ 『戦極』ライト級GPでクレイ・フレンチに戦慄の秒殺勝利を収めたのも見事だが、その試合前後の斬新すぎる自己陶酔パフォーマンスに目を付けた本誌は、「語ろう！ 北岡悟」座談会を敢行。さらには「北岡悟を優勝させる会」まで発足して、このキモ強ファイターを猛烈プッシュ！ その甲斐あってか(?)、ついにはGP優勝をはたした北岡。気持ちいいくらいに気持ち悪い自己愛のコンコンチキは、このままいったいどこまでつけ上がる……、否、駆け上るのか？ その動向からはますます目が離せない！

プロレスに友情はあったのか!? 最後の最後にコジが天山救出!!

天山広吉で振り返る2008

助けちゃうぞ、コノヤロー！ 最後の最後でコジがきた！ 7月の飯塚さんとのランバージャック決着戦、孤独な猛牛を救出したのは元祖パートナーの小島聡だった。この突然の救援に場内は大興奮！「友情！ 友情！」と史上初の「友情」コールまで爆発！ それでいてコジからは「もうちょっと、しっかりしようぜ！」とダメ出しされるからビバ天山なのだ。さらに、"真夏の祭典" G1でも天山のズンドコは終わらない。GBHには毎夜ごとに急襲されタンカで運ばれる日々。初戦以外は見事な全敗街道で最下位を独走だって!!

決勝戦の相手がエディからハンセンへ！ エディを粉砕した川尻に"苦情申し立て"

青木真也で振り返る2008

紆余曲折ありながらもたどり着いたライト級決勝トーナメント。準決勝の相手、宇野薫に激闘の末に判定勝ちし、いよいよ最終戦へ！ 決勝は川尻達也を下して勝ち上がってきたエディ・アルバレスのはずだったが……。なんと、ドクターストップにより急きょ元気ピンピンのリザーバー、ヨアキム・ハンセンに！ 宇野戦で体力を削られたワオ木さんは無念のKO負け。ワオ木さんにつきまとう波乱の運命は、こんなところでも発揮されてしまったのだった。ちなみに、アルバレスを粉砕しすぎた川尻に、あとでワオ木さんは"苦情申し立て"をしておりました。

7/6 ニセHGがプチブレイク！ 一部で"ホンモノ"疑惑!?

5月の『ハッスル・エイド2008』で川田にフォール負けを喫したHGのクローン・モンスター・ニセHGが誕生した。新宿二丁目を拠点とする某団体の"ガッチリ男気"なプロレスラーにそっくりなニセHGは本物以上の低音ボイスで「セイセイセイ～」「ニセですよ～」と観客にアピール。「本物以上に本物っぽい」と人気が爆発！ この選手のことをよく知る前出の某団体OBは「あいつは気持ちのいい男なんですよ」と証言！ ど、どういう意味？

7/14 須藤元気、結婚を発表！ 驚愕のプロポーズとは!?

7月14日に須藤元気が結婚を発表！ 昨年11月22日、すなわち「いい夫婦」の日に入籍していたことを発表した須藤元気。7歳年下の愛さんを伴なって記者会見に臨んだ。約3年の交際期間を経て結婚を決意した元気は、伊豆へ温泉旅行に行った際に「結婚してくだちゃい」と赤ちゃん言葉で求婚、めでたくゴールインをはたしたという。「できれば子どもはたくさんほしい」という元気。幸せいっぱいの記者会見の直後には披露宴も行なわれた。お幸せに！

8/28 小比類巻貴之が突然改名！ 「太信」になってリスタート

我らが"ミスター・ストイック"小比類巻貴之が、07年10月ヴァージル・カラコダにKO負けを喫して以来の復帰戦を前に改名を発表した。その名も小比類巻太信（たいしん）だ。「太い軸と信念をもって格闘技に取り組む」ということらしいのだが、改名後一発目の試合となった10月1日K－1 MAXのユーリ・メス戦では3分3ラウンドの試合で、3ラウンド2分59秒でKO負け。世代交代の波が押し寄せる中、コヒの奮闘は続く！

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

観戦できた人は少ないかもしれないですが、『アフリクション』でのエメリヤーエンコ・ヒョードルvsティム・シルビア戦は「これぞPRIDE！」という衝撃の一戦。表紙は『DREAM.5』とどっちにするかを悩んだんですが、PRIDEらしさという意味では"60億分の1"ヒョードルが見せつけた圧倒的な格闘技の素晴らしさに軍配！ リニューアル一発目の126号は所ジョージと所英男のW所が表紙に。この号から特集主義にリニューアル。1回目のテーマはアメリカ！ 所ジョージさんの事務所はホントにおもしろくてカッコよかったです。

No.125

08年7月号

『DREAM.5』直前号。これは年間最大イベントだったと思いますが、KIDが出てたらもっと盛り上がったでしょうね。残念。

Special

08年AUGUST

元UFC王者ティム・シルビアを秒殺したヒョードルに、あの"ジャイアン"ダナも感服。そのくらい衝撃的な一戦でした。

No.126

08年8月号

アメリカ特集号の表紙は、W所のほかに、なだぎ武×青木真也、小林よしのり×堀辺正史などのプランもありました。

▼7月5日　『UFC・86』クイントン"ランペイジ"ジャクソンvsフォレスト・グリフィン戦で、グリフィン王者に君臨

▼7月4日　WOWOWでのUFC放送再開が正式発表

▼8月16日　G1クライマックスで後藤洋央紀が優勝

9>10月を振り返る!

K—1MAX魔裟斗王者返り咲きで大爆発 『戦極』S4誕生で新たな盛り上がりへ!

トーナメント全試合延長ラウンド 白熱したK—1MAXの底力!

07年までは16選手によるトーナメントを二大会で争っていたMAX。優勝するには決勝大会で一日3試合を闘わねばならず、その過酷さに魔裟斗の口からも「来年からもうトーナメントは出ない」という言葉さえ聞かれるほどだった。また当然、勝ち上がるほど選手の消耗も激しく、試合内容にも影響が出てしまう。

そうした点を考慮し、今年からGPが3大会に分散され、ワンマッチ大会は廃止。より闘いやすくなった環境の中で、悲願の王座返り咲きを狙う魔裟斗は、4月の一回戦でヴァージル・カラコダを、7月の準々決勝ではドラゴを破り、順調にファイナルへと駒を進めていった。

例年なら「魔裟斗の優勝ロード」に最大のスポットライトが当たるところだが、今年はもう一つの要素が加わった。「日本人ナンバー2」の地位を確保した佐藤が魔裟斗戦を熱望し、対戦の機運が熱したことだ。

佐藤は4月の一回戦でムラット・ディレッキーを下した際にも魔裟斗への対戦要求をぶち上げたが、まだ時期尚早の感は否めなかった。だが、7月の準々決勝でブアカーオ・ポー・プラムックに見事なKO勝利を収めたことで機運が高まり、魔裟斗vs佐藤は大注目の一戦となったのだった。

試合までの流れが、さらにこの一戦を盛り上げた。リング上のマイクでは佐藤の挑戦表明に「ガチガチの殴り合いをしよう」と答えていた魔裟斗だったが、対戦決定後は「二度と起き上がれなくなるまで踏みつぶす」など、過激なコメントを連発。一方の佐藤も「完封しちゃうかも」と挑発的なコメントで応戦。試合への期待は、いい具合に温まっていった。

注目の一戦は緊張感みなぎる展開の中、3ラウンドに佐藤のパンチで魔裟斗がダウン！　劣勢を余儀なくされた魔裟斗だが、ラウンド後半に猛攻を見せて挽回し、本戦ドローに持ち込む。逆にその勢いを活かして延長ラウンドも制し、4ラウンドの激闘は魔裟斗に軍配!

もう一方の準決勝も延長に突入する激戦となったが、こちらは21歳(当時)の新鋭アルトゥール・キシェンコがアンディ・サワーを下して勝ち上がり。お互いがすでに4ラウンドを闘い、ボロボロの状態での決勝となった。

その決勝では2ラウンド、魔裟斗がキシェンコの右フックでダウン!　この日二度目のダウンでまたも窮地に立った魔裟斗だったが、ここでも驚異の粘りを見せてこの試合も延長ラウンドに突入！　3試合すべてが延長という異常事態に観客は熱狂。その熱にあと押しされるかのように二人は一歩も引かぬ攻防を展開したが、運命の判定は魔裟斗に!

立ち上げから一貫してMAXの世界を支え続けてきた魔裟斗の悲願の王座返り咲きは、これ以上ないハッピーエンドだった。この大会からラウンドごとに採点が公開される「オープンスコアリングシステム」が採用されていたこともあって、佐藤戦の判定には疑問の声が噴出したりもしたものの、魔裟斗の優勝はそれをも打ち消す値千金のラストでMAXは09年へとつながったのだった。

日本人ナンバー2から一気に魔裟斗越えを目指した佐藤だったが、魔裟斗の執念の闘いがそれを阻止。ジャンルを背負う魔裟斗の底力を見せつけられた一戦となった。

S4
足並みそろわぬコメントが魅力 08年ベストマイクはこの4人!?

9.28『戦極～第5陣～』の休憩明けにリングに上がったのがライト級GP準決勝進出を決めた北岡悟、光岡映二、横田一則、廣田瑞人の4選手。この4人を『戦極』では“戦極4人衆”略して“S4”として紹介するも、それぞれがバラバラのテンションで微妙なマイクパフォーマンスを敢行し、観客やPPV視聴者を戸惑わせる、ほろにがデビューに。10月からテレビ東京でスタートした『戦極G!』では、このS4を大フィーチャー。中でも、その“キモ強”っぷりでブレイクした北岡を猛烈プッシュするも、北岡本人は「一括りにされたくない」とGP優勝を決めると、さっさとS4から離脱宣言。今後はS3として活動!?

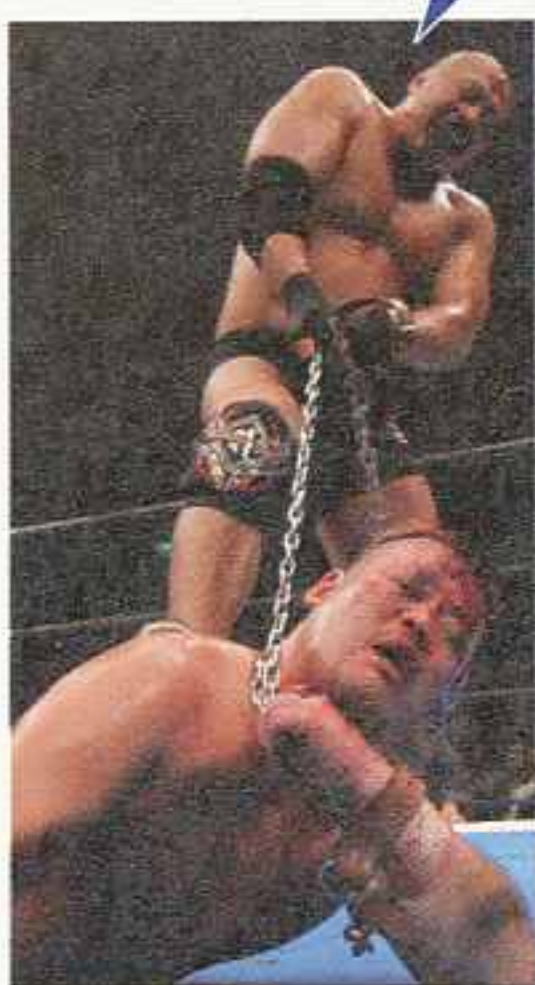
今期の主役

キング・モー
美女ダンサーとともに登場! 『戦極』にご機嫌な王様誕生

ソクジュやメイヘムなど、強烈な個性を持った実力者を擁するチーム・クエストからニューカマーが登場! トラビス・ビュー戦でのKO葬で鮮烈なMMAデビューを飾ったモーは、続くファビオ・シウバ戦も危なげなくTKO勝利。単なるイロモノではなく、全米レスリング選手権を3度制したポテンシャルの高さを見せつけた。須藤元気のパフォーマンスがお気に入りだというモーは、入場では王冠と赤マントをまとい“モー・クイーンズ”をはべらせながら陽気にダンス。男らしく男くさかった『戦極』に新しい風景をもたらしたのであった。しかしクエストには本当にパーティ・ピープルが多い。

天山広吉で振り返る2008

天山がヒール時代を反省三昧 チェーン地獄では大流血KO!!

本誌・ヒール特集で、“ヒールになりそこねた男”として登場した天山。「揃いも揃ってB型だった」と統率できなかったGBHへのグチを連発。狼群団時代には、ファンに「うるせー! コノヤロー!」と必要以上にヒールっぽく振る舞っていたら、蝶野に「そこまですんな!」と怒られていたことも判明。そして10月の両国大会では因縁の飯塚さんとのチェーンデスマッチが実現!「『YouTube』で世界のチェーンデスマッチを研究した」らしい飯塚さんと熾烈な大流血戦を展開! 亀甲縛り的なグルグル巻きにされたあげく壮絶なTKOと、見事すぎる負け様で評価を上げた。

ワオ木真也、DREAM皆勤賞! 桜庭和志と“大黒柱”対談も実現

今年に入って7ヵ月で5試合。しかも相手は、世界に名だたる強豪揃い。ライト級GPも終わったことだし、その2ヵ月後の『DREAM.6』、普通ここは休むでしょ! しかし、そこで出場を希望してしまうのが、自称・大黒柱のワオ木さんだ。よっ、この働き者! そうして急きょ出場が決まったトッド・ムーア戦では、もはや名物となったロングタイツを、“PRIDEの大黒柱”桜庭和志をイメージしたオレンジ色のデザインに。その縁もあって、本誌128号では二人の対談も実現! MMA支える二人のツーショットが表紙を飾ることになったのだった。

9/13 宮戸がIGFの現場部長に就任 仕掛け連発でIGFを改革

熱烈な“猪木信者”として知られる宮戸優光がアントンとついに合体! UWFスネークピット・ジャパンとIGFの業務提携により、宮戸がIGFの現場部長に就任! さっそく宮戸は元Uインターの高山善廣、金原弘光、松井大二郎を参戦させ、初代タイガーマスクvs藤波辰爾というなんとも昭和を感じさせるカードをマッチメイク。早くも“Uインターの頭脳”といわれた過激な仕掛けを展開し、IGFに活を入れた。

10/3 12年の歴史に終止符!! 格闘技情報番組『SRS』終了

10月3日には、12年の長きにわたって放送されてきた格闘技情報番組『SRS』の放送が終了した。最終回のゲストには、五味隆典、山本“KID”徳郁、宇野薫、ジョシュ・バーネット、佐藤ルミナ、武蔵、藤田和之、吉田秀彦、田村潔司、桜庭和志という豪華な顔ぶれが集結! この放送中に桜庭は田村にあらためて対戦を表明し、田村も承諾する構えを見せた。実際にこの1ヵ月後、なんとこの因縁のカードが決定したのだった!

10/24・25 前代未聞の両国3連戦敢行! 『プロレスエキスポ』開催!!

10月24&25日には『プロレスエキスポ』なるイベントが突如として両国大会を開催! 知名度のない新イベントの旗揚げが両国3連戦ということにも驚かされたが、開催直前で外国人6選手の欠場を発表しながらも強行開催した会場の客入りの寂しさは、某大御所プロレス記者をして「こんな両国見たことない」と言わしめた。大会後、主催者は「今後、日本でこのイベントを開くことは考えていない」とコメントしている。

編集長ジャン斉藤の マット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

秋山成勲表紙は「何がやりたいんだ、コラ!!」のコピー。柴田勝頼戦までは秋山はヒールとしては楽しめましたが、外岡戦を選んだあたりから楽しめなくなってきたので。格闘家は旬が短いですから何をやってもいいですが、プロだったら何かしら表現をしないといけない。秋山の場合はそこらへんがわかりづらいし、いまいち裏に何かがあるんじゃないかと思わせてしまう気がします。そういう意味でのこのコピー。128号では桜庭和志×青木真也のビッグ対談が実現。桜庭和志がまだギプスをしています。このときは大晦日には間に合わないというような話も。

No.127
08年9月号
亀田側に「またヒールで売り出そうとしてるのか」とクレームが入ったそうですが、このコピーでも怒らない亀田は心が広い!

Special
08年NOVEMBER
こんなコピーでも訴えてこない秋山成勲は心が広いなと思います。取材を受けてくれたらもっと心が広いと思います。

No.128
08年10月号
この二人に匹敵するビッグ対談もあったんですが、PRIDEには触りたくないという選手も多数いるんですよねえ。

- 9月20日　三崎和雄、石田光洋、ストライクフォース初参戦初勝利
- 9月22日　石井慧vsエメリヤーエンコ・ヒョードルの夢の顔合わせが中止に
- 9月14日　パコージン氏、墜落事故で死去
- 10月18日　『UFC・89』郷野聡寛敗戦も、入場でブレイク

11>12月を振り返る！

5年越しで桜庭和志vs田村潔司決定！秋山成勲『Dynamite!!』衝撃欠場

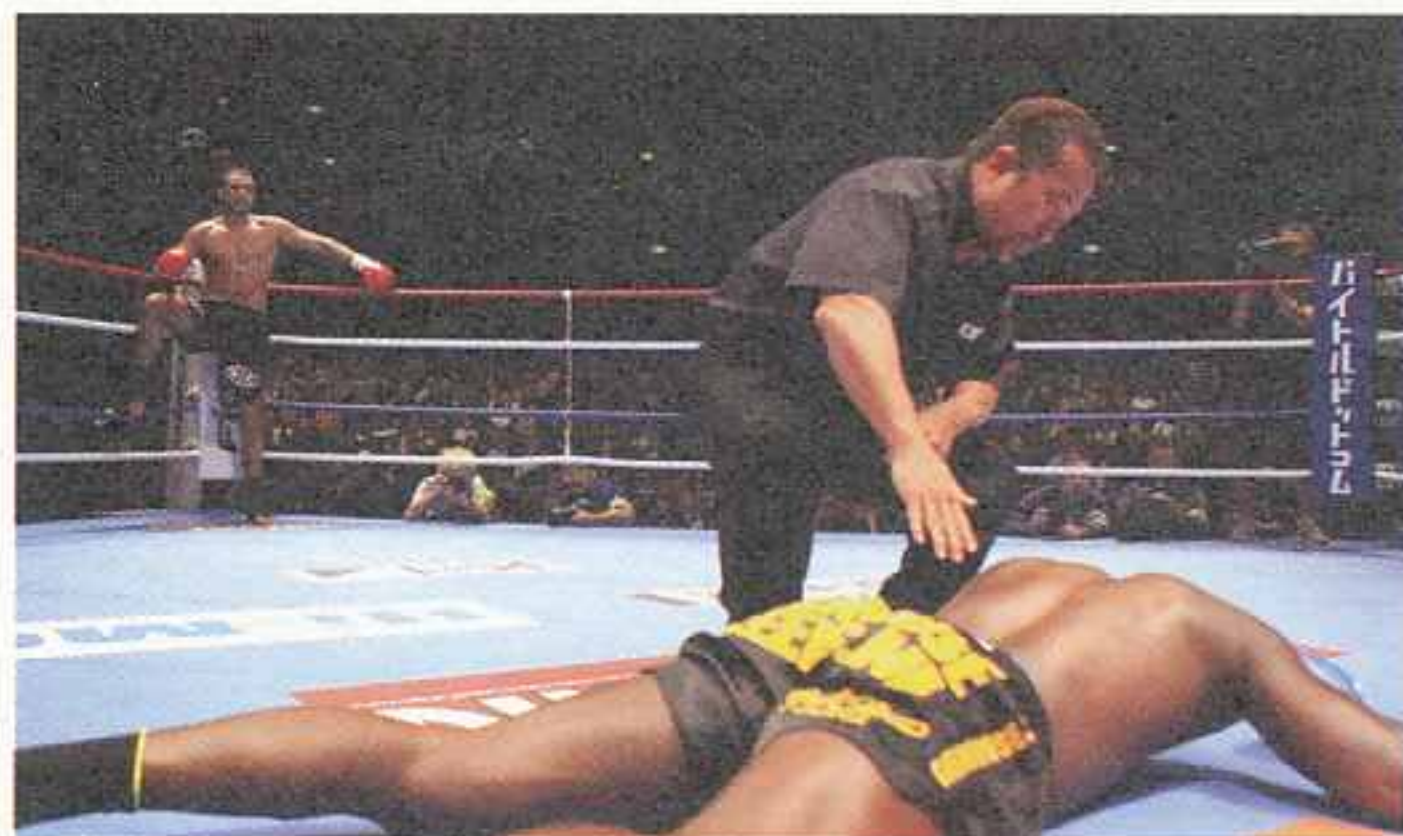
夢のカード発表の裏で欠場者多数 年末年始興行のドタバタ劇！

08年も、11月下旬あたりから大晦日の話題一色になってきた。立ち技とMMAを分けて開催、いやさいたまで二部制……とさまざまなプランが囁かれていた今年の『Dynamite!!』だが、最終的にはさいたまで試合数を増やしての開催に落ち着いた。さいたまでの開催が正式にアナウンスされたのは9・23『DREAM・6』の会場で、10月18日には赤坂サカスで選手参加の公開記者会見が行なわれた。

続いて11月12日に発表された桜庭和志vs田村潔司の一戦はUWFからPRIDEまでのファンが待ちに待っていたものとあって話題を集めただけでなく、桜庭が「できれば時間無制限、素手で闘いたい」と仰天のルール変更要求。かと思えばのちにはそれを拒否した田村のほうが「3本勝負で闘いたい」と逆提案するなど話題が膨らみ、対戦前からこの試合は単なる〝懐メロマッチ〟とはほど遠い緊張感を醸し出していった。

一方でカードが決まらないまま、そのラインナップから外れたのが〝魔王〟秋山成勲だった。秋山は9月の『DREAM・6』の試合後、リング上でいきなり吉田秀彦に挑戦状。その後の会見で闘う場所について「どこでもいい」と発言して物議を醸した。さらに同じ9月のリング上では青木真也が秋山に宣戦布告。その後、主催者サイドは秋山vs青木の実現に向けて交渉していることを明らかにしたが、最終的に青木の対戦相手はエディ・アルバレスに決定し、秋山は『Dynamite!!』自体に出場しない旨が発表された。

秋山に関しては「青木戦について、とんでもない要求を突きつけてきた」「ほかの対戦候補もことごとくはねのけた」など、さまざまな噂が流れたが、12月11日の会見で谷川EPは「自分が考えていることと、ファンや我々が考えていることとギャップがあるんじゃないですか。一番大事なのはファンが何を観たいか。正直言って出てもらいたかった」と、失望感を隠せないコメントを残した。さっそく『戦極』参戦の噂も流れている秋山は、いったいどこへ行くのだろうか？

そして年末も大詰めになって、『Dynamite!!』ではキン肉万太郎vsボブ・サップという、大晦日の不可欠要素である〝お茶の間〟へのアピールを伴なった仰天カードも決定！　裏番組で放送された『ハッスルマニア』（開催は30日）では泰葉の参戦がワイドショーなどでも話題となり、年明けの1月4日にはノア、全日本プロレスも参戦してオールスター戦の様相を呈する新日本の東京ドーム大会と、五味隆典vs北岡悟が話題を集める『戦極の乱』さいたまスーパーアリーナ大会が同日開催、おまけに年末には、アメリカでUFCもビッグマッチを開催。ここ数年、大晦日の視聴率戦争がメインの話題だったマット界は、さらに群雄割拠となって年末年始の興行戦争へと発展していったのだった。

12.6K-1WGPの決勝戦ではレミー・ボンヤスキー相手にバダ・ハリが踏みつけ攻撃を行なうという反則行為が勃発。バダ・ハリの出場or欠場を含め、この一件もまた大晦日のカード編成を混乱させた。

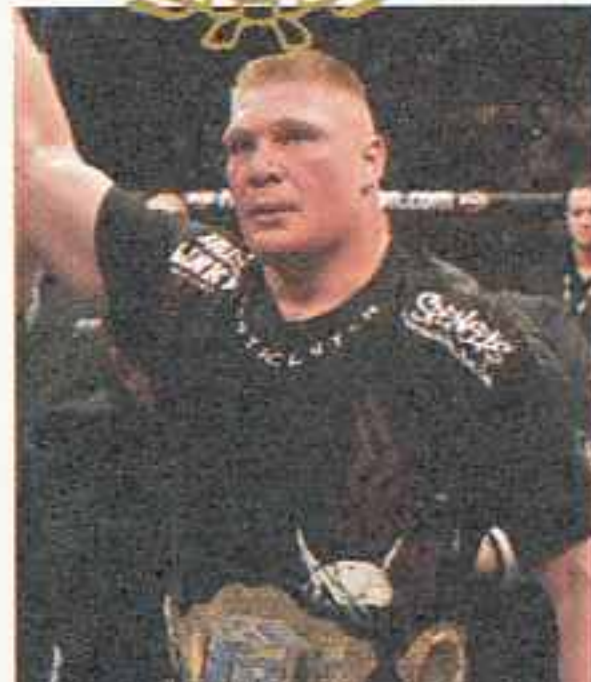
石井慧

プロ転向発表後にドタバタ!?
最終的に選んだ道はUFCだった

北京五輪で柔道金メダリストを獲得しながら、早くからプロ転向が噂されていた石井慧。9月には憧れのヒョードルとの顔合わせのチャンスが諸事情により消滅。10月に入ってからもプロに転向する・しないで連日のようにスポーツ新聞を賑わせていたが、10月31日に強化指定選手辞退届を全柔連に提出。これが受理され、石井のプロ転向が本決まりに。11月3日の会見で総合格闘家への転身を正式に発表した石井はDREAMへの参戦が有力視される中、先輩の澤田敦士の応援でIGFのリングにも登場。なんらかのかたちで『Dynamite!!』への登場も期待されたが、結局、石井が選択したのはUFCだった。

今期の主役

ブロック・レスナー

これぞ理想のプロレスラー!
UFCヘビー級王座に君臨!

このご時世にプロレスラー最強幻想が復活!? 元WWEヘビー級王者のレスナーが、"オクタゴンの象徴" クートゥアーを下してUFCヘビー級王座を獲得するとは、誰が予測できただろうか。レスナーはMMAデビュー戦のミアにこそ逆転負けを喫したものの、続くヒーリング戦はアメコミのヒーローばりのラッシングパワーで完勝! その潜在能力とふてぶてしいパフォーマンスに商品価値を見出したダナは、迷うことなくレスナーをクートゥアーのUFC復帰戦の舞台に大抜擢。そしてレスナーはまさかの大番狂わせを展開、金網の新しい夜明けを見せたのであった。プロレスラーは強いんです!

天山広吉で振り返る2008

天コジタッグの人気急上昇!!
プロレス大賞はなぜ穫れない?

天コジ人気が止まらない! いつの間にやら人気爆発の天コジタッグ。まずは新日本の『G1タッグリーグ』を制覇して「感動した。最高に感動した!」と天山は涙ながらにコメント。その勢いのまま、今度は全日本プロレスの世界最強タッグも優勝と大車輪の活躍ぶり! ただここで今年の幸運を使いきったのか、『東京スポーツ』制定の最優秀タッグチーム賞は、なぜか太陽ケア&鈴木みのる組に奪われるという不可解な事態が勃発!「賞狙いのタッグ結成」という意味不明の意見もあったようだが、結局は完全に「ハッピーにはなれんかった」天山だった。

青木真也で振り返る2008

タイから帰国後、秋山戦が"破談"に
大晦日はアルバレス戦が決定!

DREAMが一段落ついたワオ木さんは、11月の頭あたりにムエタイ修行のためタイへ出発。タイの高校に通うHIROYAくんと対談したり、ラジャダムナンを観に行ったりと充実した日々を過ごし帰国したが……。対戦表明していた秋山成勲戦は、秋山の黒の駆け引きにより"破談"に。これに呆れかえったワオ木さん、「マイケルはもういい」とキッパリ。その代わりとしては、こちらもあまりにもハードすぎる一戦、エディ・アルバレス戦が決定した! 大晦日の相手としては闘うのも観るのも体力を使う相手だが、これが08年ワオ木さんの運命なのであった。

11/8・16 女子格新団体が続々旗揚げ! 佐伯vs久保代表の抗争も激化

スマックガールの崩壊により、ジョシカクの未来が心配されていたが、11月8日にはGCMが『ヴァルキリー』を、一週間後にはDEEP後援の『ジュエルス』が旗揚げし、ジョシカク復活のノロシを上げた。しかし、本誌で「アイツにだまされた、ブタ!」(GCM久保豊喜社長)「石頭、ホントに潰すよ!」(DEEP佐伯繁代表)と、口汚く罵り合っていた両者のライバル関係と抗争はさらに激化したのだった。

11/12 サップが韓国でMMAマッチ? 53歳のプロレスラーに敗退

ボブ・サップが韓国で53歳のレスラーにMMAマッチで敗退! 韓国でプロレスをするつもりで韓国プロレス連盟の会見に参加したサップだが、大木金太郎の弟子、イ・ワンピョはMMAマッチを要求し、サップの顔面にビンタ! 激怒したサップは乱闘の末にこの要求を受諾。試合は一進一退の攻防の末にワンピョが腕十字で一本勝ち。だが、当然のことながら、このできすぎた試合に「八百長だろ」という批判が殺到した。

12/17 プロレス大賞の新人賞に澤田! 石井慧が来場し、話題を独占

毎年、波乱を呼ぶ『東京スポーツ プロレス大賞』。今年の話題は、ズバリ「なぜ新人賞がIGFの澤田敦士なのか?」だ。澤田と懇意の北京五輪柔道金メダリストの石井慧が来場し、話題を独占したのを見ると、澤田の受賞は"石井の来場込み"であることはあきらかだが、石井が「受賞は澤田さんの実力だと思います」と持ち上げると、澤田は鼻息荒く「来年はIGFのベルトを狙う」と言い放ったのだった。頼もしいぜ!

編集長ジャン斉藤のマット界の一歩先行く!? 『kamipro』表紙の裏話

テレビ特集号の129号では、ある大物選手を表紙にというプランがあったんですが、「プロレスは嫌い」ということでアウト。やっぱりいまの時代、プロレスは生きづらいジャンルだなと実感しました。なんだと思われてるんだ、いったい(笑)。次の候補はUFCの経営危機を掘り下げる意味でヴァンダレイ・シウバだったんですが、締め切り直前に桜庭vs田村が発表されたので急きょ差し替え! 大晦日直前号は、今年一年を通してハッスルしてきた青木さん。「俺がハッスルだぁ!」とナットーマン(元・坂田亘)ばりに叫んでほしいと思います。

No.129

08年11月号

桜庭vs田村が決まったことで急きょ表紙に。UFC→PRIDEをいい意味で解釈してほしいと望んでこのコピーに。

No.130

08年12月号

じつは朝青龍vsミルコが『Dynamite!!』で実現するという噂もあったのでこっそりそれで動いてたりも。

- ▼11月1日 『戦極～第六陣～』ライト&ミドル級GPは北岡悟、ジョルジュ・サンチアゴが優勝
- ▼11月6日 亀田大毅が復帰戦KO勝利
- ▼11月8日 女子格闘技イベント『ヴァルキリー』旗揚げ
- ▼11月12日 ボブ・サップがイ・ワンピョに敗戦を喫する
- ▼11月13日 須藤元気、拓殖大学レスリング部の監督へ
- ▼11月21日 クートゥアー夫人がストライクフォースでデビュー&勝利
- ▼11月24日 IGFに藤波辰爾が参戦
- ▼12月27日 『UFC・92』ヴァンダレイ・シウバvsクイントン"ランペイジ"ジャクソン戦

kamipro Award

2008年MVPはあの男!

集計結果は1月22日(木)発売予定のkamipro 131にて堂々発表!

08年上半期の結果はコチラ!

1位 ベストバウト
エディ・アルバレス vs ヨアキム・ハンセン
(5.11『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ)

1位 ベスト興行
5.11『DREAM.3』
さいたまスーパーアリーナ

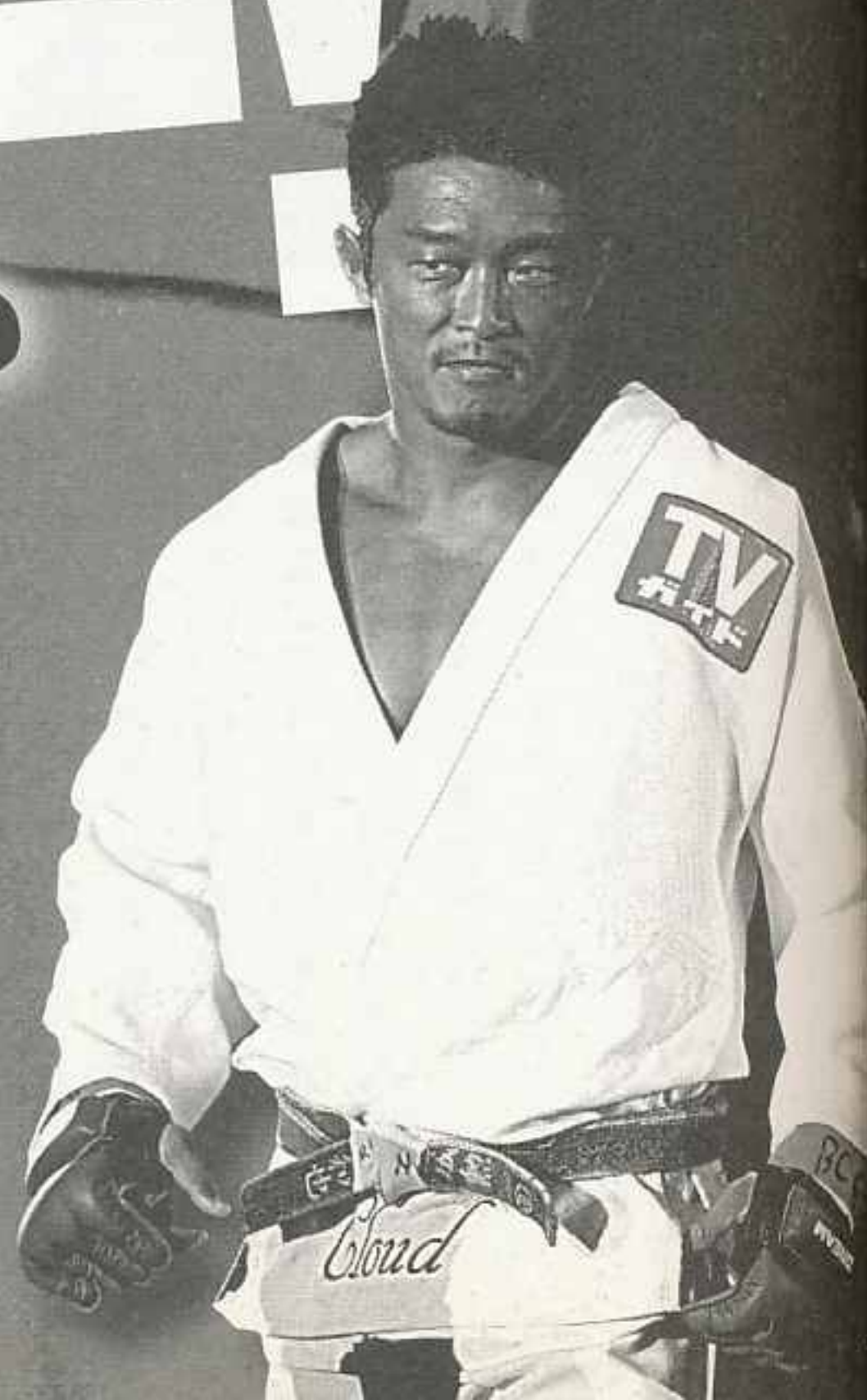
1位 MVP
青木真也

2位 = 宇野薫
3位 = ジェイソン・"メイヘム"・ミラー
4位 = 佐藤大輔
5位 = エディ・アルバレス

石井慧プロ転向を機に
いま一度〝柔道〟を考える

柔道再考

サイコー!

石井慧のプロ転向騒動により、何かと注目を集めている柔道界。
古くは木村政彦、坂口征二、ウィリエム・ルスカ、ここ数年でも小川直也、吉田秀彦など、
多くの五輪メダリストやビッグネームがプロの世界へ転向をはたしているが、
石井同様、柔道界となんらかの軋轢が生じるケースがほとんどだ。
はたして、秋山成勲がシャウトするように"柔道はサイコー!"なのか?
今回の特集では、柔道に対して一家言持つ識者に、それぞれの"柔道論"を語ってもらった。

石井慧 プロ転向騒動を斬る

ここがヘンだよ日本柔道界

「石井の流出を柔道界は反省しなきゃいけないけど、講道館の思想的帰結とも言えます」

『1976年のアントニオ猪木』著者

柳澤健

今回の柔道特集で最初に登場するのが昨年出版された『1976年のアントニオ猪木』(文藝春秋)にて、石井慧同様、金メダルを獲得後、プロに転向したウィリエム・ルスカ周辺を現地で徹底取材している柳澤健氏だ。当時とは状況も環境も違うが、講道館を設立した嘉納治五郎から高専柔道をはじめ、日本柔道界の歴史にも詳しい柳澤氏に石井のプロ転向の裏側を語ってもらった。柔道は最高なのか!?

聞き手／堀江ガンツ　年表協力／柳澤健

——柔道金メダリストの石井慧選手のプロ転向が決まったということで、『1976年のアントニオ猪木』での取材を通じて、同じ柔道金メダリストのウィリエム・ルスカのプロ転向事情に詳しい柳澤さんに、いろいろとうかがっていこうと思います。

柳澤　でもね、石井に関して言うと、吉田(秀彦)とかとは比較になるけど、ルスカとは比較にならないと思う。どうしてかというと、ルスカはプロレスだから。だって石井はこれからガチをやらなきゃいけないわけでしょ? やっぱりプロレスに行って過去の栄光を食い潰しながら生きていく覚悟をしたルスカと、21歳でこれから世界一強い男になろうと思う石井とは、ちょっと比べられないんじゃないかな。

——確かに意味合いは違ってくるでしょうね。

柳澤　でも、私はこれまでルスカだけじゃなく、柔道の歴史っていうものをいろいろ調べてきたんで、そういうお話はできると思う。日本の柔道界の歴史をたどることによって、今回の石井のプロ転向の意味もわかってくる部分があると思うので。

——では、そのへんの日本柔道界の歴史的な部分も教えていただければ、と。まず最初に石井慧のプロ転向を聞いたときはどう感じました?

柳澤　もったいない話だなと思ったよ。いまの柔道界って、石井ぐらい凄い素材はそういるわけじゃないしね。石井も知らん顔して柔道の練習やって、ときどき総合の練習やって、ロンドン(オリンピック)でうまくいってもいかなくても、そのあとや

ルスカと石井は比べられない。石井はガチをやるわけだから

れば全然問題なかったと思う。

――結果的に石井選手は柔道を辞めて、総合格闘技に専念することになったわけですけど。

柳澤　石井っていうのは結局、私の本で書いた（モハメド・）アリみたいに、おもしろい話題を提供しようと思っていろんなこと言ってるわけじゃないですか。21歳の子どもが一生懸命話題を提供しようと思ってやってるのに、いちいち目くじら立てて本気にして怒って追放してしまう。……半ば追放ですよね。あまりにも大人げないというか。

――全柔連（全日本柔道連盟）の対応が大人げない、と？

柳澤　それは感じましたね。日本の柔道界にとって非常に惜しいことをしたっていうのが第一印象ですよね。だって、石井が子どもっぽいのはしょうがないですよ。いまの21歳なんて、まだ子どもでしょ？

――まあ、そうですよね。

柳澤　でも、これは言っておきたいんだけど、柔道っていうのはもともとそういうところでもあるんだよね。

――といいますと？

柳澤　講道館の初代館長は嘉納治五郎ですけど、みんなあんまり言わないけど、嘉納治五郎は東京高等師範学校（現・筑波大学）の校長を20年やった人なんです。要するに教育大学の教育者なわけ。

――嘉納治五郎といえば〝柔道の父〟として有名ですけど、教育者としての顔も持っていた、と。

柳澤　柔道っていうのは要するに教育の一環として存在する、と。よく彼は「精力善用、自他共栄」って言ってたんだけど、結局、教育的なのね。だから石井慧を考えるにあたって、重要なのが講道館だと思う。

――講道館といえば、都内文京区春日にある柔道の総本山ですよね。

柳澤　そう。で、講道館についてわかっておかなきゃいけないのは、何よりもまず教師養成機関だってこと。プロレス好きの人もわかってる人は多いと思うんだけど、嘉納治五郎以前にも柔術はあったし、嘉納治五郎って人は、起倒流（きとうりゅう。江戸時代初期に開かれた柔術の流派）と天神真楊流（てんじんしんようりゅう。磯又右衛門正足が開いた柔術の流派。起倒流とともに講道館柔道の基盤となった流派として知られる）っていうのがあるんだけど、その両方を学んで講道館流を開いたの。嘉納治五郎が柔術とか始めたのってまだ明治11年あたりで、講道館を始めた翌年とかに廃刀令で刀が廃止される。そんな時代なんですよ。

――まだお侍さんがいた頃ですね。

柳澤　そうそう。で、榊原鍵吉っていう有名な幕末の剣術家なんかは廃刀令でいきなり職がなくなるわけ。だからどうするかっていうと、河原でプロ剣道を始めるんですよ。

――プロ剣道ですか！

柳澤　で、柔術家は柔術家でやっぱり見世物を始めるの。だけど、嘉納治五郎が始めた講道館っていうところは「あんな見世物にしちゃいけない」って最初からプロ否定で始まってる。プロを否定して、じゃあどうやって食べてくかっていうと、柔道教師として食っていくわけだよね。

――柔道の先生ですね。

柳澤　そうだね。そういう柔道教師からずっと、山下（泰裕）から斉藤（仁）からいまの篠原（信一）に至るまでずっとつながってるわけ、その道は。それで結局、小川（直也）だとか吉田（秀彦）とか坂口（征二）さんが選択した道っていうのは要するに柔術家のほうからつながってる。だから最初から相性が悪いんです。

柳澤氏の単行本デビュー作となった『1976年のアントニオ猪木』では猪木が1976年に行なったルスカ、アリ、ソンナン、ペールワンとの4試合をクローズアップし、オランダやパキスタン等で現地取材を敢行し、当事者からさまざまな新証言を引き出している。必見です！

――石井選手に限らず、プロ転向というだけで日本柔道界にとってあまりおもしろくない存在なわけですね。

柳澤　そういうことです。そういう意味でも、柔道の総本山と言われる講道館の成り立ちを考えないと日本の柔道界って理解できないと思う。

――なぜプロになるのが問題なのかがわからない、と。

柳澤　そうなんです。嘉納治五郎って人は初代のIOC（国際オリンピック委員会）委員でもあったんだけど、エジプトのカイロで会議があって、そこから船で帰ってくる途中に亡くなったんですよ。要するに命を懸けて1940年に東京オリンピックを招致したのは初代IOC委員にして初代日本体育協会の会長でもあった嘉納治五郎であった、と。

――柔道だけじゃなく、体育全体の会長だったわけですか。

柳澤　そうだね。で、大きく分けると戦前の柔道っていうのは二つあったの。教育界の大御所にのし上がっていく嘉納治五郎が、柔術という打ち捨てられたものに手を出して教育的な講道館柔道を作ることになるんだけど、当時の嘉納治五郎の周りには落ちぶれた柔術家がいっぱいいたわけよ。そうするとどうなるか。長いものには巻かれろと「講道館の人に、なんとかウチの道場を継いでもらえないか」っていう柔術家が出てきた。でも、一方では「ふざけんじゃねえ、俺は講道館に挑戦する」ってヤツもいるわけよ。その代表が不遷流柔術の田辺又右衛門って人で。

――柔道黎明期はそんな闘いがあった、と。

柳澤　それで闘うことになるんだけど、やっぱり講道館柔道の連中は寝技で敵わない。要は柔術家と柔道家がサブミッション・レスリングをやるみたいなもんだから、いくらやっても柔術家が勝つわけ。だけど講道館の歴史にはそんなことは書いてない。だからどうなるかっていうと『姿三四郎』みたいなことになるわけよ。

――それはどういうことですか？

柳澤　富田常雄っていう『姿三四郎』を書いた人は、富田常次郎っていう嘉納治五郎の第一号のお弟子さんの息子なの。要するに『姿三四郎』っていうのは講道館のオフィシャルストーリーなんですよ。

――なるほど！

柳澤　だからデカくて悪い柔術家を小さくてカッコいい姿三四郎が投げ飛ばすというのが講道館のオフィシャルストーリーなんだけど、それは言ってみれば『空手バカ一代』みたいなもんなわけ。

――『空手バカ一代』は極真のオフィシャルストーリーとも言えますからね。ある種、聖書的な神話の世界というか。

柳澤　そうでしょ。たぶん『空手バカ一代』で梶原一騎は『姿三四郎』を凄く参考にしたと思うんだけど、逆に言えば、日本の柔道にあるのは講道館のオフィシャルストーリーだけで、ほかの目線はないわけ。『猪木寛至自伝』だけがあって、外側から見た視点がないのと同じ。

――その猪木さんのオフィシャルストーリーを検証したのが柳澤さんが出された『1976年のアントニオ猪木』なわけですよね。

柳澤　そういうことです。講道館の歴史イコール、柔道、柔術の歴史じゃないんです。だからオフィシャルストーリーだけを信じて、そのほかのことを検証する人がいなければ、わかるものもわからなくなる。

――オフィシャルストーリーには記

されていないもめごとがたくさんあった、と？

柳澤　そうそう。実際のところ、田辺又右衛門は講道館の猛者たちを次々と足関節でやっつけちゃうんだよ。当時の皇太子、のちの大正天皇が観てた闘いもあったんだけど、そこでも足関節でグキッてやって田辺又右衛門が勝つの。

——講道館では足関節はそれほどやっていなかったわけですね。

柳澤　そう。それを観て「こんな危ないものは禁止しよう！」って言ったのが嘉納先生。

——自分たちが有利になるようにルール変更ですか（笑）。

柳澤　だから講道館っていうのは基本的には自分に都合が悪いものは次々に禁止していった団体でもある。足掴み、ヒザ十字、三角絞めから、山下泰裕がケガしたカニばさみに至るまで。それは歴史的事実です。

——逆に言うと、それだけ力があったということなんでしょうね。

柳澤　そういうことだよね。そういうことがずっと続いて、東は東京高等師範学校、教育大学の講道館があって、西には反講道館みたいなのが結集していく。で、闘えば、西のほうが強いわけ。木村政彦さんも山下泰裕さんも、みんな西の人でしょ？

——そうですね。

柳澤　二人とも熊本出身で。寝技というのは基本的に関西のものなんですよ。というか、もともと柔術というのは関西のものなの。東で、明治政府と結びついた、教育的で危ない関節技とかをできるだけ禁止して健全なスポーツとしての柔道を教育者が始めたのが講道館なんですよ。結果的に、講道館のスポーツ的な柔道が嫌だっていう人が西に結集した、と。それが大日本武徳会（日本の武道の振興、教育、顕彰を目的とし設立された財団法人。昭和17年からは武道関係組織を統制する政府の外郭団体となるが、昭和21年GHQにより解散）っていうんだけど。

——大日本武徳会という西の組織がありましたか。

柳澤　説明すると長くなっちゃうから省略するけど、大きく分けると戦前は西の寝技、東の投げ技という二つの柔道があったということを覚えておけば、だいたいあとの流れはわかると思います。

——東の柔道が投げ技主体になったのは何か理由はあるんですか？

柳澤　なんでかというと、投げ技のほうが教育的で危なくないから。寝技だと絞めたり、折ったりとかあるから良家の子女にそんなもの教えられないっていうわけよ。

——そんな理由でしたか（笑）。

柳澤　そういうことだと思うよ。だけど、西のほうは完全な実力主義で寝技中心の柔道。亡くなった慧舟會の守山（竜介）さんも熊本でしょ。

——たしか、柔道の名門の鎮西高校出身ですよね。

柳澤　守山さんに聞いたことがあるんだけど、熊本の柔道っていうのは、とにかく参ったとかないんだって。タップがないわけ。

——じゃあ、落ちるしかない、と？

柳澤　そう。そういう中でやってきてるから、もの凄く高いレベルなのよ。木村政彦とか平野時男とか、そういうとんでもない強いヤツもそういう土壌から生まれてきた。高専柔道って聞いたことある？

——寝技中心の柔道ですよね。

柳澤　高専柔道も西の気風から生まれてきたの。最初は金沢の第四高等学校、三高が京都、五高が熊本、六高が岡山で。この四つが凄く強かった。とくに金沢の四高と岡山の六高がムチャクチャ強くて、大正時代から戦争末期に至るまで恐ろしい高いレベルの寝技を作り上げてしまうんです。そういう西の寝技の系譜っていうのが木村政彦だとか山下泰裕に脈々と受け継がれてるっていうことをプロレスファンの皆さまにもわかっていただければ、と。

MMAのルーツと言われているのが1951年にブラジルで行なわれた木村政彦とエリオ・グレイシーの一戦。これよりはるか以前から柔道vs柔術をはじめとした異種格闘技戦は世界各地で行なわれていたのだ。

——木村政彦さんは力道山と闘ったということで、プロレスファンにも知られていますけど、もの凄く強い柔道家だったんですよね。

柳澤　そう。とんでもなく強かった。木村さんの何が凄かったって、寝技も投げ技も凄い、両方できる人なの。だから講道館のルールでやるときは講道館ルール、高専柔道のときは高専柔道ルール、どっちのルールでも凄く強かったわけ。木村さんの悲劇は、全盛期と戦争が重なることなんだけど、でも戦争に突入するようなメンタリティが日本にあったからこそ柔道が盛んだったことも確か。

——戦後に柔道はどう変わっていくんですか？

柳澤　柔道はスポーツになっていったの。「柔道は武道だ。スポーツじゃない」って言う人はいっぱいいたけど、たとえば柔道教師をやってた牛島辰熊って人たちは職がないわけ。戦後、四高は金沢大学、三高は京都大学、五高は熊本大学、六高は岡山大学ですからね。要するにナンバースクールで高専柔道やってた人たちはエリートだから柔道以外で社会に出ていけるけど、たとえば木村さんみたいな人たちは柔道しかやってないわけ。

——そういう人たちはどうしたんですか？

柳澤　結局、木村政彦をメインイベンターにしてプロ柔道をやろうって流れになる。要するに明治期と同じことが繰り返される。当然のように「あんなプロになっちゃって」みたいな非難の声も挙がるんだけど、それはもう嘉納先生以来、柔道界の伝統なんだよね。その途中には大正10年にアド・サンテルがやって来るでしょ。

——アド・サンテルといえば、ルー・テーズにシュートテクニックを教えたといわれるプロレスラーで、たしか、講道館に挑戦状を送りつけてきたんですよね。

柳澤　そうそう。講道館は最初は挑戦

明治維新から石井プロ転向まで 日本柔道界年表 プチ

- **1868年**　明治維新
- **1876年**　廃刀令
- **1877年**　嘉納治五郎、創設されたばかりの東京大学文学部入学
  治五郎、柔術の流派、天神真楊流師範の福田八之助の道場に入門。治五郎は天神真楊流と起倒流を学ぶ
- **1879年**　福田が死去。治五郎は天神真楊流の家元、磯正智に師事
- **1881年**　警視庁設置
- **1882年**　下谷北稲荷町（現・台東区東上野）永昌寺の十二畳の書院にて講道館柔道誕生。最初の入門者は富田常次郎
  井上敬太郎道場で学んでいた西郷四郎が治五郎に見いだされ講道館に移籍
- **1883年**　巡査一同に「撃剣同様、柔術をも修業すべし」との内達
  永昌寺の玄関脇に十二畳の小さな道場が完成。磯の死後、治五郎は起倒流師範・飯久保恒年に学ぶ
  麹町の嘉納邸内に二十畳敷の道場を新築。ここで初めて「日本伝講道館柔道」を提唱
- **1884年**　のちの「講道館四天王」の一人、山下義韻、講道館に入門
- **1885年**　のちの「講道館四天王」の一人、横山作次郎、治五郎の塾に。講道館は富士見町に移転。入門者は100人を超える
  起倒流の柔術家・奥田松五郎らが道場破りを行なうも、西郷四郎が撃破
- **1886年**　横山、警視庁柔術世話掛に
  警視庁武術大会が芝山内（現在の芝公園内）で行なわれる。西郷四郎、戸塚楊心流の照島太郎を山嵐で下す。
- **1887年**　警視庁武道大会にて山下義韻が戸塚楊心流の好地円太郎を一本背負いで下し、関東における古流柔術と講道館柔道の闘いにとどめを刺す
  西郷四郎と河合健太郎が柔道対剣道の試合。河合は木刀を使用するも試合は引き分けに
  広瀬武夫、講道館に入門
- **1890年代後半**　のちに柔術を取り入れた護身術「バーティツ」を設立するイギリス人のE・W・バートン・ライト、神戸に滞在
- **1895年**　大日本武徳会が京都に発足
  大日本武徳会、平安神宮境内に竣工した武徳殿において、剣術、柔術、槍術の演武会を実施
- **1897年**　前田光世（コンデ・コマ）が講道館に入門
- **1899年**　講道館・磯貝一が不遷流・田辺又右衛門と闘い引き分け
  武徳会柔術試合審判規定の制定
- **1900年**　バートン・ライトの招きにより谷幸雄、兄・虎雄とともに来英
  新渡戸稲造『武士道』を英語で著述。教育者の新渡戸は嘉納治五郎の親友であった
  講道館柔道乱捕試合審判規定の制定
  谷幸雄、ロンドンに渡る。全欧州に柔術ブーム

講道館にはプロをさげすむ伝統が昔から脈々と流れているんです

金メダル獲得から約2ヵ月後の10月6日に一部報道でプロ転向が報じられるも、翌日の会見では進退の明言は避けた石井。しかし、同月31日には全日本柔道連盟に強化指定選手辞退届を提出し、11月3日にはプロ転向宣言。UFCを目指すとのことだが、どうなる?

を受ける気でいたんだけど、岡部平太って人がアメリカに行ったときにアメリカのプロレスを観てて、「あんなヤツらと天下の講道館を一緒にされてたまるか」って言って断ったの。要することにプロレスラーは八百長野郎だってこと。でもサンテルが強いのもわかってるわけ、20年代のプロレスだから。

――ちゃんと強いレスラーがやっているということは理解していた、と。

柳澤　そう。20年代のプロレスラーだってもちろんショーをやってたんだけど、でもあの頃は強い選手がいっぱいいたわけ。プロレスがエンターテインメントのほうに特化してなかったから。でも「サンテルとやって、もし講道館の柔道家が勝ったとしても次々にやって来る。そんなに何人も相手にしてられないでしょう」って言って、岡部平太は嘉納先生をいさめるわけ。

――嘉納先生は挑戦を受けようと思っていたわけですか?

柳澤　最初はね。でも結局、サンテルと闘った人は破門するってことになるんだけど、そこにやって来たのが町道場の庄司彦男、清水一、永田礼次郎、増田宗太郎の4人。そのとき靖国神社に2万人が集まったの。

――2万人! それは凄いですねぇ。

柳澤　そのときのことを語るとまた長くなっちゃうから、各自調べてもらうとして(笑)、プロをさげすむ伝統みたいなものが、講道館には脈々と流れていることは間違いない。「あっちは見世物、ウチらは教育的なもの」っていうこと。それがいまでも吉田道場や坂口道場に対するいわれのない差別につながってることは、もの凄く問題だと思う。

――いろいろ問題があるんですよね。

柳澤　私は柔道っていうのは見てて楽しいし、凄く好きなんだけど、ここまで言ってきたことは全部事実だから。要するにオフィシャルストーリーだけを盲信していては、現実が説明できなくなる。

――今回の石井選手のプロ転向会見までのドタバタもある種仕方ないというか。それを許さない風潮が約100年前からあったわけですね。

柳澤　そうだね。現実を説明する正しい論理の例を挙げると、たとえば2007年に山下泰裕や井上康生の師匠でもある佐藤宣践が、アジア柔道連盟の会長選挙でクエート人に大差をつけられて負ける。そのすぐあとには、山下泰裕が国際柔道連盟の理事選挙で落選してるの。その結果、全柔連が初めて国際団体理事の座を失なうことになるんだけど、いまの世界柔道連盟には日本の理事が一人もいないわけ。

――それは数年前なら考えられないことなんですね。

柳澤　そう。理事が出せないということは、政治的になんの発言力もないということ。そのくせ文句ばっか言うわけ。「あんなの柔道じゃない。ジャケットレスリングだ」とか、「オリンピック種目じゃなくていい。俺たちがやっているのはJUDOじゃなくて柔道だ」と。JUDOがイヤだというのなら、オリンピックから撤退して日本の中に閉じこもればいい。剣道は柔道がスポーツになってしまったのを見て、「あれじゃいけない」とスポーツから距離を置いたんです。だから剣道的な生き方もある。

- **1903年**　大阪で行なわれた全国武術選手権に三宅多留次が出場。柔道、柔術諸流のひしめく中、優勝を飾る
- **1904年**　谷幸雄、ジョージ・ハッケンシュミットに挑戦するもハッケンシュミットはこれを拒否
  渡米した山下義韶、ニューヨークのメトロポリタン劇場の舞台でライト級ボクサーのジム・レーベルを下す
  山下、ホワイトハウスの庭で、ルーズベルト大統領らが見守る中、プロレスラーのジョージ・グラントを下す。これを機に、士官学校、海軍兵学校に柔道科が置かれた
- **1905年**　武術教員養成所（のちの武専）誕生
  前田光世、ブッチャー・ボーイなる怪力自慢のローカルレスラーに勝利
- **1908年**　前田、ロンドンのアルハンブラ劇場で行なわれたレスリングオープントーナメントに出場
- **1909年**　治五郎、日本初のIOC委員に。1911年には初代体育協会会長に就任
- **1913年**　三宅多留次、パリのレスリングトーナメントに出場
- **1914年**　前田光世、ブラジルへ
- **1914か1915年**　第一回高専柔道大会開催
- **1916年**　単身でアメリカに渡った三宅、エキシビションマッチでフランク・ゴッチと対戦し30分逃げ回り賞金を獲得
  アド・サンテル対伊藤徳五郎が行なわれ、サンテルが勝利
  翌月、伊藤がサンテルにリベンジ
- **~1921年**　前田光世、アマゾンを離れ、イギリス、ニューヨーク、キューバなどに滞在
- **1918年**　小泉軍治がロンドンに武道会（ロンドン・ジュードー・クラブ）を設立
- **1921年**　アド・サンテルが来日。講道館に挑戦状を叩きつけるも、講道館はこれを拒否
- **1924年**　引き込みを禁じる講道館審判規定制定
- **1925年**　グレイシー柔術アカデミー発足
- **1926年**　5月より講道館審判新規定（引き込み禁止）が適用される。以後、寝技への関心が薄らぐ。治五郎は京大に新規定に従うよう要請するも京大はこれを拒否
- **1929年**　金光の弟子・小野安一、ブラジルへ
- **1931年**　三宅多留次、沖識名を弟子にとる
- **1932年**　京都武徳会青年演武大会にて、三角絞めとバスターの危険性を談義。三角絞めが治五郎によって禁止される
- **1934年**　小野安一、サンパウロに道場を開く
- **1935年**　鎮西中学の木村政彦、牛島辰熊が師範を務める拓殖大学予科に進学
- **1937年**　木村政彦、全日本柔道選士権で優勝
- **1938年**　嘉納治五郎、第12回オリンピック大会東京招致の使命を帯びてカイロで行なわれたIOC委員会に出席。1940年東京大会の招致に成功するも、帰途、船内で風邪をこじらせ死去
- **1940年**　戦争のため五輪の東京開催を返上
- **1941年**　小野安一がエリオと対戦し引き分け
- **1942年**　富田常雄『姿三四郎』発表と同時にベストセラーに。翌年、黒澤明監督が映画化
- **1945年**　敗戦
- **1946年**　嘉納履正、三代目講道館長に（二代目は南郷次郎）

でも、日本柔道は「オリンピックでも勝ちたい。でも文句は言いたい」でしょ？ 文句を言いたいのなら国際柔道連盟で重要な地位を占める必要がある。柔道界の偉い人たちは国際連盟の理事になる努力、世界各国の代表に、日本の味方になってもらう努力をしてるのか、と。

――しているようには見えないと？

柳澤 全然見えない。私は非常に危機感を持ってるわけ。たとえばアマチュア・レスリングの世界は柔道界に比べるとちっちゃいし、競技人口だって全然少ないけど、それを鍛えて鍛えてメダルを獲ってるわけでしょ。もの凄い努力してるもん。メダルの数を比べれば柔道のほうが少し多いけど、でもそんなに劣ってない。それはやっぱり凄いことだと思う。それにレスリングの福田（富昭）会長はＦＩＬＡ（国際レスリング連盟）の副会長よ。八田（一朗）さんや笹原（正三）さんもそうだった。

――要はレスリング界は柔道に比べて世界での発言権を持っている、と。

柳澤 そういうこと。福田さんだっていまのレスリングのルールがいいとは思ってないわけ。だけどそれを少しずつでも変えていこうと努力をしている。それを柔道連盟はしてない。実際、柔道人口は減ってるしね。

――そうみたいですね。

柳澤 そのことに危機感を持たなきゃいけないのに、世間に発信する言葉を持った人間を排除するとは何ごとかと。石井がおもしろいことを言ってたら、「石井を使って、柔道のおもしろさ、楽しさをみんなにわかってもらおう」とか「石井はまだ子どもだけど、なんとか教育してロンドンオリンピックまで柔道を引っぱってもらおう。そのために誰々に教育してもらおう」とか、柔道界はそういうことをやらなきゃいけなかったと思う。

――そういうことができずに、プロに転向してしまった、と。

柳澤 ホントにもったいない。柔道関係者が石井を使えなかったことに関して反省すべき点は多々あると思うんだけど、でも、講道館の思想的帰結とも言えるんだよね。

石井のプロ転向に際し、いろいろとアドバイスを送ったという小川直也は現在はプロレスラーのほかに小川道場を主宰する柔道の指導者としても活躍。盟友の故・橋本真也も学生時代は柔道に打ち込んでいた。

――プロをさげすむのが柔道界であると。

柳澤 そうそう。そういう流れがわからないといまの石井のことっていうのはわからない。要するに講道館の創成期からプロ、すなわち見世物という世界を嫌う。正しいのは柔道教師のあり方。教師が生徒を育て、その生徒が教師になり、またその教師が生徒を育てる。精力善用、自他共栄。自他共に栄え、精力を最も有効に使うという嘉納先生の教育的思想は、現在に至るまで受け継がれてると言ってもいいんじゃないかな。

――そう考えると石井選手は教育的ではないと？

柳澤 そう。木村政彦も教育的ではなかった。結局、教育的でない人間に勝たれちゃ困るの。石井が柔道界を追放されたのは、嘉納先生の思想に合わないからであるというのが私の結論です。

――なるほど。要は排除されたと。

柳澤 はい。私に言わせると、石井選手っていうのは（モハメド・）アリだと思う。話をおもしろくするためにいろいろやる、と。私はあの人は天然ではなく、プロ入りするときに、自分の価値を上げるためのセールストークを一生懸命考えた結果ああなったと思う。それはプロレスファンから見ると非常に正しいものなんだけど、柔道の人間からすると耐え難いものがあったんじゃないかな。

――金メダル獲得直後は『近代柔道』以外での取材は禁止なんて話も出てたみたいですけど（笑）。

柳澤 でも、やっぱり柔道ファンからすると凄く残念。何度も言うけど逸材だもん。しかも21歳で。これが吉田の歳だったらね……。

――まあ、諦めもつきますよね（笑）。

柳澤 でも、総合の世界から見て、石井に期待できるのは彼はホントにＭＭＡが好きってことだよね。

――そうなんですよね。初じゃないですかね、金メダルよりもプロのほうが上位概念にある人っていうのは。

柳澤 そういう価値観がある人がいるっていうことは、総合格闘技界にとっては、かつて存在したブームの恩恵だと思うし、石井ほど練習する人も少ないって聞くしね。石井に対していろいろ言ったりする人もいるけど、金メダルを獲るのは大変なこと。ルールがどうこう言う人もいるけど、そのルールで闘うのがオリンピックじゃん。ルールに適応できて勝ったから偉いのに、どうしてみんな誉めてあげないのか、凄く不思議。

――間違っても国民栄誉賞にはならないでしょうね（笑）。

柳澤 そうね。でも、柔道家の理想としては、オリンピックで金メダル獲って、弟子を育てて、大学の監督になって国民栄誉賞も獲ってという山下泰裕的な生き方。だけど、石井の場合は金メダル獲ってるにもかかわらず、講道館が歴史的に忌み嫌っている、言ってみれば木村政彦の道をたどってしまったっていうことじゃないでしょうか。『ｋａｍｉｐｒｏ』としては「総合格闘技に来てくれてありがとう」だろうけど、柔道の歴史を知ってる人間からすれば、歴史的帰結であることが悲しい。

――勉強になります。

柳澤 講道館って、悪い言い方をすれば唯我独尊なところがあって、だからこそ国際柔道連盟の中でみんなが日本の味方してくれない。「日本が孤立するのはなぜか？」と反省しないと、これからも何も変わらない。あと、講道館イコール、日本柔道ということになってるんだけど、それだけじゃなかったんだっていう過去のことを考えに入れないと、今回の石井騒動のことはわからないのね。日本柔道には、講道館が否定し続けた陰の流れがあり、石井もその中に

1946年 大日本武徳会にＧＨＱから解散命令
1948年 ロンドンで欧州柔道連盟が発足
1950年 全日本柔道選手権に石川隆彦六段と延長三度の壮絶な闘いの末、日本柔道史上初の二人優勝を遂げた木村政彦は、11月に師の牛島辰熊七段とプロ柔道を旗揚げするが、すぐ潰れ、ハワイでプロレスラーに
1951年 リオにて木村政彦vsエリオ・グレイシーが実現。木村が腕がらみで勝利
1952年 欧州柔道連盟が国際柔道連盟と改称
全柔連が国際柔道連盟に加盟
1954年 力道山＆木村政彦組vsシャープ兄弟実現
力道山vs木村政彦実現
1956年 第一回世界柔道選手権大会が蔵前国技館で開催される。夏井昇吉が吉松義彦を下し優勝
1961年 ＩＯＣ総会で柔道が五輪正式種目に
第三回世界柔道選手権大会がパリで開催される。ヘーシンクが曽根康治を下し優勝
1964年 東京五輪無差別級でアントン・ヘーシンクが金メダルを獲得
ＩＪＦ総会で「段位は講道館から出す」とする日本に反旗を翻したヨーロッパが主権を奪う。本部が東京・講道館からパリに
1965年 全日本選手権決勝で坂口征二が松阪猛を下し優勝
1967年 坂口征二、プロレス入り
1968年 ＩＪＦ試合審判規定が制定される
東京五輪金メダリストの岡野功が正気塾を設立
1972年 ウイリエム・ルスカ、ミュンヘン五輪で無差別級と93キロ超級で金メダルを獲得
1976年 ルスカ、プロレス転向。アントニオ猪木と対戦
1980年 嘉納行光、父・履正のあとを受けて講道館第四代館長に就任
1984年 ロス五輪金メダリストの山下泰裕が国民栄誉賞を受賞
1992年 バルセロナ五輪95キロ超級で小川直也が銀メダルを獲得
1993年 ＵＦＣ旗揚げ
1996年 アトランタ五輪95キロ超級で小川が5位に。この年、小川は全日本選手権7度目の優勝
1997年 ＩＪＦ総会でカラー柔道衣の導入が決定される
小川直也、プロ転向
2004年 シドニー五輪金メダリストの瀧本誠がプロ転向
2005年 アトランタ五輪金メダリストのパウエル・ナッラがプロ転向
アトランタ五輪銀メダリストのキム・ミンスがプロ転向
2006年 斉藤仁率いる日本代表がブラジル遠征。柔術家らと稽古
2007年 アジア柔道連盟の会長選挙で佐藤宣践が27vs12の大差で負ける
山下泰裕が国際柔道連盟の理事選挙で129vs61の大差で落選。日本の発言力ゼロに。ちなみに国際柔道連盟の本部はいまなおソウルにある
2008年 石井慧、北京五輪100キロ超級で金メダルを獲得。同年11月石井、プロ転向を表明

入ってる。結局、私が出した猪木さんの本だって、猪木さんのオフィシャルストーリーにすがりたい人からすると、暴露本で悪い本なのね。

——中には本を読んで「こんなのはアントニオ猪木じゃない」って思った人もいるかもしれないですね。

柳澤 いるでしょうね。だけど、そういうことにしがみついてると、「なんで日本ではプロレスと格闘技はごっちゃになってるの？」っていうヘンテコなことがいつまで経っても説明できないわけ。私はなんでもクリアに説明したいと思ってるから、今日は石井のことをクリアに説明するために、ここまで長々と1時間20分に渡って独演会をしたわけだけど……、まあ半分以上はページの都合で載せられないだろうけど（笑）。

——そうなると思います（笑）。

柳澤 でも、いま言ったようなことがわかってないと、今回の石井騒動は絶対に理解できない。要するに〝正しい講道館〟に反逆した〝悪者・石井〟と見てしまうと何もわからないということです。ただ一つ言えるのは、いくら金メダリストと言ったって石井は柔術家じゃなくて柔道家でしょ。柔術はバーリ・トゥードがいつも視野に入っているけど、柔道は純粋なスポーツです。そんなにすぐに総合の強い選手に勝てるわけがない。

——まったく違うことをやるわけですからね。

柳澤 そう。全然違うことなんだもん。今回の騒動で一番教訓にしてほしいのは、石井じゃなくて柔道界だよね。なぜあの才能を失なわなくてはならなかったのか？ という反省の声が柔道界の内部から聞こえてこない限り、日本柔道はまた理事を出せないと思うし、理事を出せないっていうことは国際的発言力はゼロということだし、国際的発言力なんかゼロでいいんだって思うんだったら、それはやっぱり間違ってる。

——小川直也ふうに言うと「柔道界、目を覚ましてください！」と（笑）。

柳澤 そうそう。努力してないのは石井じゃない。石井はもの凄く努力したんだもん。努力すべきは、柔道界の偉い人でしょう。石井くらい政治的に努力してほしい。アド・サンテルが来たときに講道館の連中は挑戦を受けなかったけど、もしサンテルと木村政彦が柔道ルールでやったら、それこそあっという間だったと思う。時代は違うんだけどね。

——それぐらい木村政彦は偉大な柔道家だったわけですね。

柳澤 そう。でも、日本の柔道界は、その史上最強の柔道家を冷遇した。坂口、小川、吉田といった偉大な柔道家たちもプロに行ったという理由で仲間はずれにした。プロへの蔑視と国際連盟における孤立の根っこは同じところにある。自分たちは正しく、アイツらは間違っているという独善です。

——根深い問題なんですね。

柳澤 21歳の金メダリストが離れていったことは柔道界にとって、とてもとても危機的な状況であるということは間違いないわけです。この問題については、格闘技業界はあんまり一生懸命考える必要はないかもしれないけれど、柔道界は深く考えるべきだと思いますね。

——日本の柔道界の歴史を知るとよりわかりますね。

柳澤 そうでしょ。その歴史的経緯っていうのがわかんないと、「なんで講道館はプロに対して冷たいの？」って思うだろうし。結局、いまは学校体育というものしかないのが凄く問題で。昔は柔道って町道場がいっぱいあったんだけど、それがドンドン潰れちゃって学校でしかやるところがない。さすがに柔道界も危機を感じていて、武道を学校の必修科目にしようという動きがあったりするわけ。それも大事かもしれないけど、吉田道場とか坂口道場とかって、いってみれば町道場じゃないですか。

——そうですよね。

柳澤 町道場の新たなかたちなんだから、彼らに対して冷たくするんじゃなく、プロだろうがアマだろうが柔道の道場を開いてくれてありがとう、と。そういう考え方をしないとよろしくないですよ。坂口さんがプロレスの道場じゃなくて柔道の道場をやってくれたのはありがたい話じゃんね。吉田だって、道場をドンドン増やしてるわけでしょ。

——そうですね。定期的に「VIVA JUDO！」というチビッコを対象にした柔道教室も開いてますし。

柳澤 そうだよね。今回の石井騒動が、よりよい柔道界を作っていくための契機になっていけば、みんなハッピーなんじゃないかな、と。柔道も総合もプロレスも好きな人間には心からそう思いますね。

——でも、石井選手が一番最初に上がったプロのリングが猪木さんのIGFだったっていうのも柳澤さん的には興味深いんじゃないですか。猪木さんは「石井は格闘技向きじゃない」ってダメ出ししてましたけど（笑）。

柳澤 猪木さんは人と同じこと言うの嫌いじゃん。みんなが「総合に来てくれてありがとう」って言ったわけだから「違うこと言わないと俺じゃねえ」みたいなことだと思うよ。それで石井が「俺のどこが格闘技向きじゃないんですか、教えてください」とか言ったら、「じゃあ俺のところへ来い」とか（笑）、そういう展開になれば盛り上がるわけだし。

——ダメ出ししたのも挨拶がなかったからという理由みたいですし（笑）。

柳澤 猪木さんはやっぱり無鉄砲で可愛らしい人だよね（笑）。猪木さんがいなかったら70年代前半でプロレスはおしまいだったと思う。馬場さんが後進を育てても、先細りみたいな感じで終わってたんじゃない？

——その可能性も大きいですよね。

柳澤 猪木さんがいたからこそ、我々はいまだにああでもないこうでもないってやってるわけよ。猪木さんのおかげで、みんなが道を踏み外しちゃったというか。もちろん私もそうなんだけどね（笑）。

【08年11月27日／都内・吉祥寺『ラ・クール・カフェ』にて収録】

石井はもの凄く努力してる。努力すべきは柔道界の偉い人でしょう

石井同様、柔道界からのプロ転向組のビッグネームといえば坂口征二と吉田秀彦の二人。現在はそれぞれ、坂口道場と吉田道場という柔道の道場を開き、柔道の普及と底辺拡大に努めている坂口と吉田だが、いまだ日本柔道界からの風当たりは強いんだとか。

やなぎさわ・たけし■1960年3月25日、東京都出身。慶應義塾大学法学部卒業。在学中から、まんが専門誌『ぱふ』の編集を手がける。その後、空調機メーカーを経て84年に文藝春秋に中途入社。『Number』ではプロレス、格闘技特集を何度も企画。03年7月に退社後はフリーランスとして活躍中。熱心な女子プロレスファンとしても知られる。

柔道の起源は源平合戦にあり！

いまやオリンピック競技として、世界に広まった柔道。最近では「柔道」というより「JUDO」と呼んだほうがいいような国際スポーツとなっているが、スポーツ化される前の真の柔道とはいったいどんなものだったのか？ それを知るためには、やはり武道評論の第一人者である堀辺師範に聞くしかないだろう。柔道の起源、そして真の姿を知る驚愕のインタビューをここにお届けします。

聞き手／堀江ガンツ

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

——今回は北京五輪金メダリスト石井慧の総合格闘技転向を機に、柔道というものをいま一度掘り下げようと思いまして、先生に本来柔道とはどんなものだったのか、ということをうかがいたいと思います。

堀辺　わかりました。まあ、世間一般の人からすると、オリンピックなんかで行なわれている競技が柔道だと理解していると思うんですけど、あれは本来の柔道のほんの一部をやってるにすぎないんですよ。

——現在の「柔道」は本来の「柔道」の一部ですか。

堀辺　現在の柔道は明治に入ってから講道館創始者である嘉納治五郎が作ったものですけど、もちろんそれ以前にも柔道、柔術というものがあったんですね。だから、現代柔道は嘉納治五郎が「作った」というより、もともとあったさまざまな流派の柔術を編集、再構成してできたものと言っていいでしょう。

——簡単に言うと、嘉納流にアレンジした柔道が広まった、と。

堀辺　簡単に言うとそういうことですね。柔道の原型である柔術は、江戸時代には何十流派とあったんですよ。ただ、江戸時代は徳川の太平というぐらい平和な時代ですから、武道が生まれるような時代じゃないんです。

——では、江戸時代の柔術が柔道の起源ではない。

堀辺　はい。やはり武道というのは戦乱の時代に必要に迫られて生まれるものなんです。武道はスポーツではなく、相手を殺す術なわけですから。だから柔術の起源をさらに遡ると、源平合戦の頃までいってしまうんです。

——柔術の起源は源平合戦ですか！　それはまたずいぶんロマン溢れる話ですね（笑）。

堀辺　だからもう100年、200年の歴史じゃなくて、ゆうに800年以上の歴史を持っているんですよ。もともと柔術というのは、源平合戦当時の侍たちが、取っ組み合いになったときの闘い方なんです。

——合戦の技術だったわけですか。

堀辺　ハッキリ言えば戦争技術、軍事技術。究極は全部人を殺す技術ですね。

戦国時代の首刈りの様子を描いた図。これが柔道とは、現代の人間にはとても思えないが、こういった戦場での実戦技術を体系化、スポーツ化したものが現在の柔道なのだ。

——まさに柔術は“殺し”の塊だった、と。

堀辺　で、合戦においてどのように柔術が使われていたかというと、源平合戦当時というのは、鎧兜といった防具が非常に発達していた時期なんですね。当時の主な武器は弓矢だったんですけど、鎧が防いで貫通しないので、それこそ矢が30本、40本と刺さっていながら、それでも闘っている武者の描写があちこちで見られるんです。

——弓矢で殺そうにもなかなか死なないわけですね。

堀辺　なかなか死なない。だから源平合戦当時、戦闘員というのは騎馬武者で、遠くから弓を射ったり、馬と馬がすれ違うときに弓を射るんですけど、これでも勝負がつかない場合、敵の馬に飛び乗って相手を地面にひきずり下ろすんです。

——寝技に持ち込むわけですか。

堀辺　そこで、相手を押さえ込んで、いまの総合格闘技で見られる、いわゆるマウントポジション、あるいはバックマウントを奪って相手を動けなくしておいて、鎧通しという短刀を抜いて相手の首を刺す。それで確実に殺すわけです。

——バックマウントからチョークで絞め落とすような感じですか。

堀辺　そうですね。一つ違うのは腕で首を絞めるのではなく、短刀で首を切り落とすんです。その首を持って帰れば「確かにお前は騎馬武者に打ち勝った」という証明書になる。

——持ち帰った生首が勝った証だ、と。

堀辺　生首をいくつも持って帰れば「何個分取った」となるし、あるいはその中の顔を見て「おっ、有名な誰々という凄い大将の首を取ってきた」となって、それで恩賞が変わるわけですね。だから、どうしても最後の決着っていうのは源平合戦のときは寝技になったということです。

——騎馬武者同士の戦いでも、最終的には“寝技”で決着がついていたわけですか。

堀辺　それで柔術の組技というのは発展したんですよ。だから柔道っていうのは、組んで崩して投げて、そのまま寝技に固めて動けなくしますよね。この「崩し、投げ、押さえ」っていうのは日本の柔術の伝統を継承しているんだということを嘉納治五郎さんも言ってるわけです。つまり、なぜ柔道に寝技の押さえ込みがあるかというと、源平合戦から戦国時代を通して、徳川太平の時代になるまで、侍たちの勝利の方程式の一つだったということですね。

——そんな昔から磨かれた相手を仕留める技術だった、と。

堀辺　で、戦国時代になると今度は弓矢よりも槍を主体とするような闘いに武器が変わってくるんですけども、それでも最後の決着は“寝技”だったんですよ。これは相手の馬に飛び乗るという方法もあったんですけど、最初から組んで決着をつけるという方法もありました。

——合戦において、最初から1vs1で闘うということですか？

堀辺　そうです。ある武将がある武将に向かって「おい、俺と組め。いざ組まん」と、1vs1の勝負を宣告するんですよ。それに対して逃げるヤツは卑怯者というのが、武士の慣習として生まれてるんです。そしてこの「いざ組まん」というのは、「ホントに殺すまでお互いやろう」という意味なんです。

——「どちらかが死ぬまで決着をつけよう」ということですか。

堀辺　だから「いざ組まん」と言われたときに「組みたくない」と言ったら、これは武士として敗北を認めたよう

柔術とはそもそも合戦で相手を仕留める戦争技術。究極的には人を殺す技術なんです

柔道の押さえ込みというのは、〝首が刈られる状態になった〟ということの名残りなんです

なものだったんです。

——不戦敗みたいな。

堀辺　そうです。だから「いざ組まん」と言われたら、槍を持っていても、それを捨ててガバッと組み合って、倒して動けなくして首を刈る、と。この首を刈るというのが侍の証なんですね。だから、たとえば大阪の夏の陣、あの大阪城が陥落した最後の闘いのとき、徳川方が獲った首の数は3万何千個。

——3万何千個の生首ですか！

堀辺　それが大阪城から京都のほうに向かっていく街道に全部並べられたんです。この風習は明治のはじめまで続いていたんですよ。戊辰戦争っていうのは明治元年から始まった戦争ですよね。鳥羽伏見の戦いから函館の五稜郭まで。この時代になっても侍はね、いざ戦になると首を刈っちゃうんですよ。たとえば宇都宮の攻防戦でも官軍は首なんか刈ってると時間がもったいないから、そんなの討ち捨ててどんどん戦えっていう命令が出てるんですよ。それでも侍の中に流れてる血というか文化的遺伝というものが、勝つとどうしても首が切りたくなって首を切っちゃうんですよ。首を切って「俺は勝ったぞ」っていうことを示すんです。ということは、源平合戦から戊辰戦争までの、それこそ何千回何万回と行なわれた全国各地の闘いで寝技が行なわれて首が刈られたかという話なんですよ！

——ああ、なるほど！　何百年ものあいだ、日本では寝技の殺し合いが行なわれていたということですね。

堀辺　だから柔道で押さえ込み一本、昔は30秒、いまは25秒ぐらいになりましたけど、この相手を動けなくするというのは、〝首を刈れる状態になりました〟ということの名残がルールとして残っているんです。

——なるほど。首刈りのシミュレーションというか。負けたほうは「あなたは首を刈られましたよ」と。

堀辺　そういうことなんです。

——では柔道の関節技はどのようにして生まれたんですか？　これも合戦で使われた技術なんですか？

堀辺　いや、合戦で腕ひしぎ十字固めをやったりはしないんですよ。

——そりゃそうですね（笑）。

堀辺　関節技というのは、平和な江戸時代になって鎧を着ていない犯罪者が暴れているのを役人が押さえつける。その際に押さえつけるだけじゃなく関節技なんかもかけて、縄をかけて連行する。こういったことで生まれたものですね。

——戦の技術から逮捕術的なものも加味されてきたわけですか。

堀辺　そうです。腕ひしぎ十字固めだとか、腕がらみ、ブラジル人がいうところのキムラロックなんていうのは、この時代に生まれたものなんですね。また逮捕術でもありましたから、関節技だけじゃなく、できるだけ早く縄をかけて縛りつける技術、早縄っていう技術もあったんです。

——早縄。それも柔術の技術なんですか⁉

堀辺　そうです。だから嘉納治五郎が早縄も柔道のルールに盛り込んでいたら、また違う柔道が誕生した可能性もある。寝技に入ってきれいに縛りつけて動けなくなったら一本という柔道もあり得たんですね。

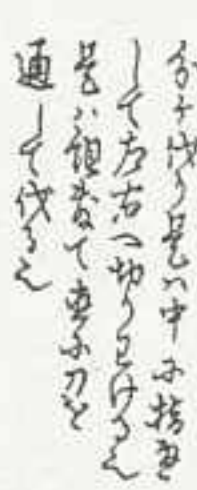
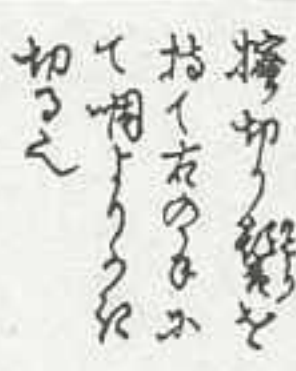
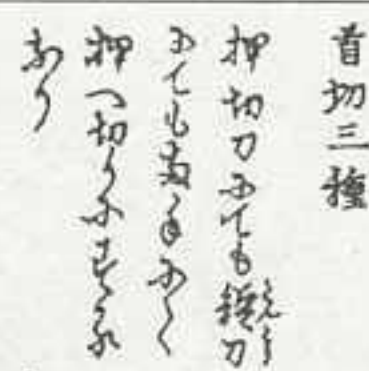
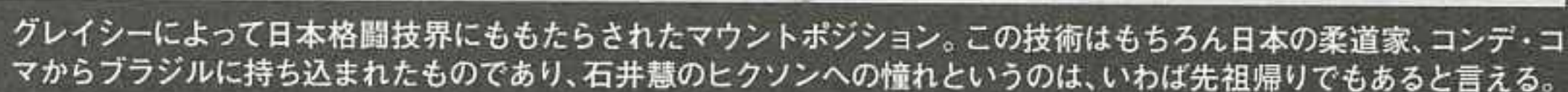
——縄で縛るというのを嘉納治五郎が取り入れなかっただけで、それもまた柔術の一種なわけですか。

堀辺　はい。柔道を作るうえで嘉納治五郎の美意識とか価値観というのがあって、取捨選択が行なわれたということですね。その取捨選択で取り入れられなかったものには打撃もありました。江戸時代に中国嵩山少林寺で拳法を習った陳元贇という人から、拳法の技術が伝わって、その影響を受けた柔術の流派が、突く、蹴るというものを取り入れたんです。

——江戸時代の柔術は中国拳法の技術も含んでいた、と。

堀辺　江戸時代は鎧を着ていない柔

グレイシーによって日本格闘技界にももたらされたマウントポジション。この技術はもちろん日本の柔道家、コンデ・コマからブラジルに持ち込まれたものであり、石井慧のヒクソンへの憧れというのは、いわば先祖帰りでもあると言える。

これが戦国時代の柔術テクニックだ！

これが戦国時代の騎馬武者が、相手の首を刈る様子を描いた図。いまでいうマウントポジション、バックマウント、ニーオンザベリーのようなかたちで相手を押さえ込み、鎧に守られていない首を短刀で刈ったというのだ。これこそが柔術の原点なのである。

柔術はそもそも江戸時代に完成した総合格闘技。嘉納治五郎はいまの柔道に満足していなかった

術ですから、突きや蹴りが有効なんですよ。そして当時は柔術にいろんな流派があって、流派ごとに完璧なシステムを作ろうとしていたので、あらゆる技を一つの流派の中で吸収したいという欲望が強くなってくる。だから当て身はある、投げ技はある、押さえつけて関節技もある、絞め技もあるというかたちで、ほとんどいまの総合格闘技で使う技は江戸時代に出揃ったということです。

――総合格闘技が江戸時代に完成していましたか!

堀辺 ええ。江戸時代の「柔術」というのは、いまの言葉に置き換えると「総合格闘技」なんです。

――なるほど。そこから嘉納治五郎がいろんなものをそぎ落として、「柔道」が完成したわけですね。

堀辺 そうなんです。ただ、江戸時代の柔術には試合システムというものがなかった。だから総合格闘技の要素は揃っていたんですけど、それは約束稽古、型稽古で行なわれていたんです。その型稽古を乱取りというかたちにできるようにしたのが嘉納先生なんですけど、やっぱり当て身のある乱取りというのは難しかったんですね。だから当て身も導入したい願望を持っていながら、とりあえず乱取りができるルールとして、いまの柔道に近いものを作ったんですよ。

――では、いまの柔道は、ある意味で〝不完全〟柔道ということですか?

堀辺 そう言っていいと思います。嘉納治五郎という人は、いまの柔道を完成形とは思ってないで死んでいった。ずっと柔道から離れていましたけど、晩年に柔道の試合を見たら、「これはワシの作った柔道とは違う」と言ったというのは有名な話ですから。だからおそらく嘉納治五郎が考えていた柔道の理想形というのは、江戸時代にあった総合格闘技が持ってるような、すべての技を乱取りのかたちの中に取り入れたいものだったんだと思います。

――いまの柔道が「打撃を導入する〝前段階〟のものだというのは、おもしろいですね。

堀辺 だから明治初期の人は「柔道」をジャンル別の格闘技という考えかたはほとんどないんです。柔道が乱取り化していくって過程としか思ってない。比較的新しい時代の木村政彦なんかも、試合では一応ルールは決まってるけど、ホントの闘いになったら、蹴るし殴るし、頭突きだって入れちゃうよという考えの持ち主だったんですよ。

――〝鬼の木村〟は精神的には〝なんでもあり〟志向の人だった、と。

堀辺 だから明治初期のコンデ・コマと呼ばれた前田光世なんかは、完璧にその考えですよね。海外に出ていってボクサーやレスラーと他流試合をする。そのとき勝つためにはなんでもやってしまう、本来の柔術というものは、そういうものだという考え方ですね。

――「試合」ではなく「合戦」なわけですからね。

堀辺 柔術そのものが総合格闘技的志向を持っていたわけですから、いまの柔道家で総合をやろうという人が現われるというのは、そういう魂の隔世遺伝と言ってもいいでしょう。総合格闘技というのは、源平合戦の頃から江戸時代に形成された柔術をリングでやっているということなんですよ。だから総合格闘技というのは、いわば古来からある日本文化であり、ある意味で日本人の体質に合ってる闘いなんです。

天神真揚流柔術の『柔術極意教授図解』(明治26年刊)に掲載されていた図。この「胴〆之図」とは、現在のガード・ポジションだ。こういった柔術の技術は日本古来からあったものなのである。

――となると石井慧選手が総合に闘いを求めるというのは、本来の柔道家の姿とも言えそうですね。

堀辺 柔道家の魂が触発されたという部分もあるでしょう。先祖帰りというふうに捉えることもできる。だから石井選手がどういうスタンスで総合格闘技に取り組むかですよね。ただ総合格闘技が時代の流行だからやるんだっていうような意識じゃなくて、柔道の歴史を振り返って「そうか、柔道ってそういうものだったのか。じゃあ俺は原点までいこう」という気持ちだったら、彼のハートも変わる。逆に「俺は金メダルを獲ったから総合にいっても強いんだ」と思ってるならば、それはちょっと君のハートがスポーツ化してるよ、と。

――でも、石井選手は金メダルを獲っても「強い人はまだいる。総合で強い人が一番強い」って言ってましたから、その点は大丈夫そうですけど。

堀辺 その意識があればいいですね。できたらその意識をさらに進めて、総合に強い人がいるっていう現状認識だけじゃなくて、柔道こそが総合格闘技の生みの親だったんだ、と。これは源平合戦の頃、我々の祖先たちが命懸けでやった、そこまでつながってるものだ、と。自分たちの歴史を省みて「首を落とされていたのか、そこまでの精神か。そんなことを考えたらいまの総合格闘技なんて甘いじゃねえか」っていうぐらいの精神を獲得したら、これは凄い怪物になる。その魂と現役選手としての心身状態というものが結合すれば、もの凄いものが生まれるだろうし。ヘビー級外国人の強豪選手を超えられるかもしれない。ポイントはそこだね。

――本来の侍の柔道家になれるかどうかがポイントだ、と。

堀辺 そう。じゃないとこのグローバルな総合格闘技の世界では勝てない。彼の肉体を上回る外国人なんていうのはいくらでもいる。身体の大きさ、筋肉の量、怪力ということだったら〝肉食獣〟の白人系統には、怪物がゴロゴロいるわけですよ。それを上回るためには、修羅場の中での精神を養うことが不可欠。いまこそ侍に学べ! と言いたいですね。

――なるほど。勝つために本来の源平合戦時代の〝柔道家〟になれ、ということですね。今回もありがとうございました。

【08年11月7日/都内・骨法武術館にて収録】

ほりべ・せいし■1941年茨城県水戸市出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。格闘技・武道評論の第一人者として本誌や『わしズム』などでも活躍している。

伝説の〝文系スポ根〟マンガを徹底解析!!
『柔道部物語』とは何か？

ザス、サイ、サ！ マット界随一の文系プロレスラーことマッスル坂井が、柔道マンガ史上、最もストロングな青春の大傑作『柔道部物語』を語りまくる！ 坂井が提唱する〝文系スポ根〟ワールドをいまこそ徹底検証!!

聞き手／真下義之

©小林まこと／講談社

マット界随一の"文系"プロレスラー
マッスル坂井

―今回、柔道特集なんですが、坂井さんのようなマンガ好きにとって〝柔道〟といえば、『柔道部物語』かな、と。

坂井　確かに柔道といえば、『柔道部物語』ですね。あとは、みのもけんじ先生の『ひかるチャチャチャッ』とか、マガジン系の『ビバ！柔道愚連隊』（ニッシー西著）って傑作もあったなぁ。

―その『柔道部物語』はあの吉田秀彦さんが……

坂井　あ、もしかして柔道を始めるきっかけとなったとか？

―いえ、愛読されてたようです（笑）。野村忠宏さんや古賀稔彦さんも読まれてて。その古賀さんが主人公・三五十五のモデルというウワサもありますけど。

坂井　いや、それは違いますよ！ これは小林まこと先生本人でしょう。かたちを変えたブログというか。自伝的な作品だと思いますね。

―最初に読まれたのは？

坂井　実家の新潟で小学6年の頃、年上のイトコの家にマンガがいっぱいあったんです。その日、僕に与えられたのが『デビルマン』と『柔道部物語』だったんですが、『デビルマン』の後半ってエグいじゃないですか？

―悪魔人間が、いままで守ってきた人類に絶望する話ですから。

坂井　小学生では全然理解できなくて。『柔道部物語』のほうが断然しっくりきましたから。柔道をやってなかった主人公が、高校の体育会系という異常な世界に入って、一癖も二癖もある荒くれ者たちの中で成長してゆく。『SLAM DUNK』（井上雄彦著）みたいな不動の5人を描く世界じゃないのも新鮮でしたし。

―『柔道部物語』は団体戦のメンバーもコロコロ変わりますしね。

坂井　キャラの構成が『ドカベン』（水島新司著）に近くて、完全に群像劇なんですよ。『SLAM DUNK』も一見、群像劇に見えるけど、基本は「凄い5人がいかに集まるか」という、日本人の遺伝子に組み込まれた戦隊モノ的なマンガですから。で、『ドカベン』っぽいっていうのは、我々新潟県民の性に合うんです。水島新司さんも小林まことさんも新潟市が生んだスターですしね。

―新潟は、数多くのマンガ家を排出したマンガ大国ですからね。

坂井　どっちも舞台が新潟ですから。で、市内に新潟商業高校って高校があって、それが『柔道部物語』の岬商業高校のモデルなんですけど、実際に凄いスポーツ高校なんです。そして、その近くにあるのが我らが新潟明訓高校！

―坂井さんは、あの『ドカベン』の明訓高校出身でしたか。

坂井　僕は剣道部だったんですけど、明訓高校と新潟商業高校はライバル関係だったんです。柔道部だともっとよかったんですけど（笑）。

―でも、『柔道部物語』を読んで、柔道部に入ろうとは？

坂井　剣道をすでにやってたんで思わなかったですね。ただ、小学校では「おもしろい！」で終わったんですけど、高校に入って読むと、また違った感慨がありました。

―『柔道部物語』は、練習のシゴキ描写が有名ですけど、同じような境遇にあるわけですからね。

坂井　だから『柔道部物語』って、未

経験者が成長してゆく過程にもの凄く感情移入できるんですよね。地獄の合宿の話もメチャクチャおもしろいし、とくに部員全員が合宿の練習試合で負けたあと「強くなりたい」と顧問の五十嵐先生に稽古をつけてもらうくだりは最高ですよ。練習の心構えが「俺って天才だ〜！」ですから。

——あれは名セリフですよね。さらに「俺ってストロングだぜ〜！」。最後に「俺ってバカだ〜！」と。

坂井 高校時代も試合の前にやってましたし。仕事でピンチになるといまだにやってますから（笑）。

——青木真也さんも、「俺ってストロングだぜ〜！」と言ってましたからね。

坂井 マジで？ 確かに『kamipro』にそういう発言が載ってた記憶がありますけど……あれは『柔道部物語』だったのか⁉ じゃあ、僕なんか言ってはいけないかもしれない（笑）。ともかく、その一番盛り上がるところが、映画『ロッキー』なら、モンタージュになるところというか。

——テーマ曲がかかるところですね。

坂井 フィラデルフィアの博物館の前を走り、ウェートをし、生卵を飲むとかが、矢継ぎ早にカットされるシーンで。で、このあと県民大会で三五が結果を出すまでが、「パート1」って感じですよね。

——三五が秘めた能力を発揮し始めて一息つきますよね。

坂井 ただ、主人公がその物語の前半で成長しきっちゃうんですよね。単行本で全11巻ある中で4巻の新人戦で優勝しちゃうから、展開がものすごく速い。後半もいいんですけど、どっちかというと後輩や同級生が頑張ったエピソードとかがおもしろくて。

「俺ってストロングだぜ〜!」は、いまだに使ってますからね

「オラ！もっと声出せ〜!」と体育会系の厳しい部活に所属した人なら、経験ありそうな先輩のシゴキを忠実にマンガ化。「弱い先輩ほど迫力がある」という定説の提示もお見事。 ©小林まこと／講談社

……でも、『SLAM DUNK』とは構造が明確に違いますよね。『SLAM DUNK』の桜木花道は元ヤンキーだけど、三五は元文系ですから。

——元吹奏楽部のサックス担当で。

坂井 僕は〝文系のスポ根〟が大好きなんですけど、まさにそうですよね。で、それって新潟っぽいんですよ。新潟はマンガ家大国で、誰もが小学校、中学校で絶対に必ず一回はマンガ家を目指しますから。

——誰もが一度は〝文系〟な世界に触れますか。

坂井 で、マンガの影響や読みすぎで、実生活でもロマンチシズムの家畜になっていく（笑）。僕なんて剣道で実績もないのに、新潟のエリートが集結する剣道部に入っちゃいましたから。それは中学生の頃、県民大会で明訓高校の剣道部を観て、「格好いい！」と思ったのがきっかけで。私立で頭もよくて、坊主じゃなくて、練習もそんなにしてなさそうなのに強そうな感じだったし。

——自由で個性を伸ばせるように見えた、と。『柔道部物語』みたいな、シゴキはなかったんですか？

坂井 ありました、ありました！ 負けると先輩より先生にハンパなく怒られましたし。『柔道部物語』の先輩への挨拶の「ザス、サイ、サ」どころじゃない。「ザス、サイ、サ」のほかに「サケ」「サミダレ」「サレンダー」と6つもあったんですから（真顔で）。

——ワハハハハ！

坂井 「おはようございます」が「ザス」。「こんにちは」が「サイ」。「さようなら」が「サ」ですけど。そこに「帰りラーメン食ってく？」が「サミダレ」。「サレンダー」は「降伏する」ですから（真剣な表情で）。

——はぁ、「サケ」ってのは？

坂井 「サケ」は、郷土の有名な食料物資であるところの「シャケ」の総称です！ ホント、覚えることが2倍ですよ。どうですか、コレ！

——（無視して）坂井さんは、『柔道部物語』では上下関係の大事さも学んだようですけど。

坂井 『柔道部物語』と同じく剣道部にダマされて入部して、5月にノイローゼになって、完全にクラスの友だちとは遊べないことが判明して。地獄の夏合宿や遠征試合があって……。そうこうしてるうちに僕も同じバスに乗る彼女ができまして（笑）。

——まさに『柔道部物語』の三五じゃないですか？

坂井 違う高校の剣道部の先輩だったんですけど。その人は中学校時代から女子剣道がメッチャ強くて、その剣道部の5人中5人が美人だったんです。美人で強いから「ビッチ」と呼ばれてまして。

——なぜビッチ（笑）。

坂井 その中の水○先輩という剣道少年の中でマドンナ化してた巨乳の先輩が、ウチの先輩に「いつもバスに乗ってる明訓の1年紹介して」と。こっちも「マジですか？」って感じで。

——そんなミラクルが起きましたか⁉

坂井 結局、3年くらい付き合いました。相手が普通、手の届かない年上ってことで、芸能界でいう陣内智則っぽい位置につけまして。またルックスとか身体つきとかが原田ひろみ（三五の彼女）に似てるんですよ。ムフフフ！

——え〜、やっぱり話題を変えましょうか（笑）。

坂井 ただ、夏が終わる頃、『柔道部物語』とまたもや同じ現象が起きるんです。つまり、地獄の練習を経たあとで先輩や他校の選手に負けなくなってくる。乱取りでも、先輩に勝てるようになってくるんです。

——バランスが変わりそうですね。

坂井 ところが、一本取ったあとでも「坂井、ジュース買ってこいよ！」

これが、『柔道部物語』だぜ〜!!

1985年〜1991年に、『週刊ヤングマガジン』（講談社）で連載された人気柔道マンガ。格闘技ファンであり、高校時代に柔道経験のある著者の小林まことが、その体験を活かして描いた柔道部独特の汗臭い空気感や練習、リアルな試合の描写が話題となった。

【物語】三五十五（さんご・じゅうご）は中学時代は吹奏楽部だったが、岬商業高校に入学後、軽い気持ちで柔道部に仮入部。だが、甘い顔をしていた先輩から柔道部伝統のシゴキ（セッキョー）を受け、腹を据えて柔道に取り組む。地獄の夏合宿、元五輪候補の顧問・五十嵐先生の指導で、やがてレギュラーに抜擢。得意の背負い投げで、岬商を支える主将として活躍。後半は宿敵・西野新二とのライバル物語が主軸となる。

『柔道部物語』（小林まこと著／講談社漫画文庫）現在は文庫版が入手しやすい。1〜7巻で完結。

みたいな横暴な感じが続いた。そこで「一本を取っても、上下関係が入れ替わることはないんだな」と。
——それはショックでしょうね。
坂井　いや、逆に「これはいい！」と（笑）。というのは、ウチは名門だから、実力のある後輩が続々と入ってくるんですけど、自分は彼らがまだ中学生で練習しに来てる頃から手なずけたり、2年になって帰りが一緒の方向の後輩の有望選手を、1年で身につけたラーメン屋やゲーセンの知識で懐柔したり。ズルいことばかり覚えていきましたね。
——そんな小ズルい『剣道部物語』が展開されてましたか（笑）。
坂井　そういうリンクポイントがあるくらい『柔道部物語』はリアルでしたから。じつは、今回読み直して「空気感が近い」と思ったのが、須藤元気さんの最新刊なんです。
——小説『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』（幻冬舎）ですね。
坂井　あれはいいですよ！　高校でレスリング部に入るとこから、アメリカで総合デビューするまで描いてるんですけど。須藤さんってトリックスター的に扱われてるのがスッキリしなくて。本もトンデモ本っぽく言われたりするけど、テレビとかで観てると誰よりもマトモでフラットじゃないですか。須藤さんが出演して井上和香さんとデートした『恋するハニカミ！』（TBS系）は番組史上最高の内容だったと思いますし、『あいのり』（フジテレビ系）にも出たほうがいいと思います。
——あのダナ・ホワイトがUFCのリアリティショー『TUF』への出演を熱望した須藤さんに、『あいのり』出演を勧めますか。
坂井　でもきっと、周りの世界がおかしいんであって本人はニュートラルな人なんだろうなって。今回の小説も、格闘技界やショービジネスというう異常な世界に入って自分とのあいだに起きる摩擦を描いてるんです。普通の日常生活では、生きてる実感がないような人が、リストカットと近いような感覚で格闘技の道に入っていく感じがしますから。

これが西野だ！（左）母子家庭で元いじめられっ子だが、粗暴な性格とビルドアップされた身体で連勝街道！ 憎らしいまでの勝利へのこだわりは、"魔王"秋山を連想させる物語最大のヒールだ。
©小林まこと／講談社

——摩擦を感じることで、生きてる実感を感じるタイプですか。
坂井　肉体的にMなわけじゃなくて、自分に対してはSなんでしょうね。その世界では、言葉が通じないような野蛮な体育会然とした先輩たちに、バテてぶっ倒れたところに、ぞうきんの絞り汁をかけられるような環境の中、友人たちとヘリクツみたいな会話をしながらサバイブしていくんです。でも、なぜか肝心の試合よりも

石井慧選手のインタビューでは、反射的に西野新二を連想した

大会までの調整前のホテルでダベってる様子とかが克明に書かれてて。試合のカタルシスとかは全然描かれてない。なんとも不思議な小説です。
——俄然、読みたくなってきますね。
坂井　で、『柔道部物語』もそうなんですよ。元吹奏楽部があえて体育会の摩擦を受けに行ってるわけですから。別次元の世界で、先輩からの猛烈なシゴキを受ける。でも、主人公には闘う理由なんてないから、三五十五ってマゾなんですよ。
——柔道をやらなければならない理由はとくにないですから。
坂井　中流だし、貧乏でもない寿司屋の息子ですから。肌感覚で「強いほうがいいかもしれない」とは感じてるけど、「ホントは必要ない」ことも知ってるわけですし。
——ただ、元吹奏楽部って描写はあまりないですけど。
坂井　ありますよ！　三五が集中したときに見せるひょっとこ顔。あれは吹奏楽部プレイヤーの口です。吹奏楽の人は口を終始とんがらせられますから。そういえば、先輩たちの引き際。代替わりのエピソードも素晴らしいですよね。
——先輩たちが名残り惜しそうに柔道部を去る名シーンですね。
坂井　そのシーンのセリフが「ラーメン食って、古町ぶらついて帰るか！」で。完全に僕らと同じですもん！　毎日、部活のあとラーメン食って新潟の古町ぶらついてましたから（笑）。そのへんも新潟の町並みがうまく描かれてるし、僕らがよく行った『白寿』というラーメン屋の看板も単行本10巻の背景に5コマ連続で出てくるんです。
——三五がデートに行く途中でチンピラを跳ね返すシーンですね。
坂井　当時、新潟市中心部に通う体育会の学生は全員ここで、うま煮そば（500円）を食べてます。いまも変わらぬ味を提供し続けてて、先日帰郷したときも食してきましたから。
——そして終盤には最大のライバル、西野新二が登場しますけども。
坂井　でもこの話は、飛び抜けた天才って出てこないですよね。西野なんてウェートをバンバンやって、一番努力してるじゃないですか。
——嫌われ者だったり、勝ち負けに異常にこだわる姿勢とかが、"魔王"こと、秋山成勲に似てますよね。
坂井　僕はむしろ石井慧選手そっくりだなって。石井選手がオリンピック出る前のインタビューがなぜかマンガ雑誌に載ってたんですが、「柔術の練習もしてるし、横文字の"JUD

『柔道部物語』ミニ用語辞典

セッキョー
岬高校柔道部恒例、新入生歓迎のシゴキ。新2年生が竹刀を振り回し、うさぎ跳びや空気イスなどを強要。空気イスでは歌を唄わせるなどやりたい放題。部員数が激減する伝統儀式。

ザス、サイ、サ
岬高校柔道部独特の挨拶言葉。「おはようございます」が「ザス」。「こんにちは」が「サイ」。「さようなら」が「サ」。セッキョー中はこの言葉を連呼しながら、うさぎ跳び!!

俺ってストロングだぜ～！
柔道部監督、五十嵐先生の自己暗示的な心構え。「俺って天才だ～！」や調子に乗らないための「俺ってバカだ～！」もある。眠れなくなるため、寝る前には絶対にやってはいけない。

おはつ
岬商柔道部伝統で、1年生が新2年生に上級し、坊主から髪型が自由になる記念として、新3年生が好きなもので頭を叩ける儀式。コタツを持参する鷲尾先輩のような強者も。

ひょっとこ顔
物語の主人公、三五十五が試合中に見せる極度に集中したときの表情。タコのように口をとがらせるが、この表情で中学2年の期末テストで5教科で満点を取ったこともある。

敗北の黒いブタ
柔道会場にすむ、という伝説。このブタに憑かれるとどんな実力者も必ず敗北する。五十嵐先生は現役時代、足下を歩くのを目撃。対処法は「愛してるから来ないでね」と祈るのみ。

"文系スポ根"で近いのは須藤元気さんの小説と『筋肉バカの壁』です

"O"への対応もできてる」と自信マンマンにコメントしてた記事で、反射的に西野を思い出しました。あと西野って「みなさんのおかげで優勝することができました」とマスコミの前で言ったあとで、「ギャハハハ！」って笑うじゃないですか。ああいう人を食ったところも近いのかなって。

――顔もちょっと似てますしね。ところで『柔道部物語』で一番、感銘を受けたポイントは？

坂井　さっきも言ったように、自分は群像劇好きなんで、群像劇って言い換えるとドキュメンタリーに近いんですね。で、番組でいうと『ザ・ノンフィクション』（フジテレビ系）に近いノリというか。『GET SPORTS』（テレビ朝日系）や『情熱大陸』（毎日放送系）とかのドキュメンタリー番組に近い。すべてのエピソードが叙事的ですし。シゴキの場面も、状況に押し流されてますから。

――状況に追い込まれて、右往左往するのはドキュメンタリー的ですね。

坂井　序盤の視点は、庶民の生活を描く『ザ・ノンフィクション』に近いけど、途中から有名スポーツ選手にスポットを当てる『GET SPORTS』っぽくなりますよね。

――後半は三五が飛び抜けた存在になっていきますから。

坂井　じつは"文系のスポ根"って部分と、ドキュメンタリーって部分と、自分をモルモット化して摩擦を描くのは、『筋肉バカの壁』（水道橋博士著）とも凄く似てるんですよ。三五の筋肉がついてくるとこも、あの本の博士そっくりですから。

――確かに博士さんは、"文系のスポ根"っぽいですね。

坂井　あと『柔道部物語』が優れてる点として、「柔道シーンがリアル」とも言われますよね。もちろんそうなんですけど、リアルも何も物語自体がドキュメンタリーですから。僕は、『柔道部物語』は映像では大きいカメラで照明焚いて三脚立てて撮ってる映像じゃなく、手持ちのビデオっぽい手触りの画像の気がします。ドキュメンタリーでしっくりこなければ、"活字プロレス"って言い方をしてもいいかもしれない。

――『柔道部物語』は活字プロレス!?

坂井　活字プロレスって、文系の目線から、プロレスや格闘技の世界の幻想を膨らませて描かれますよね。須藤さんは高校のアマレス部での摩擦を描いた。水道橋博士さんは、たけし軍団という先輩からの激しいイジメや乱痴気騒ぎの世界をターザン山本の試合レポートのように語った。どっちも活字プロレスだし、『柔道部物語』の三五から見た柔道部の描かれ方や、ライバルの樋口や西野の描かれ方もそう。第三者が仮定や推量で、彼らの存在感を膨らませていくじゃないですか。

――「西野ってのはトンデモなく危ない」と幻想を膨らませてますよね。

坂井　語り口調が完全に活字プロレスなんです。じつは最近、「活字プロレスはどこに行ったのか？」を考えてて。いまや吉田豪さんとか博士さんに受け継がれてるんじゃないか、と。芸能人を使った活字プロレスって意味で、浅草キッドの『お笑い男の星座』や吉田さんのインタビューは、芸能人をプロレスラー的な幻想を持った人物として扱って、試合のように芸能人のエピソードを濃厚に描いてる。そういう意味で、『ハッスル』も芸能人を使うのであれば、ホントはもっと踏み込まなきゃいけないのかなとは思いますね。だって、あの山口日昇さんがやってるんですよ！

――活字プロレス的に考えると、もっと踏み込めるハズだ、と。

坂井　で、『柔道部物語』の前半は、とくに活字プロレスっぽい気がします。後半はやっぱり三五が強すぎますもんね。描くべき濃密な部分はじつは4巻で終わってて。『SLAM DUNK』も時系列的には、最初の夏が終わるまでですし。スポーツものってホントの肝の部分はそのあたりなのかもしれないですね。

――自我を破壊されて、世界を受け入れる過程が肝というか。結局、坂井さんの『剣道部物語』はどうなったんですか？

坂井　じつは、僕らは新潟県敵なしの強豪だったのに、3年の夏の大会を僕のミスで地区大会で負け、調子が崩れて県大会決勝で負けて、最後のインターハイに行けなかったんです。で、僕は残り1カ月しかないのに、涙ながらに退部届けを持っていきまして。

――責任を感じて退部届けを？

坂井　でも、体育教官室で先生に目の前で破られましたね。なぜかほかの部員たちもいつの間にか集まってきて。そこで「着替えろ！」と練習が始まって……。

――いい話ですねぇ。

坂井　そのあと受験勉強をするんですけど。インターハイと難関私大受験って、オートマの車のパーキングとトップギアくらい距離があるから、何か一枚噛ませないとやりきれない。で、そういうとき我々新潟県民はマンガを描くんですよ。

――そこでマンガに戻りますか（笑）。

坂井　そこで描いたのが『アストロ柔道部』という『アストロ球団』（原作／遠崎史朗、作画／中島徳博）をモチーフにしたマンガで。それを小学館『ビッグコミック・スピリッツ』に持ち込みましたから。

――剣道じゃなく、柔道マンガを？

坂井　フフフフ。なんでかわかります？

――なんでですか？

坂井　全部これ（『柔道部物語』）見て描けばいいんですもん！　写真を見て描くよりリアルじゃないですか？　結局、努力賞で1万円もらって帰ってきましたけど。全部『柔道部物語』のおかげですね。

――そういう意味でもリアルでしたか。今回もありがとうございました！

【08年12月17日／『kamipro』編集部にて収録】

マッスル坂井推薦！"文系スポ根"の世界！

『キャッチャー・イン・ザ・オクタゴン』
（須藤元気著／幻冬舎）
須藤元気初の小説作品。普通の生活をしていた高校生が、総合格闘技・EGFCのビデオを観て発奮し、レスリング部に入部。先輩のシゴキに耐え、プロ格闘家としてアメリカでデビュー戦を迎えるまでを体験も踏まえて描いた青春小説。

『筋肉バカの壁（博士の異常な健康PART2）』
（水道橋博士著／アスペクト）
運動部経験ゼロで、"ルポルタージュ芸人"を自称する水道橋博士が、1年をかけて肉体改造に真っ向から挑み、「東京マラソン2007」フルマラソン完走にチャレンジ。生粋の文系人間による渾身の体育会系ドキュメンタリー作品。

まっする・さかい■本名、坂井良宏。1977年11月5日生まれ。新潟県新潟市出身。早稲田大学第二文学部在学時にDDTに映像スタッフとして参加。04年10月には『マッスル』を旗揚げ。お笑いへの進出、短編映画作品の監督など、その多彩な才能ぶりが注目を浴びる。監修を務めた『八百長★野郎』（小社刊）が絶賛発売中。186センチ、120キロ。

門外不出の"神様"カール・ゴッチ秘伝の書！

書店じゃ入手不可能！
ビビってたじろぐ鳥肌モノの一冊!?

ゴッチ式トレーニング
『コンバットコンディショニング』

A4サイズ　132頁　日本語版　4700円（税込）　マット・フューリー／著

カール・ゴッチの
エクササイズで
私は超人的な強さを
身につけました
——マット・フューリー

全米大学レスリング王者の著者がゴッチの波瀾万丈に満ちた人生、そのトレーニング哲学に迫る！

おい、ホントかよ！

◎いま『コンバットコンディショニング』を購入するとカール・ゴッチの秘蔵インタビュー本
『The God of Wrestling』
日本語版を
※数量限定（非売品）

ゴッチがルー・テーズ、
グレイシー一族、
フランク・ゴッチ、
エド・ルイスについて激白！
さらにはヨーロッパ、
イギリス時代の
傑作逸話も収録！

A4サイズ　61頁　日本語版
マット・フューリー著

アントニオ猪木、佐山聡、
前田日明、髙田延彦、
船木誠勝……
日本マット界の
名だたるスターが取り組んだ
トレーニングメニューを初公開！

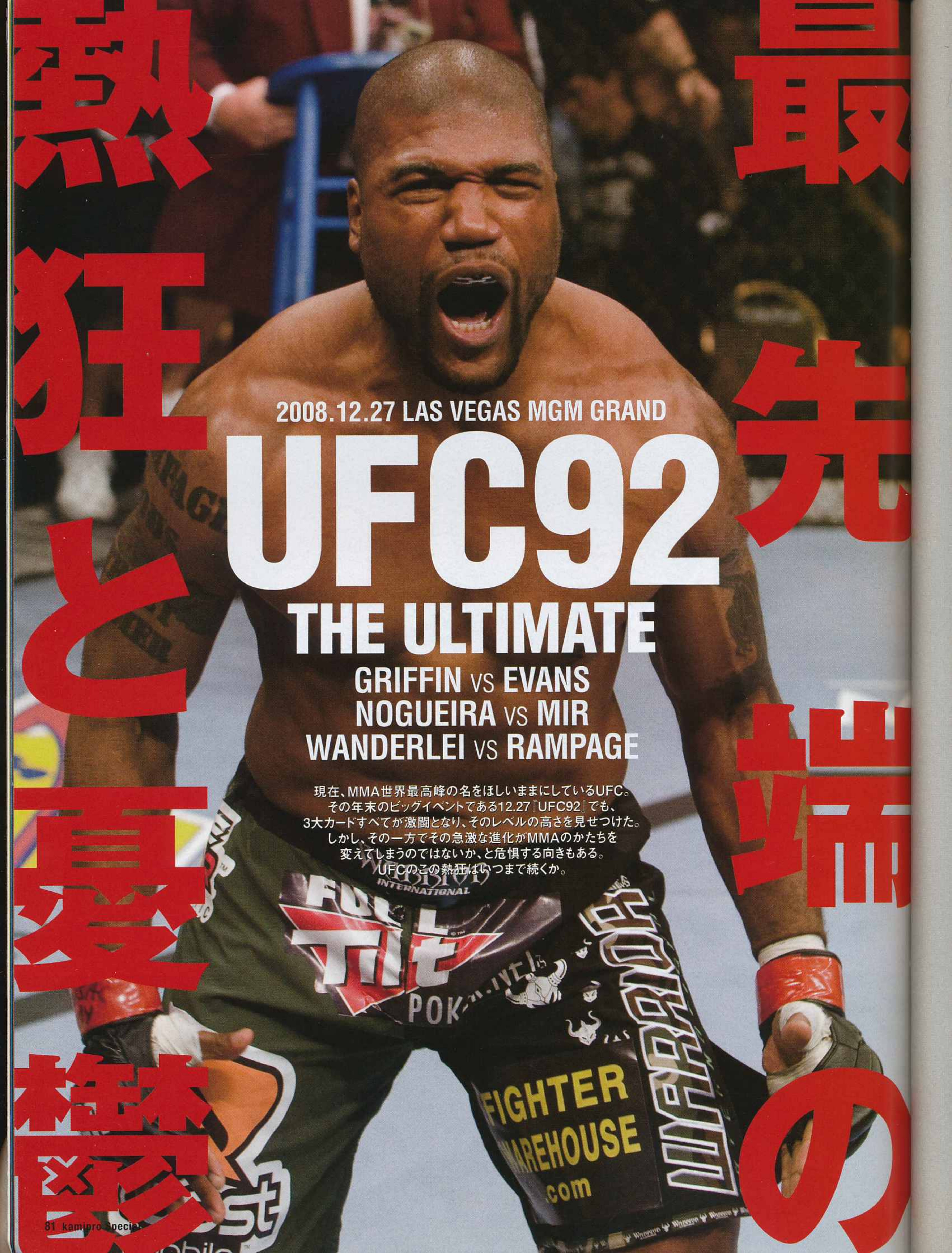
［ご注文方法］
下記まで電話かFAXでご注文ください。
電話　080-5015-0550
FAX　03-4496-6278
HP　WWW.MattFurey.jp
●お支払い方法は代引きのみで
840円（送料込み）となります。

［お問い合わせ］
〒171-0014
東京都豊島区池袋2-42-3 オスカービル8F
『マット・フューリー ジャパン』
担当／ノミタ
（『コンバット・コンディショニング』購入希望とお伝えください）
［販売元］マット・フューリー ジャパン

本で紹介するゴッチ式トレーニングの特色

- 器具が不必要、畳一畳ぶんのスペースでできるエクササイズ！
- 内蔵から鍛えるので身体の心肺機能が高まる！
- ケガの予防と同時に強靱な肉体と集中力が身につく！ etc.

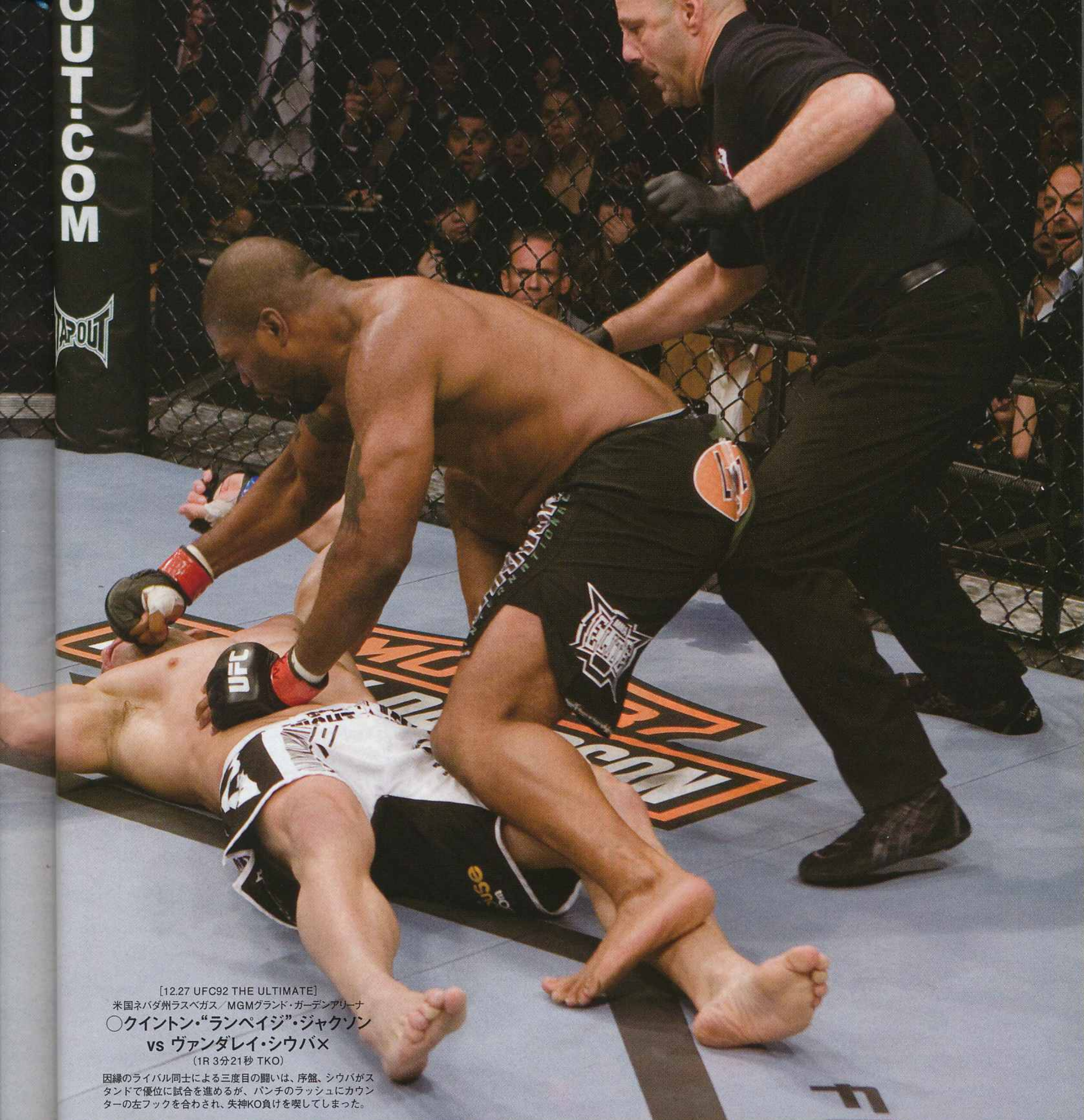
50年以上の歴史をもったトレーニング法で 正しく身体を鍛える！

最先端の熱狂と憂鬱

2008.12.27 LAS VEGAS MGM GRAND

UFC92

THE ULTIMATE

GRIFFIN VS EVANS
NOGUEIRA VS MIR
WANDERLEI VS RAMPAGE

現在、MMA世界最高峰の名をほしいままにしているUFC。
その年末のビッグイベントである12.27『UFC92』でも、
3大カードすべてが激闘となり、そのレベルの高さを見せつけた。
しかし、その一方でその急激な進化がMMAのかたちを
変えてしまうのではないか、と危惧する向きもある。
UFCのこの熱狂はいつまで続くか。

[12.27 UFC92 THE ULTIMATE]
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ

○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs ヴァンダレイ・シウバ×

(1R 3分21秒 TKO)

因縁のライバル同士による三度目の闘いは、序盤、シウバがスタンドで優位に試合を進めるが、パンチのラッシュにカウンターの左フックを合わされ、失神KO負けを喫してしまった。

ホドリゴ・ノゲイラとヴァンダレイ・シウバ。旧PRIDEのヘビー級とミドル級を象徴する二大スターが、なんと揃ってKO負け！『THE ULTIMATE』というサブタイトルがついた今大会は、まさにいまのUFCの現実をつきつけられるような結果となってしまった。

今回、シウバはランペイジとPRIDE時代からの因縁の対決。ノゲイラはフランク・ミアと、リアリティショー『TUF8』のコーチ同士の対決だった。そしてシウバ、ノゲイラともに前回の試合から、半年以上間隔を空けた準備万端での出陣。とくにシウバは試合前「最高の仕上がりだ」と自信満々だった。

その言葉どおり、この日のシウバは非常に動きがよかった。自分からどんどんプレッシャーをかけていき、接近戦でのフックだけでなく、ローキックも有効に使い、試合を優位に進めていく。しかし、1ラウンド後半、ランペイジを金網際まで追い込み、左右のフックを放ったところ、カウンターの左フックでアゴを打ち抜かれ、そのまま硬直するように失神。

PRIDEで行なわれた過去2戦のような"どつき合い"ではなく、ボクシング技術でシウバはマットに沈んだのだ。

そしてノゲイラも相手のボクシング技術に苦しんだ。ミアのジャブやアッパーをもらってしまい1ラウンドに二度のダウン。そして2ラウンドにワンツーで倒されると、そのままパウンドの雨を降らされ、初のKO負けを喫してしまった。

またしてもオクタゴンに沈んだP

2008.12.27 UFC92 LAS VEGAS MGM GRAND

シウバ、ノゲイラが揃ってKO負け!

進化に飲み込まれた二人のPRIDE王者

ライトヘビー級タイトルマッチをメインに豪華3大カードがラインナップされた12.27『UFC92』。ノゲイラとシウバという旧PRIDEのトップスターが揃い踏みしたが、なんと両者ともにKO負けというショッキングな結果となってしまった。UFCの進化、そして元PRIDEファイターの受難はなおも続くのか?

文／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

[12.27 UFC92 THE ULTIMATE]
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ
【UFCヘビー級暫定タイトルマッチ】

○フランク・ミア vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×

(2R 1分54秒 TKO) ※フランク・ミアが暫定王座奪取。

リアリティショー『TUF8』のコーチ同士でもあるヘビー級柔術家の頂上対決は、ミアのストレートとアッパーをくらったノゲイラが計3度のダウンの末、初のKO負けを喫した。

[12.27 UFC92 THE ULTIMATE]
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ
【UFCライトヘビー級タイトルマッチ】

○ラシャド・エバンス vs フォレスト・グリフィン×

(3R 2分46秒 TKO) ※ラシャド・エバンスが新王者に。

王者グリフィンにMMA無敗のエバンスが挑戦。グリフィンがリーチ差を活かし、パンチとローキックで試合を支配するが、3ラウンドにエバンスが、パウンド一発で逆転。新王者となった。

[12.27 UFC92 THE ULTIMATE]
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ

○岡見勇信 vs ディーン・リスター×

(3R終了 判定 3-0)

ミドル級タイトル挑戦まであと一歩のところまできている岡見が、ADCC王者リスターと対戦。スタンドで優位に立ち、寝技でも上のポジションをとり、危なげなくいつものように判定勝ち。

[12.27 UFC92 THE ULTIMATE]
米国ネバダ州ラスベガス／MGMグランド・ガーデンアリーナ

○ブラッド・ブラックバーン vs 長南亮×

(3R終了 判定 3-0)

頭髪を旭日旗のように染め上げ気合充分の長南。しかし序盤に打撃で苦戦、2Rにはダウンを奪われてしまう。3Rに反撃するが序盤のポイントが響き悔しい判定負けとなった。

RIDEファイター。しかし、これまでと違うのは、ノゲイラ、シウバともにPRIDEからUFCに移って3戦目であり、ルールの違いや、オクタゴンにも慣れ始めた頃。ラスベガスのスポーツブックのオッズでも、シウバとノゲイラは「有利」と見られていた。

もはや準備不足でも、ルールの違いでもない。ノゲイラとシウバは実力差で完敗を喫したのだ。

二人に共通していえたのは、前述のとおりUFCの打撃、とくにボクシングテクニックについてこれていなかったこと。

多彩なボクシングテクニックを持つ現代UFCのトップファイターたちに比べて、フックを振り回すシウバや、ジャブをもらい続けてしまうノゲイラの闘い方は、正直、古くさく見えてしまった。

現在、信じられないほど急速に進化しているUFCのストライキング技術の波に、二人のPRIDE王者が飲み込まれてしまったのだ。

シウバもノゲイラも10年近くの長きにわたり、このMMAのトップクラスを走り続けている強者中の強者だ。同時に、それゆえに歴戦のダメージの蓄積もあるだろう。

しかし、シウバとノゲイラが衰えたとは思わない。二人ともPRIDE時代の実力をキープするだけのハードトレーニングも積んでいる。ただ、UFC打撃レベルの急激な向上が、彼らのトータルでの実力を発揮できぬままに試合を終わらせてしまっているのだ。

それでも、シウバとノゲイラが、このまま〝過去の人〟になってしまうかといえば、そうは思わない。

格闘技のチャンピオンとは、いつでも〝一夜の王〟だ。その時点で最強だというだけで、その座が未来永劫保証されるものではない。彼らはそれを知りつくしているからこそ、PRIDE王者という過去の栄光にすがりつくことなく、MMAの最先端で闘い続けているのだ。

長きにわたり、MMAのトップを走り続けてきたシウバとノゲイラ。彼らがトップに君臨し続けてこれたのは、常に自己変革を怠らなかったからにほかならない。その向上心が止まらぬ限り、シウバとノゲイラはさらに強くなって帰ってくるはずだ。

PRIDEファイターに続き石井慧も“ジャイアン”が強奪！

“日本の宝”は俺のもの！俺のものは俺のもの!!

UFCの強欲大将

DANA WHITE

ダナ・ホワイト UFC代表

「日本のものは俺のもの、俺のものは俺のもの」とばかりに、PRIDEトップファイターを根こそぎ強奪した“ジャイアン”が、今度は石井慧までも手中に収めようとしている！　この強欲大将は“日本の宝”をどうしようというのか？　石井について聞くとともに毎年恒例「ダナ・ホワイト大賞」も発表してもらった。

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ
試合写真／ Josh Hedges（UFC）

――ダナ代表、お忙しいところインタビューを受けていただき、ありがとうございます！

ダナ　『kamipro』の取材もひさしぶりだな。なんだか最近はUFCではなく、DREAMとかいう日本の妙なイベントばかり載せているみたいだからな（ニヤリ）。

――いやいや（苦笑）。

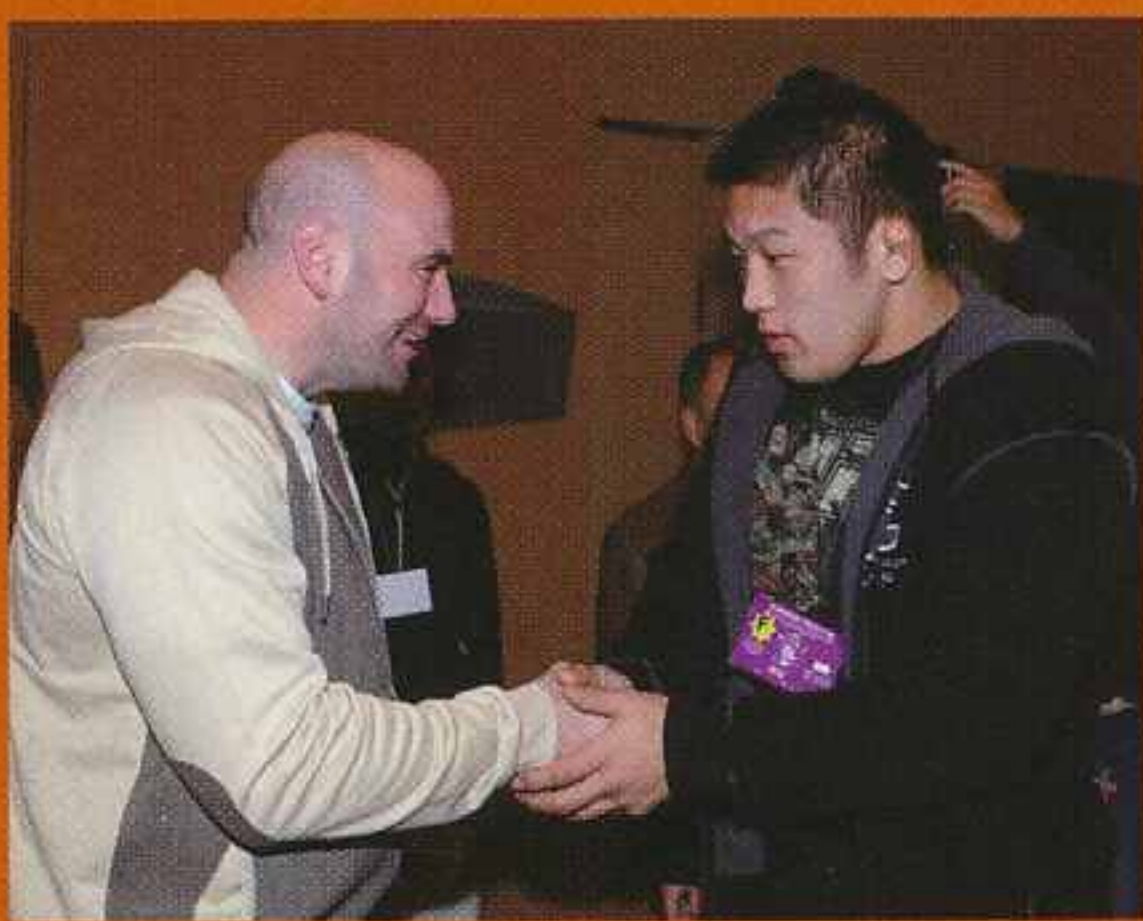
ダナ　イシイ（石井慧）同様、キミたちも日本に見切りをつけてUFCに来たのなら、賢明な判断をしたと思うがね（笑）。

――べつに日本に見切りはつけてませんけど（笑）、今回の『UFC92』はグリフィンvsエバンスのライトヘビー級タイトル戦、ノゲイラvsミアのヘビー級暫定タイトル戦、そしてヴァンダレイvsランペイジの因縁の一戦、さらに日本の岡見勇信や長南亮まで出るわけですから、日本のプレスとしても絶対に見逃せない大会ですよ。

ダナ　そうだろう。3試合ともメインイベントで提供できるスーパーカードばかりだ。こんな凄い試合を一日のイベントでマッチアップするとは、我ながらクレイジーだと思うよ（笑）。でも、それだけのトップファイターが集まっているのがUFCなんだ。

――そんなトップファイターを根こそぎ手中に収めているダナ代表が、MMAデビューもしていない石井選手に興味を持ったのはなぜなんですか？

ダナ　知人を通じて、日本でビッグな存在になっている世界でベストの柔道ガイがMMAに興味を持っているという話を聞いたんだ。しかも、ただ金儲けのために、日本のフリークショーに出るのではなく、MMAのプロフェッショナルファイターになることに対して、とてもまっすぐでハングリーだという。そんな男がいるなら、俺が興味を持たないわけがないだろう。

――石井選手本人と会うのは今回が初めてなんですよね？

石井慧×ダナ・ホワイト対談がついに実現!

12.27『UFC92』を翌日に控えた26日（米国現地時間）、会場となるMGMグランドで石井慧とダナ・ホワイトの会談が実現した。報道陣の目の前で、ダナに対してUFCやMMAのトレーニングについて質問をした石井。はたしてダナの答えとは?

ダナ　アメリカによく来てくれた。何かわからないことがあったら、なんでも聞いてくれ。
石井　アメリカでトレーニングがしたいんですけど、どういうところでトレーニングしたらいいですか?
ダナ　ランペイジ・ジャクソンのところなんかどうだ?　ジョルジュ・サンピエールとトレーニングするというのもいい。あとはサンノゼにあるAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）、ラスベガスならランディ・クートゥアーのジムがある。私の近くに常にいたければ、ラスベガスにいるのが一番いいだろう（笑）。
石井　ロシアのMMAについてはどう思いますか?
ダナ　本当にMMAをやりたいならロシアじゃない。ここアメリカしかないんだ。いまなら一番いい選手、トレーナーはすべてアメリカに集まっている。アメリカでやるべきだね。一カ月ぐらい私がキミをご招待して、ランディのところでトレーニングをさせようと思うがどうだい?
石井　ぜひ、よろしくお願いします!
ダナ　ベストなファイターたちと一緒に練習することで、MMAのトップファイターというものは、どんなものなのか感じてほしい。ランディのところのトレーナーが、イシイのことをどう思うか、こちらも判断できるしね。
石井　よろしくお願いします!　自分は一カ月といわず、なるべく長期滞在して練習したいと思ってましたんで。
ダナ　じゃあ、なるべく早くやろう!　パーフェクトだ!　いまウエートはどれぐらいあるんだい?
石井　いま108キロぐらいです。
ダナ　じゃあ、ライトヘビー級だな。
石井　いや、自分はヘビー級でやりたいんですけど……。
ダナ　キミの身体でUFCでやるのなら、減量してライトヘビー級でやったほうがいい。まずはアメリカで本物のMMAのトレーニングを体感してほしい。ここからがスタートなんだ。

イシイに関しては、ＢＪペン同様じっくり時間をかけて育てたいんだ

ダナ　そのとおり。いままではお互い共通の友人を通じてイシイのことを話していたんだけど、その友人が「イシイがどうしてもＵＦＣファイターになりたいと言ってるんで相談に乗ってほしい」と言ってきたんだ。もちろん、イシイがＵＦＣに来ることになれば、日本で憤慨する奴らがいることを理解したうえでね。間違いなくＵＦＣも奴らに〝ＰＩＳＳＥＤ　ＯＦＦ〟（嫌われる）されるだろうな（笑）。
――石井選手は日本の宝ですからね。その金の卵とＵＦＣはどのような契約を結ぶつもりなんですか？
ダナ　プレスのみんなはすぐに契約の話を聞きたがるけど、イシイのような若くて才能を持ったアスリートに対してＵＦＣがどう考えているか、ちゃんと理解してほしいんだ。我々は才能のあるアスリートをＭＭＡファイターにするのに、あせらず時間をかけて育てたいんだよ。イシイは素晴らしい才能とポテンシャルを秘めているが、まだこの世界では子どもだよ。まずは彼をＭＭＡの練習環境・コーチが世界で一番整ってるラスベガスに呼んで、一ヶ月はトレーニングをさせたいんだ。そしてイシイ自身が、トップレベルのＭＭＡファイターの実力、練習内容をしっかり理解する時間を与えてあげたいんだ。
――まずは石井選手のＭＭＡのなんたるかを身体でわかってもらう、と。
ダナ　そう。いくらイシイが柔道のゴールドメダリストで、柔道においてどんなに強くてもすぐにオクタゴンに入れたりはしないんだ。日本では有名なアマチュアアスリートをいきなりトップファイターと闘わせて、潰してしまうなんていうバカげたことが何度か行なわれてきたが、ＵＦＣはそんな愚はおかさない。実際、ＢＪペンに対しても今回のイシイと同じようなアレンジをしたんだ。
――そうなんですか。
ダナ　最初にＢＪに会ったときは、まだ柔術のチャンピオンでしかなかった。その柔術チャンプがミックスト・マーシャル・アーティストになりたいと言ってきたとき、私は充分な練習環境と時間を与えたんだよ。その結果、ＢＪ自身の素晴らしい素質と才能もありＭＭＡのトップファイターとなったんだ。
――なるほど。
ダナ　イシイに対しても同じアプローチで世界トップレベルのミックスト・マーシャルアーツ・アーティストに育てたいし、そうなれると信じている。イシイの体格は２０５ポンド（ライトヘビー）クラスでは大きな武器にもなるからね。とにかく彼がトップレベルのファイターになることを我々はとても楽しみにしてるんだ。
――石井選手自身はヘビー級へのこだわりがあるようですけど、ダナ代表はライトヘビー級での起用を考えているわけですか？
ダナ　確かにイシイはデカいけど、まずはライトヘビー級で試合をすべきだね。ＭＭＡに慣れて、技術を身につけ、やるべきことをやってから、彼自身の将来のキャリアとしてヘビー級へ階級を上げるかどうかは、その時点で決めればいいことだ。イシイは普段で２３０ポンドちょっとだろ？　それならライトヘビー級の２０５ポンドに体重を落とすのは全然問題ない。現に３００ポンドのファイターが２６５ポンドまでカットしているからね。
――石井選手はデビューまでどのくらいかかりそうですか？
ダナ　まだなんともいえないな。さっきも言ったとおり、まずは一カ月間、イシイをラスベガスでランディ（・クートゥアー）やほかのキャンプでトレーニングさせ、どのレベルにあるか確認してからになるだろう。もしかしたら、すぐにアルティメット・ファイターの一人として、リアリティショーに参加させるかもしれない。
――いずれにしても、いきなりオクタゴンで試合はさせず、まずはリアリティショーからスタートさせるつもりですか？
ダナ　ああ。リアリティショーのキャンプは精神面や、肉体的、感情的な面で若いファイターが成長していくのには最高の環境なんだ。同時にスターを育てるという意味でも『アメリカン・アイドル』と同じ影響力を

持っている。イシイにとってもMMAのトレーニングをしながら、アメリカでの知名度を高める大きなチャンスになる。そしてイシイが成長すれば、UFCが日本に進出する際の最大のカードにもなるしな。

——その日本進出はいつ頃を考えていますか？

ダナ　最低でもあと一年は必要だろうね。

——そんなに先になってしまいますか……。

ダナ　でも、WOWOWでのテレビ放送も始めたし、準備はしている。これまでも日本のマーケットについて「いかに進出するのに障壁があるか」を『kamipro』のインタビューでも100回は答えてるだろう？　日本は世界で最もMMAファンを抱えるマーケットだったんだ、数年前まではね。UFCとしてはその潜在的なファンが数多く存在する大事な市場だからこそ、しっかり進出の準備を整えて、黄金マーケットとして復活させたいんだ。日本のファンには、もう少しだけテレビで我慢してほしい。

——石井選手のほかに、興味がある日本人ファイターはいますか？

ダナ　KIDヤマモトだね！　私は彼のファイトスタイルが大好きなんだ。彼なら135ポンド（バンタム級）のトップクラスで闘えるだろう。ぜひともWECで暴れてほしいね。

——UFCで優秀な戦績を収めている岡見勇信やLYOTOがタイトルに挑戦できないのはなぜですか？

ダナ　オカミは好きなファイターだよ。残念だったのはケガで10月のアンデウソン・シウバ戦が流れてしまったことだ。LYOTOも才能がある強いファイターだが、205ポンド（ライトヘビー級）には素晴らしく才能があるファイターがたくさんいて、興味深いファイトカードが100万通りもできてしまうほどなんだよ。

——そんなにできてしまいますか（笑）。

ダナ　私はそんな中で、ファンが観たいカードを実現すべく日々努力している。オカミやLYOTOは、そのタイミングが少し合わないだけだ。もちろん両者ともタイトル挑戦のコンテンダーであることは間違いない。

——M-1のワジム・フィンケルシュタイン代表が、エメリヤーエンコ・ヒョードルのUFC参戦の可能性を口にしていますが、2009年、ヒョードルがUFCのオクタゴンで闘う可能性はありますか？

ダナ　前から言っているとおり、私は世界でベストのファイターをオクタゴンに上げたいんだ。ヒョードルもその一人だ。そして事実、ワジムともその件については何度も話をしている。しかし、まだヒョードル参戦が実現するためには、見えない障害があるんだよ。それぐらいしか言えないな。

——ヒョードルのこともちゃんと評価しているんですね。

ダナ　「チャンピオンになる可能性がある選手」としてね。俺のヒョードルに対する評価を『kamipro』なら知っているだろう？　彼はほとんど試合をしていないばかりでなく、トップレベルとのカードが非常に少ない。世界最強と評価するには、トップファイターとコンスタントに試合をして結果を残してからだ。まあ、そういう意味で、アンドレイ・アルロフスキーとの試合は正直言って興味があるよ。

——ダナ代表が他団体のマッチメイクに興味を示すなんて珍しいですね。

ダナ　勘違いしてほしくないな。私はUFC代表であると同時に、MMAのビッグファンなんだ。優秀なファイター同士の闘いには当然興味がある。そして競合団体があること自体はグレートだよ。PRIDEが最大の存在だったときは、UFCとどっちのファイターが最強だとか、ルールに関しての問題を指摘したり、罵り合ったりしたこともあったけど、とても楽しかったよ。私が嫌っているのは、MMAがなんであるかも知らずに、金儲けができると思って手を出し、この素晴らしいスポーツをメチャクチャにしてしまう連中のことだ。そんな団体の契約に縛られて、無駄な時間をすごさなければいけないファイターは本当にかわいそうだと思うよ。

日本でライブショーを開催するには最低でもあと一年必要だ

——つまり『アフリクション』と契約しているファイターはかわいそうだ、と（笑）。

ダナ　とくにアルロフスキーはかわいそうだよ。10月に試合があるはずだったのに、それも流れたわけだからな。無駄な時間をすごしていると思うよ。あと潰れたクソ団体エリートXCと契約していた選手もそうだ。あの団体はクソだが、一部優秀なファイターもいた。ロビー・ローラー、ジェイク・シールズ、ジーナ・カラノあたりにはぜひ参戦してほしい。

——日本のDREAMに上がっているミルコ・クロコップはどうですか？

ダナ　ミルコも調子を取り戻したら、もちろん戻ってきてほしい。彼自身もUFCに戻って勝利を収めたい希望を持っているとは聞いているからね。そういえば、ニューイヤーズイブに日本で試合するんじゃないのかい？

——チェ・ホンマンと対戦しますね。

ダナ　えっ⁉　チェ・ホンマンだって？　いつもの日本式ファイトカードだな。相変わらず笑わせてくれるよ。そんなクソみたいなカードでミルコがキャリアを無駄にすごすのは見てられないな。まあ、明日（12・27『UFC92』）は、本物のMMAイベントを楽しんでくれ！

【ここからはUFC92大会後取材】

——衝撃的な大会となりましたが、ノゲイラとヴァンダレイ・シウバはなぜ負けてしまったんだと思いますか？

イシイはUFCでも成功する

UFCオーナーも石井慧を語った！
ロレンゾ・フェティータ

——石井慧選手がUFC参戦を希望していますが、オーナーとして彼をどのように評価していますか？

ロレンゾ　ワールドクラスの柔道家、それも北京オリンピックの金メダリストとUFCが契約できることを楽しみにしている。彼は柔道の技術と体力があるばかりでなく、身体も強靭なのでUFCで成功することは間違いないよ。

——契約はどうなりそうですか？

ロレンゾ　いまその話をしているところだ。楽しみにしていてほしい。

——UFCでプロデビューするのに、どのくらい時間がかかると思いますか？

ロレンゾ　まだ彼のトレーニングを見ていないので、なんとも言えないな。まずはアメリカに呼んで、ランディのキャンプでトレーニングを積ませる予定だ。そして、その中でどのレベルにあるかを確認してスケジュールを立てようと思う。いずれにしても、MMAファイターになるには、グラウンド、スタンドアップだけでなく、クロストレーニングが重要となるので最低でも数カ月はかかるよ。

——石井選手はヘビー級で参戦したい希望を持っているようですが？

ロレンゾ　イシイがヘビー級で参戦したいということは聞いてるよ。でもライトヘビー級だったら間違いなく、大きくてストロングなファイターの一人になるし、今日現在UFCのスターやビッグマッチが組まれているのはライトヘビー級。チャック・リデル、ヴァンダレイ・シウバなど、トップレベルのファイターが一番集まっているこのクラスなんだ。イシイにとって、最もいい階級だと思うよ。

——UFCの日本進出計画はどうなっていますか？

ロレンゾ　日本はインターナショナル計

画の中でもとくに重要なマーケットでは

ダナ　このMMAというスポーツ世界では、オクタゴンに現われたとき「年老いた」と感じる日が来るんだよ。今日のノゲイラはまさにその日だった。動きがスローで、ミアの攻撃をかわすことができなかった。彼にとって最悪の夜になってしまったね。ノゲイラは調子が悪かったのか、それとも衰えてしまったのか……。前者であってほしいね。

——ヴァンダレイについてはどうですか？

ダナ　ヴァンダレイは「やられちまった！」ってことさ（笑）。二人のハードパンチャーが殴り合いを演じれば、どちらかが倒れる。ヴァンダレイはランペイジを、ランペイジはヴァンダレイを、ファイティングスピリットという面で尊敬し合っているからね。彼らは一時的に相手の出方を観ながらスマートに試合を展開しようとしていたけど、観てのとおりヴァンダレイのガードが下がった瞬間、ランペイジの素晴らしいフックをもらってしまったんだ。

——ヴァンダレイは最後、危険な倒れ方をしましたけど、復帰に心配はありませんか？

ダナ　選手の安全には最大の配慮を払っている。当然、試合直後にドクターにチェックさせたけど、問題はないとのことだ。あとはヴァンダレイ自身に問題がなく、試合を組んでくれというなら、すぐにでもファイトカードを検討するよ。

——これでUFCに本格参戦後、1勝2敗となりましたけど、カードは組みにくくなってはいませんか？

ダナ　そんなことはない。負けが先行しているが、試合内容は素晴らしいものばかりだ。夢のカードはまだいくらでも思いつく。チャック・リデルとの再戦でもいいし、（マウリシオ・）ショーグンがマーク・コールマンに勝ったら、ショーグンvsヴァンダレイもおもしろい。でも、まだ何も決まってはいないけどね。

恒例！　ダナ・ホワイト大賞発表!!

ダナ・ホワイトが選ぶ
［2008年ジョーク・オブ・ザ・イヤー］
キンボ・"ファッキン"・スライス
数年前の日本におけるボブ・サップ的な人気をアメリカで博し、エリートXC地上波テレビ放送獲得の原動力となったキンボ。しかし、試合をするたびにメッキが剥がれるところもサップ的だった。

ダナ・ホワイトが選ぶ
［2008年ベストマッチ］
6.1 米国カリフォルニア州サクラメント、アルコアリーナ
ミゲール・トーレス vs 前田吉朗
WEC世界バンタム級タイトルマッチとして組まれたこの一戦。日本の前田吉朗は、このチャンスに大奮闘。王者トーレスと壮絶な打撃戦を演じ、敗れたもののアメリカのファンの度肝を抜いた。

ダナ・ホワイトが選ぶ
［2008年ベストファイター］
アンデウソン・シウバ
あまりに強すぎて、ミドル級では魅力的なカードがなかなか組めないほど飛び抜けた存在であるアンデウソン。あのダン・ヘンダーソンを一方的に下した試合は圧巻だった！

——次の目玉カード、タイトル戦は？

ダナ　いまこの場で言えるのは、ランペイジ・ジャクソンがライトヘビー級タイトルに挑戦することと、フランク・ミアが今春、ブロック・レスナーのヘビー級タイトルに挑戦することだけだ。現在UFCには合計250人のMMAファイターが契約している、その中で各階級で年3回のタイトル戦を組むには充分にスケジュールを検討しなくてはいけないんだ。パズルのようにね。

——UFCとしての今後の計画は？

ダナ　2008年はUFCにとって素晴らしい年だったが、UFCはまだまだ成長段階なんだ。我々は毎年レベルアップを図ってきたし、それを実現している。2009年は海外市場への展開の年となるだろう。まだヒスパニックの市場には全然入り込めていないしね。国内、インターナショナルを含めもっと成長させていくよ。

——では、2008年最後の大会が終わったということで、毎年恒例「ダナ・ホワイトが選ぶ年間ベストファイター、ベストマッチ、そしてジョーク・オブ・ザ・イヤー」を選出してください！

ダナ　いいだろう。まず年間ベストファイターはアンデウソン・シウバだ。彼は同時にベストのパウンド・フォー・パウンド・ファイターでもある。彼の圧倒的強さは、まさに「ベスト」と呼ぶにふさわしいものだ。

——続いてベストマッチは？

ダナ　これは非常に難しいが、一試合だけ選ぶとすれば、ミゲール・トーレスvsマエダ（前田吉朗）になるかな。

——ミゲールvs前田ですか！

ダナ　私もこれまで数多くのMMAを観てきたが、あれほど激しい打ち合いをお互いに一歩も引かずに行なった試合は観たことがない。これが2008年のベストだ。

——いや～、2007年のダナ代表が選ぶベストバウトはロジャー・フエルタvsクレイ・グイダというUFN（アルティメット・ファイト・ナイト）での試合でしたが、今年もWECで行なわれたミゲールvs前田というUFC以外の試合をベストに選ぶとは驚きですね。

ダナ　だから言っただろう。私は世界中のMMAを平等に評価しているんだよ（ニヤリ）。

——では最後に、2008年度ジョーク・オブ・ザ・イヤーをお願いします！

ダナ　それはもちろん、キンボ・"ファッキン"・スライスだ！

——ダハハハ！　キンボ・スライスに「ファッキン」をつけましたか（笑）。

ダナ　ジョーク・オブ・ザ・イヤーとは彼のためにある賞だ。あいつはいったいなんだったんだ!?　まったく存在自体がジョークみたいなもんだ。まあ、2009年もジョーク皆無のUFCを楽しみにしていてくれ。今日はここまでだ！

【08年12月26&27日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナにて収録】

画の中でもとくに重要なマーケットではあるが、PRIDEを買収してから何もできていないのが現状なんだ。準備は始めているので、近いうちに実現したい。WOWOWの中継もリスタートしたし、今後の展開を協議していく予定だ。日本でのライブショー開催まで最低一年はかかると思うけど、ぜひ楽しみにしてほしい。

——今後も日本人選手と契約していく予定ですか？

ロレンゾ　オカミのことは大好きだし、ゴーノも1月のジョン・フィッチ戦に期待している。そして、まだ日本にもUFC向きの素晴らしいファイターがたくさんいるから、今回のイシイも含めてトップファイターとは契約をしていきたい。たとえばKIDヤマモトとかね。

「小さい大会から這い上がって
オクタゴンで勝ちます！」

“暴言柔道王”のMMAメジャーリーグ視察に密着！

石井慧 UFC上陸

UFC参戦を表明していた北京五輪柔道金メダリスト、石井慧がついにUFCの本拠地ラスベガスを訪れた。3泊5日という強行スケジュールながら、ダナ・ホワイト代表、ロレンゾ・フェティータオーナーと会談。さらにランディ・クートゥアーとのスパーリングも実現させた石井に、いまの心境を聞いた。

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ　写真協力／WOWOW

石井慧がついにUFC上陸！　北京五輪柔道金メダリスト、石井慧がついにMMAのメジャーリーグ、UFCの会場を訪れた。

プロ転向宣言後、DREAM参戦が有力視される中、〝お騒がせ男〟は「世界最高峰を目指したい」とUFC参戦を表明。そして12・27『UFC92』視察のため、ラスベガスへと飛んだ。

初めてMMAのメッカ、UFCの本拠地に降り立った石井は、大会前日、〝ジャイアン〟ダナ・ホワイトと会談。ここでランディ・クートゥアーのジムで1カ月間トレーニングを積むことを提案されると、早速、翌日の昼間にランディのジムを訪れ、ランディ本人とのスパーリングを含む2時間のトレーニングを行なった。

このあたりの積極性、そして練習熱心さは石井ならではだろう。そして27日夜には、MGMグランド・ガーデンアリーナで『UFC92』を観戦。

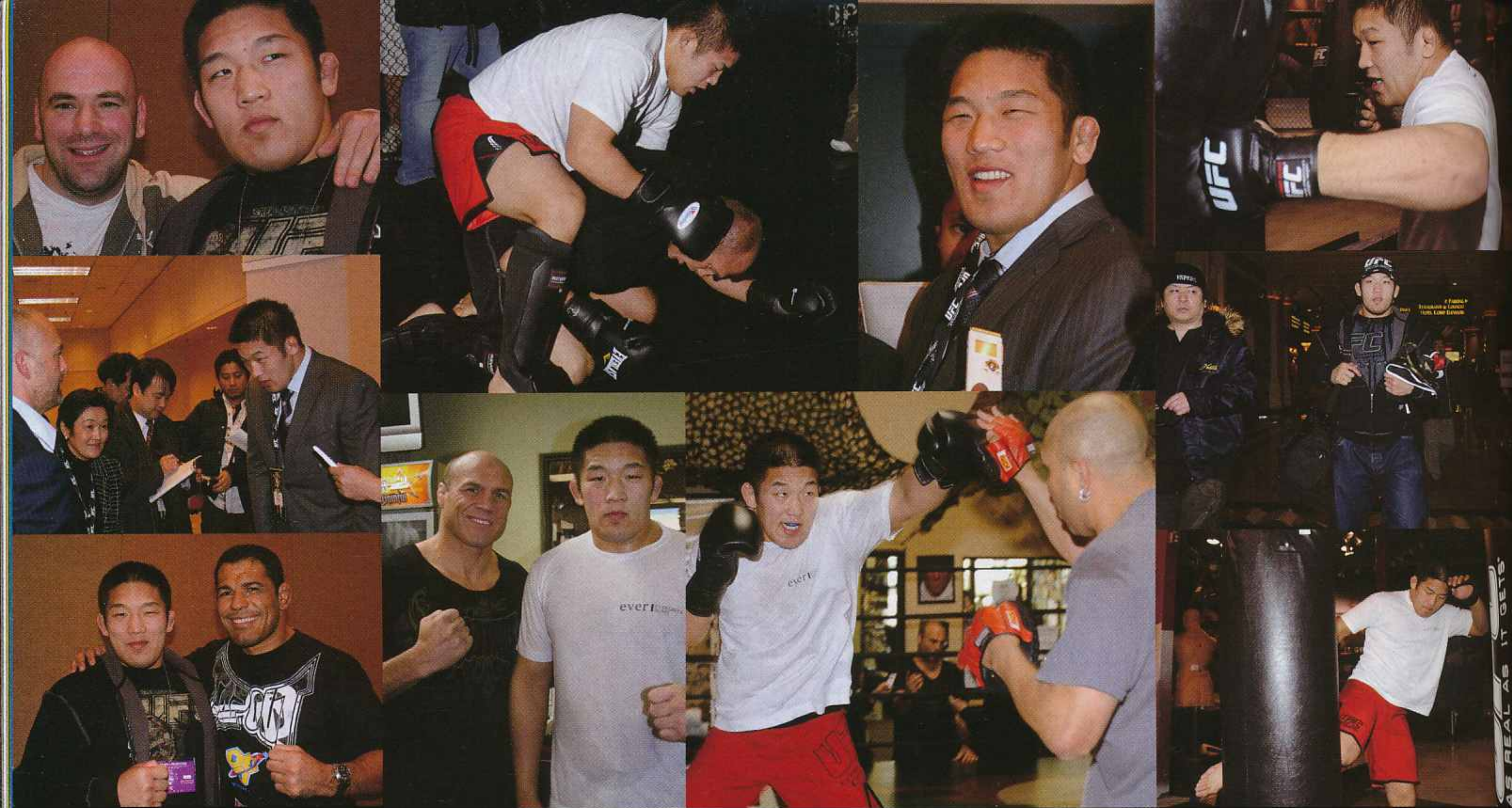
この試合前と試合直後に報道陣のインタビューに答えた石井。彼の目にUFCの闘いはどう映ったのか。ラスベガスでの石井の生の声をお届けしよう。

――今日の昼間、ランディ・クートゥアーのジムを訪れたわけですが、いきなりランディ本人にスパーリングを求めましたよね。あれは最初からやりたかったんですか？

石井　そうですね。技術練習とちょっとしたスパーとミット打ちを2時間くらいやりましたね、2時間DREAM（笑）。肌と肌を合わせたっていうのだけで凄く勉強になりましたし、活力というか明日の元気をもらいました、戦極！（笑）。

――あの……なんで語尾に「DREAM」とか「戦極」って付けてるんですか？（笑）。

石井　いや、あのー、ただくっつけとこうかなと思って（笑）。

――「DREAM」と「戦極」を語尾につけるときの使い分けの基準とかあるんですか？

石井　いや、ちょっとしたフェイントです。

――フェイントですか（笑）。クートゥアーからはどういうアドバイスをもらいましたか？

石井　「打撃を多めに練習やるべきだぜ」と。「打撃からのタックルなど、そのつなげるところも考えないといけねえぜ、ベイビー」と（笑）。

――寝技に関して褒められたことはありますか？

石井　寝技はバックボーンがあるので、まずは打撃をやりましょうと言われました。

――寝技でランディが上になった場面はありましたか？

石井　5秒ぐらいですね。

――上からのプレッシャーは、日本で練習したほかの選手と比べてどうですか？

石井　自分は岡見（勇信）さんのほうが力が強かったような気がします。

――やる前と比べてランディの印象は？

石井　印象も何も、やっぱりそこは闘いなんで、全力でぶつかっていくっていうだけですかね。

――ダナ・ホワイト代表は「ラスベガスに来て練習したらどうだ？」という話をしていましたけど、ランディの練習環境はどうでした？

石井　ハンパねえっす。ハンパないって言えないくらい、いい環境でした。

――ここなら来てみたいと思いましたか？

石井　はい。きれいだし、（設備が）整ってるし、指導者も多いって聞いたんで。

――今回は休日ということで、ファイターもあまりいませんでしたが、普段はヴァンダレイ・シウバも週2〜3回はランディのジムに来てるみたいですよ。

石井　そうなんですか。いいですね！　でも、今日はクートゥアーさんのジムに行ったんで、クートゥアーさんと（スパーリングが）できたっていうことが一番のメリットじゃないか、と。

――スパーリング後、「頑張れよ」とか言葉をかけてもらえましたか？

石井　いつでもウェルカムだ、と。

――11月までヘビー級王者だった人と肌を合わせてみて、自分もいけるかなっていう自信は生まれましたか？

石井　いや、「いけるかな」じゃなく、自分はいきます！（キッパリ）。

――アメリカでの練習は今後、クートゥアーのジムでやる予定ですか？

石井　1月にもどこか一つジムに行こうと思います。どこかはまだ内緒ですけど、帰国子女になろうかな、と。ジムはいろいろ回らず、一つ決めたところでしっかりやりたいです。

〜『UFC92』全試合終了後〜

――いまUFCを観終わって、どの試合が一番印象に残りましたか？

石井　ヴァンダレイの試合ですね。

――どんなところが？

石井　入場曲ともマッチしてて、試合だけというよりも全体として感動しました。負けちゃったのは残念ですけど。

――ノゲイラはどうでした？

石井　ノゲイラには絶対勝ってくれよ、いいところ見せてくれよという感情がありましたね。ただ、やっぱり練習量が大切なんだな、体力がものをいう場所だなと思いましたね。

――ヴァンダレイやノゲイラの敗因はなんだと思いますか？

石井　自分より強い人の敗因なんて、全然わからないですけど。相手のほうが練習して、努力を積んでたってことじゃないですかね。

――メインのグリフィンvsエバンス戦にはどういう印象を持ちましたか？

石井　金網と自分たちになじみのあるリングの闘い方は違うので、そういうところですね。

――UFCの会場の雰囲気はどうでしたか？

石井　凄く自分の好きな感じでしたね。いや〜、UFCって、ホント、いいもんですね！（水野晴郎調）。

――来年（09年）はいけそうですか？

石井　来年は絶対に小さい大会からでも這い上がっていくつもりなので。そしてUFCに出て勝っていきたいので、皆さん、WOWOWに契約して、自分の試合を観てください！

【08年12月27日／米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランドにて収録】

こうして3泊5日のUFC視察を終えた石井。帰国後、UFC側は石井と独占交渉権を結んだと発表した。

石井は『UFC92』に続き、1・31『UFC94』ラスベガス大会への来場も噂され、ここで正式にUFCと契約を結ぶのではないかと言われている。

はたして石井はUFCとどんな契約を結ぶのか。そしてデビューに向けてどこでトレーニングを行なっていくのか。

イシイは1年以内に UFCで闘えるレベルになる

“UFCの鉄人”が語る 石井慧の可能性

RANDY COUTURE

元UFCヘビー&ライトヘビー級王者／ランディ・クートゥアー

ダナ・ホワイトとの会談で、ランディのジムでのトレーニングを提案された石井は、その翌日、早速「エクストリーム・クートゥアー」を訪問。ランディと対面すると、なんとスパーリングまで実現させてしまった。実際に石井と肌を合わせてみたUFC王者の目に石井はどのように映ったのか?

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ　写真協力／WOWOW

――石井選手と会うのは今日が初めてですか?

ランディ　ああ。さっき紹介されたばかりで、これから軽いスパーリングを行なうところなんだ。

――石井選手の印象は?

ランディ　柔道の金メダリストということだけど、アメリカではオリンピックの柔道の試合もテレビで放送されなかったから観てないんだ。だからなんとも言えないね。

――では、スパーリング後、お話を聞かせてください!

ランディ　OK!

〜石井とのスパーリング後〜

――石井選手のグラップリングはいかがでしたか?

ランディ　さすがにベースがしっかりしてて、ポジショニングがとってもいいね。グラウンドコントロールがしっかりしてるんで、体重以上に重さを感じる。彼のようにベースがしっかりできていれば、グラップリングはすぐに慣れるだろうから、イシイ本人にも言ったけど、やはり課題はストライキングになるね。

――現時点での石井選手のストライキングはどう思いますか?

ランディ　悪くないよ。スピリットを感じるし、恐怖心なくパンチを出しているところがいい。いまの時点で最も重要なのは、基本に忠実に、そして躊躇なくパンチが出せることなんだ。テクニックやそれに必要となる筋肉は、あとからなんとでもなるからね。

――MMAとしてのグラウンドテクニックはどうでしたか?

ランディ　もちろん、いまは柔道式の寝技だよね。でも、MMAで必要なグラウンドのテクニックは、細かい点さえ教えれば、すぐに身につけられるだろうし、効果的にグラウンドで相手にダメージを与えることができるようになると思う。もしかしたら、今日の時点でもサブミッションに関しては、私よりいいものを持っているかもしれないしね(笑)。

――ランディさんはグレコローマン・レスリングの全米王者からMMAに転向して成功しましたけど、アマチュアからプロで成功する秘訣みたいなものはありますか?

ランディ　私の場合はストライキングの練習に多くの時間を費やしたんだ。そして、より効果的なストライキングができるようになってくると、MMAにおいてもレスリングのテクニックを有効に使えるようになった。これは柔道家である彼にも同じことが言えると思う。あと、もし彼が自分のジムの選手だったら、最初はアマチュアMMAの試合に出して、MMAの試合を体感させるね。アマで試合をしてみれば、どのレベルにあるかも確認できるしね。とにかく、あせらず一番いい方法でMMAを身につけていくことが重要だ。

――このキャンプにも、柔道とは競技は違っても、トップレベルのアマチュアレスラーからMMAのプロになった選手がいますよね? それらの選手と比較して、石井選手はどの程度でMMAのプロとしてデビューできると思いますか?

ランディ　そんなに時間はかからないよ。一年以内にはUFCやWECでもデビューできるレベルになるんじゃないか? それよりいま一番怖い

重要なのは柔道での成功に依存せず一から這い上がる気持ちがあるかどうかだよ

のは、柔道の金メダリストということですぐにデビューさせて、いきなりプロの洗礼を浴びて、精神的ダメージを負ったり、自信を失なってしまうことなんだ。MMAを恐れないこと、それがいまの段階で一番重要なことだよ。

——とにかく、金の卵だからこそ、時間をかけてじっくりと育てるべきだ、ということですね。

ランディ　いま自分のジムに、高校時代からトップレベルのレスラーで、オールアメリカンにも数度選ばれたグレイ・メイナードというUFCファイターがいる。彼はアマチュアMMAを一試合経験後、プロで2試合したあと、『TUF5』にファイターとして参加。その後、UFCライト級で4連勝するなど、トップコンテンダーとして素晴らしいタレント性を持った選手になっている。このメイナードが歩んだ道が、これからの石井には参考になるかもしれないね。

いきなり実現した元UFCヘビー級王者と、北京五輪柔道金メダリストの夢のスパーリング。石井のグラップリングは、ランディもやはり可能性を感じたようだ。石井は今月末、再びラスベガスを訪れる案がある。

——石井選手はヘビー級での闘いを希望しているのですが、階級についてはどう思いますか?

ランディ　ヘビー級ではちょっと身体が小さいよ。あれぐらいの身体でも、すでにMMAの経験を相当積んで、大きな相手と闘っても体力負けすることなく、グラウンドテクニックや身体能力を有効に使えるんであれば別だけど。彼はまだMMAファイターとしては弱点があるからね。まずはライトヘビー級が合っていると思う。まあ、実際に練習を積んでベストの体重を確認しないといけないことだけど。

——ランディさんもヘビー級としては決して大きなほうではありませんけど、体力的なハンデは感じていたわけですか?

ランディ　いまは感じないけど、以前は凄く感じていたよ。私はデビュー当時、MMAの経験が少ないのにヘビー級で闘い、ジョシュ・バーネットやリコ・ロドリゲスら、自分よりかなり大きな相手と試合したけど、体格の違いはどうにも対応できなかった。だから、自分と同じサイズのファイターがいるライトヘビー級に落とすことを決めたんだ。その後5年間はライトヘビーで経験を積んで充分なテクニックを身につけたあとは身体のサイズという弱点を克服できるようになったんだ。このあいだブロック・レスナーにはパンチをもらって試合が終わってしまったけど、試合自体は体格差が弱点になるってことはなかったよ。

——石井選手がMMAで成功する鍵はどこにあると思いますか?

ランディ　柔道でゴールドメダルを獲ったからといって、いままでの成功に依存しないで、一から這い上がっていく気持ちがあるかどうかだね。柔道とMMAは同じ格闘競技といっても、その中身はまったく異なる〝プロ〟のスポーツなんだ。また、彼のようなビッグネームは、ファンやメディアからの期待から相当なプレッシャーを受けるようになると思うんで、それらをコントロールできるかだろう。

——ある意味、「柔道金メダリスト」という肩書きを、いかに払拭できるかということも鍵となるわけですね。

ランディ　あと、スポーツで成功するには、経験という要素が非常に大きいものなんだ。だからしっかりと経験を積んでいくことも必要になる。彼はいま年齢はいくつなんだい?

——大学4年生だから、たしか22歳ですね。

ランディ　えっ⁉　まだ22歳だって?　ずいぶん若いんだね。私の息子が26歳だから、息子より4歳も若いのか(笑)。それならなおさら、じっくりと練習していったほうがいい。そうすれば、数年後は素晴らしい選手に成長していると思うよ。

【08年12月27日/米国ネバダ州ラスベガス、エクストリーム・クートゥアーにて収録】

コーチは石井の打撃をどう見たか?

ギル・マルティィネス

エクストリーム・クートゥアー、ストライキングコーチ

初めてランディ・クートゥアーのジムで練習をした石井。MMAの本場で石井の現時点での技術はどう評価されたのか? 実際にミットを持って石井を指導したマルティネスコーチに話を聞いてみた。

——ミットで受けてみて、石井選手のストライキングはどうでしたか?

ギル　とてもいいよ。パワーが凄いね、とくに右のストレートはパワーが乗っててしっかりしてる。ジャブに関してはこれから練習を積まないといけないね。ジャブというより、プッシュしてしまっている感じなんだ。ちゃんとスナップを利かせた打ち方をしないとね。

——体重の乗せ方や移動に関しては?

ギル　ヘビー級としてはいい感じだよ。フットワークがしっかりしてるし、上半身の使い方もリラックスしててとても良かった。彼のように大きな選手は上半身の使い方ができずに、固まってしまうことが多いんだ。

——頭の動きなんかはどうですか?

ギル　今日はパンチをちゃんと打てるかということをチェックしたので、頭の動きはとくに気にしなかった。次に練習するチャンスがあれば頭の動きにも注意する予定だよ。あとガードは素晴らしいね、常に腕を下げずにちゃんとガードを作ってたよ。

——今後はどんな点を重点的にトレーニングする必要があると思いますか?

ギル　細かな点はいくつかあるけど、まずはストレートパンチを受けたとき、いまはパンチを手で弾くように受けているんだけど、これだとミスをした場合、相手のパンチをもらいやすくなってしまうので、ちゃんと相手のパンチを受けとめるガードが必要になるね。

——石井選手はほかの生徒と比べると、どの程度のレベルに相当しますか?

ギル　間違いなくビギナーではないね、インターミデイエイトってところかな。ストライキングだけを見ると、かなりいい感じなんで、スタンドアップのテクニックを吸収するのに、それほど時間はかからないと思う。

——ここでトレーニングを積むのであれば、どの程度の期間でMMAのプロのレベルになれるでしょうか?

ギル　人によって異なるので非常に難しい質問だけど、6カ月あれば相当なレベルになると思う。とりあえず1カ月間みっちりやれば、ずいぶんと上達するんじゃないかな。

「殺るか殺られるかが俺の闘い方。このスタイルを変えるつもりはない!」

ランペイジ戦の2日後、シウバを独占キャッチ!

WANDERLEI SILVA
ヴァンダレイ・シウバ

宿命のライバル、ランペイジ・ジャクソンとの三度目の闘いで、壮絶なKO負けを喫してしまったヴァンダレイ・シウバ。試合後のプレスカンファレンスにも現れなかったが、本誌は試合の二日後、国際電話でシウバをキャッチ。現在の心境、そして噂されるミドル級への転向などについて聞いてみた。

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

――あらためてランペイジ戦の感想を聞かせてください。

シウバ　テクニカルなハードパンチ一発で終わってしまったという感じだよ。それ以外にないね。

――対戦相手のランペイジは、以前よりどこが強くなっていたと思いますか?

シウバ　いや、前に対戦したときと同じだよ。とくにどこか強くなったなんて感じなかった。

――では、敗因はなんだと思いますか?

シウバ　自分としては、アグレッシブにパンチで攻めていたんだけど、それらをうまくガードされ、自分のガードが下がってしまったときにきれいなレフトフックをもらってしまったことだね。

――いまの自分に足りないものはなんだと思いますか?

シウバ　ここ6カ月間、今回の試合に向けてのトレーニングを積んできて、コンディションも最高の仕上がりだったので、足りないものって言われても、これといって見あたらないんだ。やはり自分のファイトスタイルはアグレッシブに攻めることだし、自分から攻めればパンチをもらってしまうこともあるよ。だからといって、自分のファイトスタイルを変えることはまったく考えてないんだ。

――あなたとノゲイラが敗れ、PRIDEトップファイターの時代は終わってしまったという声もありますが、そういう声に対してどう思いますか?

シウバ　いまのUFCは世界最大のMMA団体で、以前のPRIDEとはルールも違うし、さらにタフなファイターが集まっている。その中ですべての試合に勝つということが難しくなっているのは間違いない。これだけの強豪が集まれば、勝つときもあれば、負けるときもあるよ。ファイトなんだ

からね。ノゲイラに何が起こったのかはわからないけど、確かに動きが悪かったね。でも、俺もノゲイラも絶対にオクタゴンに戻って、トップファイターであることを証明するよ。

――今後、ノゲイラとトレーニングで協力する考えはありますか？

シウバ　協力する考えがあるも何も、今回も試合前の２週間は一緒に練習をしていたんだ。

――あ、そうなんですか。

シウバ　これからもノゲイラがラスベガスに来たときは自分のジムに招待して練習したいし、自分がブラジルに行ったら彼のジムで一緒に練習したいと思ってるよ。

――ミドル級への転向は考えてませんか？

シウバ　その件については、以前からダナと話しているんだ。来週、ズッファのオフィスで、この件も含め今後のスケジュールやプランについて話し合う予定だよ。イベント的にミドルの方が盛り上がるのであれば、転向する可能性があるかもしれないね。

――ミドル級に転向した場合、元チームメイトであるアンデウソン・シウバと闘うことに問題はありませんか？

シウバ　そのことについては、アンデウソンとも少し話したんだよ。そこで出たお互いの結論は、もし、ダナがイベントとしてこのカードが最高の試合になるというのであれば、プロフェッショナルのＭＭＡファイターとして、この試合を受けるっていうことだね。

――おぉ～、ヴァンダレイvsアンデウソンはスーパーカードになりますね。いまアンデウソンはミドル級で敵なしですが、闘えば勝つ自信はありますか？

シウバ　自信？　ＮＯだね。

――ないんですか⁉

シウバ　アンデウソンはすべての面で優れているし、とくにスタンドアップのテクニックは最高だよ。ミドル級では世界で最も手強い相手だ。そんな彼と試合が組まれたら、自分は勝てるようにベストをつくすだけだね。

――では、今後のプランは？

シウバ　１月中に自分のジムがオープンするんだ。ジムの名前は『ＷＡＮＤ ＦＩＧＨＴ ＴＥＡＭ』。いままでのチームメンバーに加え、トップレベルのコーチがさらに加わる予定だよ。

――日本の石井慧選手がラスベガスでの長期トレーニングを考えていますが、もしあなたのジムで練習したいと言ってきたら、受け入れる準備はありますか？

シウバ　もちろんウェルカムだよ！　彼は１月にラスベガスに戻ってくるって聞いてるけど、ぜひともジムに招待したいし、俺自身一緒に練習したいね。

――では、日本のファンにメッセージをお願いします。

シウバ　いつもサポートしてくれてありがとう！　世界的に経済状況が悪化しているけど、試合も景気と同じようなもんさ。いいときもあれば悪いときもある。今回はみんなの期待に添えなかったけど、絶対に復活するから引き続き応援してほしい。ハッピーニューイヤー！

【08年12月29日／国際電話にて収録】

もっと練習して強くなってオクタゴンに戻ってくるよ

大会翌日、ラスベガス空港で直撃！

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

――残念な結果に終わってしまいましたが、昨日の敗因はなんだと思いますか？

ノゲイラ　今回の試合は、とにかく自分よりミアの方が素晴らしかった。それが敗因だよ。

――いつもよりあなたの動きが鈍かったように見えましたが。

ノゲイラ　じつは試合前から左ヒザをケガしていたんだけど、試合開始早々さらに痛めてしまった。またヒジも大きな感染病にかかってしまって、抗生物質で抑えていたんだけど、充分な体調でなく動きが悪くなってしまったんだ。でも、それは負けた理由にならない。今回はミアが素晴らしい闘いをしたってことだよ。右に回りながら打つ、右のパンチをずいぶんもらってしまった。ミアはこの右への動きがとてもスムーズで、そこにストレートやアッパーカットを組み合わせて攻めてきたんだ。ボクは自分の距離が取れず、彼のパンチを避けられなかった。

――あくまで今回は自分よりミアが上だった、と。潔いですね。

ノゲイラ　昨日はミアにとって素晴らしい夜になっただろう。でも、ボクはここで立ち止まっていられないので、とにかく前に進んでいく予定さ。もっと練習を積んで、改善が必要なところは改善し、より強くなってオクタゴンに戻ってきたい。

――キャリア初のKO負けになってしまいましたが、精神的なダメージはありませんか？

ノゲイラ　まったく問題ないよ。ボクはこれまで、決して順風満帆できたわけじゃない。いろんな挫折を経て、強くなってきたんだ。今回も自分がより強くなるチャンスだと思っている。新しいノゲイラになってオクタゴンに戻ってくるから、楽しみにしていてほしい。

――ヴァンダレイとランペイジの試合は観ましたか？

ノゲイラ　ランペイジのカウンターがきれいに決まってしまったね。ヴァンダレイは自信過剰でアグレッシブ過ぎたんじゃないかな？　攻撃するときにガードの手が下がってしまった。ただ、試合全体ではヴァンダレイが有利に進めていたし、戦績もこれで２勝１敗。落ち込むことはないよ。ヴァンダレイもボクと同様、必ずビッグカンバックしてくるさ。

【08年12月28日／ラスベガス空港にて収録】

すべてがエクセレントだ！苦労が報われたよ

因縁のヴァンダレイについにリベンジ！

クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン

――『kamipro』ですが、インタビューいいですか？

ランペイジ　ハヤクオネガイシマス！

――今日の勝因は？

ランペイジ　コンデイショニング、トレーナー、トレーニングパートナー、キャンプ（Wolfslair Academy）、すべてがエクセレントだったよ！　今回はこれまでで最高の仕上がりだった。4年前にヴァンダレイと闘ったときとは比べ物にならない。それにこんなにハードな練習をこなしたことこども初めてなんだ。すべてはヴァンダレイの野郎に勝つため。今夜はその苦労が報われたよ。

――今夜の勝利はあなたにとって、どんな意味がありますか？

ランペイジ　言葉で表現するのは難しいよ。03年にPRIDE.GPでチャック（・リデル）とヴァンダレイというトップファイターと一日で連戦したとき、「俺の人生はなんてタフなんだ」って思ったよ。そのときはチャックに完璧なゲームプランで勝ったあと、ヴァンダレイには逆転され精神的なダメージを受けてしまった。そして『PRIDE.28』の再戦では個人的な事情で闘える状況じゃなかった。そんな２連敗している相手と闘うのだから、今回は絶対に負けられない。そのために新しい練習環境&パートナーとハードな練習をこなして今夜に備えたんだ。UFCには感謝しているよ。自分がどうしてもリベンジしたいファイターとのカードを組んでくれたんだからね。

――やはりヴァンダレイ戦は特別でしたか？

ランペイジ　この試合は自分にとって「メンタルファイト」だったんだ。これほど試合前にナーバスになったこともない。俺には個人的な問題がいつもつきまとっている。それは試合になってもそれを無視できないんだよ。

――次に闘いたい相手は？

ランペイジ　誰でもいいよ。まだリベンジしてない相手がいる。フォレストでもいいし、ショーグンでもいい。もちろんエバンスとのタイトル戦もやりたいよ。

――では、日本のファンに一言お願いします。

ランペイジ　オ～イェ～イ！　ロッポンギガール、ダイスキ～！　オヤスミナサイ！

【08年12月27日／MGMグランドにて収録】

"世界のTK"髙阪剛のプロフェッショナル解説

12.27 UFC92

グリフィンvsエバンス、ノゲイラvsフランク・ミア、ヴァンダレイvsランペイジという3大カードが組まれた12.27『UFC92』。ノゲイラとシウバが揃ってKO負けというショッキングが結果となってしまったが、いまUFCでは何が起こっているのか？　TKがUFCのレベルアップとその危険性を語る!

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／／Josh Hedges（UFC）

シウバvsランペイジ

ランペイジの闘い方がいまのUFCを象徴してる

——恒例のTKが語るUFC技術講座。まずはシウバvsランペイジから。

髙阪　いやあ……、ヴァンダレイのあの倒れ方はショックでしたね。

——ワンパンチで失神ですからね。

髙阪　で、最後のランペイジの左フックっていうのは、ボクシングのブロッキングのディフェンスから、相手の左フックへカウンターを合わせるっていう、一つのテクニックなんですよ。それをランペイジがヴァンダレイ戦で使いこなしたっていうこともショックだった。

——テクニックで勝ったことがショックだった？

髙阪　技術を語る人間がこんなこと言っちゃなんなんですけど、シウバとランペイジについては、そういう技術とかはもう、ええんやないかと思ってたんですよ（笑）。

——二人の闘いに技術の攻防はいらない（笑）。

髙阪　その試合でランペイジがテクニックを使って勝ったところが、ある意味、いまのUFCを象徴しているような。ランペイジですら、すべてにおいて必要以上に高い技術を身につけておかないと生き残れないっていうのが、いまのUFCの現実なんですよね。

——最近のUFCのスタンド技術の高さは、異常なくらいですよね。

髙阪　とんでもなく上がってますよね。それはやっぱりMMAの試合っていうのは、スタンド状態から始まって、そのスタンド技術の優劣っていう部分が最初に出るんで。ただ、いまはそこの部分だけで勝負がついてしまう試合がほとんどで、要は持ってる技術を使い切ってないと思うんですよ。MMAってホントは、いろんな技術があるんだけども。その中のほんのひとコマで試合が終わってるのが、凄く残念というか、もったいないというか。

——本来はフルコースすべての料理が一流にもかかわらず、前菜からいきなりデザートで「ごちそうさま」というか（笑）。

髙阪　それだけでもうまいけど、もっと食わせろっていうね（笑）。だから日本の渋滞の道をF1のマシンが走ってるようなもんですね。使い切ってない。だけれども、異常に馬力があるもんだから、ちょっと空いててもパッと詰めるだけのスピードがあるってことですよね。その一瞬を観るだけで凄いんだけど、そこだけじゃもったいないっていうような。

——でも、前菜で終わるぐらいのスタンド技術がなければ、いまのUFCじゃ勝てないってことですよね。

髙阪　勝てないし、いまのUFCの選手層の厚さはもう尋常じゃないので、生き残れもしないですよね。

ノゲイラvsミア

柔術家がボクシングで勝負するのがいまのUFC

——だから今回、ヴァンダレイとノゲイラが、そのF1の話でいうと、ちょっと旧式というか、一世代前に最高

だったマシンに見えちゃいましたね。

高阪　確かにそう見えてしまうんですよ。これはもう、シウバとノゲイラがどうというより、周りの進歩、進化がちょっといきすぎちゃってる部分があると思うんですよね。もう次から次へとモデルチェンジがくり返されて、いつになったらそれは打ち止めがくるのっていうような。ある種、それが不安でもありますけどね。

――レベルが上がることが不安ですか？

高阪　選手たちが最新モデルを求めるあまりに、それまで経てきた過程を見過ごしてしまう可能性もあると思うんですよね。いまは、ほとんどの試合が打撃で勝負がつくので、スタンドのレベルがどんどん上がってると思うんですよ。その反面、大事なテイクダウンの攻防であったりとか、グラウンドの技術を見失って、スタンドばかりに走ってしまう可能性もあると思うんですよね。

――車で言うなら、スピードアップを求めるあまり、それ以外の機能を外していくような。

高阪　そうなると、もうMMAじゃなくなってくると思うんですよ。

――まあ、ノゲイラvsミアという柔術家同士の闘いが、ボクシングだけで終わるわけですからね（笑）。

高阪　あれなんか「もったいない」試合の極地ですよね。みんな、どんなグラウンドの攻防が見られるか、凄く期待してたと思うんですよ。

――ところが寝技は一切なしですからね（笑）。

高阪　それがいまのUFCなんですよね。あの試合は、フランク・ミアがサウスポーに構えて、ノゲイラがオーソドックスだったんで、フランク・ミアが右のアッパーを多用してましたよね。あのアッパーっていうのは、ノゲイラみたいに手でパンチを弾く相手に凄く有効なんですよ。ジャブだとパッと弾かれてしまうんですけど、下から拳を切り返して打つので、あれはディフェンスしきれないパンチなんですよね。

――だから、あれだけおもしろいようにヒットしたわけですか。

高阪　それを矢継ぎ早に当てていくことで、だんだんノゲイラがリズムを崩していった。だから一回、寝技の展開になりかけたとき、ノゲイラが潜りのスイープを使おうとしたんですよ。でも、ミアは一切つき合わずに、パッと立ち上がっちゃいましたからね。あれはあきらかに右のアッパーが当たってたから、スタンドで試合を作っていけば勝てるっていうところに思考が働いたからだと思うんですよね。

――殴り合いが期待されたシウバvsランペイジでは、殴り合わなかったランペイジが勝ち、寝技の攻防が期待されたノゲイラvsミアでは、寝技にいかなかったミアが勝ってるんですよね。

高阪　だから非常にもったいないんですよね。シウバとランペイジが殴り合ったり、ノゲイラとミアが寝技をやったら、もっともっと凄い試合になるのに。実際は打撃の技術で勝負がついてしまうという。

――これからノゲイラとかシウバとか少し難しくなってきますよね。

高阪　そうですね、ノゲイラは打たれ弱くなってますよね、間違いなく。あんなに簡単にストーンッて膝が抜けてなかったですよね、前は。

――どんなにパンチを食らっても立ってる人でしたもんね。

高阪　顔がボロボロになっても膝は崩れなかったんですよね。それが簡単に膝がガクッと抜けちゃうっていうのは、ダメージの蓄積っていうのがあるんじゃないかなと思って。ちょっと半年ぐらい休んだほうがいいんじゃないのかなっていうような気はしましたけどね。

グリフィンvsエバンス

エバンスの闘い方がMMAを変えるかもしれない

――そしてメインのフォレスト・グリフィンvsラシャド・エバンスは、まさに現在のUFCスタイルの最先端を感じさせる試合でしたよね。

高阪　まさにいまのUFC。

――それにしてもエバンスは、グリフィンをもKOするとは凄いですね。

高阪　いわゆる嫌な強さだよね。だって正直、あれわかんない人が観たらそんな強そうに見えないでしょ？

――一見、カウンターの右フックだけの選手に見えますよね。

高阪　じつは凄いことやってるんだけれども、簡単に勝ちすぎなんだよ、ハッキリ言って。

――なぜかパンチが当たって勝ってしまうというか。

高阪　そう。だってチャック・リデルだって、あんな一発で倒れる選手じゃないでしょ？　それが一発で倒れるってことは、たぶん手首が相当強いんだと思う。打ち降ろすパンチとか、強いパウンドは手首が強くないと打てないから。手首に秘密があるんじゃないかと思うんだけどね。

――グリフィンも相当いい闘い方していたはずなのに、あっという間に逆転負けを喫してしまいましたからね。

高阪　そう。グリフィンはローキックでエバンスを前に出れないようにして、対格差、リーチ差を利用して前にどんどんプレッシャーをかけて。スタミナを奪って足を潰して、「さてあとはどう料理しようか」というところに持っていったはずなのに、一回、蹴り足をキャッチされて、パウンド一発でおしまいだからね。

――確かに、あれ最初のパウンドで終わってましたよね。

高阪　打ち降ろしのパンチ一発で効いちゃうんだもん。いままでグリフィンが完璧に試合を作ってきたのはなんだったんだっていう。あれを観た帰り、自分は悩みましたよ。

――パウンド一発でひっくり返る総合っていったいなんなんだろう（笑）。

高阪　ああいうのを観ると、一発って怖いなっていうのが半分、あとは一発で倒せちゃうんだ、それさえやっとけばいいんだっていうふうに思っちゃうんですよね。パウンド一発でいいなら、寝技なんていらんやんけ！　とか、関節技ってなんのためにあるの？　って思いかねない。

――あのエバンスの勝ち方を観たら、関節技なんていう七面倒くさいことしないで、打撃の練習しようって思いますよね。

高阪　ホントそうなんだよね。だから、これからUFCで闘うファイターが、どんどん寝技、関節技をやらなくなってしまうのが怖い。打撃に偏ったかたちで進化してしまうのが心配ですね。

――UFCが"打撃系格闘技"になってしまうかもしれない。

高阪　もちろん、勝利を手に入れるために、強い打撃っていうのは間違いなく必要なんだけど、それだけが突出してしまうと、総合格闘技である必要がなくなってしまうんだよね。本来、MMAっていうのは、いろんな技術が使えて、試合の中でそれをどう使いこなすか、どう混ぜるかっていうのがおもしろさであり、醍醐味であるはずなんだけど。

――では、いまのUFCの急激な進化っていうのは、ある意味、総合格闘技が総合格闘技でなくなるかもしれないという危機でもあるわけですね。

高阪　ホントに総合格闘技存亡の危機ですよ。

――だから、1・31『UFC94』では、GSPvsBJペンというMMA最高峰の試合が組まれてますけど、あの二人の試合が、ボクシングの攻防だけで終わる可能性も非常に高いわけですよね（笑）。

高阪　凄くある。BJなんてジャブしか出さない可能性もある（笑）。

――それは非常にもったいないですね～（笑）。

高阪　でも、それがいまのUFCなんですよね。だから今度のGSPvsBJっていうのは、今後のUFCというか、MMAの未来をうらなうような試合になると思いますよ。

【08年12月31日／さいたまスーパーアリーナにて収録】

両役者対決!!

逆境の総力戦
『ハッスル・マニア2008』
徹底総括!!

「人は逆境でもハッスルできる!」を合言葉に、07年同様に大晦日戦争に参入した『ハッスル』。泰葉という強烈な飛び道具、さらにはエスペランサーの復活、グレート・ムタという千両役者も揃えた『ハッスル・マニア』。ストーリーの総決算ではなく、世間を意識した“特別編”で勝負に出た『ハッスル』に何を見た?

撮影／平工幸雄

よみがえった千

mimipro緊急出張番!!

『ハッスル・マニア2008』超無責任対談!!

あの『mimipro』が、『kamipro SPECIAL』に初上陸!! 言いたい放題のポッドキャスト番組のカリスマ司会者・原タコヤキ君とハッスル事情通ライター・八木賢太郎が新春から、『ハッスル・マニア』をブッた斬る!

司会/真下義之

mimiproとは?
『mimipro』はその名の通り、耳で聴く『kamipro』。ホームページ『kamipro.com』上で、毎週、世界に向けてプロレス&格闘技の与太話を絶賛発信中! ウワサのポッドキャスト番組です。
http://www.kamipro.com/

カリスマ司会者
原タコヤキ君
元・小さい判形の頃の『紙のプロレス』編集者であり、現在は、音楽プロデューサー兼、『mimipro』司会者として活動中。弁説のなめらかさは、水道橋博士も認めるほどのカリスマぶり。

ハッスル事情通ライター
八木賢太郎
プロレス・格闘技業界の仕事はほとんどしていないにもかかわらず、ハッスルの内幕にやたらと詳しい謎のパイプを持つ男。『kamipro』の奥付には、いつも非番なのに名前が載り続けている。

——明けまして、おめでとうございまーす! さ、今日は『kamipro.com』で好評のポッドキャスト『mimipro』出張版として、『ハッスル・マニア2008』を振り返っていただきます! あれっ、お二人ともなんかテンション低めですね?

八木 いやいやいや、おめでたいにもほどがあるよ! いま、いったい何時だと思ってんの!!

タコ いま、2009年元旦の午前1時30分、場所は品川の『ロイヤルホスト』なんやけど……。八木さんの都合でこんな日のこんな時間になったんですか?

八木 違いますよ! 年が明けたばかりのノンビリムードの中、突然呼び出されたんだから! だってさ、取材のオファーが来たのが……。

——ほんの2時間ほど前で(笑)。突発的に『ハッスル』の語り部たちにお話をうかがいたいと思い立ちまして。

タコ どんだけ急な話やねん! どう考えても、企画が飛んだ穴埋めやろ!?

八木 腹が立ちすぎて、もう逆に怒る気力もないというか(笑)。ノンビリムードの年明けにはどんな無理を言われても、あまり腹が立たないということを学んだね。

——(聞かずに)で、お二人は『ハッスル・マニア』は会場でもご覧になってますけど、八木さんは大晦日のテレビ中継も観られたんですか?

八木 俺は、大晦日は地上波で『Dynamite!!』を観てたんだけど、桜庭vs田村が11時くらいに終わったあとテレビ東京に回したら、ちょうど泰葉をやってたから、番組的にはいい流れだったんじゃない? 『紅白』はSMAPだったけど(笑)。

——番組的には、エスペランサーのあとに泰葉を持ってきたようですね。

八木 ただ、会場で観た感想は「よくも悪くも、普通の『ハッスル』だったな」と。昨年は10月の栃木大会が内容的にバツグンによかったから、そこに比べると少し弱かったかもしれない。

タコ でも、『ハッスル・マニア』っていつものるかそるか、みたいなバクチ的な感じがあったけど。これだけ及第点な『マニア』も珍しかったかもしれない。

——まずは、最大の話題になった泰葉の試合はどうでした?。

タコ これは、試合としては俺は好きやったね。

八木 地上波でも観たけど、泰葉の試合はホントによかったよね。

タコ HGみたいなセミプロを別にすると、芸能人では和泉元彌の次くらいの完成度やったよね。ただ、和泉元彌には狂言の舞台でやってる〝凄味〟が見えたけど、泰葉の試合は、「泰葉自体がよかった」って認識はないねん。俺は生理的にも好きなわけじゃないし(笑)。とにかくアン・ジョー司令長官がバツグンにうまかったなって。

泰葉というよりも清水マネージャーのデビュー戦だったよね（八木）

八木　確かに泰葉は和泉元彌ほど動いたわけじゃないもんね。

――試合的には、最後の回転海老名固めくらいでしたね。

タコ　だからこそ、アン・ジョーのレスラーとしての技術が飛び抜けてるのがわかったし、裏方の人がよう構成を練ったなって。動きのある部分はマネージャーの清水さんにやらせて。最初は「泰葉のシングルなんて成立すんの？」って思ったけど。

八木　少なくとも、クロマティの試合よりは全然成り立ってたね（笑）。清水さんってもともと『ハッスル』ファンで、泰葉に「ぜひ、やるべきだ」と説得したみたいだし。だから、今回は泰葉というより、清水マネージャーのデビュー戦というか。

タコ　素人とはいえ、あのスイングDDTの切れ味はプロレス心ありすぎやで（笑）。

――プロレスの名人はよく「ホウキともプロレスできる」と言いますけど、それを実証しましたね。

八木　しかも、あんな性格の悪いホウキを（笑）。

タコ　ただ、最後の泰葉劇場は本人のポテンシャルが発揮されたと思うけどさ、「今後も泰葉を観たいか？」と言われたら、うーん、どうやろ？

――そういう意味で、本来の『ハッスル・マニア』は1年の総決算ですが、そういう流れは今回はあまり活かされませんでしたね。

タコ　お祭りとしてのプレミアム感はあったけどね。メインハッスルで、エスペランサー・ザ・グレートが出たのもどちらかといえば、にぎやかしやし。

八木　エスペランサーは、客寄せとして仕方ない部分もあったと思うけど、前々日から一部のメディアやオフィシャルサイトで登場を予告してたじゃん？　予告なしでやったら超盛り上がったのに、もったいなかったよね。

タコ　へぇ。俺は知らなかったから普通にビックリしたけど。

――いまのプロレスは過程で驚かすしかないから、そこはもったいなかったかもしれないですね。

タコ　それと、エスペランサーなんて、身内の人間を使ってできる最後の切り札やんか。一番お金かけずに、最大の効果が見込める。だから、今回はいい言葉でいうと「総力戦」。悪い言い方をすると「手持ちの札を使い切った」感じもあったな。

八木　エスペランサー、それに山口日昇社長まで出してるわけだし。そういう意味で今回は、20年近くの付き合いがある山口日昇のデビュー戦として、個人的には盛り上がったんだけど（笑）。泰葉のマネージャーとのスキットで、「俺、責任とったことねぇから」というセリフを言ってたけど、山口日昇をよく知ってる人間は、「その通り！」って心で叫んだだろうね。

――一方、過去の例でいうとプロレス団体の社長が表に出てくる展開は、最終手段的な部分もありますけど。

タコ　確かにあるなぁ。どうせ出るんやったら、WWEのビンス・マクマホン社長じゃないけど、徹底的に練習して磨いていったほうがいいよね。ただのお茶濁しみたいに思われる可能性もあるから。

八木　今回は清水マネージャーとの絡みの部分で、会社的に出ざるを得ない状況もあったのかもしれないけど。必要以上に目立ってたし（笑）。

タコ　それと、今回は総統の提案で、エンディングでハッスルポーズをハッスル軍とモンスター軍全員でやったじゃないですか？　あれって高田総統から観客側に近寄ってきているわけやから、驚いたよね。いままで総統のキャラって、観客とは一線を引いた不可侵な部分があったのに。

八木　不吉なことを言うと怒られそうだけどさ。ちょっと〝最終回感〟があったよね。

――あのシーンは、テレビでは最後にチラッとしか流れなかったようですね。総統劇場で一度総統が途中まで引き上げたあと、仕切り直してハッスルポーズをやりましたけど。テレビでは一度引き上げた段階でカットしたみたいで。

八木　じゃあ、会場だけのボーナストラックだったんだ。

――それから、ムタとエスペランサーによるメインハッスルの個人芸の世界はいかがでした？

タコ　あれを観て思ったのは、「ムタへの負担が大きいな」ということなんやけど。ムタって、普通のレスラーと対峙したときに非日常の世界を作る役割やのに、エスペランサーと絡ませると、エスペランサーのほうが非日常やから、ムタのほうが日常としてエスペランサーに対して驚くムーブをしてあげたりして。

――ムタがハイパービターン砲に驚いて、頭をポリポリしてましたね。

タコ　あの猪木さんですら、ムタの世界につき合ってたのに、「『ハッスル』はずいぶんシンドイことやらすなぁ」って。

八木　今回、ムタはその前の後楽園にも登場したりと、ホントに大サービスだったよね。

[12.31 ハッスル・マニア2008]
東京・有明コロシアム
○泰葉 vs アン・ジョー司令長官×
（7分10秒 回転海老名固め）
泰葉劇場ついに開幕!　試合は、泰葉と清水マネージャーという二人の素人をたった一人でコントロールするアン・ジョーの天才的な仕事人ぶりが炸裂。清水氏のプロレス心溢れるムーブも重要なアクセントとなった。

ハッスルに出陣した おもな芸能人図鑑

池谷幸雄
対戦相手はアン・ジョーほか。マスクマン・池谷銀河として、体操銀メダル級の空中殺法が炸裂!　継続参戦が期待されるも07年で休止。

ジャイアント白田
対戦相手は川田など。巨体の大食い王者が川田とのカレー対決では圧勝も、試合は完敗。川田のスピンキックを正面から受ける場面も。

海川ひとみ
対戦相手はジャイアント・バボなど。アイドル的言動が波紋も呼ぶが、真摯な姿勢をファンもバックアップ。鼻の骨まで折る奮闘ぶり。

クロマティ
対戦相手はタイガー・J・シン。巨人応援団も来場、"狂虎"と巨人vs阪神戦。最後はスライディングキックと野球づくしで会場を沸かせた。

江頭2:50
対戦相手は川田、天龍。「1クールのレギュラーよりも1回の伝説」と、天龍チョップをマトモに食らって吹っ飛ぶ芸人魂をガッペ発揮!

カイヤ
対戦相手はジャイ・シル、ニューリン様ほか。ガッチリした体格に暴走キャラという話題性も、内容的な結果は出せずに迷走が続いた。

和泉元彌
対戦相手は鈴木健想。天井から出現し、"狂言"ムーブもフル活用、見栄の切り方から空中元彌チョップまで、元彌ワールドを貫いた。

インリン様
対戦相手多数。芸能人革命をもたらした最大の功労者。小川とのデビュー戦、M字劇場にボノちゃん懐妊など数々の名場面を演じきった。

『ハッスル・マニア2008』超無責任対談!!

ドラスクから4の字炸裂!　あの10.9東京ドームの髙田vs武藤の攻防が13年ぶりに復活して、二人の千両役者ぶりに場内大喝采。その一方で、時代が動いていない逆証明にもなってしまった。

タコ　今回、他団体の選手も含めて「みんなで『ハッスル』という御輿を担ごうよ」って部分は見えたよね。ただ、メインの重責をはたせる人間が坂田でもなけりゃあ、ボノちゃんでもなく、ゲストのムタにやらせるしかなかったってのは、不安要素ではあるよね。

――『ハッスル』が積み重ねてきた部分より、ハズレのない千両役者に任せた感じでしたね。

タコ　俺は舞台とかは観ぃへんけど、「自分の劇団の年間最大の公演で、客演でやってきたゲストが一番目立って主役を張ってる」という構図じゃないですか。しかも、結果的においしいところをとられたんやなく、おいしいところを預けてしまったように見えたから。最終的に「さすが武藤!」って感想になるわけやし。

――そうですね。「さすがアン・ジョー」っていう部分もあったにせよ。

八木　最後でボノちゃんに話を戻したから、本来ならボノちゃんが大きな転機を迎える大会だったわけだよね。ただ、昨年は相当に頑張ったボノちゃんでも、メインストーリーを完全には担えなかった。ムタとエスペランサーが消えたあとは、へんな空気になっちゃったし。

――あとは、昨年の『ハッスル』が育ててきたゼウスも出ませんでしたね。

八木　ゼウスってさ、ホントはなんで辞めるの?

――ウワサによると、●●●●●の世界に行くらしいですけど。

八木　へぇ～。ここまで育ててきたのに、もったいない話だなぁ。

――さらに、昨年の『ハッスル・マニア』の立役者であり、現ナットーマンこと坂田亘もアッサリした扱いでした。

坂田やボノちゃんでなくムタが主役なのは今後の不安要素（タコ）

八木　あ、ナットーマンはね。某掲示板で、出て来る前のVTRの「シャカシャカ」と納豆を混ぜる音がすると「若干、アガる」と書いていた人がいたけど、俺も正直言うとちょっぴりハマってきた（笑）。

タコ　ふ～ん。それはわからんわ。

八木　それは『マニア』の直前にやった後楽園大会を見てないからじゃない？　ジャイアント・シルバvsRGのときに、ジャイ・シルがフィニッシュのジャイアントプレスを仕掛けようしたタイミングで「大豆な場面でやってくる!」とナットーマンのVTRが流れて、慌てて客席から救援にくるんだけど。そのあいだに、ジャイアントプレスされちゃうの。あのナットーマンの間の悪さは絶妙だったから。

タコ　坂田の間の悪さみたいのを、キャラで表現してるんやろうね。ただ、それはオーちゃん（小川直也）のときにも使った手法じゃないですか?

――いまや伝説のセレブ小川ですね。

タコ　プロレスやマイクがうまくなかったら、「そこをキャラにしちゃおう」っていうさ。ただ、髙田総統がマイクで「言っちゃいけないことまで言っちゃう」のは総統のキャラが確立してるからええけど。ダメだとされる演者がダメキャラを本人の自覚のもと演じる、というのは、非常に高度なことでしょ？　オーちゃんなんかそれで完全に追いつめられたわけやんか。

――自我が崩壊寸前でしたからね。

八木　お笑いの世界でもそうだよね。アホキャラを演じきるのってじつは凄く難しいし、相当な腕がないとアホにはなりきれない。同じように「しょっぱい」のを表現するのって難しいと思うよ。ホントのアホとアホのキャラって違うから。

タコ　唯一の成功例はRGだけでしょ。RGはヘタレぶりを覚悟を決めて貫いたからこそ、アン・ジョーに勝ったときなんか、ジーンとするような感動があった。賢太郎が言うようにナットーマンのおもしろさが後楽園では浸透してるんやったら、あとは坂田本人がどんだけ消化できるかやろうなぁ。

八木　ただ、そこまでやらせるんなら、ちゃんと演出してやらなければダメでしょ。肝心の『マニア』ではたいした出番もなかったし。

――しかも、地上波ではナットーマンはその少ない出番さえ流れなかったらしいんですよ。

タコ　そういう扱いなら、茨城大会以降、あそこまで坂田を落とした意味がわからなくなるなぁ。そりゃあ、これまでの坂田エース路線には、まだ説得力に欠けるとこもあったけど、でもやっぱり「エースは坂田しかおらんよな」って気持ちもあったし。

八木　……やっぱりさ、ハッスル軍のエースってなったらヤバいんだよ!　いまだかつて、誰からも認められるハッスル軍のエースって一人もいないわけでしょ?

――千両役者の髙田総統と相対するのは相当にシンドイんですかね。

八木　オーちゃんしかり坂田しかり。だから、ハッスル軍はずっとエース探ししてるでしょ。マトモだったのは、破壊王（橋本真也）くらい？

タコ　そこも破壊王がリタイアする時期と微妙に合わなくて、俺らが思う髙田総統とは相対してないよね。

八木　結局、ハッスル軍ってさ、4年くらいずっとエースは空席なんだよね。

――そのポジションに就くと、演者として壊れてしまうというか。

タコ　逆に、なんで『ハッスル』は「ちゃんとエースを育てよう」という気がないんやろね？

八木　ハッスル軍のエースって、小川にしろ坂田にしろ、政治的な背景も感じるよね。『ハッスル』に関わる立ち位置によって奉り上げられるというか……。俺は中国史とか好きだから、そういう文脈で読むとハッスル軍はダメな王様や王朝の歴史を見てるような気がするんだよ（笑）。

――HGのエース待望論も根強いですけど、吉本興業所属だから、じつは外様な立ち位置ですし。

八木　中国史的にいうとHGみたいな人はこのあと革命を起こして独立するんだけど。しゃべれるって意味では絶対にHGがいいんだけど、ちゃんと育てる姿勢は見えないよね。しかもヒールターンさせちゃったし。

タコ　なるほどなぁ。あと、俺は天龍＆越中組と闘ったシャープ兄弟・ダイナ＆マイトとかもようわからんかったけど。

八木　それも、前の後楽園を観てないかもしれない。後楽園で相当ヒドく天龍がやられてたから。……まぁ、「後楽園を観てないからわからない」というのもホントはマズイんだけど。じつは、俺の友だちを会場に連れてってよく言われるのは、「『ハッスル』は予備知識がないとわからん」って。確かに基本的な知識や説明書がないと伝わらないよね。

タコ　『ハッスル』ってそういうエクスキューズから最も遠い、山口社長がよくいう「流行歌」みたいなわかりやすいものを目指すべきやけどね。

八木　俺の友だちは、「ノアのほうが予備知識なくても観れる」って。でもプロレスファンはそう思ってないじゃん？　『ハッスル』のほうが予備知識なしで観れると思ってるけど、逆で。ノアこそ試合だけ観てりゃいいわけだから。

タコ　「高いところから、バンバン落とすなぁ」って感じで。

八木　今回のメインハッスルもムタがドラゴンスクリューから4の字固めに行くというかつての髙田vs武藤戦の名場面が最高のハイライトだったけどさ、あれも普通の人にはわからないよね。

――逆にあの攻防で、あそこまで会場の反応があったのにも驚きました。

タコ　俺も「みんな、そんなことまで知ってるんや？」って驚いたから。プロレスのおもしろさって、観るものの記憶の蓄積が重要やけど、それだけではマニアックな方向に行くから！　ホントは対世間を打ち出してる『ハッスル』らしくはないよね。そもそもテレビで観る人なんて、天龍がお店で娘さんに怒られてる場面とかもまったく意味わからんよなぁ。

八木　「天龍が寿司屋をやってる」というところをまず知らないといけないんだから（笑）。

タコ　それもテレビのノウハウでいうと、寿司屋の外観の画があって、「天龍が経営する寿司処〝しま田〟」ってスーパーが入って、天龍が「らっしゃい」って言う絵を流さないと。

八木　一番最初の頃は、『ハッスル』でもそういう説明はキチンとしてたんだよね。もちろん後楽園のお客に対してだったら省略してもいいんだけど、『ハッスル・マニア』みたいな世間に打って出る大会のときこそ、そういう手間をちゃんとかけて説明を入れる親切さが必要だったよね。

――そうですね。泰葉みたいにゼロから物語を構築するノウハウは高いと思いますけど。

タコ　そのへんで、観る側に依存してる部分もあるんやろうな。ただ、俺はあまり詳しくないけど、WWEの『レッスルマニア』なんかは完全に1年間のストーリーの集大成なわけやんか。

――ゴールを決めて、そこに向かって走っていく。それでうまく行ってるのがいまの新日本プロレスですね。

タコ　ストーリーのゴールを目指してビッグイベントを打つのか、逆に『ハッスル・マニア』とか『ハッスル・エイド』はストーリーと関係ない泰葉みたいな試合をもっと多く詰め込むほうに振りきるのか。今後は、そういう割り切りも重要になってくるかもわからん。

八木　とりあえず手間を惜しまず、観る人への依存や、外部への負担はなるたけ減らしたほうがいいよね。そのへんは、まさに山口社長の「責任をとらない体質」が顕著に出てるのかもしれないけど（笑）。要するに、「もうちょっと責任とろうよ！」と。

タコ　そうやなぁ。じゃあ、2009年は〝責任元年〟でお願いします！（笑）。

八木　坂田亘に対する責任から、観客に対する責任まで。今年は、ぜひ責任をとる『ハッスル』を観たいな、と（笑）。

――よくわかりました。新年早々から、ありがとうございました！

【09年1月1日／東京・品川の『ロイヤルホスト』にて収録】

HGもヒールターンなど、またもや手薄になってしまったハッスル軍の新エースはボノちゃんなのか？　本文のように「エースが壊れる」ジンクスは避けたいところ。また、今大会は清水マネージャーとのスキットの「責任とったことねぇ」発言など山口日昇劇場も爆発。ついに表舞台に飛び出した山口社長の09年の動きからも目が離せない。

『ハッスル・ツアー2009』

～1.29 in KORAKUEN～
東京・後楽園ホール
1月29日（木）開場18:00 開演19:00

チケット料金
ハッスルVIP 10,000円／スタンド 7,000円／
スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント TEL.03-3221-2431
http://www.hustlehustle.com/

08年ベスト興行!!　伝説の栃木大会を完全収録!!

トッチギ！　トッチギ！　北関東の地方大会ながら、異様な盛り上がりで大爆発!!　『ハッスル』ファンを自認する、あの髙田延彦もブログ上で「間違いなく歴代のベストテンに入る」と大絶賛し、08年のベスト興行という評価も高い10・26栃木大会が完全DVD化!!

このDVDは、ハッスラーのナンバーワンを決定すべく髙田総統がブチ上げた『ハッスルGP』の決勝大会が行なわれた栃木大会に至るまでの4大会の模様を中心に収録。

最大の見どころである栃木大会では、宇都宮市長と川田の両親を加えたオープニングから、エンディングに至るまで、地元のヒーロー・川田の独壇場。試合中に起きたハプニングからクライマックスへ至る凄まじいグルーブ感は、必見。副音声では同じく栃木出身の野口大輔レフェリーと川田が栃木大会を振り返っているから、こちらも聴き逃せない。

新春からこのDVDで復習して、09年の新展開に備えよう!!

『ハッスル・ツアー2008 DVD 2』
標準価格／4800円（税込5040円）絶賛発売中
発売元／エンターブレイン

『ハッスル』以上にハッスルした!? 裏番組

『ガキの使いやあらへんで!! 大晦日SP』

『スガッスル』の脅威!!

文／真下義之

『ハッスル』が危ない!?

08年も大晦日テレビ戦争に乗り込んだ『ハッスル』は、泰葉を主軸にした番組構成で世間と対峙するべく、ワイドショーも巻き込んで大勝負に出た。だが、同じ大晦日にその『ハッスル』のエッセンスをふんだんに取り入れ、好視聴率をゲットした番組があったことをご存知だろうか?

それが、日本テレビ系『ガキの使いやあらへんで大晦日SP』の第1部で放送された『山崎vsモリマン 大晦日対決SP』であり、番組中にインサートされた『ハッスル』パロディの『スガッスル』だった。

この『スガッスル』、『ガキの使い』の名物プロデューサー・菅賢治氏が髙田総統ばりに菅総統と化して旗揚げしたプロレス団体として3試合を披露! 山崎vsモリマンの休憩中(?)に試合が行なわれた。

『山崎vsモリマン』は、恰幅のいい女芸人・モリマンのモリ夫がヘタレキャラの山崎邦正をリング上のさまざまなゲームで叩きのめす名物企画。今回は大晦日の特別編とあって、演出も凝りに凝っていた。

収録会場をPRIDEふうにデコレートし、オープニングがPRIDEのアナウンスも務めた村上ショージなら、会場アナウンスはレニー・ハートという徹底ぶり。さらに煽りVの声は立木文彦氏だが、「フジテレビの格闘技番組の顔」とするフジのスポーツ局的には止めなくてもよかったんだろうか?

また、山崎の特訓映像には髙田延彦まで登場。応援の花束を小池栄子さんが渡してリングサイドに陣取るなど、開始数分で元PRIDE&『ハッスル』関係者が続々出現!

だが、本当に驚くのはここからだった。山崎が途中リタイアしたあと、ビジョンに登場した菅総統が、『スガッスル』の緊急開催を宣言。

これ以上ない話題性を振りまいた泰葉の『ハッスル』参戦。泰葉本人も当初から『ガキの使い』への対抗意識をむき出しにしていたが、ただのパロディかと思われた『スガッスル』の熱の入れ具合も、これまたハンパなかった。

『ハッスル・マニア』では髙田総統に「『ガキの使い』にも出てるんだってな!」とイジられていたケンドー・コバヤシがレフェリー姿で登場し、第1試合は、こちらも『ハッスル・マニア』に登場したアントキの猪木がアントニオ猪木として登場。対するは、なんと関根勤扮するジャイアント馬場! この関根さんの馬場モノマネは馬場さんの死後、封印していた思い入れのある特別なもので、それを解禁したのも驚きだ。

しかも試合のツッコミを担当するのが、天下のダウンタウンなのだから、史上最強のプロレス中継といえる。プロレスにバラエティ要素を取り入れたのが『ハッスル』なら、今回はバラエティ番組のキングが『ハッスル』を飲み込んだ格好だ。

第2試合は、ココリコの遠藤章造扮するマスクマン・ダイナマイト四国とガタイのいいダイナマイト四国のコンビvs武藤敬司&武藤コスプレの芸人・神奈月が対戦。ガタイのいい四国の正体は佐々木健介で、武藤敬司との定番ムーブを披露して大喝采を浴びたが、ホンモノの四国が「前頭葉を損傷した」ため、試合終了。『ハッスル』ふうに「1、2、3、シッコク、シッコク」ポーズで締めた。

だが、最も強烈なシーンはこのあとやってきた。モリマンvs山崎を挟んだあと、もう一度ダイナマイト四国が登場し、元ハッスル軍のキャプテン・小川直也と対戦! レフェリーの世界のナベアツが、「1、2、」とカウントする中、跳ね返してしまうため「3」が言えないお約束ギャグも炸裂。

そんな中、マスクを剥がされた遠藤が、小川にスリーパーで落とされそうな大ピンチの瞬間、ビジョンにハートマークが出現! なんと遠藤の前妻・千秋がマスクを被って、キューティー元四国として乱入!

言うまでもなく、07年の『ハッスル・マニア』の坂田亘と〝妖精さん〟小池栄子の意趣変えなのだが、決定的に違うのは、この展開が遠藤に知らされてなかったこと。画面に慌てふためく遠藤の姿が映し出される。

プロレスだと思ってたら、突如ガチンコが現出した。これは、『ハッスル・マニア』の泰葉でいえば、前夫の春風亭小朝を登場させたようなサプライズで、会場や出演者も驚きを隠せない。

だが、瞬時に自分の役割を察知して、最後は「千秋、愛してるよ〜!」と虚実を超えて叫んでみせた遠藤の腹の据わったプロレスラー魂、いや芸人魂は本当にお見事だった。

こうして、上っ面の演出プランだけでなく、プロレスというジャンルの〝肝〟まで表現してみせた『スガッスル』は、本気でトップのバラエティ番組が『ハッスル』をやったら、こうなるというシュミレーションのような番組だった。

当然、プロレスの試合としてはもの足りなさは残ったが、もしここに安生洋二やTAJIRIのような芸人とも試合が組み立てられる才能が加わったら、さらにとんでもないことになっていただろう。

確かに泰葉という世間に向けた爆弾のインパクトは強烈だったが、ある意味で『ハッスル』以上にハッスルした『スガッスル』は、「世間と勝負する」ということの深さを『ハッスル』に突きつけたのかもしれない。

イケメンエース・坂田亘が腐って変身

ナットーマンよどこへ行く!?

文／坂井ノブ　撮影／平工幸雄

12.25後楽園ホール大会では自作の応援ボードを持参してコンテストに参加!

伝説のセレブ小川を超えた!!

11月の水戸大会から坂田亘の新キャラ・ナットーマンが『ハッスル』に登場しているのだが、あまり目にしている人は多くないかもしれない。なぜなら、大晦日の『ハッスル・マニア2008』地上波放送でオンエアされなかったから！

あの小川直也がハッスル軍のキャプテンという重責を背負いきれなくなり、セレブ小川という嫌味なキャラでヒールターンしたときも、そのキャラのお仕着せ具合は相当に強烈だったが、ナットーマンはそれ以上の存在感！　11月の水戸大会限定のキャラかと思ったら、12月以降も引っぱっていくようだ。

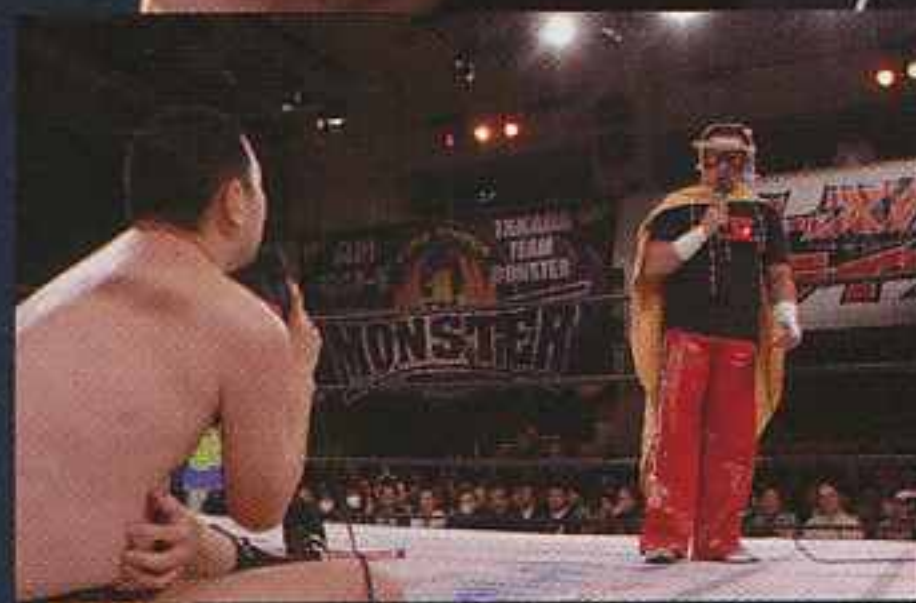
そもそも、坂田亘は、なぜナットーマンになってしまったのか？　07年8月に女優・小池栄子さんとの結婚を発表してから08年7月に披露宴を行なうまで、坂田亘はハッスル軍のエースとなり、リング内外での主役を張った。高田総統の闘う化身であるエスペランサーにも勝っているのだから、『ハッスル』ではこれ以上は望めない地位まで登りつめているのだ。

しかし、『ハッスル』のプッシュとは裏腹に、どうも坂田への注目度が上がらないという状況が続く。そんな空気を察知したのか、5月には「僕がサップに勝った事実をマスコミの人も他団体の人も、もっと素直に受けとめたほうがいい」「いま俺と絡むということを真剣に考えて、（『ハッスルGP』に）出たいと思う人がいればくればいい」とビッグ発言が飛び出した。

しかし、『ハッスルGP』に他団体からの参戦はなく、坂田も決勝で敗退。トーナメントで川田利明の存在感がどんどん大きくなる一方で、坂田への注目はどんどん薄れていった。川田のような歌やネタという武器もなく、高慢で高飛車な態度を支持するファンも少ない坂田はいよいよ苦境に立たされる。

ここでハッスルの首脳部が下した決断は、坂田エース路線からの撤退だった。いろんな理由があるのだろうが、坂田は「負ける→腐る→納豆になる」という驚愕のキャラ設定でナットーマンに変身した。「運命の糸が引いたとき、おまえを助けにやってくる。大豆な（大事な）ときにやってくる。腹筋、背筋、納豆菌。負けて腐るな、発酵しろ！　ナットーマン、只今参上！」というナレーションの入ったVTRに乗って登場するのだが、デビュー戦ではバク宙を失敗して頭からマットに突き刺さり観客の失笑を買った。12月大会では一試合もせず、タイミング悪く登場するズッコケヒーローとして観客を順調にドン引きさせている。

坂田本人は、この新キャラにかなり不満を持っているようだ。そりゃそうだろう。本人は一貫して二枚目キャラで売ってきたし、リングを降りてもあの調子なのだから。観客がナットーマンを受け入れているとは言いがたい中、自らすすんでスベリ芸をやるのは精神的に相当キツいはず。第二のセレブ小川となるのか？　このキャラのままブレイクするのか!?　とにかく、この刹那的な輝きは間違いなく一見の価値がある。坂田がどこまでなりきるのか、注目だ！

ヒールターンしてしまったHGに食ってかかるナットーマン。しかし、シザーズキックであっという間に撃退されてしまう。

12.24後楽園ホール大会ではジャイアント・シルバにボコボコにされたRGの救出に駆けつけるが、タイミングが遅く、出てきたのは試合後。

デビュー戦でいきなり失速!　頭からマットに突き刺さったかと思えば、川田利明の顔面蹴りであっけなくフォール負けを喫した。

失踪していた坂田がワラにくるまった姿で11.20後楽園ホール大会に登場。ナットーマンに変身する前の助走期間である。

マッスルに〝最終回騒動〟勃発!?

感情むき出しの1・3『マッスル・ハウス7』で何が起きたのか?

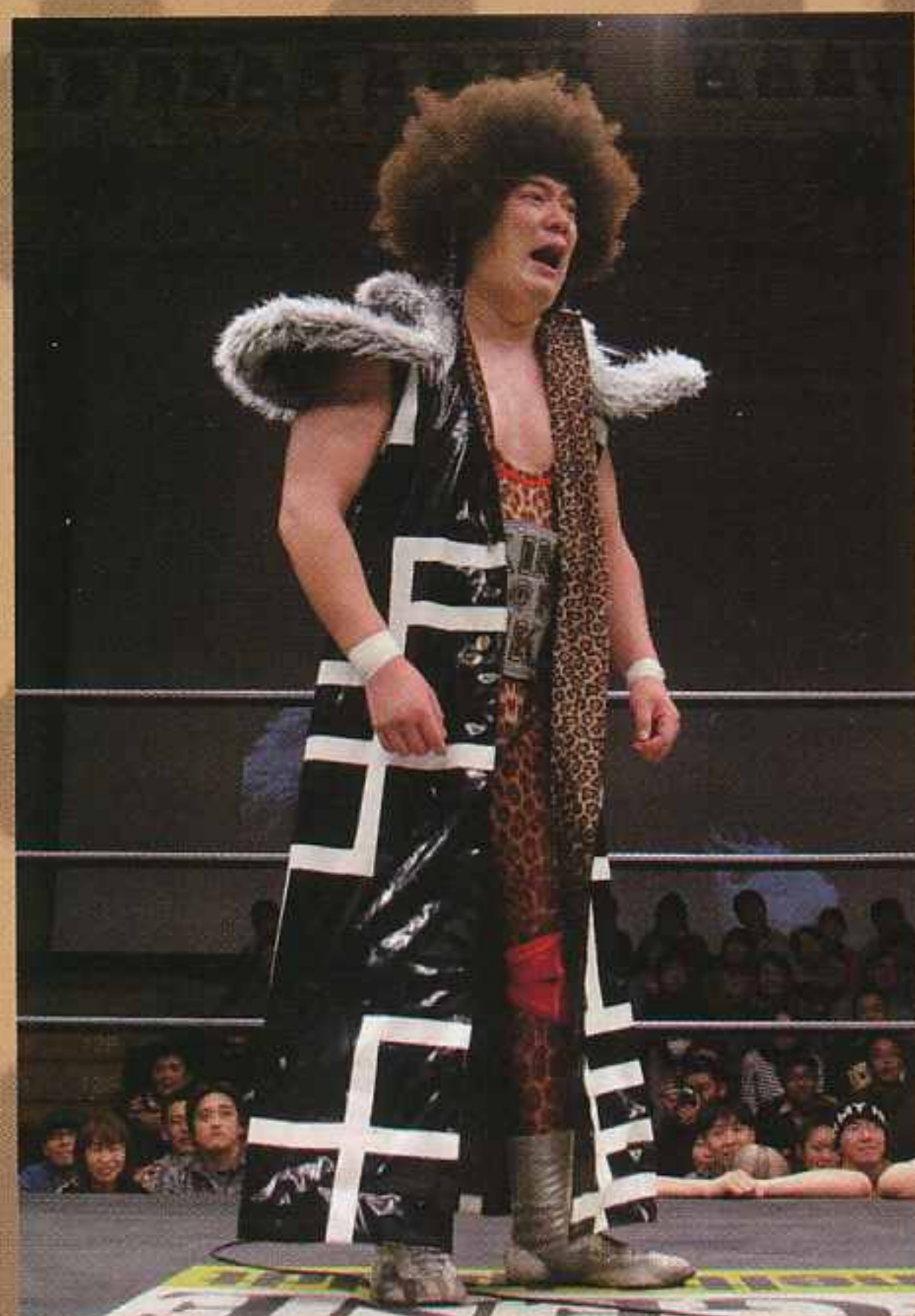
構成／真下義之　撮影／平工幸雄

「キンキンに冷えたプロテイン、ジョッキに持ってこい!」試合でのミスを説教され、逆ギレした藤岡メガネは後楽園の控室に立てこもる無法行為。

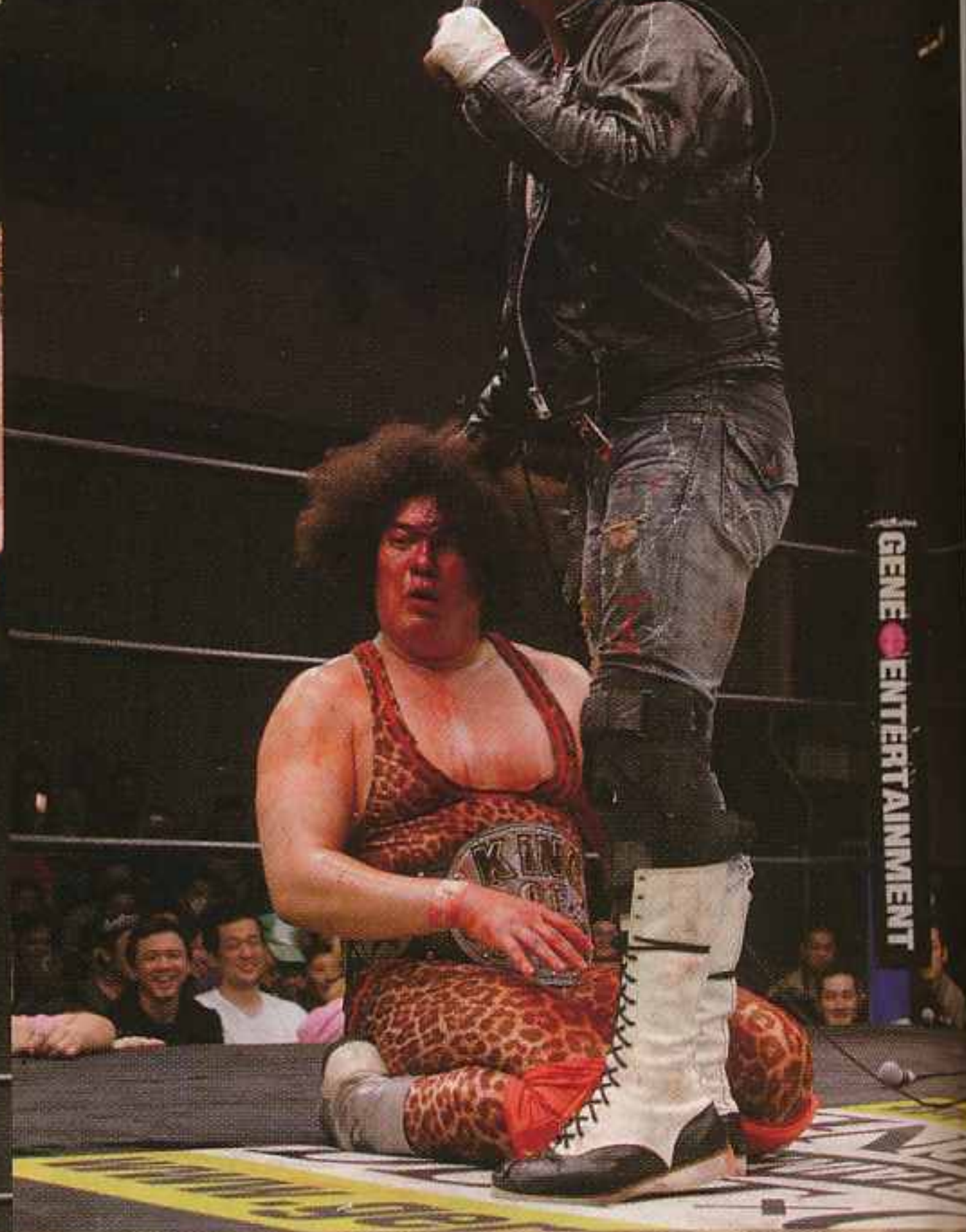
あんな人からこんな人まで続々登場! NOSAWA論外のパートナーはなんと和田京平。試合するかと思いきや、結局はこの試合のレフェリーに就任。

奇抜なアイデアが散りばめられたトーナメント戦。アントーニオ本多は、ホウキならぬ杖とプロレスし、アン・ジョー司令長官ばりの名人芸を披露。

バラモンシュウ&サソリvsバラモンケイ&DJニラの4角関係マッチは、試合前に4者の妄想シーンへ。そのまま試合終了する新しすぎる展開。

『キン肉マン』夢の超人タッグ編よろしく、8チーム参加の1DAYタッグトーナメントが開催。だが、坂井のメールで16チームだったことが発覚!

「頑張ってるだけじゃダメなんだ!」坂井の魂の咆哮は、もはや4流インディレスラーではいられないステップアップの時期が到来したことへの危機感によるものだった。

テンションの上げ方を「教えてもらうんじゃ!」と出現した大仁田厚。満杯の後楽園で坂田と激突し、スローモーションにも参加し、得意の大仁田劇場をアドリブ満載で披露。だが、アントーニオ本多が軽妙なトークでかく乱する場面も。

「今回で『マッスル』は最終回らしい」。

大会前日、『kamipro SPECIAL』を作業中の編集部ではそんなウワサが飛び交っていた。

マッスル坂井が今年の8月23日に行なわれるDDTのビッグマッチ、両国国技館大会に向け、演出に専念するということから、『マッスル』の一時凍結や「最終回」という話が急浮上してきたのだ。

行き先不明のスリリングな展開や自分の気持ちに忠実な作家性の強さが魅力の『マッスル』だったが、坂井はDDTという本道のプロデュースに本格的に関わることを決意したのか?

今回は、そんなマッスル坂井の〝迷い〟や〝いらだち〟が随所に垣間見える大会となった。

前半は、「坂井が失踪した」という前提ながら、プロレスのフォームを大喜利やドッキリ、点数制プロレスで解体してきた『マッスル』らしからぬ、タッグトーナメントを開催。

前回の『マッスル坂井自主興行』でミスター高橋を登場させるという、ある種のタブーを踏んだことで、一転して〝プロレス回帰〟にベクトルを戻すというのは、作家側に立てば理解できる話。

妄想シーンだけで試合終了したり、和田京平など意外なゲストを使うアイデアもふんだんに散りばめられていたが、きわめて通常に近いプロレスの試合が展開。だが、『マッスル』ではこういった光景も〝非日常〟に見えてしまう。

あらためて『マッスル』という場の特殊さが浮き彫りになったし、とまどいを隠せない観客も見受けられた。

だが、後半戦。試合で失敗続きの藤岡メガネが後楽園ホールの控室に逆ギレ気味に立てこもるシーンあたりから、加速度的に物語のテンションが上がっていく。

さらにこのトーナメントは引退をほのめかした坂井がDDTに専念、後輩の藤岡をエースにするためのトーナメントだったことが判明。

だが、何をやってもボロボロの藤岡。ここに、ようやく坂井が姿を現わして、「頑張ってるだけじゃダメなんだよ!」と鬼気迫る表情で強烈なビンタ! じつはこの場面、現実の仕事でも失敗続きという藤岡をリング上でも追いつめたシュートなもの。

そして、返す刀で自分の分身である鶴見亜門にも「俺たちはもう頑張ってるだけじゃダメなんだ! プロなんだよ!」と絶叫。だが、鶴見も「テメェのことしか考えてねえの、テメーだろ!」と怒鳴り、たがいになじり合う。葛藤する坂井の脳内をブチまけたような尋常ではない展開に突入。

つじつま合わせを放棄したようなシーンだったが、この感情のむきだし具合は、大会のハイライトだった。

ここへ登場したのが〝邪道〟大仁田厚。毎回、大物ゲストが登場する『マッスル・ハウス』だけに、ネームバリュー優先の登場と思ったファンもいたようだが、じつは坂井がプロレスにハマった原点は大仁田と真鍋由アナによる大仁田劇場だった。

「テンションの上げ方」を教えるためのゲストは、じつは自分の原点回帰への作業でもあったのだ。だが、こうした背景の説明は会場では一切行なわれていない。そのため、今回はどこかで理解されることを放棄したようにさえ見えた部分もあった。

また、大仁田がマッスルメンバーを説教するシーンでは、髙田総統ばりにアドリブを加えてイジっていく大仁田に、坂井との関係を問い詰められブチキレて立ち向かった大家健の感動的な姿やフリースタイルのマイクで対等にやりあってみせたアントーニオ本多など、作り込みを超えたドキュメント色も濃かった。

最後は、「人にどんだけつまんないと言われても、調子に乗ってるとか言われても、スタッフとこれからも働きたいです!」とウワサとは真逆の『マッスル』存続を宣言した坂井。さらに「毎月29(ニク)の日に『マッスル』をやっていこうと思います!」と、『マッスル』系の大会の月イチ開催まで発表した。

だが、この場面も坂井がその時点で判断して発した言葉であり、じつは、その場の空気次第では、本当に「最終回」にする可能性もあったというから驚きだ。

DDTの演出という本道のエンターテインメントへの足を踏み入れながらも、その一方で幻想が巨大化してゆく『マッスル』という自己表現の世界も続行してゆくという決断を下した坂井。そのバランスをどうやってとっていくのか?

09年も揺れ動き、思い悩む〝文系プロレスラー〟マッスル坂井から目が離せそうにない。

ーム大会『レッスルキングダムIII』

No1の観客動員! 40,000人

ーム"復活!!

この大会にプロレスの存亡が懸かっている! と昨年後半から『kamipro』でも延々と煽りまくってきた新日本プロレスの天王山イベント、1・4東京ドーム大会がついに終了した。

ズバリ結論からいうと、大会は近年にない大成功&大盛況!! なんと観客動員が主催者発表で40000人をマーク。

ここ数年、さびしい入りが続いていた1・4東京ドームだったが、ギチギチに埋まったアリーナや開放した1階席部分もギッシリ満員。ジャンボスタンドも限定区域ではあったが待望の開放が実現した。

90年代の全盛期ばりに超満員とはいかなかったものの、『Dynamite!!』を始めとした年末年始イベントに「動員では負けたくない!」と息巻いていた新日本が、観客動員ではトップ! プロレスが一矢報いた格好であり、この光景だけでも感無量だったに違いない。また、招待券の配布も行なわないと宣言しているだけにリングサイドや会場の盛り上がりも上々。

一方で、ライセンス事業部の武田有宏氏が「東京ドームは怪物」と言っていた意味も実感できた。前半をリングから遠く離れたジャンボスタンドから眺めていたのだが、あらためてドーム空間がプロレスをやるのには難しい空間であることが理解できた。

どんなヒートアップした好試合でも2階席のてっぺんまでは、なかなか熱量が届いてこない。そんな中、永田裕志vs田中将斗戦の意地むきだしの試合あたりから空間全体が温まり始め、ノアとの対抗戦という最もわかりやすい構図の試合で爆発。さらに、メインでは棚橋弘至が武藤敬司からIWGP王座を奪還するハッピーエンディングで、新日本ファンが溜飲を下げた大会となった。

この終幕に至るまで、08年の新日本は約1年がかりで、武藤のIWGP劇場という

1.4新日本プロレス 東京ドーム大会

年末年始決戦No

新日本“ドー

長いドラマを紡いできた。
　今回の試合は、08年の新日本が得意としたドンデン返しはなかったものの、この舞台に上がるまでの紆余曲折のドラマをキッチリと整えてきた。
　だが、最終的に試合自体をイジったり、過剰な演出を行なうことはせず、武藤と棚橋のポテンシャルを信用した個人芸プロレスにすべてのゲタを預けた格好となった。
　一方、格闘技に勝負論を奪われたあと、観客論主導のプロレスは、過程や結末の意外さで驚かせることが、何よりも重要であると本誌は提示してきた。
　08年の新日本は、天山と飯塚の友情タッグ分裂劇などで、ドラマを構築できるスキルを証明してきただけに、新日本には、まだ巨大なる〝のびしろ〟が残されている。
　実際、今大会では2月の両国大会を見据えた新しいドラマの伏線が張り巡らせてあり、年間プロジェクトとしてのストーリーの構築はお手のものといっていいだろう。
　だが、たとえば最強のハッスラーを決めるほんの数カ月の『ハッスルGP』決勝では、川田父の心臓発作というサプライズを加えるなど、現代のプロレスは、エンターテインメントとして急速に発展途上段階。
　棚橋&中邑路線という、本来のユークスが目指す体制に戻った09年。だが、武藤という巨大な軸がいなくなったが、ダイナミックなドラマ作りのハードルは上がっている。
　新日本がモデルケースにしているWWEの『レッスルマニア』は、大会が終わった瞬間、次回大会の告知がアナウンスされるというが、まさに終わりは始まり。
　はたして来年の1・4は今年を上回ることができるのか？　それは、すでにスタートしたこの1年のドラマ、そしてまだ見ぬ〝のびしろ〟に懸かっているのかもしれない。
（真下義之）

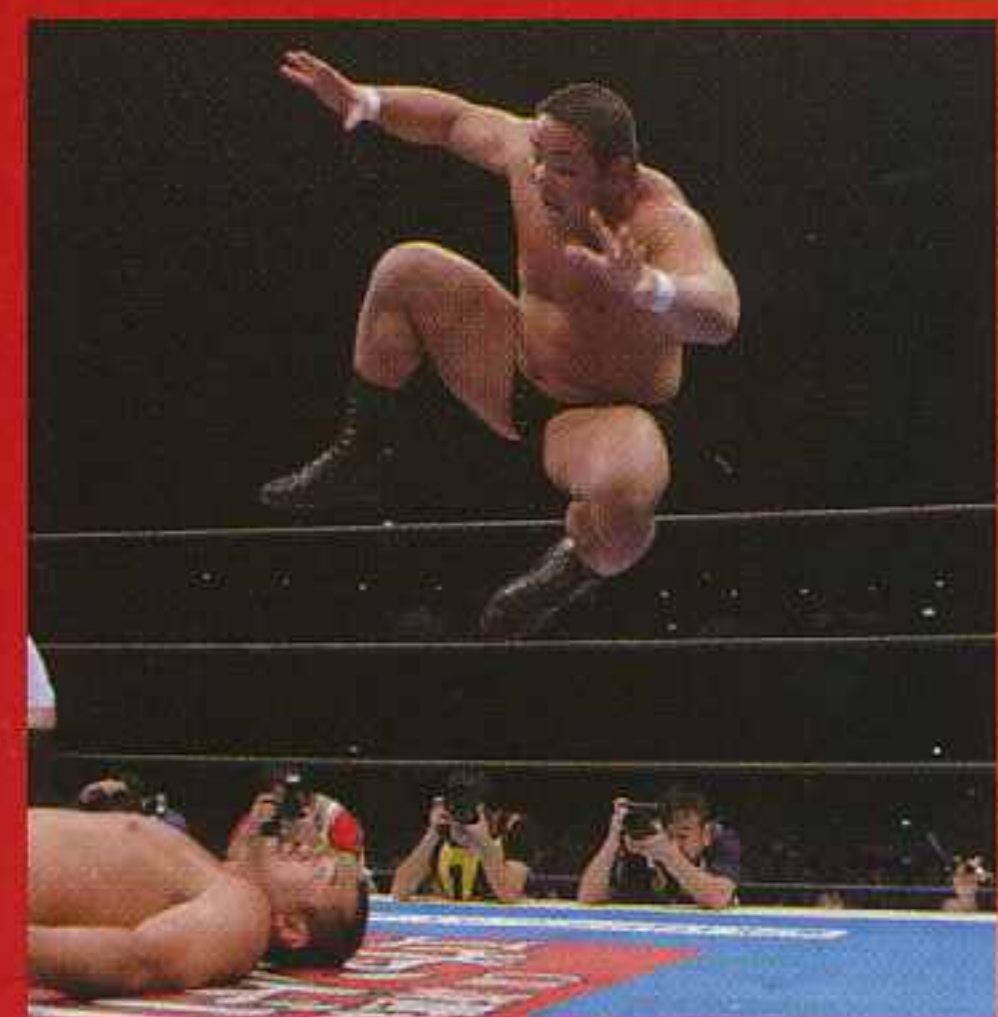
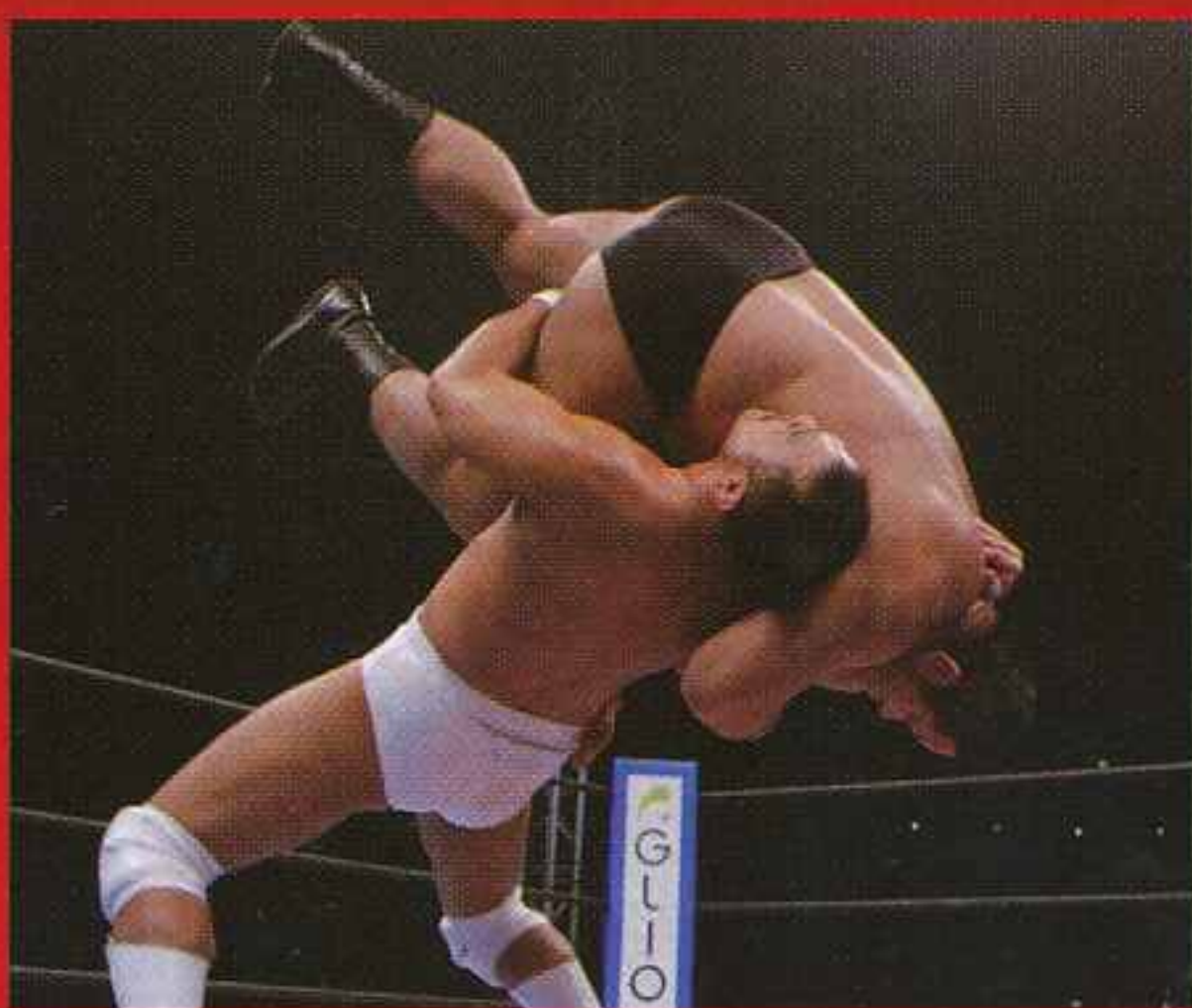
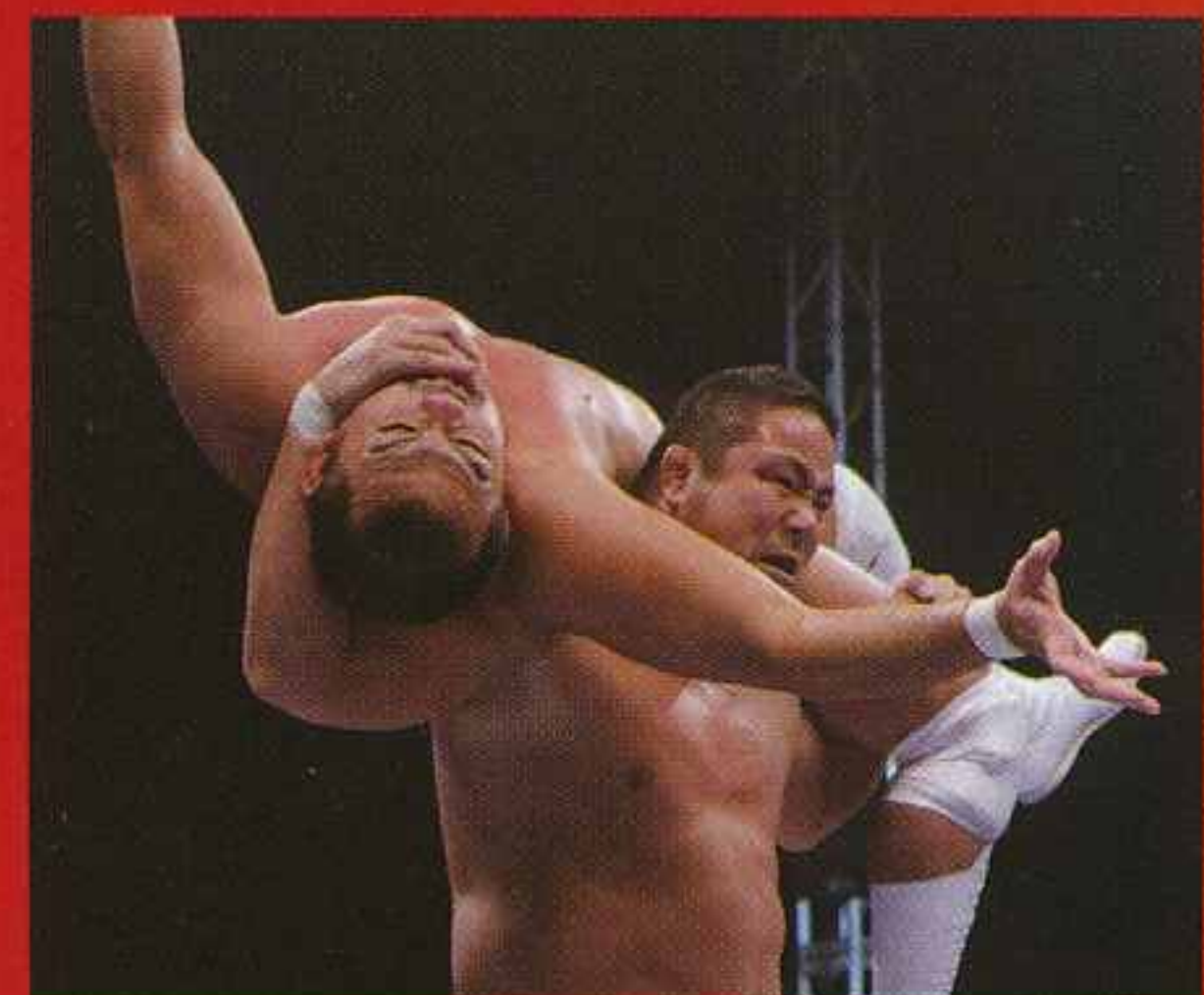
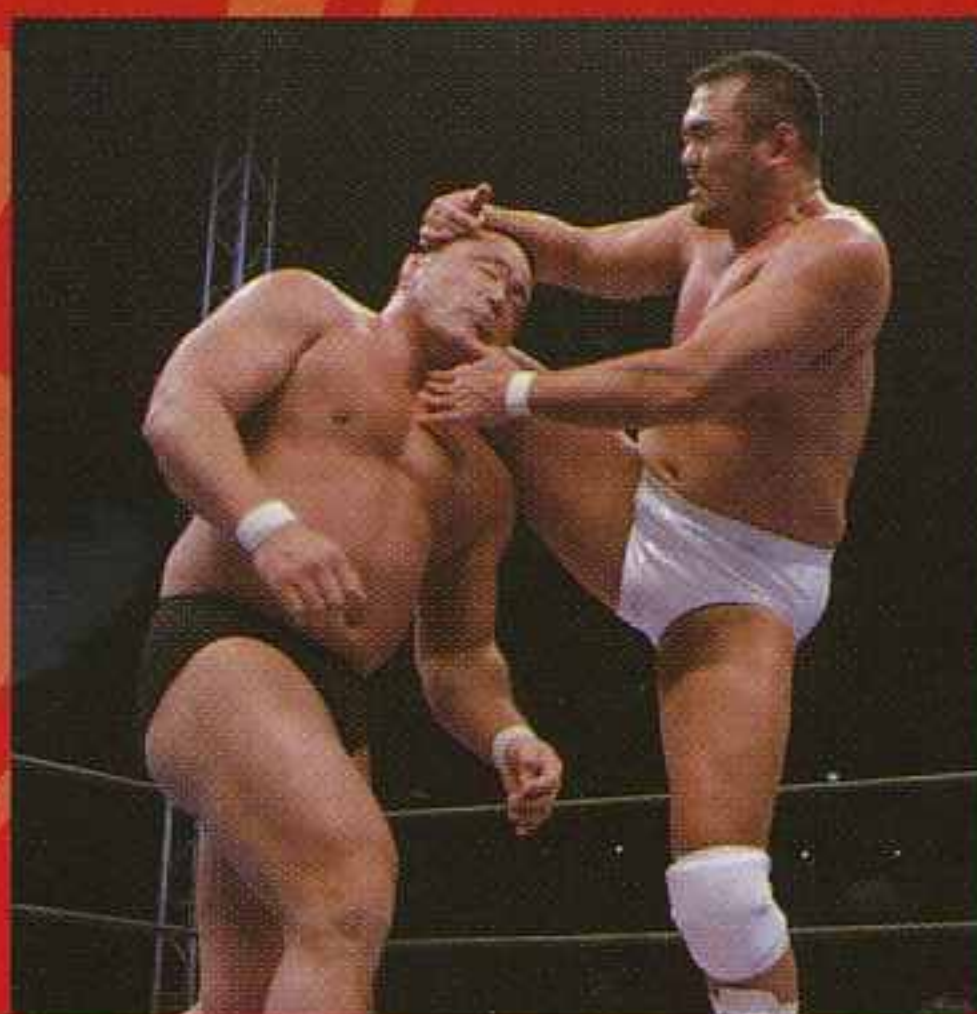
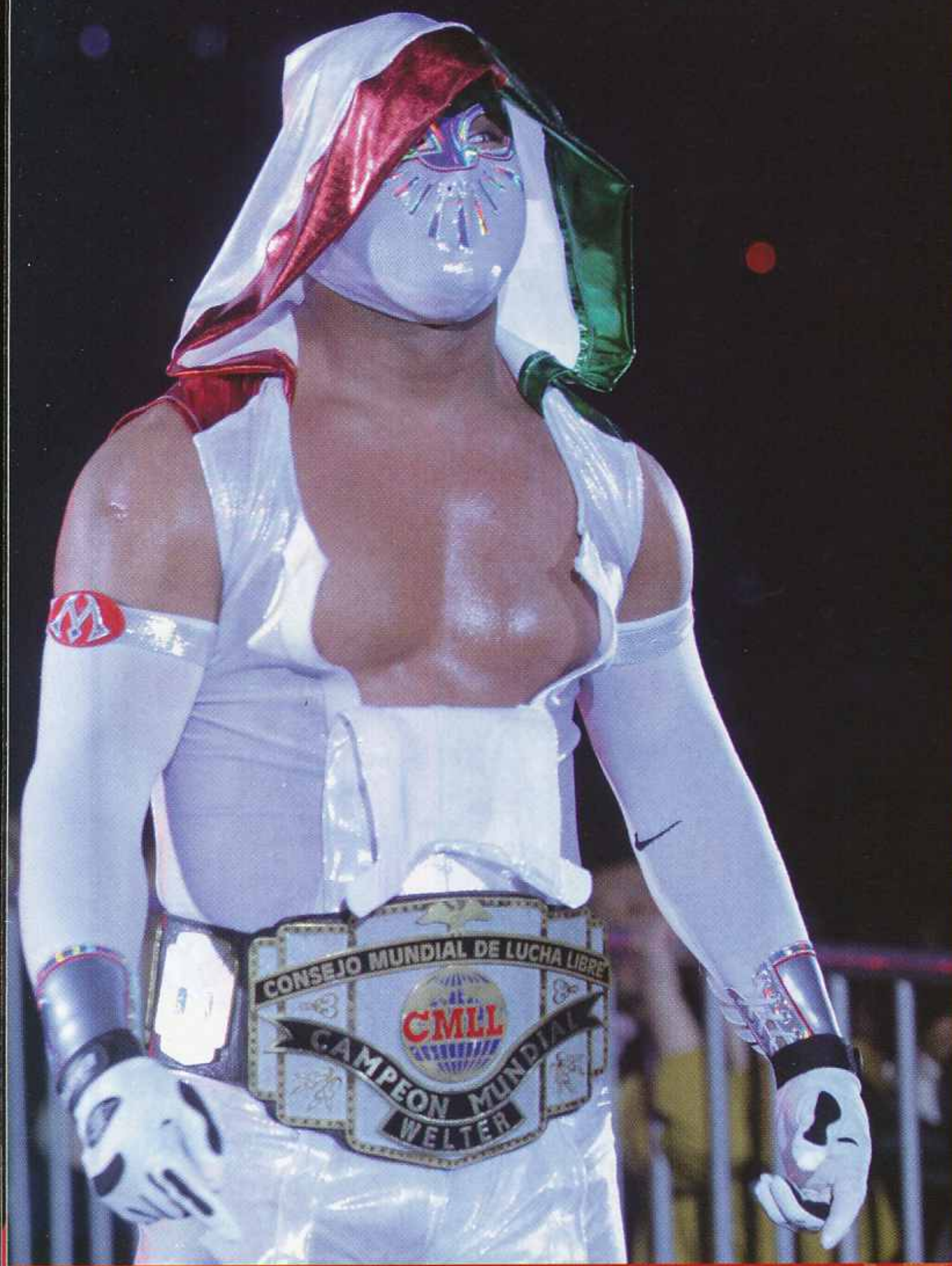
『レッスルキングダムⅢ』BOUT & TOPICS

“方舟の使者”たちが新日本に上陸!!

WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *01

ヒットマン杉浦が大活躍! 賢人秋山は野人中西を一蹴!

この日、最もドームを沸騰させたのが、セミのノアvs新日本。とくにノアに敵意むきだしの中邑が“エルボーの貴公子”三沢さんと怒濤のエルボー合戦を披露! だが、意外にも試合の中心になったのが、“ヒットマン”杉浦貴。『戦極』参戦時とは打って変わって、ふてぶてしい面構え&スピーディーなムーブでガンガン攻勢に。最後は、中邑の飛びつき腕十字で敗戦したものの、杉浦株を急上昇させた。

また、専修大学アマレス部時代には合宿所で同部屋、なんと中西学が洋ピンのビデオで炎上する様も知っているという秋山準との先輩後輩対決も実現。試合は、本人も予測不可能の野人ファイトでかく乱した中西だったが、試合巧者の秋山は慌てず騒がずアッサリ逆転。ノアの賢人ぶりを見せつけた。

WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *02

うわさのミスティコが初来日！一人無重力状態に場内大熱狂！

メキシコからまだ見ぬ強豪ミスティコが飛来！ 菅林社長の大会後の総括によれば、ミスティコの参戦を発表してからチケットの売り上げが大きく動いたとか。その期待に応えるようにミスティコは、飛びつき式のフランケンシュタイナーに人工衛星ヘッドシザースと、次々に難易度の高い空中殺法を披露！ その"一人無重力状態"ともいえる一挙手一投足に、場内は終始沸きっぱなし。最後も必殺技のラ・ミスティカで好敵手のアベルノから激勝！ 試合後には2月の両国大会での再来日を宣言、その神業は必見だ！

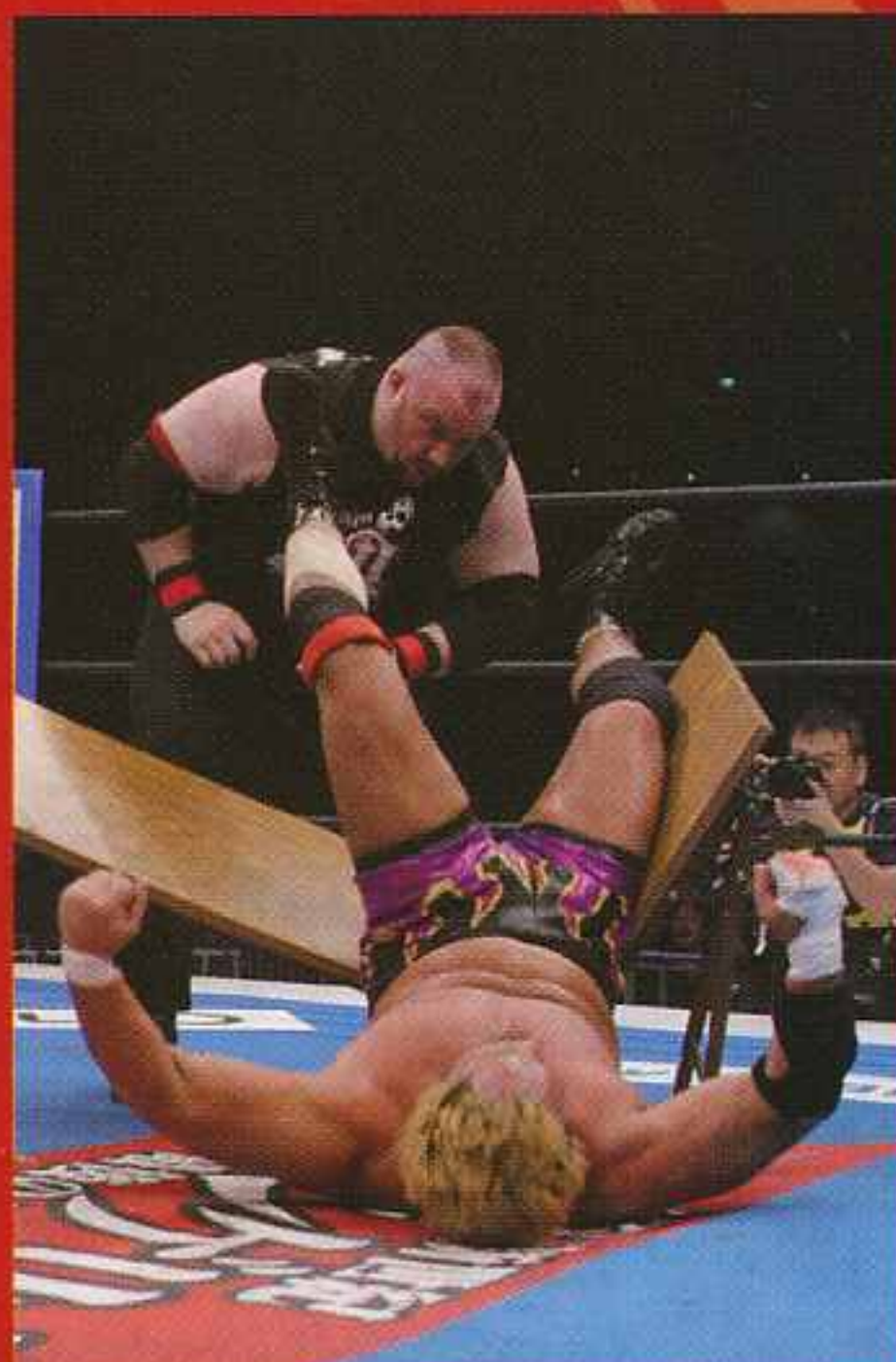
WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *04

ドームに映えるド迫力の攻防！

04年の「ハッスル3」以来の来日となるナッシュは、大物オーラを漂わせながら登場。同じ大型ファイターのバーナードと、ドームでも映えるド迫力の攻防を展開した。試合後にナッシュは長州と固い握手、こんな組み合わせなかなか見られない！

WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *03

え、あの長州までスキットに登場？

場内ビジョンに突如として映った大型車。その中から長州、蝶野、ナッシュ、アングルのレジェンド&メイン・イベント・マフィアの混成軍が登場！ 「これが世界のリングだ、ガッデム！」と息巻く蝶野、WWEばりのスキットに場内も大興奮！

WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *05

白目をむくほど大熱戦！われらが永田さんが激勝！

この日のベストバウトとも言える永田さんと田中将斗の一戦。おたがい大流血しながら激闘を展開、永田さんお約束の白目ムーブも飛び出した！ 試合後には大谷晋二郎と視殺戦、ZERO1勢との抗争はまだまだ終わらない！

WRESTLE KINGDOM III BOUT & TOPICS *06

前代未聞のハードコア！バケツが飛び出す王座戦！

網膜剥離による天山の欠場で、当初の3WAYから通常のタッグ戦となったIWGPタッグ王座選手権。しかし初のハードコアルールでのタイトルマッチとあって、リング下からバケツや机が飛び出すいつもと違う風景は、物騒だけど新鮮！

WRESTLE KINGDOM III RESULT

[Wrestle Kingdom Grend Opening VIENTO DORADO]
○ミスティコ&田口隆祐&プリンス・デヴィットvs
邪道&外道&アベルノ×
（9分50秒 ラ・ミスティカ）

[獣神サンダー・ライガー デビュー20周年記念試合]
○獣神サンダー・ライガー&佐野巧真vs
井上亘&金本浩二×
（8分47秒 体固め）

[IWGPジュニアタッグ選手権試合]
×[王者組]内藤哲也&裕次郎vs
アレックス・シェリー&クリス・セイビン[挑戦者組]○
（13分21秒 エビ固め）

[IWGPジュニア選手権試合]
×[王者]ロウ・キーvsタイガーマスク[挑戦者]○
（8分48秒 変形タイガースープレックスホールド）

[Fighting Holdings Competition]
○カート・アングル&長州力&
蝶野正洋&ケビン・ナッシュvs
ジャイアント・バーナード&飯塚高史&
石井智宏&カール・アンダーソン×
（7分09秒 アンクルロック）

[世界ヘビー級選手権試合 Crusade of Justice]
○[王者]永田裕志vs田中将斗[挑戦者]×
（11分41秒 バックドロップホールド）

[NJPW vs NOAH Battle Tendencies~the invasion~]
×中西学vs秋山準○
（10分27秒 体固め）

[IWGPタッグ選手権試合 ハードコアマッチ]
×[王者組]真壁刀義&矢野通vs
ブラザー・ディーボン&ブラザー・レイ[挑戦者組]○
（15分34秒 片エビ固め）

[NJPW vs NOAH Battle Tendencies~the encounter~]
○中邑真輔&後藤洋央紀vs三沢光晴&杉浦貴×
（15分7秒 飛びつき腕十字固め）

[IWGPヘビー級選手権試合]
×[王者]武藤敬司vs棚橋弘至[挑戦者]○
（30分22秒 片エビ固め）

kamipro books

同時収録! PRIDEファイター&関係者の知られざる転機!!

青木真也/三崎和雄
桜井"マッハ"速人×ミノワマン
川尻達也/長南亮/佐伯繁 DEEP事務局代表

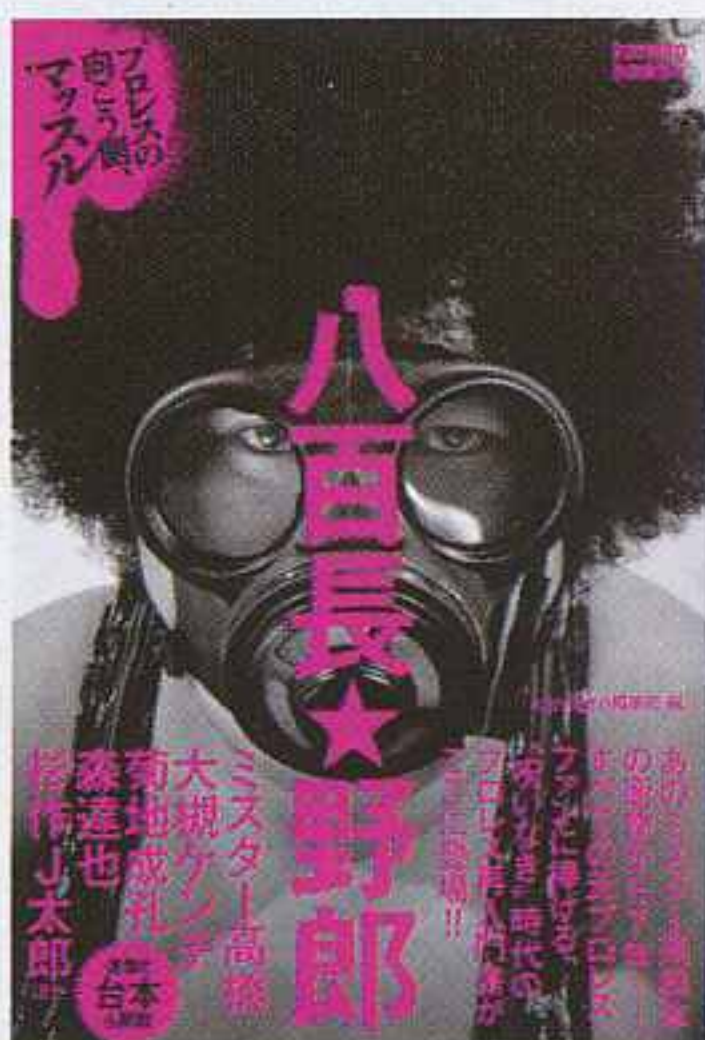
PRIDE機密ファイル
封印された30の計画

kamipro編集部 編

PRIDEを買収したロレンゾ・フェティータの野望/幻となったMMAワールドシリーズ構想/DREAMは『PRIDEライト級GP 2008』から生まれた/『PRIDE.1』は髙田vsヒクソン、桜庭vsヘンゾだった/髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?/長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画/ホイスvsケアー消滅の裏側/PRIDEが小錦獲得に動いた!?/髙田延彦引退試合の相手は小川か吉田だった/PRIDEに"赤いパンツのタイガーマスク"登場/桑田佳祐vs長州剛がPRIDEで実現?/早すぎたリアリティショー計画/…への宣戦布告だったミルコvsヒーリング/曙に対抗…"ホリフィールド/大晦日に「サクマシン」デビュー/PRIDEとUFC、本当の関係/幻のUFC日本進出計画とミル…の関係/"皇帝"ヒョードルを二度破った男/ハイアンvsシ…ートボクセの仁義なき闘い/永田裕志が髙田延彦にガチン…挑戦状/PRIDE武士道は"PRIDEサバイバル"だった/ミル・マスカラスによる横やり/ビッグバン・ベイダーのPRIDE参戦/中軽量級は『武士道』存亡の危機から生まれた/『武士道』日本テレビで放映計画/タイソンvsミルコ、ヒョードル、ノゲイラ/実現寸前だった五味隆典vsボクシング世界王者・徳山/GSP、キンボ・スライスはPRIDEに上がるはずだった/最後の夢 桜庭和志vs田村潔司

kamipro books

好評につき大増刷決定!!
全国書店にて絶賛発売中!!

kamipro編集部 編　定価=本体 1,600円+税　B6変型判 292ページ

これは呪いなき時代の『私、プロレスの味方です』なのか……!?

マッスル坂井/大槻ケンヂ/菊地成孔
森達也/杉作J太郎/ミスター高橋ほか

八百長★野郎
プロレスの向こう側、マッスル

kamipro編集部 編
マッスル坂井 監修
定価=本体1,600円+税
B6変型判 296ページ

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

（抽選で）負けて腐るな、応募しろ!!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2009年2月10日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦年末年始のベストバウトは?⑧2009年ブレイクするのは誰だと思いますか?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「大豆なときにやってくる」係まで

※応募締切は2009年1月31日(土)当日消印有効

PRESENT *01

1名様

川尻達也『CRUSHER』キャップ

［非売品］

川尻本人から「kamiproの読者に」ということで提供された非売品の『CRUSHER』キャップを1名様にプレゼント。この機会を逃すな!!

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

PRESENT *02

5名様

ZERO1カレンダー

［ZERO1／¥500］

ZERO1が贈る2009年のカレンダーが登場です。大谷晋二郎と田中将斗が大きくなっており、中心にいるのは崔領二!　高岩竜一の退団は発表されたが、はたしてどうなってしまうのか……!?

ZERO1■http://www.z-1.co.jp/

PRESENT *03

PRESENT *04

各1名様

田村潔司vs桜庭和志 対戦記念Tシャツ

［DREAM／¥3,990(税込)］

田村潔司と桜庭和志、Uインターの先輩後輩である両者が、時空を越えて実現させた大晦日の一戦。この一戦を記念して作成された対戦記念Tシャツ、赤とオレンジの二色!!　サイズはレッドがL、オレンジがM。希望の色を明記してください。

FEGオフィシャルサイト■http://www.k-1.co.jp/

PRESENT *05

1名様

キン肉マンTシャツ

［リバーサル／¥5,040(税込)］

キン肉マン29周年記念でさまざまなコラボレーションが実現してきたが、総合格闘技で大人気のリバーサルとキン肉マンが初コラボ!　こんなかっこいい夢のような組み合わせが実現してしまいました。サイズはM。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT *06

1名様

ハッスル親子対決記念Tシャツ

［ハッスル／¥3,990(税込)］

12.30「ハッスル・マニア2008」のメインで実現したグレート・ムタ&ボノちゃん vs 川田利明&川田父。その空前絶後な対戦カードを記念してイラスト化した記念Tシャツが発売された。サイズはL。

PRESENT *07

1名様

泰葉サイン入りハッスルTシャツ

［ハッスル／¥3,990(税込)］

12.30「ハッスル・マニア2008」で禁断の試合を行なった泰葉。最初で最後の参戦を記念してハッスルのロゴTシャツに直筆サインを入れてもらいました。このチャンスを逃したらもう手に入らないお宝です!!　サイズはL。

ハッスルエンターテインメント■http://www.hustlehustle

PRESENT *08

1名様

北岡悟アキレス犬Tシャツ

［パンクラス／¥3,990(税込)］

本誌130号ではお部屋とマイメロちゃんを公開!「どうかと思う」路線をまっしぐらの北岡悟ですが、リング上も絶好調!　北岡の必殺技・アキレス腱固めをモチーフにしたかわいいTシャツが発売中!　サイズはL。

パンクラス■http://www.pancrase.co.jp/

PRESENT *09

セットで4名様

中邑真輔展覧会缶バッヂ&ポストカード

［UZIK／¥1,050(税込)］

現代美術家のロジャー・ミカサ氏のキュレーションで展覧会に初挑戦した中邑真輔。大好評で他業界の人も多く駆けつけ、なかなかの評判だったとか。会場で販売されていた缶バッヂと展覧会の告知ポストカードをプレゼント!

UZIK■http://uzik.jp/

PRESENT *10

セットで1名様

初見良昭 口伝 その十八&その十九

［クエスト／¥5,040(税込)］

忍者マスター初見良昭が武神館道場で高弟たちに伝授する武道の奥義を映像化。"蒙古の虎"と呼ばれた最後の実戦忍者、高松寿嗣に師事し、古武道9流派の宗家を継承した初見良昭のDVDを2本セットでプレゼント!

クエスト■http://www.queststation.com/

PRESENT *11

1名様

DVD『BULL TERRIER PRESENTS DEEP X Ⅲ』

［BULL TERRIER／¥3,990(税込)］

あのジャリズム・山下しげのりが闘牛・空と対戦した08年7月の『DEEP X』がDVDになった!!　中村K太郎、MIKU、金原正徳、長野美香ら注目のファイターがズラリと揃った130分!　マニア必見です。

BULL TERRIER■http://www.b-j-j.com/

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

年末年始格闘技大戦、徹底詳報!
"リアル"なkamipro大賞も発表!!
kamipro No.131は
1月22日(木)発売予定!
※地域によって発売日は多少遅れます。

次号特集テーマは……

"男の中の男"
出てこいや〜ッ!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2009 FEBRUARY
2009年1月24日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎(零細企業救済のため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
高橋くん

編集次長(エロ宣言)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのるちゃん(以上、TwoThree)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
丸山剛史
大甲邦喜
梅木麗子

お勘定
工藤ちゃん

厄除け
入江大師(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"ペガサスハイパー"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川"クラッシャー"奈津子
宮沢美奈

編集チアマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166

佐伯さんの"男"伝説も満載!?

●本書の一部あるいは全部に株式会社エンターブレインから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]☎0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00〜17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

©2009 ENTERBRAIN,INC. ©2009 DOUBLECROSS Printed in Japan